

全ナル水道ヲ經營セントスルニ當リ其ノ障害ト可相成ニ付右等ノ企畫ハ御差止相成様致度依命此段及回答候也

### 水道條例ノ適用及簡易水道布設

#### 認可委任方

長崎縣知事照會(大正七年七月二十四日) 土第百九十三號  
河川又ハ源泉池ヨリ鐵管ヲ以テ引水シ船體、工場、炭坑等ニ於ケル飲用、汽罐用水等ニ供給營業ヲ爲サントスル者アル場合ハ水道條例ニ依リ處理可然哉  
右稟候也  
衛生局長回答(大正八年十一月二十日) 衛第百二十二號  
客年七月二十四日付土第百九十三號御照會ニ係ル標記ノ件左ノ通御承相成度

#### 左記

- 一 給水ノ目的カ單ニ汽罐用等ノ爲ニスル場合ハ格別若飲用ニ供セムトスルモノニシテ之カ供給カ公衆衛生上ニ影響ヲ與フルモノト認メラルル範圍ニ及フモノナルニ於テハ水道條例ニ依リ處理スヘキモノト御承相成度也

### 水道條例適用ノ疑義ニ關スル件

長野縣知事照會(大正十一年七月二十五日) 衛發第百九號  
標記ノ件ニ付左記ノ點至急御同示相成度此段及照會候也  
水道條例改正ノ結果給水人口一萬ヲ超ヘサル水道ノ布設認可權ヲ地方長官ニ委任セラレタルハ簡易ナル裝置ノ小水道ヲモ此ノ規定ニ依リ同シク

(山口書)

認可セントスル法意ニテ候哉

追テ本縣ニ於テハ大正七年以後別紙ノ規定ニ依リ簡易水道ヲ認メ主トシテ防疫上ノ目的ヨリ獎勵補助ヲ行ヒ今ヤ其數六十ノ多キニ及ヘルモ今後仍ホ斯ノ種ノ水道布設ノ急要ヲ認メ大ニ獎勵中ニ有之候條御參考迄此段申添候也(別紙規定略)

衛生局長回答(大正十一年八月十七日) 長衛第百七十六號

大正十一年七月二十五日付衛發第百九號ヲ以テ御照會ノ件了承簡易水道ト雖水道條例ニ依ルヘキハ勿論ノ義ニ有之改正條例並大正十年七月勅令第三百三十一號ニ依リ基本計畫ニ於ケル給水人口壹萬ヲ超ヘサル水道ハ總テ地方長官ニ於テ認可又ハ許可スヘキ義ニ候條右ニ御了知相成度

### 水道飲用水路取締規則

明治四十年三月二十七日 山口縣令第十四號

水道飲用水路取締規則左ノ通定ム

- 第一條 水道飲用水路取締規則
- 第二條 下關市水道貯水池、淨水池及貯水池ニ注入スル水路ニ於テ左ノ所爲テナスヘカラス
  - 一、塵芥、土砂、木片、動物ノ死屍其ノ他汚穢物ヲ投棄スルコト
  - 二、游泳スルコト
  - 三、魚鳥ヲ捕フコト
  - 四、其ノ他水質ヲ汚濁スヘキ行爲ヲナスコト
- 第三條 蓋リニ下關市水道用地内ニ立入り又ハ牛馬諸車ヲ牽キ入ルヘカラス但シ道路又ハ送水線路ニ係ル箇所ハ此限ニアラス
- 第四條 下關市水道公共給水栓又ハ共用給水栓其ノ他水道ニ屬スル一切ノ用具ヲ濫リニ使用發掘若ハ汚損シ又ハ周圍ニ於テ洗濯肥料ノ取扱其ノ他

(山口書)

不潔ノ所爲ヲナスヘカラス

- 第四條 飲用ニ供スル水路(河川溪流等)ニシテ指定シタル地域ニ對シテハ本則第一條ヲ適用ス
  - 第五條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則  
本則ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

### 水道飲用水路取締規則施行ニ關スル件

明治四十年三月二十六日 衛第百七十八號警務長指示

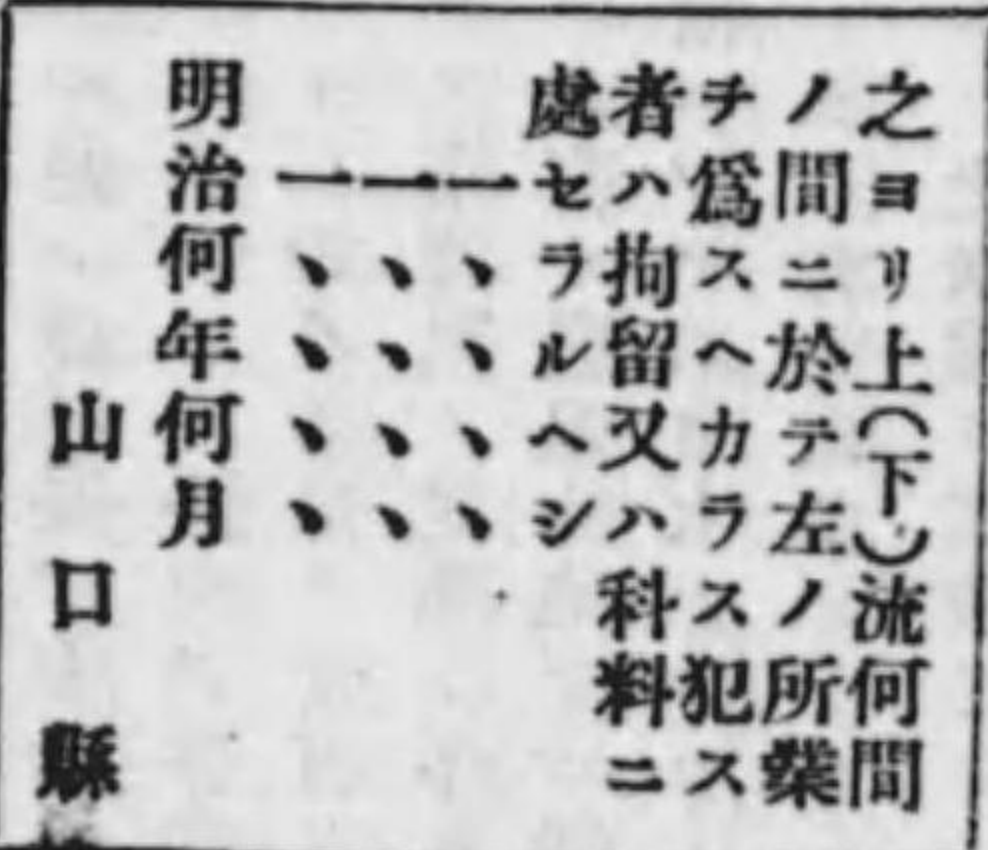
水道飲用水路取締規則第四條ノ地域指定ノ必要ヲ認メタルトキハ其ノ地名、河川溪流等ノ別、延長、飲用戸數ヲ調査シ圖面ヲ添ヘ報告シ指揮ヲ俟テ左記雜形ノ傍示ヲ爲スヘシ  
各署長(水上ヲ除ク) 下關市水道貯水池ニ注入スル水路ニ獸類ヲ牽キ入レ飲食器具其ノ他ノ物件ヲ洗滌スルカ如キハ確ニ水質ヲ汚濁スル行爲ナルモ多年ノ習慣ヲ一時ニ打破スルハ頗ル困難ナルヲ以テ當分ノ内之等ノ違背者ニ對シテハ處分スルコトナク地民ニ對シ充分說示シ可成該行爲ヲ避クシメ漸次自ラ使用セザルニ至ルノ習慣ヲ涵養セラルヘシ  
(第二項ハ豊浦警察署長ノミニ指示セラル)

### 水質改良ニ關スル件

大正三年七月十七日 衛第百〇五號警察部長通牒

水質改良ニ關シ參考ノ爲メ調査シタル「水質改良ノ標準」別紙及送付候也  
水質改良ノ標準  
一 水ト衛生

水ノ吾人生存上必要缺ク可カラサルコトハ今更論ヲ要セス昔ニ飲料トシテノミナラス種々ノ飲食物ノ調理、身體其ノ他百般ノ清淨用トシテ日々多大ノ量ヲ消費ス殊ニ水ハ吾人身體ノ大部分ヲ構成スル要素ニシテ其ノ體內ニ於ケル水分ハ絶エズ皮膚其ノ他ヨリ體外ニ排泄セラル、ナリテ是カ補給ハ須臾モ忽ニス可カラス故ニ吾人ハ常ニ止渴飲料ノ外種々ノ營養物又ハ其ノ調理ト共ニ之ヲ補給ス而シテ其ノ量ハ飲料其他ノ家事用トシテ一人一日二十乃至三十リテ(一リテハ我五合五勺ニ當ル)ヲ要シ現今我國水道



ノ給水量ハ一人一日一、五立方尺(約二斗五升)ヲ標準トナセリ故ニ若シ其ノ水純良ナラザルトキハ吾人ノ健康上ニ對シ種々ノ障害ヲ來ス例之ハ石灰、苦土、鹽類ニ富ム水ハ腸胃ノ障害ヲ惹起シ易ク或ハ種々ノ飲食物ノ調理又ハ洗濯等ノ用ニ供シ難キカ如シ又往々傳染病ヲ混入シ腸胃私、赤痢、虎列刺等ノ傳染病ノ流行ヲ來シタルノ實例ハ吾人ノ屢々目撃スル所ニシテ彼ノ上水道ノ施設セラレタル都市ニ於テ其ノ施設後頓ニ死亡率ノ低下ヲ示シ且ツ傳染病ノ減少シタルハ事實ノ證スル所也如斯日常需用ノ範圍極テ廣汎ニシテ健康保全上至大ノ關係ヲ有スルニモ拘ラス各地ニ於ケル水質試驗ノ成績ニ徴スルニ飲料ニ適スヘキ水ハ少クシテ甚シキニ至リテハ十中僅ニ一二ニ過キサル地方スラアリテ吾人ノ大多數ハ飲料ニ適セサル不良水ニ由テ不知不識ノ裡ニ健康ノ障害ヲ蒙リツツアルハ保健衛生上一大恨事ナリトス宜シク努力是力改良ニ從事シ天享ノ壽命ヲ保全スルハ刻下ノ急務ナリト謂フ可シ

二 良水ト不良水ノ別

水濁濁シテ臭氣ヲ放タハ一見其ノ不良ナルコトナリ然レモ無色無臭ニシテ清透ナル水ヲ見ハ其ノ良否ノ判別容易ナラス普通無色無臭透明ニシテ四時溫度ノ變化著シカラズ夏時清涼ニシテ冬時過冷ナラサル水ハ無害ナルコト多キモ確實ナル判定ハ化學的及細菌學的試驗ノ結果ニ俟タサル可カラス但シ多クノ場合化學的試驗ノミニテ足レリ然レモ化學的純粹ノ水ハ天然ニ存スルコトナク又吾人ノ生存上必スシモ之ヲ要セス必ス多少ノ瓦斯、鹽類其ノ他ノ物質ヲ含有スルモノニシテ此等物質ノ存在カ直ニ水質ノ良否ヲ示スニアラスシテ(但或レ一二ノモノヲ除ク)只其ノ含量ノ如何ニ關ス即チ或レ定限ニ滿タサルカ又ハ之ヲ超過スルカニ由リ是力良否ヲ判定スルモノナリ其ノ標準(定限)ノ規定ニモ種々アレトモ最モ多ク用ヒラレルハチーマン、ケルトネル氏ノ標準ニシテ本縣ニ於ケル規定標準ト殆ント同シ

〔山口管〕

色相、無色透明  
臭味共ニナシ  
反應弱度  
固形物總量 五〇〇、  
格魯兒 三〇、  
硬度 二〇、度  
硫酸 八〇、〇  
硝酸 一〇、〇  
亞硝酸 ナシ  
アンモニヤ ナシ  
有機質(カメレオン消毒量)七、(七乃至一〇、ハ煮沸トス)  
右ノ化學的成分中緊要ナルハ格魯兒、亞硝酸、硝酸、安母尼亞等ノ鹽類及有機質ノ存否並ニ其ノ含量ノ如何ニアリ又假令此諸成分ノ存在スル場合ト雖モ其ノ量ハ多クハ僅微ニシテ敢テ吾人ノ健康ヲ毀損スルノ程度ニ達セザルナリ然レトモ其ノ存否ハ水質既ニ不潔ニシテ井戸周圍ノ土壤、汚穢セルノ微トナルレハ亞硝酸、安母尼亞等ハ含窒素物ノ分解ニ由來スルモノニシテ善良ナル水中ニハ決シテ存在スルモノニ非ラス又格魯兒モ往々天然地層ノ關係ニヨリ其ノ多量ヲ含有スルコトアレトモ(海岸ノ如シ)若シ其ノ地層ニ關係ナク格魯兒ノ量殊ニ多キカ又ハ亞硝酸安母尼亞等ト共ニ存在スルトキハ即チ人畜ノ廢退物地下ニ埋没シタル動植物ノ腐敗又ハ種々ノ廢水混入シタル微ニシテ不良水ナルコトヲ斷定シ得ヘシ

三 水質改良

水質ノ汚濁ヲ來ス原因種々アレトモ主トシテ人畜ノ排泄物及生活上又ハ諸

〔山口管〕

種ノ工業上ヨリ生スル廢水等混入スルコトナリ故ニ人家稠密ニシテ商工業ノ盛ナル都市ニ於テ若シ適當ノ汚物掃除方法ヲ怠ルトキハ其ノ地質汚濁シ遂ニ地下水ノ汚濁ヲ來タスハ論ヲ俟タサルナリ從來我國ニ於テハ其ノ汚物掃除方法備ハラス下水及厠園ノ不完全ナル爲ニ土地ハ非常ニ不潔トナリ井水ノ汚濁ヲ極ムルハ都市ノ水質試驗成績ノ不良ナルニヨリ明カナリ此際完全ナル上水道ヲ施設シ純良ナル飲料水ノ供給ヲ圖ルハ衛生上極メテ安全ニシテ希望スル所ナレトモ是力布設並其ノ維持ニ多額ノ費用ヲ要スルヲ以テ各方面ニ向テ其ノ普及ヲ期待スルヲ得サルナリ只大ナル都市若ハ財源ノ許ス地方ニ於テ初メテ實施シ得ラル、モノニシテ小都會殊ニ地方ニ於ケル

小市街又ハ村落ノ連續部落ニアリテハ寧ロ小規模ノ上水道所謂簡易水道ヲ布設スルコト實行時期易クシテ且ツ有利ナリトス即チ適當ナル水源タニ存スレハ簡易ナル貯水池ヲ設ケルカ或ハ場合ニ由リ之ヲ設ケスルコト導水管(土管、木管、竹管、鉛管等)ニヨリ導水供給スルノ方法ニシテ彼ノ山間ノ村落ニ至レハ泉水又ハ谿水ヲ一條ノ竹管ニヨリ其ノ邸内若ハ廚房等ニ導水スルヲ見ルハ之レ簡易水道ノ最モ簡便ナルモノナリ而シテ其ノ水源トシテ普通用ヒラレルハ泉水、谿水若クハ井水、河水等ニシテ泉水、井水ノ如キハ濾過ヲ要セザルモ河流水源トナスモノハ濾過池ノ必要アリ次ニ他縣ニ於テ布設セラレタル簡易水道ノ設計及經費ノ概要ヲ示ス

所 在	住 人	計 人	設 費	備
長崎縣 浦村	二三〇五、	二五〇〇、	八、六六〇、九二、六	濾過池、石材。配水池、石材。配水管、鐵管
同 小濱村	九六三、	四〇〇〇、	六、五八一、〇二、九	貯水池、石材。配水管、鐵管
山形縣 飯塚村	一〇八五、	二〇〇〇、	八、一八三、二六、八	貯水池、石材。配水井、石材。配水管、土管
同 女鹿村	四二二、	三八六、六二、五	貯水池、木材。配水管、土管	
山梨縣 中尾村	一六八、	二五〇、	一、四六一、二七、〇	沈澱池、石材。濾過池、石材。配水管、鐵管
同 里垣村	二九八、	三四〇、	二、七七二、六二、〇	沈澱池、石材。濾過池、石材。貯水池、石材。配水管、鐵管

井戸ノ改良

吾人ノ日常使用スル飲料水ハ大部分之ヲ井戸ヨリ供給セラレツツアリ然レニ從來何レノ地方ニアリテモ只涌出スル水量ニ重キヲ置キ其ノ地質又ハ周圍ノ狀況並井戸ノ構造ニ何等ノ顧慮ヲ爲ササルヲ以テ其ノ量ハ足レモ其ノ質佳良ナラス又偶々最初良好ナリシ水質モ年々經ルニ從ヒ漸次汚濁セラレ

ルニ至ル實ニ縣下約十萬ニ近キ飲料水中約八萬ノ多數ハ井水ナルヲ以テ見レハ其ノ良否力直接吾人衛生上ニ至大ノ影響ヲ及ボスモノアルハ論ヲ要セサルナリ昨年四月以降本縣ニ於テ施行セル検査ノ成績ニ徴スルニ既ニ其ノ検査ノ結了セル熊毛、厚狹、大津三郡ニ於ケル検査總數二萬五百六十餘箇中飲料ニ適スルモノ七千八百八十餘箇(三八%弱)ニシテ殘餘ノ一萬二千六

百八十餘箇(六二%強)ハ濾過。煮沸ヲ要スルカ又ハ全ク飲料ニ適セサルモ  
 ノニシテ日用ノ飲料奉ノ約五分ノ三ハ不良水ニ屬シ然カモ其ノ不良水ノ大  
 部分ハ井水ナルヲ想ハハ井戸ノ改良ハ水質改良事業上最も重要ナルモノト  
 謂フヘシ現今井戸改良方法中最モ理想ニ適スルモノハ田村式改良井戸ニシ  
 テ左ニ其ノ築造ノ概要ヲ記述スヘシ  
 田村式改良井戸 其ノ築造方法ニ二種アリ。一ハ新ニ掘鑿スルモノニシテ  
 一ハ在來ノ井戸ヲ改良スルモノナリ  
 甲 新ニ掘鑿スルモノハ在來ノ井戸掘ト同シク目的ノ水深マテ掘下タル後

- 次ノ築造ヲ爲スヘシ
- (イ) 井底作業 井底砂礫層ナルトキハ物別ノ作業ヲ要セサルモ若シ否ラ  
 スシテ粘土質ニシテ水、濁濁スルカ又ハ浮遊物アル場合ハ最下底ヨ  
 リ順次下ノ如ク砂礫ヲ敷ク可シ
    - 1、米粒大砂利 凡二尺以上
    - 2、豆粒大砂利 凡五寸以上
    - 3、栗實大砂利 凡五寸以上
    - 4、手拳大砂利 凡二列以上
  - (ロ) 井底周圍ノ作業 井底ノ作業ヲ終リタルトキハ井底周圍ノ作業ニ移  
 ルヘシ之ニ三種アリ
    - (一) 可ナリ大ナル水廻(内容一―二石入り)ノ底ニ徑約四寸位ノ圓孔ヲ  
 穿チタルモノヲ倒ニ伏ス
    - (二) 直徑二―三尺高サ二尺内外ノ土管ヲ一箇又ハ二箇ヲ置キ直徑約四  
 寸位ノ圓孔ヲ穿チタル板石ヲ以テ其ノ上口ヲ覆フ
    - (三) 石垣式

〔山口管〕

(三) 在來ノ井戸ノ如ク丸石又ハ切石ヲ高三尺乃至五尺位積上ケ其ノ上  
 ハ前者ト同シク石蓋ヲ爲ス各石垣ノ間隙ハ「セメント」ニテ充填ス  
 ヘシ  
 前記ノ水廻ノ底面及蓋石ハ水面下ニアルヘク又其ノ外圍ニ栗實大、  
 豆大、米粒大ト順次砂利ヲ充填シ水廻底面ト土管(水廻式)。石垣  
 ト蓋石及土管(石垣式)。土管ト蓋石及土管(土管式)トノ各接合部  
 ハ「セメント」ヲ以テ接合ス可シ

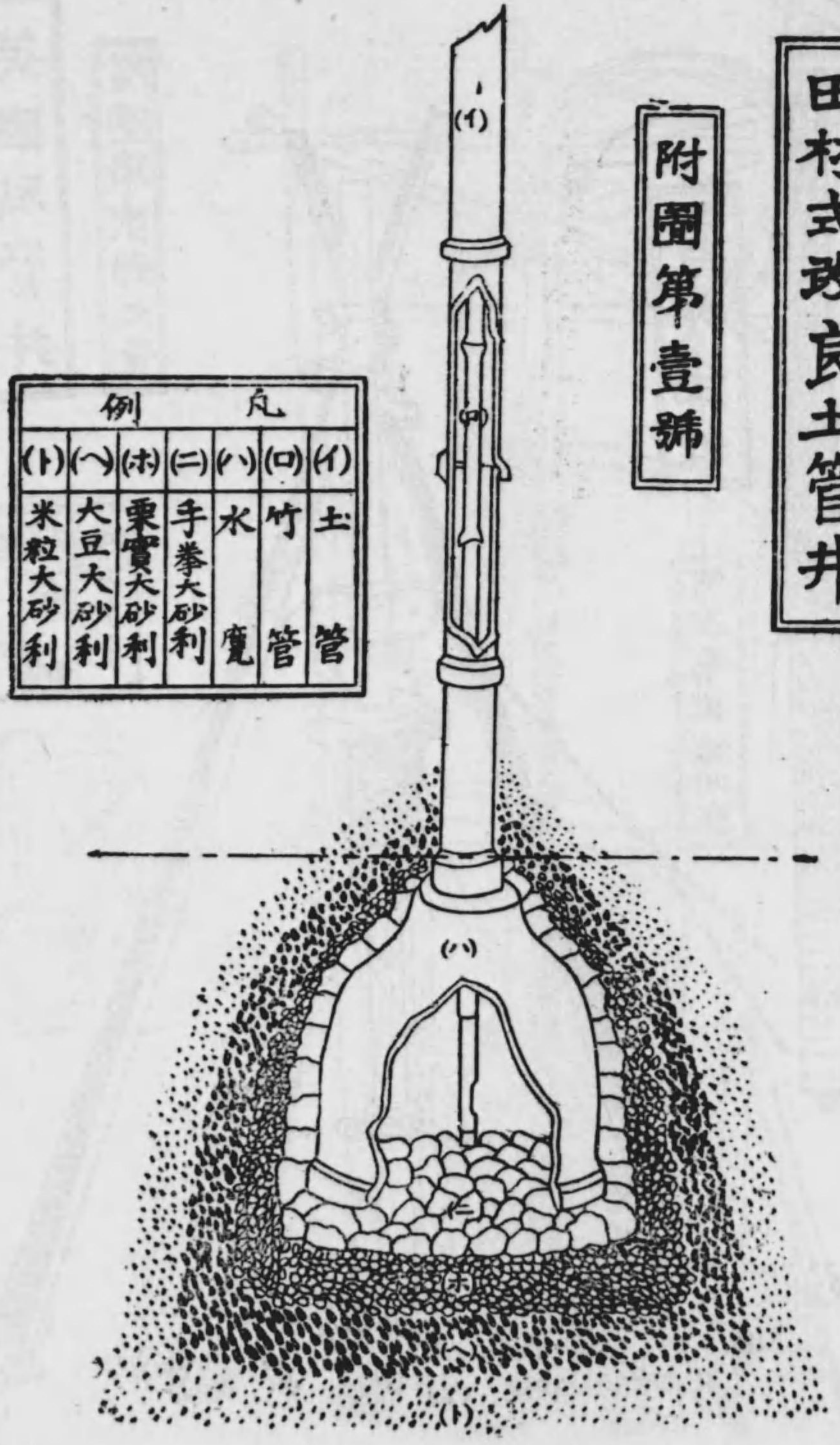
(ハ) 土管積上作業 水廻底面又ハ蓋石ノ圓孔ニ土管ヲ「セメント」ニテ接  
 合シタル後其ノ周圍ニ栗實大ノ砂利ヲ充填シ又第二ノ土管モ「セメ  
 ント」ヲ以テ接合ス斯クテ第三第四ト順次土管ヲ累積シ其周圍ニハ  
 最初掘上ケタル土砂ヲ充填シ地面上ニ顯ハルルニ至リテ止ム

(ニ) 吸上装置 井内ノ水ヲ吸上スル爲ニ鉛管、鐵管、(鑄留)竹管等ヲ隨  
 意選擇シ之ヲ土管内ニ挿入シ水底ニ達セシメ其ノ下口ヨリ五六寸上  
 方管側ニ圓形ノ穴ヲ穿チ下口ハ木栓ヲ以テ閉塞スヘシ一ハ水底ノ埃  
 ナ吸上セサルト井戸淺ヘノ時便利ナレハナリ而シテ其ノ管ノ上口ニ  
 唧筒ヲ裝置スヘシ但シ吸上高二十七尺以上ナレハ複働式唧筒ヲ裝  
 置スルヲ要ス

乙 在來ノ井戸ヲ改良スルニハ舊來ノ井戸側ヲ取除キ井底ヲ充分淺深シ  
 タル後前者ト同一ノ築造ヲ施スヘシ  
 井戸淺ヘテ爲ストキニハ吸上管ヲ唧筒ト共ニ土管内ヨリ抜キ取り側方  
 ニアル孔口ヲ布片ヲ以テ閉鎖シ下口ノ木栓ヲ抜キ取り再ヒ土管内ニ挿  
 入シテ唧筒ヲ使用ス然ルトキハ吸上管ノ下口ヨリ水垢吸上セラレテ容  
 易ニ井戸淺テ爲スコトヲ得而シテ後チ側孔ノ布片ヲ取除キ下口ニ木栓  
 ナ施シテ復舊セシムヘシ  
 普通(開放)井戸ノ改良 要水量ノ關係若ハ部落ノ狀況ニ依リテハ開放井戸

田村式改良土管井

附圖第壹號



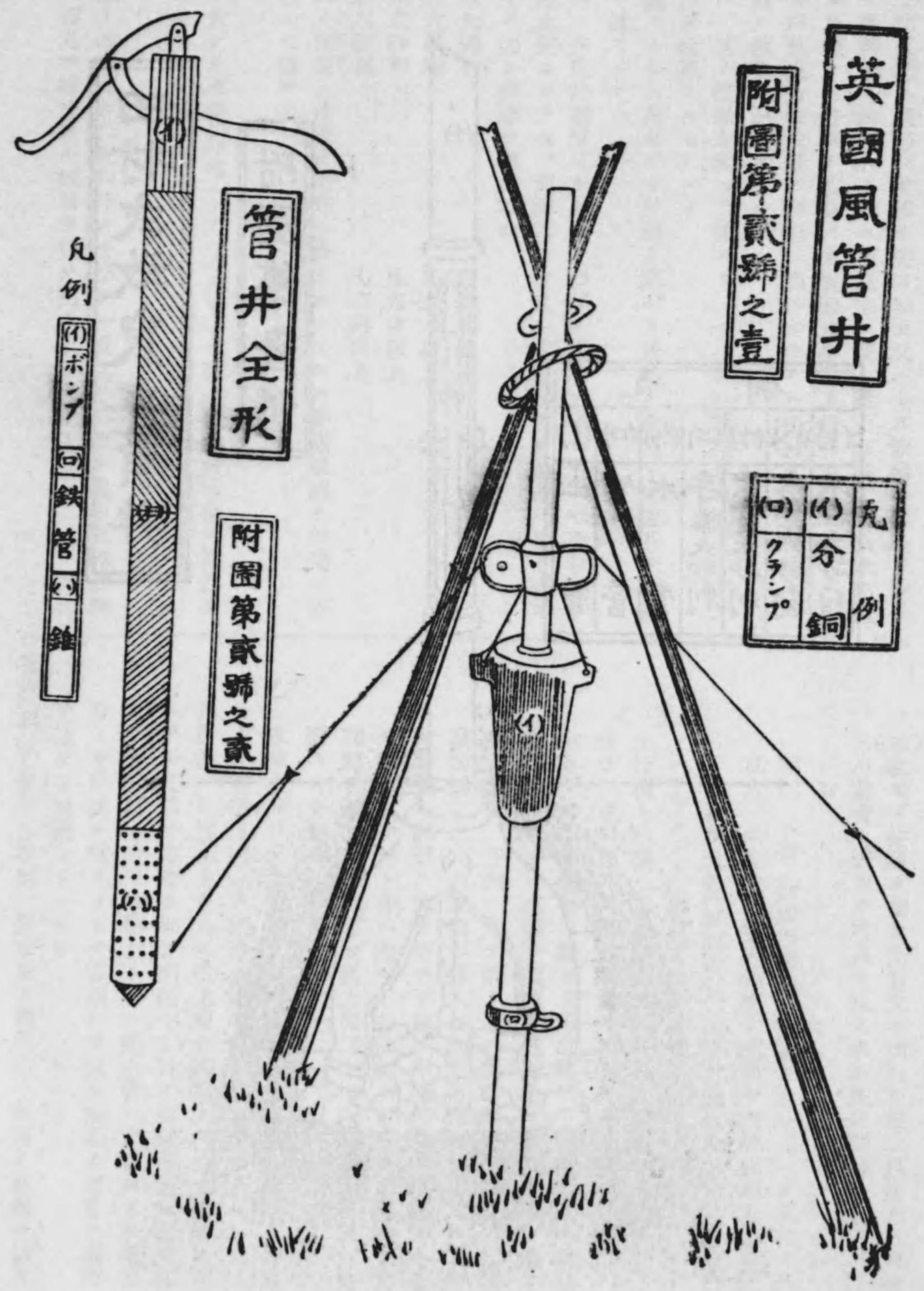
例		凡				
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
米粒大砂利	大豆大砂利	栗實大砂利	手拳大砂利	水	竹	土
				魔	管	管

〔山口管〕

英國風管井

附圖第貳拾之壹

丸	(1)
分	(1)
銅	(1)
ク	(1)
ラン	(1)
ソ	(1)

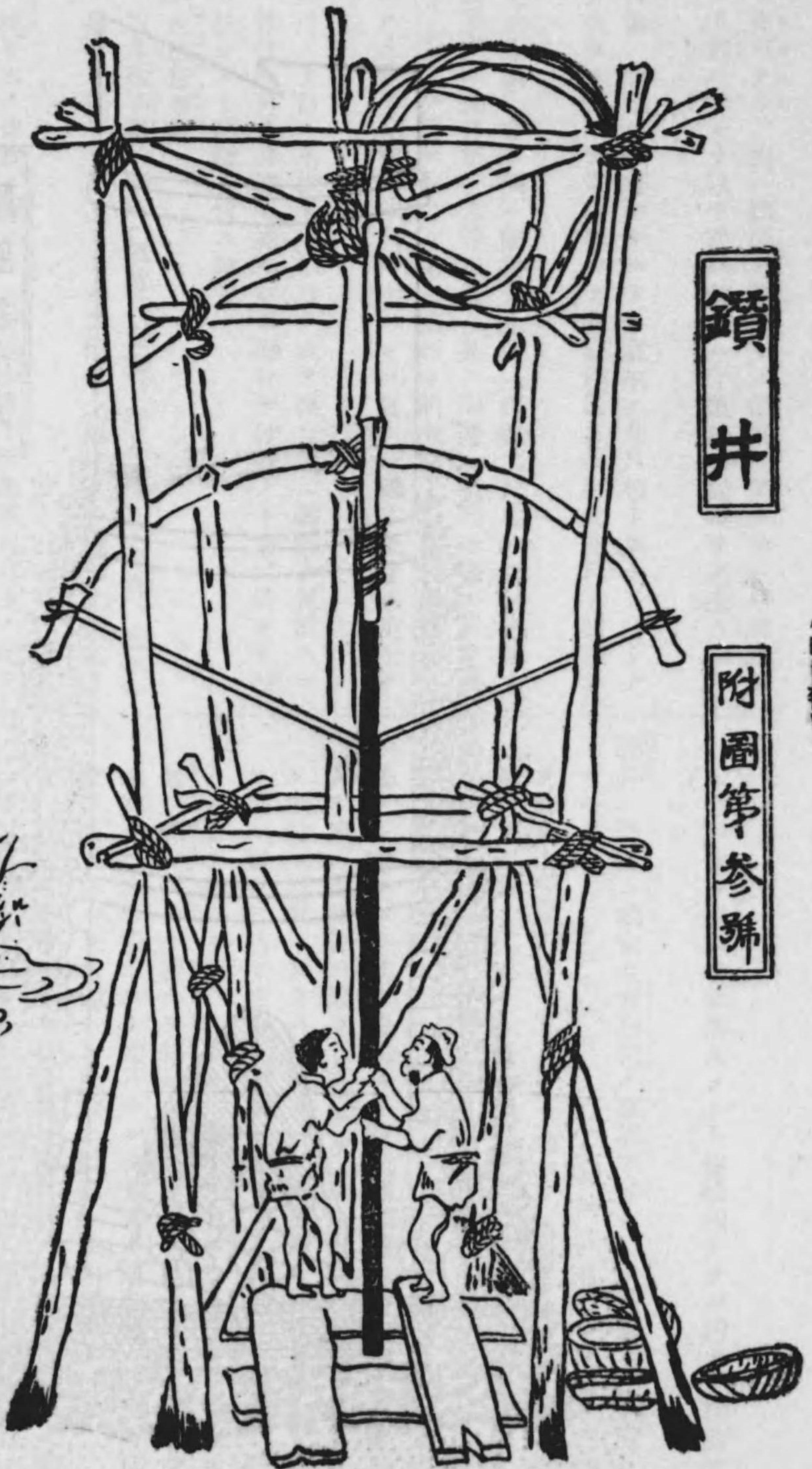


〔山口管〕

鑽井

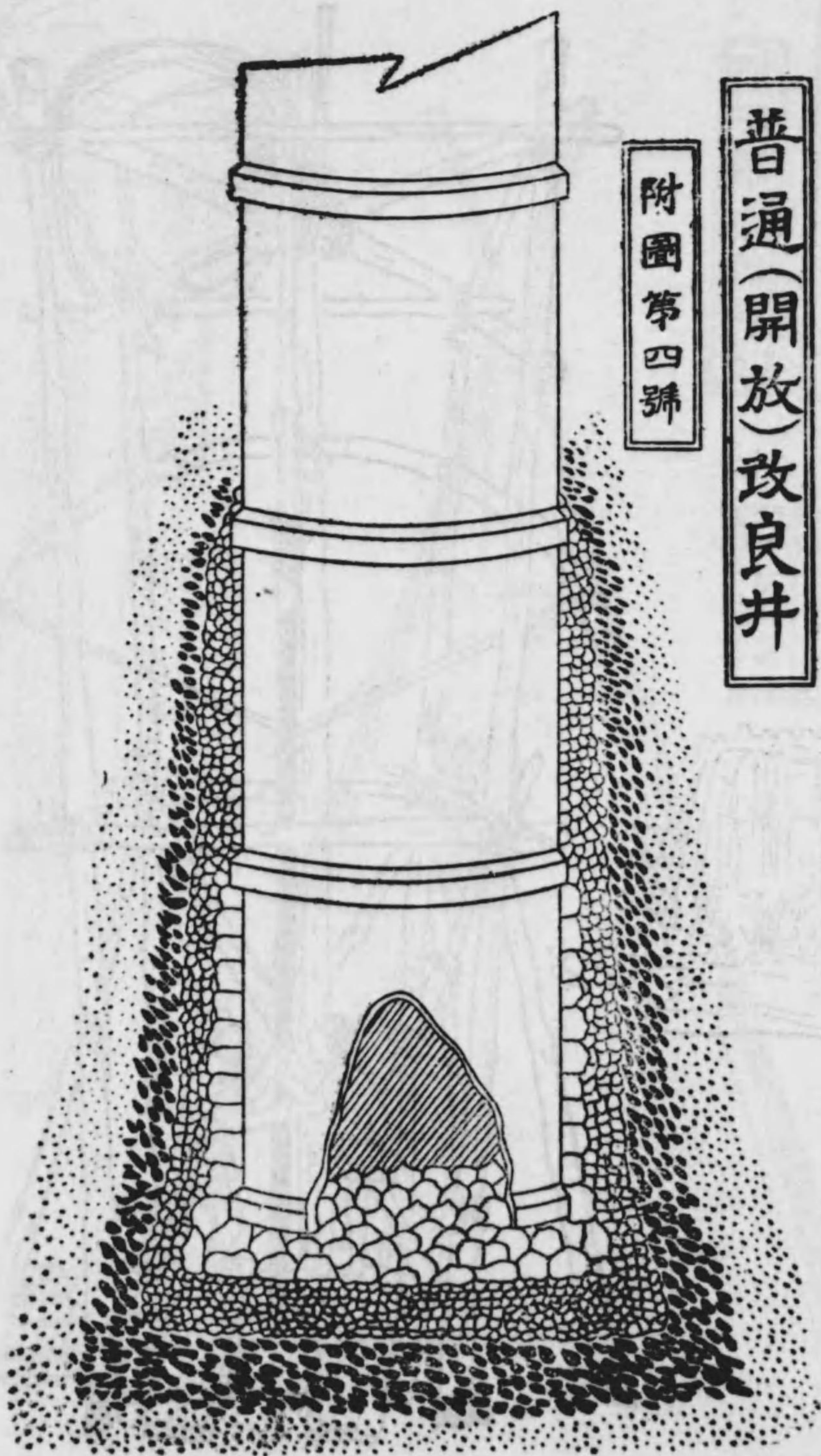
附圖第參拾

〔山口管〕



普通(開放)改良井

附圖第四號



〔山口書〕

ノ改良ヲ爲スモ亦可ナリ、例ハ細民ノ集合セル部落ニアリテハ戸別井戸ノ築造ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ數戸若クハ十數戸共同ニテ築造スル方便利ナリ

(イ)掘鑿及井底作業 土地ヲ掘鑿スルコトハ在來ノ井戸掘ト異ナル所ナク用水量ノ多少ニヨリ大小ヲ定ム而シテ井底作業ハ田村式井戸ト同様ナ

(ロ)井戸側ノ積上ケ作業 井戸側ハ藥掛大土管(直徑二尺五寸位)ヲ用ユ今、井底作業了レハ先ツ第一土管ヲ置キ其ノ周圍ニ栗石ヲ填メ次テ第二土管ヲ「セメント」ヲ以テ接合シ第三第四順次積上ケ其ノ周圍ニハ初メ掘上ケタル土砂ヲ充填シ地面ニ達スレハ更ニ一個ノ土管ヲ積上ケ

ハ) 敷上裝置 井戸ノ上口ハ木板又ハ板石ヲ以テ覆ヒ之ニ唧筒ヲ裝置スヘシ其ノ唧筒ハ竹管ニヨリ井底ニ達セシム而シテ竹管ノ下端ニ於ケル裝置ハ田村式ニ於ケルト同様ニ爲ス可シ

井戸築造上ニ關スル注意事項

(イ)位置ノ撰定 可及的不潔ノ場所(便所、塵溜、汚水溜、下水溝、廐等)ニ接近セサル場所ヲ撰フヘク少クトモ二間以上距リタル地點ヲ撰定ス

ハ) 井戸ノ深サ 地下水ノ位置ニ關スルモ普通少クトモ拾貳尺以上ノ深サニ達セシムルヲ要ス

ロ) 水ノ涌出量過少ナル時ハ井底ニ五乃至拾貫目位ノ石ヲ二重ニ併列スルカ又ハ井戸側ノ下部ノ幾部分ヲ空積ニシテ水ノ滲透ヲ容易ニスルコト

ニ) 水中ニ多量ノ溶解性鐵分ヲ含有スルカ又多量ノ格魯兒ヲ含有シ其ノ原因單ニ土地ノ汚染ニアラザルトキハ井戸側ノ改良又ハ田村式改良井

戸共ニ其ノ效少ナシ此際ハ管井或ハ鐵井或ハ簡易水道ニ依ルヲ可ト

第四編 衛生 第一章 保健

〔山口書〕

(ホ)井戸流シ場及排水溝セメント漆喰叩トナシ汚水ノ排除ヲ充分ナラシム

管井 管井ハ最初亞非利加ノ東部アピシニヤ平原ニ於テ行ハレタル者ニシテ「アピシ」ニヤチエーア、ウエル」ノ名アル此法ハ下端ニ幾多ノ小孔ヲ有スル銅鐵管ヲ地中ニ打込ミ地下ノ水層ニ達セシムルモノニシテ其ノ地層貫通シ易ク又地下水甚タ深カラザルトキ(三四十尺ノ地下ニアル時)ハ最モ安全ニシテ且經濟的ナル方法ナリ而シテ是レカ築造ハ先ツ長鑿ヲ以テ地下二尺内外ヲ掘リ下ケ之ニ「ポイント」(長サ約三尺位ノ尖端ハ鑄鐵ヨリ成レル錐ニシテ其ノ尖端ヨリ稍上部ニ幾多ノ小孔ヲ穿テタルモノ)ヲ挿入シ第一銅鐵管ヲ繼キ「クランプ」ヲ(附圖ニ參照)繼手ノ上ニ嵌メ分銅

ヲ取付ケ眞直ニ靜カニ打込ムヘシ第一管ヲ打込ミ終ルトキハ新ニ管ヲ繼キ足シ順次打込ミ所要ノ深サニ達セシメ地上ニハ唧筒ノ取付ニ要スル丈ケノ管ヲ露出シ置クヘシ此作業中注意スヘキハ管ヲ垂直ニ保ツコト及水層ニ達シタルヤ否ヤヲ絶ヘス檢スルコト是ナリ若シ之ヲ怠ル時ハ水層ヲ通過シテ水ヲ得ルコト能ハサルコトアリ又地盤ノ硬キハ貫通スレトモ岩盤ハ貫通スルコト能ハス此際ハ鑽孔ニ依ルヲ可トス

鑽井 岩盤ノ非常ニ厚キ場合又ハ地下水ノ非常ニ深在セル場合ハ鑽孔ニ依ルヲ經濟的ナリトス若シ場所ニヨリ地下水ノ水壓不足ナル爲ニ地上ニ噴出セサル場合アリ此時ハ自然ニ流出スル深サマテ普通ノ井戸ヲ掘ル可シ斯クストキハ一種ノ貯水槽トナリテ唧筒ノ使用ニ便ナリ而シテ之レカ築造法ハ「二吋」ノ「ロツド」(土ヲ掘ル器具)ノ尖端ニ鑿ヲ附ケ之ヲ回轉シツ、上下スルナリ(附圖ニ參照)「ロツド」ノ長サハ十乃至十五尺位ノモノニシテ打込ムニ從ヒ順次之ヲ連結シテ目的ノ深サニ達セシムヘシ若シ空虛ナル「ロツド」ヲ用ユレハ尖端ノ鑿ニ小孔アリテ地下ノ水層ニ達ス

六〇

六一



田村式改良井戸築造費概算

一金貳拾九圓七拾四錢參厘

名稱	形狀寸法	數量	量金	金額	備	考
藥水	口徑一尺六寸	一	八	四、〇〇〇		
土管	口徑四寸	一	一四、立尺	九六〇		
濾床	米粒大	一	一〇、同	五、一八		
同	豆粒大	一	一〇、同	三七〇		
同	粟實大	一	一〇、同	三五五		
同	拳大	一	五、同	一四〇		
竹	手拳大	一	一	八〇〇		
ポンプ臺	並、切石角八寸	一	一	九〇〇		
ポンプ	並	一	一	五、五〇〇		
井流シ	一切	一	二二人	三、〇〇〇		
人夫賃				一三、二〇〇	約一坪(セメントコンクリート)ノ材料及人夫賃 人夫一人日雇金六拾錢切掘ヨリ埋立一切	

水變式ヲ石垣式ニ代フレハ水變代ノ代リニ次ノ金額ヲ要ス  
金五圓拾錢(但シ蓋石ヲ松板トナセハ壹圓拾錢低廉ナリ)

内課

品目	數量	量金	金額	備	考
山口					

〔山口〕

石垣石	一	二、八〇〇			
人夫賃		六〇〇			
蓋石		二、二〇〇			

普通井戸(開放セシ井戸)築造費概算  
長二尺六寸  
幅一尺三寸ノモノ二枚  
厚三寸

〔山口〕

一金貳拾圓七拾六錢參厘

内課

品目	種類	數量	量金	金額	備	考
藥水	口徑二尺五寸	六	八、一六〇	佐野燒一個代壹圓參拾五錢		
引土管	米粒大	一	一四、立尺	五、一八		
濾床	豆粒大	一	一〇、同	三七〇		
同	粟實大	一	一〇、同	三五五		
同	拳大	一	五、同	一四〇		
人夫賃		一七人		一一、二〇〇	土地ノ掘鑿、埋立全部ノ人夫	

右ハ山口地方ニ於ケル物價ヲ標準トシ井戸ノ深サ二間ト假定シ概算シタルモノニシテ各地多少ノ差異アルコト論テ俟タス又人夫ノ如キモ場合ニヨリ尙節約シ得ヘシ

藥引大土管定價表

製造地	直徑	尺	同	同	同	同	備	考
佐波郡佐野	二	二尺五寸	三	三	三	三	三田尻驛ニ至ル運賃大五拾錢 小拾五錢	

同郡 富海 二、四〇〇 四、五〇〇 七、〇〇〇 一三、〇〇〇 一五、〇〇〇 富海縣同前五錢乃至拾錢

### ●飲料水改良費縣費補助規則

大正六年九月七日  
山口縣令第四十號

改正 大正七年縣令第二四號

飲料水改良費補助規則左ノ通定ム

飲料水改良費補助規則

第一條 飲用水改良ノ目的ヲ以テ二十戸以上共用ノ簡易水道ヲ敷設シ又ハ

井泉等ヲ掘鑿修理スルモノニ對シテハ本則ニヨリ補助金ヲ下附ス

前項ノ戸數ニ充タサル場合ト雖モ特別ノ事情アリト認ムル場合ニ於テハ

補助ヲナスコトアルヘシ

第二條 補助ヲ受ケントスルモノハ設計明細書ヲ作り工事費豫算ノ認可申

第一號様式

簡易水道敷設費補助金下附申請書

一金 補助申請額

是ハ何年何月何日指令第 號ニ對スル郡(市)町(村)大字字(又ハ何々)簡易水道何年何月何日工事竣工検査済ノ分

内譯

費	目	支	出	總	額	支	出	精	算	額	補	助	申	請	額
敷	設	工	事	費											
用	地	費													
工	事	監	督	費											
計															

〔山口管〕

〔山口管〕

右之通り補助金御下附相成度別紙精算書豫算精算差引書、支出ニ伴フ收入金明細書添付此段及申請候也

年 月 日

郡(市)町(村)長(何々組合長)

申請者 氏

知 事 宛

第二號様式

何々簡易水道敷設工事精算書

一金何 程 敷設工事費

内譯

名	稱	種	類	長	幅	末	口	切	數	員	數	單	價	小	計	摘	要
計																	

一金何 程 用地費

内譯

地	目	段	別	單	價	小	計	摘	要
計									

一金何 程 監督費

内譯

種	別	從	事	日	數	月	給	又	ハ	日	給	額	摘	要
計														



通計金何程

右之通り相違無之候也

計														
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

申請者 氏 名印

第三號様式

何々簡易水道敷設費豫算精算差引表

種別	豫算額	精算額	差増		減引		拂未	内備	考
			増	減	既	算			
敷設工事費	圓	圓							
用地費									
監督費									
計									

右之通り相違無之候也

年 月 日

申請者 氏 名印

第四號様式

何々簡易水道敷設費支出ニ伴フ收入金明細書

費目	金額	摘要
不用品賣却代	圓	立木賣却代(何々)
何々		何々

(山口警)

(山口警)

右之通り相違無之候也

年 月 日

飲料水改良費縣費補助規則取扱手續

改正 大正七年訓令第一四號

(郡)市役所 警察署 (警察分署) 町村役場

- 飲料水改良費補助規則取扱手續左ノ通定ム
- 第一條 郡市役所ニ於テ飲料水改良費補助規則(以下單ニ規則ト云フ)第二條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ速力ニ其ノ事實精査ヲ遂ケ一件書類ヲ所轄警察官署ニ回付シ意見ヲ求ムヘシ
- 第二條 警察官署ニ於テ前條ノ回付ヲ受ケタルトキハ速力ニ其ノ事業ノ確否關係部落ニ於ケル故障ノ有無其ノ他必要ト認ムル事項ヲ調査シ意見ヲ具シ郡市役所ニ返付スヘシ
- 第三條 郡市役所ニ於テ前條ノ書類ヲ進達スルトキハ詳細意見ヲ具申スヘシ
- 第四條 郡市役所ニ於テ規則第四條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ速力ニ其ノ事實ヲ精査シ意見ヲ附シテ之ヲ進達スヘシ
- 第五條 町村役場ニ於テ規則第五條但書ノ書類ヲ受理シタルトキハ意見ヲ附シ速力ニ所轄郡役所ニ提出スヘシ

簡易水道使用水検査ニ關スル件

申請者 氏 名印

昭和四年八月十四日

衛第六六七〇號警察部長通牒

各署長宛(水上ヲ除ク)

簡易水道使用水検査ニ關スル件

水道使用水ハ從來必要ニ應ジ其ノ水質試験ヲ執行シ來リ候處今般定時水質試験ヲ行フ爲メ水道管理者ヲシテ左記ノ通指定期日ニ使用水ヲ採取提出セシムルコトニ致候條検査水採取ニ付テハ署員ヲ立會採取ノ上提出セシムル様御取計相煩度此段及通牒候也

簡易水道使用水検査ニ關スル件

昭和四年八月十四日衛第六六七〇號 警察部長指示

水道組合長、町村長宛

水道使用水ノ良否ハ保健衛生上極メテ重大ナル關係ヲ有シ之カ清淨保持ニ付テハ最善ノ注意ヲ拂ハレ居ルコト、ハ存候ヘ共万一ノ遺漏ナキチ期スル爲今後定期的ニ使用水ノ化學的検査ヲ行フコトニ致度候條左様御了知ノ上左記様式ニヨリ指定期日迄ニ夫々使用水ヲ採取提出シ尙水源其ノ他ノ施設ニ付テモ淨化ニ遺憾ナキチ期セラレ度此段及通牒候也

追テ検査用水ノ採取ニ當リテハ警察官吏ノ立會ヲ需メ封緘ニ立會警察官ノ證印ヲ受ケルコトニ取扱ハレ度申添候

一使用水提出月日 毎年三月二日、六月一日、九月一日、十二月一日

- 一採取量 五合以上
- 一採取場所 配水管流末ニ於ケル共用栓又ハ專用栓(但シ採取場所ハ時宜ニ依リ變更指示スルコトアリ)
- 願書様式

水道使用水試験願

- 一種別 何々水道使用水 一種
  - 一採取年月日時 何年何月何日午前(後)何時何分
  - 一採取場所 何町(村)字何々配水管流末ニ於ケル共用栓
  - 一立會警察官 官職氏名
- 右水道用水適否試験被成下度此段及御願候也

●下水道監視吏員證票ノ件

明治三十四年十二月二十八日  
山口縣令第百十四號

明治三十四年(七月)內務省令第二十一號下水道法施行規則第四條ニ依リ當該吏員ノ携帶スル證票製式左ノ通定ム  
用紙厚紙 三寸

表 下水道監視吏員之證

裏	山口縣何市役所又ハ何町村役場
表	山口縣令第百十四號

●汚物掃除監視吏員ヲシテ下水道監視ヲ爲サシムルモ差支ナキノ件

大阪府知事照會(明治三十四年九月)  
下水道法第六條同第八條ノ當該吏員ノ職務ハ汚物掃除監視吏員ニ從事セシメ差支ナキ義ニ候哉又別段ノ監視員ヲ設ケシムル義ニ候哉下水道法施行規則第四條乃至第六條汚物掃除法施行規則第十八條等ニ依リ考フレハ別段ノ規程ヲ命セラレサル限りハ汚物掃除ノ監視吏員ニテ監視スルモ敢テ差支無之様察セラレ候得共掃除監視吏員ハ汚物掃除法施行ノ爲メニ設ケラレタルモノニシテ下水道ノ如ク別段ノ法律ニ基ク吏員ニ充當スルハ不穩當ノ嫌ヒ有之旁疑ヲ生シ候條至急何分ノ御指示相成度此段相伺候也  
衛生局長回答(明治三十四年九月)

右ハ監視吏員當然ノ職務ニハ無之候得共本務ニ妨ケナキ限リニ於テ監視吏員ノ職務ニ在ル者ニ命シテ下水道ノ監視ヲ爲サシムルモ差支無之儀ト存候經伺ノ上此段及通牒候也

第四節 汚物掃除

●汚物掃除規則

明治二十年四月十三日  
山口縣令第六十二號

改正 明治二十一年縣令第六六號、第八四號、二三年第一六號、二六年第一一號、大正三年第九號

汚物掃除規則別冊之通相定メ來ル五月一日ヨリ施行ス但此規則ニ概觸スル從前ノ達指令ハ之ヲ廢止ス

汚物掃除規則

- 第一條 此規則ニ稱スル汚物トハ汚芥、廢棄物、汚水、淤泥、尿尿、死禽獸其他不潔ヲ醸生ス可キモノヲ云フ
- 第二條 汚物ノ掃除方ハ總テ現在居住者ノ負擔トシ明家及空地ハ其所有主ニ於テ負擔ス可シ但特ニ負擔者ノ定メアルモノハ其負擔者ノ責ニ任ス
- 第三條 掃除ハ家屋宅地内等ハ勿論接近ノ地及溝渠、池沼、水溜又ハ道路路ヘモ施行スルモノトス
- 第四條 汚物溜ヲ設ケ一時之ニ汚物ヲ溜メ置クハ苦シカラスト雖モ堆積セサル様時時棄却ス可シ但汚物溜ハ蓋及底ヲ具シ汚液ノ漏泄セサル様注意スヘシ
- 第五條 汚物溜ハ飲料ノ井泉及居室ニ接近セズ且ツ可成日光ヲ受ケサル地ヲ選ミ据置クヘシ
- 第六條 下水溜ハ下水ノ滿ツルニ先タチ時時波除クヘシ
- 第七條 下水溝ハ汚水雨水ノ阻滯壅塞セサル様常ニ塵芥等ヲ掃除スヘシ
- 第八條 便所ハ尿尿ノ滿ツルニ先チ時時波取リ其周邊ヲ掃除シ不潔ナカラシム可シ
- 第九條 衛生官吏戸長又ハ警察官吏ニ於テ若シ汚物アルヲ認メ掃除方ヲ指

〔山口縣〕

〔山口縣〕

定スルトキハ其指定スル時間内ニ於テ之ヲ掃除ス可シ

- 第十條 掃除セシ汚物ハ人家及往來繁劇ナル道路ニ遠隔セル地ヘ搬出ス可シ
- 第十一條 汚物運搬器ハ可成緊密ナル蓋ヲ具シ堅牢ナル構造ヲ爲シ惡臭汚液等ノ飛散若クハ漏泄セサル様注意ス可シ
- 第十二條 胞衣汚血若クハ産兒死屍ヲ洗滌シタル汚水ハ家屋内及飲料水ヲ距ル五間以內ノ地ニ埋却ス可カラス
- 第十三條 人家稠密ノ地ニ於テハ一ヶ所以上一定ノ芥棄場、死畜、胞衣、汚血及産兒、死屍ヲ洗滌シタル汚水埋却場ヲ設ケ夫夫燒却若クハ埋却スヘシ其肥料ニ供ス可キ塵芥ト雖モ永ク之ヲ堆積シ又ハ區域外ヘ散亂ス可カラス但本條ノ場所ハ其周圍ニ埒垣ヲ設ケ入口ニ標札ヲ建ツ可シ
- 第十四條 前條ノ場所ハ人家ヲ距ルコト六十間以上飲料水及ヒ道路ヲ距ルコト五間以上ノ地ヲ選ヒ市町村長ヨリ當廳ヘ願出テ許可ヲ受ケ可シ但一個人ニシテ之ヲ設ケ他ノ受負ヲ爲ス者ハ其負請方法書ヲ添ヘ設置人ヨリ願出ツ可シ
- 第十五條 死畜ハ飼主ニ於テ燒却又ハ埋却ノ手續ヲ爲シ其飼主不明ノ者ハ現ニ死屍アル所ノ地主ニ於テ同上ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十六條 前條民有地外ニ於テ死亡シタルモノ又ハ警察官吏ノ撲殺セシメタルモノハ總テ市役所若クハ町村役場ニ於テ前條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十七條 死畜ヲ埋却スルニハ牛馬ハ六尺以上犬、猫、羊、豚、其他ハ三尺以上地下ヲ發掘スヘシ
- 第十八條 (削除)
- 第十九條 此規則第九條第十二條第十七條ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處シ又ハ二日以上五目以下ノ拘留ニ處ス

### ●汚物埋却手續書

明治二十年七月二十七日  
山口縣訓令第二十九號

〔郡〕區役所 局長役場

本年四月縣令第六十二號汚物掃除規則第十三條胞衣汚血等埋却方之義ハ別紙手續書之旨趣ニ依リ各町村ニ於テ其施設ヲ爲サシメ其取締方ハ區戸長ニ於テ注意ス可シ

#### 汚物埋却手續書

- 一 埋却地ハ汚物掃除規則第十三條ニ依リ一定ノ地ヲ設ケ一町村若クハ數町村ノ共有トナス可シ
- 二 汚物ヲ埋却スル土地ハ三尺以上掘整スヘシ
- 三 汚物埋却ハ各自之ヲ取扱フヘキモノト雖モ便宜ニヨリ之ヲ取扱人ヲ定メ置キ之ニ負擔セシムルハ妨ナシ

### ●汚物埋却手續書出願者取扱手續

明治二十五年九月二十九日  
山口縣訓令第三十七號

〔郡〕區役所 警察署 〔同分署〕

明治二十年四月縣令第六十二號汚物掃除規則第十三條芥葉場、死畜、胞衣、汚血及産兒死屍ヲ洗滌シタル汚水埋却場等設置ノ議出願シタル場合ニ於テハ郡市長ハ警察署長若クハ同分署長ヘ協議シ實地調査ノ上意見ニ係ルモノ長ノ意見添申スヘシ

### ●道路飲料井ヲ距ル二十間ノ土地

#### 堀取り填塞期日ノ件

〔山口警〕

明治二十年十一月二日  
山口縣令第四十九號

家屋建築其他ノ爲メ土地ヲ堀取り爾後久シク其跡ヲ填充セスシテ塵芥ヲ投棄スル者往往有之候所汚水雨水之ニ流入シ遂ニ其腐敗物近傍ノ井戸ニ滲透シテ飲料水質ヲ變スル等人身ノ健康ヲ害スルコト不尠候ニ付明治二十一年一月一日以後人家又ハ道路飲料井等距ル二十間以内ノ土地ヲ堀取りタルトキハ必ス五十日以内ニ土石ヲ以テ之ヲ填塞スヘシ

### ●道路飲料井ヲ距ル二十間ノ土地

#### 堀取り填塞期日ニ關シ注意ノ件

明治二十年十一月十五日  
山口縣訓令第四十二號

〔郡〕區役所 警察署 〔同分署〕

今般山口縣令第四十九號ヲ以テ人家近傍ノ土地ヲ堀取りタルトキハ其跡ヲ填塞スヘキ旨及縣令候ニ付テハ從來人家又ハ飲料井等ヲ距ル二十間以内ノ土地ヲ堀取其儘ニ致居候モノハ可成速ニ土石ヲ以テ填塞セシメ候様取計フヘシ

右訓令ス

### ●汚物掃除法施行細則

明治三十三年六月十六日  
山口縣令第四十九號

汚物掃除法施行規則左ノ通相定ム

#### 汚物掃除法施行細則

第一條 汚物掃除法施行規則第二條ニ依リ築造スヘキ溝渠ノ構造ハ左ノ方法ニ據ルヘシ

〔山口警〕

- 一 石煉瓦石粘藥ヲ施シタル陶器若ハ鐵管ヲ以テ造リ其ノ接合部ハ鐵管ニ係ルモノハ金屬ノ接合劑ヲ用ヒ其ノ他ノモノハ「セメント」「モルタル」又ハ「コンクリート」ヲ用ウヘシ但シ露出スル溝渠ハ厚板ヲ用ウルコトヲ得
- 二 底ヲ設ケテ汚水ノ漏泄ヲ防キ又暗渠ニアラサルモノハ可成覆蓋テ設ケヘシ
- 三 幅及深サハ水量ニ應ジ且適當ノ勾配ヲ附スヘシ
- 第二條 溝渠ノ汚水ヲ公共溝渠ニ排泄スルノ裝置ハ前條ニ準シ構造シ暗渠トナスヘシ
- 第三條 第一條及第二條ニ依リ工事落成シタルトキハ使用前市役所ニ届出検査ヲ受ケヘシ
- 第四條 土地ノ狀況ニ依リ汚水ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄シ難キトキハ市役所ノ認可ヲ得テ汚水溜ヲ設ケルコトヲ得
- 汚水溜ハ不滲透質ノ材料又ハ「コールドタル」ヲ塗布シタル木材ヲ以テ構造シ且蓋ヲ設ケヘシ
- 汚水溜ノ汚水ハ充溢セサル様汲ミ取り公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排棄スヘシ
- 第五條 掃除義務者ニ於テ備フヘキ塵芥及汚泥ノ容器ハ凡一日ニ生スル量ノ三倍ヲ容ルルニ足ルヘキモノニシテ蓋蓋ヲ有シ塵芥汚泥ノ漏泄セサルモノヲ用ウヘシ
- 第六條 掃除義務者ハ場所ノ狀況ニ依リ數人共用ノ塵芥容器ヲ用ウルコトヲ得
- 第七條 塵芥及汚泥ノ運搬容器ハ臭氣及汚物ノ發散漏泄セサル様構造シ且蓋蓋ヲ設ケヘシ
- 第八條 汚物取扱場ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
- 一 人家及飲料水トナルヘキ井泉又ハ河川ヲ距ルコト三間以上

- 二 周圍ハ適當ノ圍ヒナ爲シ地盤ハ石煉瓦石「セメント」「コンクリート」敷又ハ厚板トナシ屋根ヲ設ケルコト
- 第九條 市ハ左ノ制限ニ依リ塵芥焼却場ヲ設置スヘシ
- 一 市街地外ニシテ人家飲料水井戸及道路ヲ距ルコト五十間以上
- 二 周圍ハ高サ十尺以上ノ塙塙ヲ設ケルコト
- 三 燒却竈ニ煙突ヲ設ケルトキハ其ノ高サ三十尺以上
- 第十條 郡村ニ接近シタル地區ノ義務者ニ於テ掃除シタル汚物ヲ自家ノ肥料トナサントスルトキハ市長ノ許可ヲ得テ第五條ノ容器ヲ用キス人家及飲料水井戸ヲ距ル十間以上ノ地ニ蒐集スルコトヲ得
- 前項ノ地區ハ別ニ之ヲ告示ス
- 第十一條 廣大ナル土地(三千坪以上)ヲ占有スル義務者ハ汚物掃除法施行規則第五條第一項ニ拘ハラヌ知事ノ許可ヲ得テ燒却方法ヲ設ケルコトヲ得
- 第十二條 公共溝渠ヲ築造セントスルトキハ本則第一條ニ準據スヘシ
- 第十三條 公共便所ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ據ルヘシ
- 一 飲料水トナルヘキ井泉又ハ河川ヲ距ルコト五間以上
- 二 敷地ハ地盤ヨリ三寸以上高クスルコト
- 三 屎尿壺ハ内外ニ粘藥ヲ施シタル陶器若ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造スルコト
- 四 屎尿壺ノ周邊ハ漏斗狀ニシテ厚サ三寸以上「セメント」又ハ「コンクリート」敷ト爲スコト
- 五 建物ハ石煉瓦石又ハ木材トシ屋根ヲ設ケ雨雪ノ漏レサル様構造スルコト
- 六 圍ヒナキ部分ニハ目隠シヲ設ケルコト

### ●掃除吏員證票ノ件

明治三十三年七月二十日  
山口縣令第五十五號

明治三十三年三月内務省令第五號汚物掃除法施行規則第十二條ニ依リ掃除  
監視吏員ノ携帶スル證票製式左ノ通定ム  
用紙厚紙 三寸

表 掃除監視吏員之證

山口縣何市役所又ハ何町村役場
印

●掃除監視吏員職務章程

明治三十三年四月四日  
長第二六四號

其市掃除監視吏員職務章程中ニハ別紙ノ條項ヲ參酌シ規定ヲ設クヘシ  
赤間關市役所  
右訓令ス

- 第一 掃除監督長ハ掃除監督掃除監視及掃除人ノ勤務作業服裝等ヲ監視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ
- 第二 掃除監督長ハ市内ヲ巡回シ左ノ事項ヲ視察スヘシ
  - 一 掃除監督以下ノ配置ノ適否

〔山口警〕

- 二 掃除人ノ數及其ノ配置ノ適否
- 三 塵芥焼却場、汚物假置場ノ狀況
- 四 公共溝渠、公共便所ノ狀況
- 五 其ノ他市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況
- 六 私人ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況其他掃除ニ關スル法令ノ行否
- 第三 掃除監督長ハ公共溝渠、公共便所、塵芥焼却場、汚物假置場等ノ築造修繕浚深等ヲ要スト認ムルトキハ市參事會ニ具申スヘシ
- 第四 掃除監督長ハ汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スヘシ
- 第五 掃除監督長私人ニ戒告スルトキハ左ノ事項ヲ除ク外市長ノ指揮ヲ受クヘシ
  - 一 溝渠、便所、井戸流其ノ他ノ場所ノ掃除及汚物ノ處分ニシテ人夫何人以内ニテ履行シ得ヘキ見込ナルモノ
  - 二 溝渠、便所、井戸流ノ築造修繕等ニシテ何圓以内ノ費用ヲ以テ履行シ得ヘキ見込ナルモノ
  - 三 塵芥容器ノ備付、取替等
- 第六 掃除監督長戒告書ヲ送達セシムルトキハ領收證ヲ徴セシムヘシ
- 第七 掃除監督長汚物掃除法施行規則第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキ又ハ警察官署ノ協議アリタルトキハ掃除監督又ハ掃除監視ヲシテ臨檢セシメ必要ト認ムルトキハ自ら臨檢スヘシ
- 第八 掃除監督長ハ掃除監視ノ受持區畫ヲ定メ二以上ノ受持區ヲ以テ受持組合ヲ設クヘシ
- 第九 掃除監督長ハ掃除監視ニ受持ノ區又ハ勤務ノ場所ヲ命スヘシ
- 第十 掃除監督長ハ臨時必要アルトキハ掃除監督ヲシテ他ノ掃除監督ノ擔

〔山口警〕

- 任ニ屬スル事務ヲ補助代理セシメ又ハ掃除監視ヲシテ掃除監督ノ事務ヲ補助代理セシムルコトヲ得
- 第十一 掃除監督長ハ掃除監督及掃除監視ノ進退賞罰ヲ市參事會ニ具申スヘシ
- 第十二 掃除監督長ハ掃除人ヲ雇入レ及之ヲ解雇シ又ハ人夫請負人ニ命シテ掃除人ヲ解雇セシムルコトヲ得
- 第十三 掃除監督長ハ人夫請負人ニシテ不都合アリト認ムルトキハ市參事會ニ具申スヘシ
- 第十四 掃除監督長ハ毎月一回左ノ事項ヲ調査シ翌月十五日マテニ市長ニ報告スヘシ
  - 一 使用シタル掃除人ノ延人員(掃除區畫別塵芥焼却場等ニ使  
用スル者ハ別ニ之ヲ示スヘシ)
  - 二 搬出シタル塵芥及汚泥ノ各見積重量又ハ容量(掃除區  
畫別)
  - 三 焼却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量(焼却場別)
  - 四 公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物假置場等ノ築造修繕浚深等ニ著手  
シ又ハ落成シタル個所其ノ狀況
  - 五 掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數(溝渠便所井戸流其ノ他地域)  
掃除監視吏員巡回視察中私人ニ與ヘタル注意件數
  - 六 掃除監視吏員巡回視察中私人ニ與ヘタル注意件數
  - (イ) 溝渠ニ付
  - (ロ) 便所ニ付
  - (ハ) 地域内ノ掃除ニ付
  - (ホ) 其ノ他(前各號ニ準シテ項目ヲ分ツテ要ス以下同シ)
  - 七 私人ニ戒告シタル數
  - (イ) 塵芥容器又ハ其使用方ニ付

- (ロ) 溝渠ニ付
- (ハ) 便所ニ付
- (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
- (ホ) 其ノ他
- 八 戒告ヲ受ケ私人ノ履行シタル件數
- (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
- (ロ) 溝渠ニ付
- (ハ) 便所ニ付
- (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
- (ホ) 其ノ他
- 九 代執行シタル件數
- (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
- (ロ) 溝渠ニ付
- (ハ) 便所ニ付
- (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
- (ホ) 其ノ他
- 十 掃除監視吏員申告ニ依リ臨檢シタル件數
- (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
- (ロ) 溝渠ニ付
- (ハ) 便所ニ付
- (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
- (ホ) 其ノ他
- 十一 掃除監視吏員警察官署ノ協議ニ依リ臨檢シタル件數
- (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
- (ロ) 溝渠ニ付

- (ハ) 便所ニ付
- (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
- (ホ) 其ノ他
- 十二 掃除監視吏員施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル廳府縣令ニ依リ告發シタル者ノ數
  - (イ) ..... 第何條ニ依リ
  - (ロ) ..... 第何條ニ依リ
  - (ハ) ..... 第何條ニ依リ
  - (ニ) ..... 第何條ニ依リ
- 其ノ他
- 第十五 掃除監督長ハ毎年掃除事務年報ヲ調製シ翌年六月マテニ市長ニ提出スヘシ
- 第十六 掃除事務年報ニ記載スヘキ事項ハ左ノ如シ
  - 一 掃除區畫ノ數各區ノ面積戸數人口(戸數人口ハ最)
  - 二 各掃除區畫内ノ受持區畫ノ數
  - 三 年末現在掃除監視吏員ノ員數俸給別
  - 四 毎月使用シタル掃除人ノ延人員(掃除區畫別 塵芥焼却場等ニ使用スル者ハ別ニ之ヲ示スヘシ)
  - 五 毎月搬出シタル塵芥汚泥ノ各見積重量又ハ容量(掃除區畫別 焼却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量(塵芥焼却場別))
  - 六 公共便所塵芥焼却場汚物假置場等ノ數(公共便所汚物假置場ハ)
  - 七 公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物假置場等ノ築造修繕浸濇等ニ著手シ又ハ落成シタル個所其ノ狀況
- 九 汚物掃除法施行規則第五條ニ依リ市ニ於テ汚物ヲ蒐集スル戸數

〔山口誓〕

- 每日何回蒐集何戸  
毎二日一回同 上  
毎二日一回同
- 塵芥容器、塵芥溜ノ數(掃除區畫別) 年末現在
- 十 汚物掃除法施行規則第二十一條ニ基キ土地ノ占有者ヲシテ汚物ヲ處分セシムル箇所ノ數(掃除區畫別) 年末現在
- 十一 毎月掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數(溝渠便所并戸流其ノ他ルモ) 地域内ヲ特ニ視察シタル
- 十二 掃除監視吏員毎月巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數
  - (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
  - (ロ) 溝渠ニ付
  - (ハ) 便所ニ付
  - (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
  - (ホ) 其ノ他
- 十三 毎月私人ニ戒告シタル件數
  - (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
  - (ロ) 溝渠ニ付
  - (ハ) 便所ニ付
  - (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
  - (ホ) 其ノ他
- 十四 戒告ヲ受ケ私人ノ履行シタル件數(毎月)
  - (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
  - (ロ) 溝渠ニ付
  - (ハ) 便所ニ付
  - (ニ) 地域内ノ掃除ニ付

〔山口誓〕

- (ホ) 其ノ他
- 十五 代執行シタル件數(毎月)
  - (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
  - (ロ) 溝渠ニ付
  - (ハ) 便所ニ付
  - (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
  - (ホ) 其ノ他
- 十六 掃除監視吏員申告ニ依リ臨檢シタル件數(毎月)
  - (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
  - (ロ) 溝渠ニ付
  - (ハ) 便所ニ付
  - (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
  - (ホ) 其ノ他
- 十七 掃除監視吏員警察官署ノ協議ニ依リ臨檢シタル件數(毎月)
  - (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
  - (ロ) 溝渠ニ付
  - (ハ) 便所ニ付
  - (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
  - (ホ) 其ノ他
- 十八 掃除監視吏員施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル廳府縣令ニ依リ告發シタル者ノ數(毎月)
  - (イ) ..... 第何條ニ依リ
  - (ロ) ..... 第何條ニ依リ
  - (ハ) ..... 第何條ニ依リ
  - (ニ) ..... 第何條ニ依リ

- 十九 市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除又ハ掃除ニ關スル市ノ施設ニ付毎月掃除監督ヨリ掃除監督長ニ具申シタル件數
  - (イ) 公共溝渠ノ築造修繕浸濇ニ付
  - (ロ) 公共便所ノ築造修繕ニ付
  - (ハ) 塵芥焼却場ノ築造修繕ニ付
  - (ニ) 汚物假置場ノ築造修繕ニ付
  - (ホ) 市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ニ付
  - (ハ) 其ノ他
- 二十 掃除ニ關スル費用豫算(前年度決) 算ノ比較) 其ノ他
- 掃除監督ノ職務
- 十七 掃除監督ハ市内ノ掃除區ヲ擔任シ又ハ塵芥焼却場汚物假置場等ヲ擔任スヘシ
- 十八 掃除監督ハ常ニ擔任ノ區内ヲ巡回シ又ハ擔任ノ場所ニ於テ部下ノ掃除監視及掃除人ノ勤務作業服裝姿勢等ヲ監視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ
- 十九 掃除監督ハ左ノ事項ヲ視察スヘシ
  - 一 掃除監視ノ配置ノ適否
  - 二 掃除人ノ數及其ノ配置ノ適否
  - 三 塵芥焼却場汚物假置場ノ狀況
  - 四 公共溝渠公共便所ノ狀況
  - 五 其ノ他市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況
  - 六 私人ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況其ノ他掃除ニ關スル法令ノ行否
- 第二十 掃除監督ハ公共溝渠、公共便所、塵芥焼却場汚物假置場等ノ築造修繕浸濇等ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第二十一 掃除監督ハ汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ戒告ヲ要スト認ムル

- トキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第二十二 掃除監督ハ私人ニ於テ掃除監督長ノ戒告ヲ履行スルヤ否ヲ監視シ掃除監督長ニ報告スヘシ
- 第二十三 掃除監督ハ掃除監督長ニ於テ私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スルトキハ掃除監督長ニ報告シテ其ノ事務ニ従事スヘシ
- 第二十四 掃除監督ハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキ又ハ警察官吏ノ協議アリタルトキハ掃除監督長ニ臨檢セシメ必要ト認ムルトキハ自ら臨檢スヘシ掃除監督長ノ命アリタルトキ亦同シ
- 第二十五 掃除監督ハ法令又ハ市參事會若ハ市長ノ訓令又ハ掃除監督長ノ指示ニ關シ行務ノ統一ヲ圖ル爲隨時部下ノ掃除監視ニ必要ナル訓授ヲ爲スヘシ
- 第二十六 掃除監督ハ部下ノ掃除監視ノ受持區内ニ於ケル巡行線路ヲ定メ掃除監督長ニ報告スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第二十七 掃除監督ハ掃除監視ノ出勤簿及勤務日誌其ノ他必要ナル簿冊ヲ整理スヘシ
- 第二十八 掃除監督ハ臨時必要アルトキハ掃除監視ヲシテ他ノ掃除監視ノ受持ニ屬スル事務ヲ補助代理セシムルコトヲ得
- 第二十九 掃除監督ハ部下ノ掃除監視ノ進退賞罰ヲ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第三十 掃除監督ハ掃除人ノ解雇ヲ要スト認ムルトキ又ハ人夫受負人ニシテ不都合アリト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第三十一 掃除監督ハ毎月三回左ノ事項ヲ掃除監督長ニ報告スヘシ
  - 一 使用シタル掃除人ノ延人員
  - 二 搬出シタル塵芥及汚泥ノ各見積重量又ハ容量
  - 三 焼却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量

山口縣

- 四 公共溝渠公共便所塵芥燒却場汚物假置場等ノ築造修繕浚渫等ニ著手シ又ハ落成シタル個所其ノ狀況
- 五 掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數
- 六 掃除監視吏員巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數
- 七 掃除監視吏員申告ニ依リ臨檢シタル件數
- 八 掃除監視吏員警察官署ノ協議ニ依リ臨檢シタル數
- 九 掃除監視吏員施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル廳府縣令ニ依リ告發シタル者ノ數
- 其ノ他
- 掃除監視ノ職務
- 第三十二 掃除監視ハ掃除區内ノ受持區ヲ擔任シ又ハ塵芥燒却場汚物假置場等ニ勤務スヘシ
- 第三十三 掃除監視ハ常ニ受持區内ヲ巡回シ又ハ所屬ノ場所ニ出務スヘシ
- 第三十四 掃除監視ハ毎日掃除人、其ノ被服及掃除用器具ヲ點檢シ勤務日誌ニ記載スヘシ
- 第三十五 掃除監視ハ掃除人ノ作業等ヲ監視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ
- 第三十六 掃除監視ハ必要ト認ムルトキハ掃除人ノ作業服裝掃除用具等ニ關シ視察シタル事項ヲ掃除監督長ニ報告スヘシ
- 第三十七 掃除監視ハ公共溝渠公共便所其ノ他市ノ掃除スヘキ場所ヲ視察シ其ノ狀況ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ但溝渠便所塵芥燒却場汚物假置場等ノ築造修繕浚渫等ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督長ニ報告スヘシ
- 第三十八 掃除監視ハ塵芥容器塵芥溜等ヲ檢査シ汚物停滯シタルトキハ掃除人ニ指揮シテ搬出セシムヘシ其ノ破損シタルトキハ私人ニ注意ヲ與ヘ取替又ハ修繕ヲ爲サシムヘシ
- 第三十九 掃除監視ハ溝渠便所并戸流其ノ他私人ニ掃除スヘキ場所ヲ視察

山口縣

- シ家人ニ注意ヲ與ヘ又ハ時宜ニ依リ衛生組長ニ交渉シ其ノ狀況ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ但汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ戒告ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督長ニ報告スヘシ
- 第四十 掃除監視ハ私人ニ於テ掃除監督長ノ戒告ヲ履行スルヤ否ヲ監視シ掃除監督長ニ報告スヘシ
- 第四十一 掃除監視ハ掃除監督長ニ於テ私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スルトキハ上司ノ指揮ヲ受ケ其ノ事務ニ従事スヘシ
- 第四十二 塵芥燒却場又ハ汚物假置場所屬ノ掃除監視ハ毎日出入ノ汚物舟車數其ノ見積重量又ハ容量ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ
- 第四十三 掃除監視ハ汚物掃除法第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキハ二十四時間以内ニ臨檢シ直ニ其ノ事實ヲ掃除監督長ニ報告スヘシ掃除監督長又ハ掃除監督ノ命アリタルトキ亦同シ若シ期限内ニ臨檢シ難キ事由アルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第四十四 掃除監視ハ毎日一定ノ時刻ニ掃除事務所又ハ出張所ニ參集シ出勤簿ニ捺印シ諸般ノ報告等ヲ爲スヘシ
- 第四十五 掃除監視ハ受持區内ノ戸數及塵芥容器塵芥溜ノ數ヲ調査ノ上記録シ常ニ之ヲ加除スヘシ
- 第四十六 掃除監視ハ勤務中給與ノ手帳ヲ携ヘ大小ノ事故ヲ之ニ記入スヘシ手帳ハ上司ノ求アルトキハ之ヲ示スヘシ
- 第四十七 掃除監視ハ前各項ニ掲グルモノ、外毎日勤務ノ要領及勤務中ノ事故ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ

汚物掃除法準用ノ件

明治三十八年十一月十日 山口縣令第六十二號

大正二年七月縣令第四四號、七年一月第五九號、一一年一月第六五號

左ノ町村市街地ニ對シ明治三十三年法律第三十號汚物掃除法全部ヲ準用ス  
 明治三十三年三月內務省令第五號汚物掃除法施行規則第二條第三項  
 第四條第六條ハ明治四十年十二月三十一日第八條ハ明治三十九年十二月三十一日迄ニ設備ヲ爲スヘシ  
 本令ハ明治三十八年十二月一日ヨリ施行ス

玖珂郡	岩國町	柳井町
都濃郡	徳山町	
佐波郡	防府町	
吉敷郡	山口町	小郡町
厚狭郡	小野田町	
豊浦郡	長府町	
阿武郡	萩町	

本令ハ大正七年十月十日ヨリ施行但シ明治三十三年三月內務省令第五號汚物掃除法施行規則第二條第三項第四條第六條ハ大正八年九月三十日第八條ハ大正七年十二月三十一日迄ニ設備ヲ爲スヘシ

汚物掃除法第十一條ニ依リ同法之全部又ハ一部ヲ町村内ノ一部ニ準用ノ件

明治三十三年六月六日 衛甲第六一號衛生局長通牒

各地方長官宛

汚物掃除法第十一條ニ依リ同法之全部又ハ一部ヲ町村内ノ一部ニ準用スルトキハ其施行上必要ナル汚水溜、溝渠、便所等ノ費用ハ町村制第九十九條第二項ニ依リ其施行地一部ノ負擔ヲラシムルヲ得ヘク又汚物蒐集費監視吏員之俸給其他施行ニ要スル一切ノ費用ニ關シテハ町村制第二百二十七條第七

項ニ依リ掃除法用區域ト其他トノ間ニ付加税ニ相當ノ等差ヲ設ケ不均一ノ賦課ヲ爲スカ如キ方法ヲ採ラハ略ホ負擔ノ權衡ヲ保チ得ヘシト存候間合之向モ有之候ニ付爲念此段及通牒候也

### ●塵芥焼却場設置ニ關スル件

昭和三年二月二十一日  
衛第八七六號警察部長指示

各署長宛

標記ノ件ニ關シ汚物掃除法施行規則第九條汚物掃除法施行規則第九條汚物掃除規則第十三條及第十四條ニ依リ爾今其ノ署管内ニ於テ塵芥焼却場設置ノ願出アリタル場合ハ左記事項ニ對スル意見ヲ附シ稟申スベシ猶從來既設ニカ、ル塵芥焼却場ニ就テハ此ノ際前段ニ準ジ本月末日迄ニ遲滞ナク報告セラルベシ

追テ左記事項ハ二葉必要ニ付爲念申添候

記

- 一 設置場所(地名番地詳細)
- 二 敷地坪數
- 三 建物ノ種別構造及坪數並配置圖
- 四 塵芥扱場ノ位置構造及坪數
- 五 焼却設備ノ型式構造及其ノ操作詳細(圖面添付ノコト)
- 六 一日ノ焼却能率
- 七 焼却設備ニヨリ副産物ヲナシ居ルモノアラバ其ノ詳細
- 八 設備工費及經常費
- 九 起工竣工月日

### ●汚物掃除法施行規則ニ關スル件

(山口警)

長野縣知事照會(昭和五年九月二十日)  
發第三二五號

本年五月内務省令第十八號ヲ以テ汚物掃除法施行規則改正セラレタル結果市ハ汚物ノ處理ニ關シ塵芥ニ就テハ原則トシテ焼却處分ヲ爲シ屎尿ニ就テモ之方處分ヲ爲スノ義務相生シ候處左記各項ノ如キ場合ハ同則 第五條及第二十二條ニ所謂特別ノ事由アルモノト思料セラレ候節モ有之候條爲念附記ノ如キ意見ヲ具シ一應貴官ノ御意見承知致度此段及照會候也

一 塵芥處分ニ就テノ疑義

金肥節約ノ趣旨ニ依リ市内ヨリ生ズル塵芥ヲ焼却處分セス市内農家部落ニ運搬シ堆肥造成ニ依ル處分ヲ認可差支ナキヤ

(意見)

蒐集シタル塵芥チ一定ノ場所ニ於テ堆肥トナシ之チ一般農家ニ供給(販賣)スヘク計畫中ノモノアリテ經濟上時宜ニ適シタルモノト認メラル、チ以テ其ノ場所及構造設備ニ對シ相當ノ制限ヲ加ヘ處分セシムレハ支障無之モノト思料セラレ

二 屎尿處分ニ就テノ疑義

戸口稀薄又ハ農園耕地近接地域内住民ノ屎尿ハ當分ノ内掃除義務者ノ隨意處分ヲ認ムルノ可

(一) 汲取希望者ノ屎尿ノミ市管汲取處分トシ其ノ他ハ當分ノ内掃除義務者ノ隨意處分ヲ認ムルノ可

(二) 市管汲取區域ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ區域内ノ掃除義務者力自家用トシテ自己ノ屎尿ヲ汲取處分スルノ可

(三) 原則トシテ市ニ於テ處分スルコト、スルモ新市部ノ如キハ戸口稀薄ニシテ専ラ農業ヲ營ミ屎尿塵芥ノ如キハ自ラ肥料トシテ處分シツ、アルノミナラス尙市街地ヨリ汲取り施肥トナス者アル實情ニ

(意見)

原則トシテ市ニ於テ處分スルコト、スルモ新市部ノ如キハ戸口稀薄ニシテ専ラ農業ヲ營ミ屎尿塵芥ノ如キハ自ラ肥料トシテ處分シツ、アルノミナラス尙市街地ヨリ汲取り施肥トナス者アル實情ニ

(山口警)

シテ市ニ於テ處分セハ耕作上相當不便ヲ感スル狀況ニ有之斯ル事由ヲ有スル地域ハ當分ノ内除外地域トシテ市長ヨリ認可ノ申請ヲ爲サシメ之ニ對シテハ嚴密ナル調査ノ上認可シ掃除義務者ニ處分セシムルコト、致度尤モ其ノ區域中ト雖モ掃除義務者自ラ處分セサルモノアラハ市ニ處分セシム

三 塵芥容器備付ニ就テノ疑義

塵芥ヲ堆肥造成トシテ處分スル場合ニ於テ可燃性及不可燃性ニ區別スル必要上掃除義務者ニ對シ可燃性塵芥用及不可燃性塵芥用ノ容器二個ヲ設備セシムルノ可

(意見)

規則第三條ニ於テ掃除義務者ニ塵芥容器ノ備付ヲ命シタルハ其ノ掃除シタル汚物ヲ蒐集セシムカ爲ト解セラル然ルニ此ノ場合ハ市カ處分ノ便宜上設備セシムトスルノ趣意ニシテ之ヲ掃除義務者ニ負擔セシムルハ當テ得サルモノト認メラル、ニ依リ同條第一項但書ニ依リ市ニ設備セシムルチ至當ト思料ス

衛生局長回答(昭和五年十月十四日)  
衛保第八二七號

標記ノ件ニ關シ客月二十日附發第三二五號ヲ以テ照會ノ趣了承右ハ左記ノ通御取扱相成度

一 塵芥處分ニ就テハ御見込通

二 屎尿處分ニ關シ(二)三ハ御見込通ナルモ(一)ニ關シテハ規則第二十一條ニ依リ取扱ハレ度

三 塵芥容器ニ就テハ御見込通

### 第五節 屠場

#### ●屠場法施行細則

明治三十九年六月三十日  
山口縣令第四十四號

改正 明治四〇年二月縣令第八八號、四二年八月第五八號、昭和三年七月第五三號

屠場法施行細則左ノ通定ム

屠場法施行細則

第一條 屠場設立ノ許可ヲ受ケムトスルモノハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ願出ツヘシ第二號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルキ亦同シ

新設又ハ改造ノ許可ヲ受ケ落成期日ヲ過キ落成セサルトキ若ハ六ヶ月以上休業シタルトキハ許可ノ效ヲ失フモノトス

一、本籍住所所族稱氏名生年月日(法人ニアリテハ代表者ノ職名氏名)

二、屠殺スヘキ獸畜ノ種類

三、建設地及其ノ四隣五丁以内ノ地形見取圖但シ建設地ノ地番字地目反別及地主ノ氏名ヲ記入スルコト

四、敷地建物汚水溜、汚物溜等ノ配置平面圖

五、各建物、汚水溜等ノ構造方法書

六、新設又ハ改造工事落成期日

七、屠場法施行規則第八條ノ疾病ナキコトヲ證スル醫師ノ診斷書

第二條 屠場ノ位置ハ明治三十九年(六月)内務省令第十七號ニ依リ外國

道縣道並鐵道人家及飲用ニ供スル河川井泉ヲ距ル六十間以上化製場ヲ距

ル三間以上ナラサレハ許可セサルコトアルヘシ

第三條 屠場主名義變更ノ届出ニハ左記事項ヲ具シ改氏名及死亡ニ因ル場

合ノ外新舊場主連署シ所轄警察官署ヲ經テ提出スヘシ  
 一、名義變更ノ原因及其ノ年月日  
 二、新場主ノ本籍、住所、氏名、生年月日（法人ニ在リテハ事務所所在地及代表者職氏名）  
 三、舊場主ノ氏名  
 四、相續ニ因ル場合ハ之ヲ證スヘキ戸籍抄本  
 第五條 新設又ハ改造工事落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ使用ノ許可ヲ願出ツヘシ  
 第五條 屠場法施行規則第三條第一號ニ依ル屠殺ヲ爲サムトスル者ハ左記各項ヲ具シ三時間前所轄警察官署ニ届出ツヘシ  
 一、本籍、住所、職業、氏名、年齢  
 二、屠殺スヘキ獸畜ノ種類、頭數、性、年齢  
 三、屠殺ノ事由  
 四、屠殺解體ノ日時場所  
 五、獸醫師ノ作製シタル獸畜ノ診斷書  
 同條第二號ニ依ル屠殺ヲ爲サムトスル者ハ左記各項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ  
 一、前項第一號第二號及第五號ノ事項  
 二、切迫屠殺ヲ必要トスル事由  
 三、屠殺ノ日時場所  
 四、死體ノ處置  
 切迫屠殺ヲ爲シタルトキハ立會警察官吏ノ證明書ヲ受ケ解體ノ際取締官更ニ提示スヘシ  
 切迫屠殺ノ死體ヲ運搬スルトキハ臭氣汚液等ノ漏出ヲ防クニ足ル適當ノ被包ヲ施スヘシ

〔山口書〕

第六條 屠場外ニ於テ解體シタル獸肉ハ屠場ニ入ルヘカラス  
 第七條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ  
 一、屠場主ノ本籍、住所、居所、族稱（法人ニ在リテハ代表者ノ職名氏名）ニ異動ヲ生シタルトキ  
 二、市町村有ニ有ラサル屠場ヲ廢止シ又ハ屠場主逃亡死シタルトキ  
 前項第二號逃亡死シタルトキハ屠場主、相續人若シ戸主相續人ナキトキハ最近親屬ヨリ之ヲ爲スヘシ  
 第八條 屠場ニハ第一號様式ノ標札ヲ掲ケヘシ  
 第九條 屠畜業者ヲ爲サムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ事項ヲ變更シ又ハ廢業逃亡死シタルトキハ亦同シ  
 一、住所、居所、族稱、氏名、生年月日  
 二、業務ノ場所  
 三、屠場法施行規則第八條ノ疾病ナキコトヲ證スル醫師ノ診斷書  
 前項逃亡死シタルトキハ第七條第二項ニ準ス  
 第十條 屠場主、屠畜業者ハ豫メ自己ノ使用スル從業者ノ屠場法施行規則第八條ノ疾病ナキコトヲ證スル醫師ノ診斷書ヲ添ヘ其ノ住所、居所、氏名、生年月日ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ  
 前項從業者ノ使用ヲ止メタルトキハ五日以内所轄警察官署ニ届出ツヘシ  
 第十一條 屠場主屠畜業者及其ノ家族同居者雇人其ノ他從業者ハ斃獸解體營業ヲ兼ムルコトヲ得ス  
 第十二條 屠殺解體ニ從事スル者ハ清潔ナル白衣ヲ著スヘシ  
 第十三條 屠殺解體ヲ爲サムトスルトキハ其ノ種類、頭數及日時ヲ前日迄ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ急テ要スル場合ハ臨時届出ルコトヲ得  
 第十四條 日出前日没後ハ屠殺解體ヲ爲スコトヲ得ス但シ所轄警察官署ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニ在ラス

〔山口書〕

第十五條 屠場法施行規則第九條ノ烙印ヲ爲シタル獸畜ヲ賣買讓渡シ若ハ其ノ繋留場所ヲ轉シタルトキハ直ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ  
 第十六條 屠場主及屠畜業者ハ左ノ帳簿ヲ製シ記入ノ都度検査員ノ検印ヲ受ケヘシ  
 前項ノ帳簿ハ記載後一箇年以上保存スヘシ  
 屠畜買入帳（第二號様式）  
 屠畜日記（第三號様式）  
 第十七條 第四條ノ許可ヲ得シテ屠場ヲ使用シタル者及第五條乃至第十條第十二條第十五條第十六條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス  
 第十八條 本則ハ明治三十九年法律第三十二號屠場法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 現在ノ屠場主ハ本則施行後五日以内ニ本則第一條第三號第七號ノ書類ヲ添ヘ同第二號ノ事項ヲ届出ツヘシ  
 第二十條 現在ノ屠畜業者ハ本則施行後五日以内更ニ本則第九條ノ届出ヲ爲スヘシ  
 第一號様式  
 三 尺  
 許可期限 年 月 日  
 屠 場 住 所 居 所  
 持 主 氏 名  
 寸 八

第二號様式

番 號	買 入 月 日	種 類	年 齡	産 産	地 毛	色 特	徵 賣	主 住 所	氏 名
、	、	牛	、	、	、	、	、	、	、
、	、	牛	、	、	、	、	、	、	、
、	、	牛	、	、	、	、	、	、	、
、	、	牛	、	、	、	、	、	、	、
、	、	牛	、	、	、	、	、	、	、
、	、	牛	、	、	、	、	、	、	、
、	、	牛	、	、	、	、	、	、	、
、	、	牛	、	、	、	、	、	、	、
、	、	牛	、	、	、	、	、	、	、
、	、	牛	、	、	、	、	、	、	、
、	、	牛	、	、	、	、	、	、	、

第三號様式 事故ハ検査員手記スヘキモノトス

買 入 番 號	屠 殺 月 日	事 故 及 檢 査 員 檢 一 印	種 類	頭 數	肉 量
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、





(第三號様式)

明治何年何月

屠場及屠畜業者臺帳

〔冊ニ座別ヲ爲スヘシ〕

何署

屠殺スル獸畜ノ種類	許可年月日	廢止年月日	許可期限	位置	場				
					主	住	居	所	
					生	氏	族	居	所
					年	名	稱	所	所
					月				
					日				

備考

從業者

届出年月日	廢止年月日	住所	居所	氏名	生年月日	備考

〔山口署〕

〔山口署〕

届出年月日	廢止年月日	業務ノ場所	住所居所	族稱氏名	生年月日

從業者

届出年月日	廢止年月日	住所	居所	氏名	生年月日	備考

(第四號様式)

證明書

- 一、畜主ノ住所氏名
  - 二、獸畜ノ種類
  - 三、性及年齢
  - 四、毛色
  - 五、切迫屠殺ヲ必要トスル事由
  - 六、屠殺ノ年月日時及場所
  - 七、死體ノ處置ニ關スル畜主ノ供述
- 右證明ス  
年月日

勤務地

官職 氏

名 印

●屠畜検査手数料ノ件

第四編 衛生 第一章 保健

●屠場設備品設備方

大正二年八月七日  
衛第 二九六七號警察部長指示

其ノ署管内屠場主ニ對シ別表屠場設備品目表ニ依リ至急設備方取計フヘシ  
表中數量ヲ掲記セサルモノハ屠畜ノ種類頭數多寡ニ依リテ限定シ難キヲ以  
テ屠畜検査員ノ意見ヲ徵シ便宜其ノ署ニ於テ最低限度ノ數量ヲ指定スヘシ

屠場所在地署長宛



銀器	懸吊器	丸鉤	肉拭布	解體用刀	肉調理鉤	肉調理臺	肉秤臺	肉臟檢査臺	豚用浴槽	大付釜	柄付櫛	竹器	汚物運搬器	屠夫作業衣
一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個
卷揚用ニシテ各居室ニ設備スヘシ 革製鞘付帶付屬若クハ鎖テ革帶ニ テ懸垂シ得ルモノ	清潔ナル切出木綿	鐵製ノ長鈎	斤量ヲ示スヘシ 脚付キ流シ形内部金屬板張トシ一 隅ニ排水孔アルモノ	屠豚用肉拭用器具洗滌用等ニ用フ ルモノニシテ消毒用ノモノトハ別 ニ設クヘキモノ	汚水ノ滲透セサルモノ	清潔ナル白衣ニシテ大人膝以下迄 (半ズボン着用ノ時ハ膝以上ニテ 差間ナシ)袖ハ肘迄前掛附屬ノコ								

〔山口警〕

給水装置	黑板	靴塗	睡墊	湯沸	石熨
一個	一個	一個	一個	一個	一個
用水汲上ケハ唧筒裝置トシ各居室 内臟取扱室ニ鐵管又ハ竹管ニテ送 水シ得ルノ構造タルヘシ	主體檢査所用	飲料用			

其ノ他箒、火箸、塵拂、炭箱、砥石、火鉢等必要缺クヘカラサルモノ  
ハ之ヲ設備スヘシ

附  
本表ハ設備最少限度ヲ示シタルモノナルモ土地ノ狀況ニ依リ省略支障ナ  
シト認ムルモノアルトキハ豫メ指揮ヲ受ケテ之ヲ省略スルコトヲ得  
豚ヲ屠殺セサル屠場ハ豚用ノモノヲ省略スルコトヲ得  
(別圖省略)

昭和五年十二月十日  
衛第一一三三一號警察部長指示

屠場所在地警長宛

標記ノ件ニ關シ大正二年八月七日付衛第二九六七號ヲ以テ通牒致在ルモ近  
時其ノ整頓區々ニシテ設備ナキモノ尠カラズ如斯ハ檢査ノ正確ト統一ヲ期  
シ難キヲ以テ爾今前記通牒中殊ニ左記物品ハ常ニ設備致シ置ク様屠場經營  
者ト連絡協定ノ上未設ノモノニ付テハ至急備品設備方取計ヲハルヘシ  
追テ數量記載ノモノハ最少限度ニシテ數量記載ナキモノハ各屠場ニヨリ  
一定シ難カルヘキヲ以テ衛生技手ノ意見ヲ徵シ備ヘラルヘシ  
一 生體用檢査器具

〔山口警〕

品目	數量	摘要
體尺計器	一枚	
體察衣	一枚	
聽診器	一枚	
檢溫器	一枚	
打診器	一枚	打診盤付
豚用開口器	一枚	豚ヲ屠殺セサル所ハ不要
顯微鏡	一枚	
酒精燈	一枚	
有柄白金線	一枚	
オベクトグラス	一枚	
アツキグラス	一枚	
ホールオベクトグラス	一枚	
メチレンアラウ	一枚	
フクシン	一枚	
キシロール	一枚	
チエアル油	一枚	
キシロール	一枚	
柄付剪刀	一枚	
コルネット鑷子	一枚	
エオジン	一枚	
シヤーレー	一枚	

〔縣ヨリ配付〕

個數、大キサハ衛生技手  
ノ意見ヲ徵スルコト  
一〇〇〇cc.c

硝子壓肉器	一個	
試驗管	一個	
色素瓶	一個	
ビンセット	一個	
標本瓶	一個	
硝子液量器	一個	
硝子漏斗	一個	
匙	一個	
檢査用肉刀	一個	
剪鉋	一個	
柄付鈎	一個	
消毒盤	一個	
流シ	一個	
普通剪刀	一個	
檢査不合格烙印	一個	
檢査用藥品	一個	
無水酒精	一個	
酒精	一個	
苛性加里	一個	
ヨード	一個	
ヨードカリウム	一個	
ワセリン	一個	

- ゲスチアピオレット
- クロールナトリウム
- 水 醋 酸
- 蒸 餾 水
- 脱 脂 綿
- ガ ー ー
- 五 消 毒 用 器 具 藥 品
- 消 毒 用 釜
- 如 露
- 消 毒 衣
- 消 毒 藥 容 器
- 消 毒 物 容 器
- 柄 杓
- 石 炭 酸
- 鹽 酸
- 昇 汞
- 六 屠 殺 解 體 用 器 具
- 屠 殺 器
- 屠 殺 銃
- 丸 銃
- 肉 拭 布
- バ ケ ッ ツ
- 竹 箒
- 汚 物 運 搬 器

一 三 三 二 反 一 一 一 一 三 一 一 一 一

屠 鏡  
(切出木綿)

〔山口書〕

- 内臓検査臺
- 給水装置
- 燃 料
- 石 鹼
- タ オ ル

● 屠肉ノ檢印ニ關スル件

明治三十九年七月六日  
衛第三七九二號警務長指示

屠場法施行規則第十一條規定ノ檢印ハ屠場法施行規則取扱手續第七條ニ依リ各肉片毎ニ押捺スヘキ處各種ニ應シ少クモ左ノ各部ニ押捺スルコトニ取計フヘシ

- 一、牛、馬(屠肉)ノ頭側、肩、胸内外部  
背、前、中(腎臓ノ部位)後ノ内外部  
前後肢内外後側
- 二、猪ノ頭、肩、胸内外部、前後肢上下内外側  
(内臓)心臓、肺臓、肝臓、胃臓  
背内外部(腎臓ノ部位)、頭、舌  
但横ニシテ剥皮セサル場合ハ捺印スヘキ部分ニ於テ適宜ニ剥皮シ捺印スルコト
- 三、羊、山羊ノ頭、肩、背内外部(腎臓ノ部位)  
腹内外部、前後肢内外外部、頭
- 四、豚ノ頭、肩、背内外部、腹内外部  
前後肢上下内外側、頭

● 屠肉檢印用「インキ」ニ關スル件

明治四十二年九月二十五日  
衛第一一九九一號警務長指示

屠場所在地署長

屠肉檢印用「インキ」ハ左記製法ニ依リテ調製使用スヘシ

屠肉檢印用「インキ」製法

- 一、クエンチアナビオレット
- 一、米醋酸
- 一、酒精
- 右研和溶解スヘシ
- 注意
- 「クエンチアナビオレット」ハ細菌染色用色素ノ如キ純良ノモノヲ撰ハサレハ砒素ヲ含有スルノ恐アリ

〔山口書〕

● 獸畜ノ切迫屠殺ニ關スル件

明治四十三年九月三日  
衛第七九五五號警務長指示

各署長宛

獸畜ニシテ不慮ノ災害ニ因リ負傷シ若ハ救フヘカラサル状態ニ陥リ又ハ難産其ノ他ノ爲メ切迫屠殺ヲ要スル場合ニ於テハ屠場外ニ屠殺放血シテ屠場ニ送り然ル後正當ノ手續ヲ經テ食用ノ目的ヲ以テ販賣シ得ルコトハ屠場法施行規則第三條ノ規定ニ依リ明ナル義ニ候處畜主ニ於テ之ヲ解セサル等ノ爲メ右ノ場合氣息奄々ノ儘屠殺場ニ運搬シ屠殺トシテ處置スルモノ有之哉ノ趣甚不經濟ノ義ニ候條斯ルモノアル場合ニ於テハ相當注意ヲ與ヘ畜主ノ利益ヲ保護スル様取計ハルヘシ

● 切迫屠殺取扱手續ニ關スル件

昭和二年二月十五日  
衛第一二七九號警務長指示

各署長宛

屠場法施行規則第五條ノ届出ニシテ同法施行規則第三條第二號ニ該當スルモノハ實地ニ就キ調査ヲ遂ケ適法ノモノト認メタル時ハ左記様式ノ證明書ヲ交付スヘシ尙屠畜検査員切迫屠殺ニ係ル屠畜ノ解體検査ヲ行フ場合ハ右證明書ヲ精査シタル上解體ヲ認可スル等食肉衛生警察上萬遺策ナキヲ期セラルヘシ

- 一 畜種
- 二 性
- 切迫屠殺
- 屠殺
- 屍體運搬證明書

● 屠畜等取締ニ關スル件

明治四十四年九月十三日  
衛第九二二一號警務長指示

各署長宛

近來縣下ニ於テ癩蟲患者中無釣癩蟲ニ屬スルモノ多數アルヤノ趣屠畜取締上大ニ遺憾トスル所ナリ其ノ由リテ來ルノ原因多々アルヘシト雖モ第一、検査設備ノ不完全ナルコト第二、検査ノ周密ナラサルコト第三、癩蟲寄生肉棄却ノ際監督ノ不行届ナルコト第四、夜間屠殺解體セシムル事アル爲メ充分ナル検査ヲナスコト能ハサルコト第五、斃獸肉取締ノ嚴重ナラサルコト等ニ歸セサル可ラス以上各項ニ該當スル摩アレハ宜シク改善ノ方法ヲ講シ屠畜検査及斃獸ノ取締ヲ勵行シ遺策ナキコトヲ期セラルヘシ

- 三 年齢
- 四 毛色
- 五 前所有者住所氏名
- 六 買受人ノ住所氏名
- 七 切迫屠殺場所
- 八 切迫屠殺月日時
- 九 切迫屠殺ヲ爲シタル事由
- 一〇 解體スル屠場名

右證明ス

年月日

警察官 氏

名

備考  
獸醫ノ診療中ニ係ハルモノハ診断書ヲ添付セシムルコト

### ●自家用屠殺ニ關スル件

靜岡縣照會(大正十一年四月十九日)

獸肉販賣者、旅店、飲食店又ハ料理店ニ非スシテ自家用ノ爲憤、羊、豚ヲ屠殺解體スル場合ニ關シ左記ノ件疑義有之候條何分ノ御指示相成度此段及照會候也

- 一、學校會社又ハ青年會等ノ會合ニ際シ憤羊豚ヲ團體員ニ於テ屠殺解體シ食用ニ供スル場合ハ屠場法施行規則第三條第一號ノ自家用屠殺ト見做シ差支ヘナキヤ
- 二、數名又ハ數十名共同出資シテ憤羊豚ヲ買入レ若クハ飼育シ出資者自家用ノ目的ヲ以テ屠殺解體シ出資額ノ多寡ニ應ジ屠肉ヲ分配食用ニ供スル場合ニ前號同様自家用ト見做シ差支ナキヤ

〔山口書〕

三、會社工場等ニ於テ多數職工ヲ寄宿セシムル場合(寄宿料ヲ徴スルト否トナ間ハス)憤羊豚ヲ屠殺解體食用ニ供スルモ自家用ト見做シ差支ナキヤ

衛生局長回答(大正十一年六月一日)

大正十一年四月十九日衛第二〇〇五五號ヲ以テ御照會ノ件ハ屠場法施行規則第三條第一號ニ規定セル自家用屠殺ト見做スヘキモノニ非スト思料セラレ候條右御承知相成度

### ●屠畜ニ關スル件

昭和五年六月二十日  
衛第五三七九號警察部長指示

屠場所在地署長宛

縣下屠場中ニハ從來ヨリ四大節及其ノ他祝祭日ニ於テ屠畜ヲ爲ス向有之哉ニ及開候處如斯ハ風教上甚ダ好マシカラザル儀ニ付今後ハ已ムテ得ザルモノ(假令切迫屠殺ノ如シ)ヲ除クノ外祝祭日ニハ屠畜ヲ行ハザルコト、致度此ノ旨一般關係者ニ示達シ實行セラルベシ

〔山口書〕

### 第六節 化製營業

#### ●化製營業取締規則

明治三十四年五月三十一日  
山口縣令第六十四號

化製營業取締規則左ノ通定ム

化製營業取締規則

- 第一條 本則ニ於テ化製營業ト稱スルハ獸皮筋骨類ヲ原料ト爲シ脂肪膠肥料等ヲ製造スルヲ謂フ
  - 第二條 化製營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
  - 一 本籍、住所、居所、族稱、氏名、生年月日
  - 二 未成年者、禁治產者、準禁治產者及妻ニアリテハ親權ヲ行フ者、後見人、保佐人又ハ夫ノ連署
  - 三 化製品ノ種類及製造方法
  - 四 化製場ノ建設地及其ノ四隣六十間以内ノ地番字地目段別ヲ記シタル見取圖
  - 五 敷地並建物汚水池汚水溝等ノ配置平面圖
  - 六 場内各建物汚水池汚水溝等ノ構造方法書
  - 七 新設スルモノハ其落成期日
- 第三條 化製場ノ位置及構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
- 一 御陵墓ヲ距ル三丁以上國道縣道並鐵道人家又ハ飲料ニ供スル河川井泉ヲ距ルコト六十間以上
  - 二 周圍ニハ高サ六尺以上ノ見透サル、塙壁ヲ設ケルコト

- 三 場内ニ未化製品置場化製室及器具置場ヲ設ケ其ノ地盤ハ不透透質ノ材料(石煉瓦、セメント、コンクリート、噴漆等ノ類以上同シ)ヲ用ヒ内部ノ壁ハ石煉瓦ニ非サレハ六尺以上ノ腰板ヲ張り白ペンキヲ塗リ(濕潤ノ場所ニ在リテハ適度ノ勾配ヲ付シ)汚水池汚水溝ヲ設ケルコト
  - 四 汚水池汚水溝ハ内部ニ粘薬ヲ施シタル陶器其ノ他不透透質ノ材料ヲ以テ構造シ且完全ナル蓋蓋ヲ設ケルコト
  - 五 籠ヲ使用スルモノハ石又ハ煉瓦ヲ以テ築造シ火焚口ノ蓋ハ鐵板ヲ用ヒ釜ハ厚サ一寸以上ノ板ヲ以テ密閉シ且釜中ヨリ蒸騰スル臭氣ヲ煙突内ニ導ク裝置ヲ爲スコト
  - 六 煙突ハ石煉瓦又ハ鐵管ヲ以テ建設シ其高サハ地盤ヨリ三丈以上ト爲スコト
  - 第四條 毛若ハ皮ノ浸漬補樟類ハ完全ナル密蓋ヲ設ケルコト
  - 第五條 化製場新築又ハ改築工事落成シタルトキハ使用前所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ
  - 第六條 化製場内ニ於テ獸類ヲ解體シ又ハ屠殺スルコトヲ得ス
  - 第七條 化製場内ハ常に清潔ニシ汚水溜ノ汚水ハ時々汲取充溢セシムヘカラス
  - 第八條 正當ノ事由ナクシテ化製場新築工事落成期日ヲ經過シ尙ホ落成セサルトキ又ハ六ヶ月以上休業シタルトキハ許可ノ效ヲ失フモノトス
- 第九條 左ノ場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ
- 一 第二條第一號第二號第三號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ
  - 二 廢業又ハ逃亡死亡シタルトキ
- 前項第二號逃亡死亡シタルトキハ戶主相續人親權ヲ行フ者若ハ後見人保佐人又ハ夫ヨリ届出ヘシ

第十條 化製場ノ構造破損シ又ハ土地ノ變動ニ依リ危險若ハ健康ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ適當ノ裝置ヲ命ジ其ノ使用ヲ禁止ス  
第十一條 化製場ニハ左記様式ノ標札ヲ掲クヘシ  
第十二條 第二條、第四條、第五條、第六條、第七條、第九條、第十一條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本則ハ明治三十四年九月一日ヨリ施行ス

筋骨類 化製場  
住所 居所 持主氏 名

幅 縱 三尺  
八寸

第七節 毒物 劇物

●毒物劇物營業取締規則施行細則

明治四十五年六月二十八日  
山口縣令第三十九號

毒物劇物營業取締規則施行細則左ノ通り定ム

毒物劇物營業取締規則施行細則

第一條 毒物劇物營業取締規則ニ依リ毒物劇物營業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ知事ニ願出ヘシ  
一 住所、族稱、氏名、生年月日  
二 營業所  
三 履歷書

規則(毒物劇物營業取締規則ヲ指ス以下之ニ做フ)第二條第二項ニ依ル營業屆書ニハ前項第一號第二號ヲ具備スヘシ

第二條 規則第三條ニ該當スル者ニシテ前條ノ願出ヲ爲ストキハ同條ニ依ル營業管理人ノ住所氏名及其ノ許可ノ寫ヲ添付スヘシ  
前項ノ營業管理人ヲ變更セムトスルトキ又ハ規則第三條ニ依リ營業管理人ヲ置クノ必要ヲ生シタルトキハ前項ノ事項ヲ具シ知事ニ願出ヘシ

第三條 規則第三條ニ依ル營業管理人タラムトスル者ハ本則第一條第一項第一號及第三號ノ事項ヲ具シ知事ニ願出ヘシ

第四條 營業者又ハ營業管理人ノ許可ヲ與フルニ當リ必要ト認ムルトキハ毒物劇物取扱上ニ關スル試驗ヲ行フコトアルヘシ

第五條 營業者第一條第一項第一號第二號ノ事項ニ、營業管理人同第一項第一號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ十日以内ニ知事ニ願出ヘシ

第六條 廢業シタルトキハ十日以内ニ、縣外ニ移住セムトスルトキハ移住

(山口警)

(山口警)

●毒物劇物營業取締規則施行細則

取扱手續

明治四十五年六月二十八日  
山口縣訓令第二十一號

警察署 (警察分署)

毒物劇物營業取締規則施行細則取扱手續左ノ通定ム

毒物劇物營業取締規則施行細則取扱手續

第一條 施行細則第一條乃至第三條ノ願書ヲ受理シタルトキハ毒物劇物營業取締規則第三條並禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ業務ニ關シ不正行爲ノ有無ヲ調査シ尙ホ履歷書記載ノ事實相違ナキヤ否ヲ調査副申スヘシ

第二條 營業者ニシテ瘋癲、白痴、癲者、盲者トナリ又ハ出願人ニシテ毒物劇物取扱ニ關シ相當ノ智識經驗ナシト認ムルトキハ規則第三條ニ依リ營業管理人ヲ置カシムヘシ

第三條 警察官署ニ於テハ毎月一回以上毒物劇物ノ製造所、貯藏所又ハ販賣所ヲ監査スヘシ

第四條 規則第十四條ニ該當シ其ノ業務禁止又ハ停止ノ必要ヲ認メ若ハ禁

第五條 施行細則第八條ニ該當スルモノアリタルトキハ其ノ狀況ヲ具シ報告スヘシ

第六條 毒物劇物營業取締規則第十三條ニ依ル收去執行ニ關シテハ明治三十八年訓令第十八號第一條乃至第三條ノ規定ヲ準用ス

第七條 警察官署ニ於テハ別紙様式ノ毒物劇物營業者臺帳ヲ備フヘシ  
(用紙半紙)

許可年月日	營業者住所
届出年月日	族稱氏名
許可年月日	生年月日
許可年月日	

前知事ニ届出ヘシ  
第七條 營業者死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ知事ニ届出ヘシ  
第八條 營業者ニシテ六箇月以上所在不明ノ者ハ許可ノ效力ヲ失フ  
前項ノ場合ニ於テハ之ヲ告示ス  
第九條 規則第八條第一項及第四項ノ證書ハ之ヲ他ノ書類ト區別シ月日順ニ依リ編冊スヘシ但シ年別又ハ月別ニ分綴スルコトヲ得  
第十條 規則第十一條ニ依リ卸賣用毒物劇物ノ容器又ハ被包ニ品名外ノ文字又ハ記號ヲ使用セムトスルトキハ豫メ知事ニ届出ヘシ  
第十一條 營業者ハ別記様式ノ標札ヲ營業所店頭ニ掲クヘシ  
第十二條 規則並本則ニ依リ知事ニ差出ス書類ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ  
第十三條 本則第二條第二項第五條乃至第七條第九條乃至第十一條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス  
第十四條 規則第十八條乃至第二十條ハ本則ニ之ヲ準用ス  
附則  
第十五條 本則ハ毒物劇物營業取締規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第十六條 規則附則ニ依ル届書ノ記載事項其ノ他ノ手續ハ第一條及第二條ニ準據スヘシ  
(別記様式) 木製 縦一尺五寸

○毒劇物營業  
住所 氏 名  
寸五幅

備考	年月日	業	管理人住所 族稱氏名 生年月日
	許可年月日	許出年月日	營業者住所 族稱氏名 生年月日
備考	許可年月日	許出年月日	管理人住所 族稱氏名 生年月日
備考	許可年月日	許出年月日	管理人住所 族稱氏名 生年月日

(裏面ハ表面ニ同シ)

### 毒劇物取締方

明治四十五年六月二十八日  
衛第六一八八號警察部長指示

各署長宛

本日毒劇物營業取締規則施行細則並同取扱手續制定發布相成候處規則ニ掲ケタル毒劇物ニ依ル製品ノ主ナルモノハ大略別紙記載ノ通りニ有之ニ依リ相當取締セラルヘク尙本則ニ依リ取締ヲ爲スヘキモノハ藥品ニアラス從テ賣藥ノ原料ニ供スヘカラサルモノニ候處就中鉛化合物中酸化鉛(丹)ノ如キハ往々賣藥ニ配伍スルノ疑アルモ丹ハ賣藥ニ使用スル能ハサルニ付是亦相當取締遺策ナキテ期セラルヘシ

[山口警]

#### (別紙)

- 毒物 園點ヲ付シタルモノハ販賣ヲ許スヘカラサルモノ  
 ○印ノ下ニアルハ別名ナリ  
 ○ノ中ニアルハ用途ナリ
- チアン水素酸、チアンカリウム其他チアン化合物並製劑
- チアン水素酸(化學實驗)○チアンカリ(青酸カリ、藏化加里、鐵業、寫眞、鍛冶、鍍金術、化學實驗、混蟲標本製作)○硫チアンカリ(ローダンカリ、硫藏化加里(染色、化學實驗)○硫チアン化バリウム(硫藏加里土○硫チアンカルチウム(硫青化石灰)○錫泥(フエルロチアン酸錫)○硫チアンアムモニウム(ローダンアムモニ)○硫チアンアルミニウム
- 硫チアン銅(共ニ染色)○チアン水銀(蛇玉原料)
- 磷、硫化磷並其製劑
- 磷(燐)黃磷(燐寸及赤燐製造、化學實驗、奇術、殺鼠劑原料)○硫化磷(燐寸原料)○燐製劑(殺鼠劑例コンモンセンス、ラット、エキスタミナイトル等)
- 可溶性ウラニウム鹽類並ウラニウム含有着色料
- 硝酸ウラニウム(寫眞)○ウラニウム黃(主トシテ炭酸化合物(繪具)
- フルオール水素酸(水晶、硝子印刷、裝飾用硝子製造、化學實驗)
- 砒素其化合物並製劑及砒素含有着色料
- 砒石(礬石又ハ蠟毒石、石見銀山鼠とり(殺鼠劑、蠟とり紙、牛馬鼠とり)○亞砒酸(白砒石(殺鼠劑、蠟とり紙、化學實驗)○雞冠石(雞冠硫黃、二硫化砒素(煙火、劇場煙火、牛馬鼠とり)○石黃(雌黃、三硫化砒素(繪具、牛馬鼠とり)○花綠青(シユロインフルテルグ(ウ)ン、亞砒酸銅(繪具)○シエーレグ(ウ)ン(鹽基性亞砒酸銅(繪具)○砒酸ナトリウム(砒酸曹達(染色))
- 水銀化合物及水銀含有着色料

[山口警]

- 昇汞(鹽化汞、第二クロール汞(寫眞、鐵器着色、乾燥電池、化學實驗)○ヨード朱(猛汞、ヨード化汞、第二ヨード汞(繪具))
- 劇物
- バリウム化合物
- 硝酸バリウム(硝酸重土及クロールバリウム(鹽化重土(煙火、劇場煙火、寫眞、化學實驗)
- 過酸化バリウム(過酸化重土(漂白))
- パラフェニレンナミアミン(漂白)
- オイガトール(パラフェニレンナミアミン其鹽類製劑
- ラフエニレンナミアミン(ヘアアラック(製革、寫眞、染毛劑原料)○パラフェニレンナミアミン製劑(各種染毛劑例(コジロール、ウルメールD、初からず、千代ねれ羽、ねれ羽色高砂、みどりのつゆ、風凰印白毛染、白赤御代のほ万れ、高砂白赤瀟羽鳥)
- 藤黃並其製劑
- 藤黃(繪具)○藤黃製劑(金色假漆(塗料))
- 吐酒石(染色)
- 銅化合物
- 綠青(炭酸銅及醋酸銅(塗料、染色、繪具、顏料(俳優化粧料))○岩綠青及岩紺青(主トシテ炭酸銅ヨリ成ル(用途同上))○硫酸銅(丹禁又膽礬(染色、煙火、劇場煙火、昆布着色、電池用、木材防腐劑、理化學實驗、園藝農作物驅蟲劑例ホルド(氏液))○酸化銅(繪具)○フレイメーグ(リウ)ン(水酸化銅(繪具)○硝酸銅及醋酸銅(染色))
- 硫化炭素(二硫化炭素(米穀保貯、化學實驗、昆蟲標本製作))
- 硫酸(製紙、染色、漂白、銹蝕、竹木細工、消火器用、電池用、理化學實驗、寫眞、奇術、人造肥料、製鐵業、羅紗鑑定其他)

- カリウム(化學實驗)
- 苛性カリ(寫眞、染色、化學實驗、石鹼製造其他)
- 苛性ナトリウム(製紙、染色、漂白、寫眞、木工、石鹼製造其他)
- カドミウム並其化合物
- 鹽化カドミウム(寫眞、染色)○硝酸カドミウム(用途同上)○カドミウム黃(硫化カドミウム(繪具、染料))
- ヨード並其製劑
- ヨード(寫眞、化學實驗、煙火)○ヨード丁(寫眞)○ヨードカリウム液(寫眞)
- 煙草製劑(園藝農作用驅蟲劑)
- ナトリウム(化學實驗、化學製造工業)
- 鉛化合物
- 酸化鉛(丹、鉛丹、光明丹、密陀僧、金密陀、銀密陀(陶器、鍍業、繪具、染色、俳優化粧料、硝子製造)○クロム黃(重クロム酸鉛(染色、繪具、漆器)○クロム赤(クロム酸鉛(染色、繪具)○醋酸鉛(鉛糖、染色、化學實驗)○鉛醋(鹽基性醋酸鉛(染色、寫眞、化學實驗)○硝酸鉛及硫酸鉛(染色)○綠朱(クロム黄ニヤレン)スチ混シタルモノ(繪具))
- クロール酸カリウム並製劑
- クロール酸カリウム(煙火、劇場煙火、燐寸製造、染色、幻燈、化學實驗)○クロール酸カリウム製劑(商磨粉及煉齒磨、クロール酸カリウムヲ混有スルモノアリ)
- クロム酸(寫眞、染色)
- クロム酸カリウム、重クロム酸カリウム並其製劑
- クロム酸カリウム(染色、寫眞)○重クロム酸カリウム(染色、寫



- 眞、木工木材着色料例下駄、假漆(通稱ニス)、化學實驗、電池、建築用煉瓦製造) ○製劑(假漆ニ重クロム酸カリウム製劑アリ)
- クレオソート(木材防腐用)
- アローム(寫眞、化學實驗)
- アローム水素酸(寫眞)
- 鹽酸並其含有物(寫眞、漂白、染色、鐵業細工其他鐵著職用、金屬器具拭清、銻職、金銀細工、時計修繕、化學實驗、便所掃除、消火器用、其他)
- アニリン並其化合物
- アニリン(ア)ニリン油(染色) ○鹽化アニリン、硫酸アニリン及硝酸アニリン等(染色)
- 亞クロール汞並其製劑
- 亞クロール汞(輕粉(牛馬虱とり原料))
- 亞クロール汞製劑(或ル種ノ牛馬虱とり藥)
- 亞鉛鹽類並其製劑
- 亞鉛黃(鹽基性クロム酸亞鉛(染色、繪具) ○クロール亞鉛(人造石製造、乾燥電池) 硫酸亞鉛(乾燥電池))
- アンモニウム水(寫眞、染色、化學實驗)
- 金硫黃(五硫化アンチモン) (ゴム著色、假漆、漆器)
- 金鹽類
- 鹽化金(寫眞) ○クロール金(ア)モニウム(寫眞)
- 鹽化金カリウム(寫眞、鍍金術)
- 銀鹽類
- 硝酸銀(寫眞、鍍金術、瓷器、染毛劑原料、化學實驗) ○クロール銀(ア)モニウム(寫眞、鍍金術)
- メチルアルコホル(木精) (寫眞、假漆製造及稀釋、燃料、燈用、香水製

〔山口書〕

造、染色用色素溶解劑、セルロイド製造、消毒燈用、フォルマリン製造) ○硝酸(寫眞、染色、化學實驗、銻職、金銀細工、古金鑑定、時計修繕、竹木細工、電池、羅紗鑑定、其他)

○亞鉛並其製劑 ○亞鉛黃(鹽基性クロム酸亞鉛(染色、繪具) ○クロール亞鉛(人造石製造、乾燥電池) 硫酸亞鉛(乾燥電池)) ○アンモニウム水(寫眞、染色、化學實驗) ○金硫黃(五硫化アンチモン) (ゴム著色、假漆、漆器) ○金鹽類 ○鹽化金(寫眞) ○クロール金(ア)モニウム(寫眞) ○鹽化金カリウム(寫眞、鍍金術) ○銀鹽類 ○硝酸銀(寫眞、鍍金術、瓷器、染毛劑原料、化學實驗) ○クロール銀(ア)モニウム(寫眞、鍍金術) ○メチルアルコホル(木精) (寫眞、假漆製造及稀釋、燃料、燈用、香水製

### ●毛染劑取締ニ關スル件

明治四十三年十二月十九日  
衛第一二二七號警察部長指示

近時毛染劑ヲ使用スルノ風老幼男女ヲ間ハス盛ニ流行シ所謂白髮染或ハ赤毛染ト稱シ切間ニ販賣セルモノ其種類甚々多シ而シテ之等毛染劑中ニハ往々有害物質ヲ含有シ之カ爲メ害毒ヲ蒙リシ者尠ナカラス頃者内務省衛生局

〔山口書〕

ニ於テ市中販賣毛染劑中目下最モ多ク流行セルモノ十六種ニ就キ試驗ノ結果多クハ衛生上有害ニシテ毛染劑トシテ使用スヘカラサル物質ヲ含有セルコトヲ發見ス其種類製造元及主要成分有害ノ概要左ノ通ニ有之候條需用者ニ在テ不識不知ノ間ニ之等ノ害毒ヲ蒙ルモノナキ様警告ヲ與フル等相當取

試驗成績表

試驗番號	名	稱	製造元及販賣人	主要成分
第一	初	がら毒	大阪市東區伏見町一丁目 免許製造人 藥劑師 發賣人 長尾 徳藏 日ノ出商會	(甲) パラフェニレンジアミン (乙) 過酸化水素
第二	千代	ぬれ羽	同 日本橋區通鹽町一番地 服部重右衛門	パラフェニレンジアミン
第三	千代	ぬれ羽	同 日本橋區通鹽町一番地 服部重右衛門	パラフェニレンジアミン
第四	千代	ぬれ羽	同 日本橋區通鹽町一番地 服部重右衛門	パラフェニレンジアミン
第五	ヘヤ	アラツク	大阪市西區新町通 泰山堂 伊藤 泰助	パラフェニレンジアミン
第六	安全	えららが染不變漆黒 染毛液やたがらす印	同 神田區富山町 發賣元 三 共 堂 製造元 奥野 源藏	(甲) 硝酸銀 (乙) 黃色硫化ア)モニウム 炭酸鉛或ハ酸化鉛 苛性ナトリウム或ハ水酸化石灰硫黃ノ少許
第七	不	明	同 神田區富山町 發賣元 三 共 堂 製造元 奥野 源藏	パラフェニレンジアミン
第八	美	々々	同 神田區佐柄木町 發賣元 三 共 堂 製造元 奥野 源藏	パラフェニレンジアミン
第九	圓形	鳳凰印 毛 染	同 日本橋區通三丁目 大阪屋 川上 藤兵衛	パラフェニレンジアミン

第拾號	うむたま	同	神田區維子町三十四番地	矢田 猪平	炭酸鉛或ハ酸化鉛、苛性ナトリウム或ハ水酸化石灰
第拾壹號	山崎林平鑑製 改良白毛染	同	神田區花房町 特約店 山崎帝國堂	炭酸鉛或ハ酸化鉛、苛性ナトリウム或ハ水酸化石灰硫黄ノ少許	
第拾貳號	輕便白毛赤毛染液 安全	同	京橋區本材木町三丁目四番地 岡田 まつ	(甲) 硫化カリウム (乙) アンモニウム性硝酸銀液	
第拾參號	あらが赤毛染 新ぬれ烏液	同	京橋區越前堀一丁目四番地 樂天堂藥房	(甲) 硫化カリウム (乙) 醋酸鉛	
第拾肆號	白髮染粉	同	神田區塗師町七番地 關 孫四	單寧酸、銅及鐵化合物炭酸カリウム	
第拾伍號	白髮赤毛染 御代保萬禮	同	下谷區竹町一番地 薔薇園 鈴木 大吉	パラフェニレンジアミン	
第拾陸號	高砂印あらが及赤毛染 濡羽	同	淺草區山谷町十八番地 渡邊 晴吉	パラフェニレンジアミン	

右成績表ニ就キ主要成分ニ依リテ類別スレハ(1)「パラフェニレンジアミン」ヲ主要成分トセルモノ九種(2)苛性石灰及鉛ヲ主要成分トセルモノ三種(3)硝酸銀及硫化物ヲ主要成分トセルモノ二種其他二種ニシテ尙ホ染色毛髮強弱試驗ノ成績ニ依レハ

(イ) 第一號乃至第六號ノ六種毛髮劑ヲ以テ染色シタル毛髮ハ毛質ニシテ弱ク殊ニ硝酸銀及硫化「アンモニウム」ヲ主要成分トセル第六號毛髮劑ハ最モ著シク毛質ヲ纖弱ナラシメ又千代ぬれ羽ヲ以テ染色シタル毛髮ハ重量ヲ支持スル力及撻リニ對スル力小ナルコト明カナリ

(ロ) 苛性石灰及鉛ヲ以テ主要成分トセルモノヲ以テ染色シタル毛髮ハ最モ纖弱トナリ毛質著シク損傷セラルルコト疑ナシ

(ハ) パラフェニレンジアミン 溶液ヲ毛髮羽毛等ニ塗布スルトキハ其組織中ニ進入シ大氣ニ觸レテ漸次酸化シ細胞中ニ黑色々素ヲ固定シ殊ニ洗濯並

〔山口書〕

〔山口書〕

一 塊國維納婦人科醫「ドクトル」エミールボラックノ報告ニ依レハ一婦人ハ毛髮ヲ染色セントテ毛髮劑「フェニックス」ヲ使用セシニ頸部、額及頸背ノ毛髮ヲ生スル部分炎症及痒感ヲ覺ヘ遂ニ頸背ノ皮膚剝脱セリ

一 東京市京橋區桶町山根八重ノ母某ハ毛髮劑ノ千代ぬれ羽ヲ二回使用セシニ髮狀ナク更ニ三ヶ月ヲ經テ三回目ニ同劑ヲ塗布セシニ暫時一シテ頸部ニ劇シク炎性水腫ヲ發シ痒感及燒クカ如キ感ヲ覺ヘ耳、眼險ヨリ額面全部腫脹シ頸部ニ濕疹ヲ生シ今尙ホ治セズ

同市深川區靈岸町米岡某女モ千代ぬれ羽ヲ使用シテ前同様ノ疾患ニ罹レリ亦タ同區同町相川紋藏ノ妻某同町吉仲久二同市日本橋區濱町尾上榮三郎雇人松本イロ同市下谷區中初音町上田ウメ同市淺草區兩國吉川町附近藝妓小豊ノ母某同市神田區橋本町西村傳三郎ノ妻某ハ何レモ毛髮劑ヲ使用シテ其害毒ニ侵サレタル例證アリ

●毒物はいとり紙ニ關スル件

大正五年七月十八日 衛第五七四〇號警察部長指示

醫藥用外毒物はいとり紙ヲ縣下ニ於テ請賣スルモノ往々有之候處右ハ毒物劇物營業取締規則第八條ニ依リ業務上必要アリト認ムル者ニ非サレハ販賣譲與スルヲ得サル義ニ有之而シテ其業務ハ種々アルヘキモ要スルニ蠲ノ驅除ヲ目的トスルニアルヲ以テ蠲ノ發生群集ヲ招クヘキ特種ノ業務即チ飲食店ノ如キハ其一例ニシテ一般家食用トシテハ販賣授與シ得サル義ニ付違反無之様注意取締セラルヘシ

●毒物劇物營業取締ニ關スル件

第四編 衛生 第一章 保健

ニ摩擦等ニ對シ堅牢ナル色素ヲ形成スルノ特性アリ之カ爲メ外國ニ於テモ毛皮羽毛等ヲ染色スルニ當リ盛ニ之ヲ實用セリ此染色法ハ其方法ノ簡單ニシテ效果確實ナレトモ一面ニ於テ恐ルヘキ危害ヲ及スモノニシテ時々甚シキ災害ヲ醸スコトアリ即チ此物質ノ溶液ハ之ト直接ニ接觸セル皮膚ヲ刺激シ濕疹ヲ生セシメ甚シキニ至テハ喘息性疾患胃障害及眼ノ炎症ヲ併發ス

毛髮劑ヲ使用シテ其害毒ヲ蒙リシモノ鈔ナカラス茲ニ其二三ノ實例ヲ舉ケン

一 伯林大學醫學教室助手「グアツペ」ノ報告ニ依レハ一婦人千八百九十五年七月「シユルニア」ト稱スル毛髮劑ヲ其頂髮ニ塗布シ忽チニシテ頸部及頸部ニ痒感ヲ覺ヘ後チ十月十二月ノ兩度使用セシニ發疹シ額面全部劇シク腫脹セリ

大阪府知事照會(明治四十五年五月二十二日)

燐又ハ「スルフオナール」ヲ含有スル殺鼠用製劑「パラフェニレンジアミン」又ハ硝酸銀ヲ含有スル染毛用製劑ハ本年五月内務省令第七號ヲ以テ家事上必要ナル毒劇物中ニ指定セラレ候處燐製劑ニ付テハ明治十年三月貴省達乙第三十六號通達「パラフェニレンジアミン」ニ付テハ明治四十三年十一月衛第八四四號通達ノ次第モ有之右營業者發賣出願許否ニ付キ聊カ疑義相生シ候間至急何分ノ御回答相煩度此段及照會候也

内務省衛生局長回答(明治四十五年六月二十九日)

家事用毒劇物發賣出願ノモノ取扱方ノ義ニ付本月二十二日付衛第九七三號ヲ以テ御照會ノ處右ハ毒劇物營業者ニ限リ規則ニ依リ毒劇物トシテ發賣シ得ルニ留リ單ニ殺鼠劑又ハ染毛劑トシテ廣ク販賣セシムベキ性質ノモノニ無之候條右様御了知相成度此段及回答候也

追テ「スルフオナール」及硝酸銀ヲ含有スル製劑ハ家事用必要ナル毒劇物ヨリ剔除ノ見込ニ有之候條此段申添候

青森縣知事照會(大正五年十月四日)

近時農事ノ改善ニ伴ヒ縣下各町村農會ニ於テ農作物病蟲害驅除並ニ豫防用ニ農會名ヲ以テ多量ノ毒物劇物ヲ營業者ヨリ購入シ會員タル個人ニ實費配布シテ使用セシメ居リ候ニ付調査スルニ農會ノ事業トシテ會員ヨリ申込テ徵シ取讓メ農會ニ於テ購入夫々配布致シ使用セシメアル狀態ニ有之候然ルニ時ニ配布前多量ノ藥品ヲ農會事務所ニ一時貯藏シ又ハ配布殘品ヲ貯藏スル場合モアリ或ハ多量ノ藥品ヲ一時購入シテ貯藏シ會員ノ申込ニ依リ少量 配布使用セシムル場合モ有之シカ何等ノ場所ヤ方法等ニ注意セサル爲メ頗ル危險ナル狀態ニ貯藏シアリテ之ヲ放任センカ時ニ或ハ危險ヲ生セ

ストモ難保愛慮ニ耐ヘサル次第ナルモ該行爲ハ營業ニ非ラサルヲ以テ毒物劇物營業取締規則ニ依リ取締ヲ受クヘキモノニ無之標被考候ニ付以上事實ニ對シ一應貴局ノ御意見相仰度此段及稟議候也

衛生局長回答(大正十五年十二月四日) 衛生第一三九九號 本件ニ關シ十月四日付ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御意見通りト存候モ危險防止ニ關シテハ相當ノ方法ヲ講ゼシムル様致度 和歌山縣知事照會(大正七年一月二十二日) 毒劇物營業者カ重格魯酸加里液ニ硫酸ヲ加ヘタルモノヲ點燈及呼鈴ニ使用スル電池用トシテ製造販賣方差支ナキヤノ伺出ヲ爲スモノ有之右ハ職業上必要ナルモノト廣義ニ解釋シテ普通民家ニ販賣セシメ差支ナキ様思料候モ一應貴局ノ御意見承知致シ度此段及照會候也 衛生局長回答(大正七年二月二十六日) 和第一三三號 本件ニ關シ客月二十二日付第五三五號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御見込ノ通職業上必要ナルモノト認メ販賣セシメ差支無之ト被存候

### 第八節 墓地 埋火葬

明治十八年五月二十八日 達甲第五十一號

改正 明治十九年七月甲第八八號、二〇年九月縣令第一〇七號、二一年一月第八四號、二四年九月第四八號、二五年五月第三九號、四二年三月第一八號、大正元年一月第一三號、二年六月第四〇號、四年一月第三八號

墓地及埋葬取締規則別冊之通相定ム 但此規則ニ抵觸スル從前ノ布達達指令等ハ總テ取消ス 右布達候事

#### 墓地及埋葬取締規則

- 第一條 墓地火葬場ノ設置管理及埋火葬ハ本則ニ依ルヘシ
- 墓地火葬場ニシテ衛生上又ハ公安上必要ト認ムルトキハ移轉改造又ハ廢止ヲ命ジ若ハ埋火葬ヲ禁スルコトアルヘシ
- 第二條 市町村ニ於テ墓地、火葬場ヲ取擴メ又ハ新設セムトスルトキハ別紙第一號様式ニ依リ圖面ニ通テ添付シ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ但シ火葬場ニ限リ個人ニ對シ許可スルコトアルヘシ
- 墓地、火葬場ヲ廢止セムトスルトキハ別紙第二號様式ニ依リ圖面ニ通テ墓地ニ在リテハ墳墓ナキコトヲ證スヘキ書類ヲ添付シ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 本條ニ係ル願書ハ郡役所ヲ經由スヘシ但個人ノ出願ニ係ルモノハ市又ハ町村ヲ經由スヘシ
- 第三條 前條圖面ハハ現地並ニ比隣ノ景況ヲ形ハシ人家又ハ人民輻輳地ノ距離等ヲ詳記スヘシ

〔山口書〕

〔山口書〕

- 第四條 墓地ヲ新設スルトキハ國道縣道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡六十間以上ニシテ土地ノ高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ選フヘシ
- 第五條 火葬場ヲ新設スルトキハ人家及ヒ人民輻輳ノ地ヲ距ル凡百二十間以上ニシテ道路ヲ距テ風上ニ位セサル地ヲ撰フヘシ
- 第五條ノ二 土地ノ狀況ニ依リ前二條ノ規定ニ適合セサル場合ト雖許可スルコトアルヘシ
- 第六條 墓地火葬場共成ル可ク山林原野荷蕪地ヲ撰ヒ其官有地ニ係ルモノハ別ニ拂下テ願出ヘシ
- 第七條 墓地火葬場ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村内又ハ寄港船中ニ於テ死亡シタル者ハ何人ニテモ之ニ埋火葬スルコトヲ得但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スヘシ
- 第八條 墓地ノ周圍(墓地ト墓地ニ非サル地トノ境界ヲ云フ)ハ樹木ヲ栽ウヘシ墓地内ニハ一丈以上ノ樹木塙塙ヲ存スヘカラス但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニ在ラス
- 第九條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス若シ之ヲ怠リタルトキハ管理者其實ニ任スヘシ
- 第十條 火葬場ハ火爐煙筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塙塙ヲ設クヘシ但山林原野等ニシテ人家隔絶ノ場所ハ格別ナリトス
- 第十一條 墓地火葬場ハ埋火葬ノ外他用ニ充ツルコトヲ許サス
- 第十二條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニ依リ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルトキハ格別ナリトス
- 第十三條 火葬ハ日没後日出前ノヲ行フヘシ若シ止ムヲ得サル事情アリテ之ニ據リ難キトキハ所轄警察署又ハ警察分署ノ認可ヲ受クヘシ

- 第十四條 火葬場ニハ遺骨ヲ埋ムヘカラス
- 第十五條 墓地火葬場ニハ管理者ヲ置キ其氏名ヲ所轄警察署又ハ分署長及ヒ戸長役場ヘ届ケ置クヘシ但其管理者ハ其區域内ニ於テ適宜選定スルモノトス
- 第十六條 誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セル碑表ヲ建設セント欲スル者ハ豫メ其碑文ヲ添ヘ戸長ノ奥印ヲ得所轄警察署警察分署(管轄内ハ其警察分署ヲ經)ヘ願出ヘシ但死者ノ姓名族籍官位勳爵諡號及生死ノ年月日建立者ノ氏名ヲ記スルニ止ル墓標ハ此限ニアラス
- 第十七條 管理者ハ勿論何人タリトモ所轄警察署又ハ警察分署ノ認可ヲ得ルニ非サレハ他人ノ墓標若クハ墓石其他墳墓ヲ構造セル木石等ヲ取除クヘシ之ヲ變更スルヲ許サス
- 第十八條 變死ニ係ル死屍ハ二十四時間以内ト雖モ檢視官ノ許可ヲ受ケルニ於テハ埋火葬スルコトヲ得
- 第十九條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ左項ニ從ヒ戸長ノ認許證ヲ請フヘシ但改葬セント欲スル者ハ其事由ヲ詳記シ戸長衛生委員ノ奥印ヲ得所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 一 病死シタル者ハ主治醫ノ死亡届ヲ以テ戸長役場ヘ差出シ認許證ヲ請フヘシ
- 二 醫師ノ治療ヲ受ケルノ猶豫ナクシテ死亡シタル者ハ醫師ノ檢案書ヲ差出スヘシ
- 三 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ル者ハ醫師若クハ產婆ノ死産證ヲ差出スヘシ
- 四 變死ニ係ルモノハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ請ヒ差出スヘシ

五 囚徒ノ死屍ヲ引取り埋火葬ハ火葬セントスル者ハ獄醫ノ死亡證書寫  
ニ司獄官ノ檢印ヲ請ヒ差出スヘシ

第二十條 埋火葬認許證及ヒ改葬許可證ハ葬主ヨリ之ヲ墓地又ハ火葬場ノ  
管理者ニ交付スヘシ但火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルトキハ其墓地ノ管理者ニ通  
報スヘシ若シ傳染病死屍ニシテ檢疫官ノ指示ニ依リ火化シタル遺骨ヲ埋  
葬スルトキハ該通報書ニ戸長ノ認印ヲ受ケヘシ

第二十一條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル戸長ノ認許證ヲ一年間保存シ警  
察官吏ノ求アルトキハ之ヲ提示スヘシ

第二十二條 管理者ハ墓地火葬場ノ繪圖及ヒ墓籍ヲ調製シ所轄警察署又ハ  
分署ノ檢印ヲ受ケ置クヘシ

第二十三條 管理者ハ時時墓地内ヲ巡閱シ取締上異變アルトキハ直ニ所轄  
警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第二十四條 此細則第十條、第十一條、第十二條、第十三條、第十四條、  
第十六條、第十七條ニ違背シタル者ハ二日以上五以下ノ拘留ニ處シ又  
ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 傳染病死屍ノ埋火葬其他別段ノ規則アルモノハ凡テ其規則ニ  
依ルヘシ

(第一號書式)

墓地設置(取擴)願

火葬場 位置

一 何郡區何町村何番字地種目段別地價一筆ノ内其幾分ヲ裂  
(キ設クルモノハ元段別ヲ附書ニ爲シ其内譯ニ記載ス可シ)

何郡區何町村族籍

名

[山口警]

一 共葬區域ノ郡町村名

何郡何町

何郡何村

右何々ノ事情有之候就テハ前記ノ通墓地(火葬場)設置(取擴)仕度候間御  
差支無之候ハハ御許可被成下度別紙繪圖面相添此段奉願上候也

年 月 日

何郡(區)何町(村)何番屋敷居住族籍

設置願人總代 氏

同 氏

地主 氏

名印

山口縣令氏名殿

前書ノ通願出候ニ付取調候處事實相違無之仍テ奥印候也

年 月 日

何町村戸長 氏

何町村衛生委員 氏

名印

名印

(戸長衛生委員ニ於テ意見アルトキハ其事由ヲ副申スヘシ)

地主ノ連署ヲ得難キ場合ニ於テハ之ヲ省略シ其ノ理由ヲ記載スルモ妨  
ナシ

(第二號書式)

墓地(火葬場)廢止願

郡(市)町(村)大字番地

[山口警]

一 墓地(火葬場)段別何段何畝歩  
新設(取擴)許可年月日

郡(市)町(村)大字番地

地主 何

某

那(市)町(村)大字番地

墓地(火葬場)段別何段何畝歩ノ内

一 墓地(火葬場)段別何段何畝歩  
新設(取擴)許可年月日

郡(市)町(村)大字番地

地主 何

某

右何々ノ事由有之候ニ付前記一書ノ墓地(火葬場)廢止仕度候間御許可  
被成下度別紙繪圖面ニ通並何々(又ハ警察官署ノ墳墓全部改葬濟證明書)相  
添此段相願候也

年 月 日

郡市町村長 氏

又ハ郡市町村番地 氏

郡市町村番地 地主 氏

名印

名印

知事宛

墓地及埋火葬取縮手續

明治十八年五月二十八日

達乙第五八號

明治三十九年訓令第四二八號、大正三年二月第四四號

墓地及埋火葬取縮手續ノ通相定候條此旨相達候事

第四編 衛生 第一章 保健

第一條 郡區役所ニ於テ墓地火葬場ノ新設又ハ取擴ノ願書ヲ受ケタルトキ  
ハ其事情ヲ取調止テ得サルモノハ其旨所轄警察署又ハ分署ヘ通牒シ警察  
官郡區吏戸長衛生委員立會實地ヲ檢シ衛生上並ニ將來障害ノ有無及位置  
ノ適否等詳細取調其見込書ヲ付シ之ヲ縣廳ヘ進達スヘシ

第二條 墓地火葬場新設又ハ取擴ヲ許可シタルトキハ郡區役所ヨリ其地名  
段別共葬ノ町村名等ヲ記シ之ヲ所轄警察署又ハ分署ヘ通牒スヘシ

第三條 從來許可シタル墓地火葬場ト雖モ郡區長ニ於テ公衆衛生上害アリ  
ト認ムルモノアルトキハ其旨縣令ヘ具申スヘシ

第四條 戸長ニ於テ細則第二十條ノ届出ヲ領收シ不都合ナキモノト認ムル  
トキハ別紙書式ニ依リ埋火葬認許證ヲ付與ス可シ

第五條 戸長ニ於テ行旅死亡人漂著死屍ヲ假埋葬セシムルトキハ別紙書式  
ニ依リ假埋葬證ヲ發シ管理者ニ交付スヘシ

第六條 變死者ノ内果シテ蘇生ノ見込無之者ハ死後二十四時間以内ト雖モ  
時宜ニヨリ檢視官ニ於テ埋火葬ヲ許可スルモ苦シカラス

第七條 警察署又ハ分署ニ於テ改葬願書ヲ受ケタルトキハ其事情ヲ取調止  
テ得サルモノハ之ヲ許可ス可シ但傳染病豫防規則ニ掲グルモノハ其規則  
ニヨル可シ

第八條 警察官署ニ於テ碑表建設願ヲ受ケタルトキハ公安風俗上其ノ他支  
障ノ有無ヲ調査シ一件書類ヲ添ヘ許否ニ關スル意見ヲ具シ警察部長ニ稟  
議スヘシ

第九條 警察署又ハ分署ニ於テ墓標其他取除ケ若クハ變更願ヲ受ケタルト  
キハ其事情ヲ取調不都合ナキモノハ之ヲ認許スヘシ

第十條 警察署又ハ分署ニ於テハ墓地火葬場ノ臺帳ヲ製シ置キ之ニ其地名  
段別共葬ノ町村名(細則第八條ニ掲グル特設ノ墓地ハ其所有者ノ氏名)及  
ヒ管理者ノ氏名ヲ登記ス可シ

第十一條 警察署又ハ分署ニ於テハ臨時巡查ヲ派遣シ墓地火葬場ヲ視察セシム可シ

(埋火葬認許證書式)

何縣何國何郡區何町村族籍  
身分

氏名

明治何年何月何日午前(後)何時病死(變死)  
右埋(火)葬認許候事

何町村  
戸長 氏 名印

(行旅死亡人其他假埋葬書式)

何府縣何國何郡區何町村族籍  
身分

氏名

明治何年何月何日午前(後)何時斃死(若クハ漂著死屍)  
(住所不詳ノモノハ(原)籍不詳ト記スヘシ)

氏名不詳ナレハ只(男)(女)ト記スヘシ

右假埋葬候事

何町村

戸長 氏 名印

### 墓地及埋葬取締規則違背者處分

(山口書)

明治十七年(十月)太政官第二十五號布達墓地及埋葬取締規則第三條第四條第五條第六條第七條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

●人家建設ノ際墓地火葬場ヲ距ルヘキ間數ノ件  
明治十九年八月二十七日  
山口縣令第八號

自今墓地ヲ距ル六十間以内火葬場ヲ距ル百二十間以内ニ於テ新人家ヲ建設スルヲ禁ス  
但止テ得サル事情アリテ此ヲ建設セントスルトキハ其事情ヲ具シ豫メ願出許可ヲ受クヘシ

●墓地新規設置又ハ取擴メ出願ノ件  
明治二十一年十月二十七日  
山口縣令第八十三號

改正 明治二十四年四月縣令第二一號

墓地取締規則ニ據リ墓地整理候ニ就テハ明治二十年六月以後ニ於テ許可シタル墓地ノ外總テ明治二十二年六月三十日限リ埋葬ヲ禁ス故ニ明治二十年六月以後免許ノ墓地ナキ町村ニシテ新規設置ヲ要スルモノ又ハ從前許可ノ墓地ヲ取擴メ若クハ繼續使用セントスルモノハ明治二十二年五月三十一日迄ニ願出可シ總テ墓地整理方ノ儀ニ付テハ所轄郡區役所及警察署又ハ分署ノ指圖ヲ受ク可シ但火葬ノ遺骨ハ舊來町村共用ノ墓地ニ限リ埋葬スルコトヲ得其箇所ハ町村長ニ於テ豫メ之ヲ定メ當廳ヘ届出可シ

### 火葬遺骨埋葬ノ件ニ付請訓

(山口書)

赤間關署長請訓(明治二十九年八月二十一日)  
赤第五四〇號

火葬ノ遺骨埋葬方ニ付テハ明治二十四年四月縣令第二十一號ヲ以テ同二十一年十月縣令第八十三號但書改正相成タルニ依リ舊來町村共用ノ墓地ニ就キ町村長ヨリ豫メ届出ツヘキ管ニ候處當市内ニハ舊來ノ墓地内ヘ一ツノ小塔ヲ造リ火葬ノ遺骨ヲ納ムル壺ヲ供ヘ若クハ先祖代々ノ墓ト稱スル墓碑ヲ建テ其碑下ニ數人ノ遺骨ヲ納ムルモノアリ右等モ勿論該縣令ノ旨趣ニ基キ豫メ市町村長ヨリ届出タル墓地ニ限ルモノト相考候得共普通一般ノ遺骨ヲ埋葬スルモノトハ聊カ趣キテ異ニシ別ニ墓碑ヲ增加スルモノニアラサルハ該縣令ヲ適用セザルモ可然哉此段及請訓候也

警部長訓示(明治二十九年八月三十一日)  
赤第五四九號

本月二十一日付赤第五四〇號請訓ノ件ハ該縣令ニ依ルヘキ義ト心得ヘシ右訓示ス

### 舊墓地外埋葬禁止ニ關スル伺ノ件

赤間關署署長伺(明治二十九年九月三日)  
赤第六二〇號

明治二十一年十月縣令第八十三號ヲ以テ明治二十年六月以後ニ於テ許可シタル墓地ノ外明治二十二年六月三十日限リ埋葬ヲ禁セラレタル處右埋葬ト稱スルハ舊墓地(舊墓地ト稱スルハ明治二十年六月以前ニ設置セシ墓地ヲ云フ)ヲ發掘シテ舊墓地ニ改葬スルモノモ包含スルハ去ル明治二十四年縣令第二十一號ヲ以テ同縣令但書改正セラレ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スル墓地ヲ制限セラレタル旨趣ニヨルモ明カナル様思料セラル、モ聊カ疑義ヲ生シ候

### ノ件

明治二十二年十二月十二日  
山口縣令第八十號

### 人家建設ノ際墓地火葬場ヲ距ルヘキ間數ノ件

明治十九年八月二十七日  
山口縣令第八號

自今墓地ヲ距ル六十間以内火葬場ヲ距ル百二十間以内ニ於テ新人家ヲ建設スルヲ禁ス  
但止テ得サル事情アリテ此ヲ建設セントスルトキハ其事情ヲ具シ豫メ願出許可ヲ受クヘシ

### 墓地新規設置又ハ取擴メ出願ノ件

明治二十一年十月二十七日  
山口縣令第八十三號

改正 明治二十四年四月縣令第二一號

墓地取締規則ニ據リ墓地整理候ニ就テハ明治二十年六月以後ニ於テ許可シタル墓地ノ外總テ明治二十二年六月三十日限リ埋葬ヲ禁ス故ニ明治二十年六月以後免許ノ墓地ナキ町村ニシテ新規設置ヲ要スルモノ又ハ從前許可ノ墓地ヲ取擴メ若クハ繼續使用セントスルモノハ明治二十二年五月三十一日迄ニ願出可シ總テ墓地整理方ノ儀ニ付テハ所轄郡區役所及警察署又ハ分署ノ指圖ヲ受ク可シ但火葬ノ遺骨ハ舊來町村共用ノ墓地ニ限リ埋葬スルコトヲ得其箇所ハ町村長ニ於テ豫メ之ヲ定メ當廳ヘ届出可シ

### 刑死者祭祀執行出願及碑表建設出願ニ關スル件

明治二十四年八月  
示警第四七號

本年內務省令第十一號第二條ニ依リ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行ハンコトヲ願出タルトキ及ヒ明治十八年縣令第五十一號第十六條ニ依リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セル碑表ヲ建設セント願出タルトキハ祭祀ニ在テハ刑死者ノ罪狀ヲ具シ碑表ニ在テハ其碑文ヲ添ヘ許否ノ旨報告スヘシ其許否決シ難キモノハ稟議ヲ經ヘシ

### 墓地及埋葬取締細則ニ依リ村長願届ニ關スル件

明治二十五年六月  
三丁第七七六號

明治十八年本縣甲第五十一號達墓地及埋葬取締細則第二條本文ノ場合ニ際シテハ是迄設置願人ハ墓地管理者等ヨリ出願來候處右等市町村公共事業ニ關スル願届ヲ爲ス事ニ就テハ明治二十二年十二月七日日本縣訓令第七十八號ノ趣モ有之候條既ニ受理ノ書面ハ其儘何分詮議可相成都合ニ候得共今後出願ノモノハ右訓令ノ旨ニ依リ町村長ヨリ出願可致様御取計相成度此段及通牒候也

### ●墓地及埋葬取締細則ニ依り市ハ市長願届ノ件

明治二十五年六月 三丁第七六號

明治十八年本縣甲第五十一號墓地及埋葬取締細則第二條本文ノ場合ニ際シテハ是迄設置願人總代或ハ墓地管理者等ヨリ出願來候處市制施行ノ後ハ右等市ノ共同事業ニ屬スルモノハ總テ市ノ代表者ニ於テナスヘキ管ニ候條今後ハ貴所ヨリ出願相成度此段及通牒候也

### ●舊墓地へ配遇者合葬許可ノ件

明治二十七年三月六日 山口縣令第九號

明治二十一年十月縣令第八十三號ヲ以テ舊墓地へ埋葬ヲ禁シ置候處夫婦ノ間一方骨ヲ死亡シ之ヲ埋葬シタル墓所へ其配遇者ヲ合葬スルモノニ限リ之ヲ許可ス

### ●舊墓地へ配遇者合葬ニ付出願不

要ノ件

明治二十七年三月二十六日 示警乙第二二號警部長訓示

今般縣令第九號ヲ以テ夫婦ノ間一方骨ヲ死亡シ之ヲ舊墓地ニ埋葬シタル墓所へ其配遇者ヲ合葬スルモノニ限リ被相許候處右ニ付疑義ヲ懷キ或ハ實地埋葬スル場合ニ於テハ尙ホ葬主等ヨリ出願ヲ要スル哉ノ旨村長等ヨリ伺出候向有之候得共右ハ別段出願ヲ要セス唯舊墓地及埋葬取締細則第十九條ニ依リ市町村長へ對シ認許證ヲ請フモノアルトキハ充分之ヲ調査シ不都合無キモノハ認許證ヲ與フ可キモノト承知セラル可シ 右訓示ス

### ●從軍死亡者葬儀取締ノ件

明治二十八年四月八日 秘訓警第一號

近來日清戰爭從軍死亡者ノ爲メニ神社ニ於テ葬儀ヲ執行シ其遺骨ヲ埋メ又ハ墓碑ノ建設等ヲ爲サントスルモノ他府縣ニ於テハ有之哉ノ趣ニ候處右死亡者ノ忠魂ヲ弔慰シ其節義ヲ表彰スルハ國民ノ至情トシテ實ニ嘉賞スヘキ事ニ候ヘ共國家ノ神明ヲ祭祀スル神社ニ於テ上掲ノ所爲ヲ爲サントスルハ神明ニ對シ憚ルヘキ義ニ有之候且又神職ニシテ神社ニ於テ私ニ右等ノ所爲ヲ爲スモノアルトキハ相當ノ處分モ致サル、チ得サル義ニ候條職メ注意ヲ加ヘ右等心得違ヒノ者無之様嚴重取締方致サルヘシ 右內訓ス

### ●日清戰役ニ關シ碑表建設出願ノ件

明治二十八年十月 衛第五一三號警部長通牒

明治二十七年八月ノ役ニ關シ碑表(記念碑ノ如キ)ノ建設ヲ願出タルトキハ公安上障害有無ノ意見ヲ具シ蒙額碑文寫等ヲ添ヘ警部長へ稟議ノ上許否ノ御處分相成度此段豫メ及申牒候也

### ●墓地火葬場取締ニ關スル件

明治三十五年三月十一日 山口縣訓令衛第二號

近來墳墓ヲ發掘シテ人骨ヲ採拾シ若ハ遺棄セラレタル人骨ヲ蒐集シテ製藥

〔山口警〕

者又ハ賣藥商等ニ販賣スル者有之趣右ハ容易ナラサル事體ニ付將來墓地及火葬場管理者ノ監督ヲ嚴重ニスヘキハ勿論當ニ墓地火葬場ノ取締ヲ周密ニシ若シ違法ノ者アルトキハ假借ナク處分スヘシ 右訓令ス

明治三十八年十月二日 衛第二九一三號第四部長指示

過般福岡縣門司市所在火葬場ニ於テ屍體燒却ノ依頼ヲ受ケ火葬ヲ執行スル際同場附屬ノ人夫力勤ニ火葬場ヲ開キ衣類等ヲ窃取シ及屍體ヲ損傷シタル事實發見セラレ一時非常ノ紛擾ヲ來シタル趣ノ處如此ハ單ニ風紀ヲ害スルノ甚シキノミナラス復タ其屍體ニシテ各種傳染病疾患ニ關係スルモノナルニ於テハ其衛生上ニ及ホス危害モ亦測ルヘカラサル義ニ有之如斯陋習ハ往々社會ノ裏面ニ伏在スルモノナルヲ聞モ有之ニ付爾後一層火葬場ノ取締ヲ嚴重ニシ此等陋習ヲ根絶スルニ努ムヘシ

### ●火葬場設置標準ノ件

明治三十五年五月十日 衛甲第八七號衛生課長通牒

火葬場設置標準ニ付別紙寫ノ通り各郡長へ通牒相成候條右様了知置相成度爲念此段及通牒候也

左記

各(郡)市長宛(明治三十五年五月十日 衛甲第八七號警部長通牒)

客年五月二十七日付衛甲第七二號ヲ以テ火葬場設置方ニ付及通牒置候處爾後當部ニ於テモ可成費用ヲ要セス且ツ完全ナルモノト可認モノ取調候處別

第四編 衛生 第一章 保健

紙ノ通りニ有之候條御參考迄此段及通牒候也 別紙(火葬場圖面)省略

參照

吉敷郡長宛(明治三十四年五月二十七日) 衛甲第七二號警部長通牒

火葬場ノ設置ハ從來墓地及埋葬取締細則第十條ノ裝置ノ有無ニ係ラス許可相成來候處一定ノ構造ナク原野ニ死屍ヲ横ヘ火葬スルカ如キハ頗ル殘酷ノ處置ニシテ人倫上默視スルニ忍ヒサル義ニ有之將來ハ總テ相當ノ裝置ヲ爲スニアラサレハ許可相成ラス候條右様御了知ノ上設置方出願スル場合ニ於テハ構造ノ方法書及圖面ヲ願書ニ添付セシメラレ度又完全ナル火葬場ノ設置ナキ町村ニ於テハ漸次之ヲ設置シ可成火葬ノ習慣ヲ付ケシムル様御措置相成度依命此段及通牒候也

### ●墓地増設等ニ關スル件

明治三十六年一月九日 衛發第二號衛生課長通牒

墓地増設等ニ關シ別紙寫ノ通り各郡長へ通牒相成候條御了知相成度尙今後墓地及埋葬取締手續第一條ニ依リ實地立會セラレタルトキハ郡市役所へ回報セラレ、ト同時ニ左記ノ事項直接當部へ報告相成度候

- 一 增設又ハ取擴メ必要ノ有無(既設墓地餘地ノ廣狹等詳細)
- 一 現在及將來ニ於テ衛生上ニ障害ノ有無
- 一 位置ノ適否
- 一 其他參考トナルヘキ事項

各(郡)市長宛(明治三十六年一月九日 衛甲第四號警部長通牒)

町村ニ於テ墓地増設又ハ取擴メ出願スルニ當リ既設墓地尙ホ埋葬ノ餘地ア

ルニモ拘ハラス道路險阻又ハ距離遠隔等ヲ理由トスルモノ有之候處右ハ一ノ便利ヲ圖ルニ過キスシテ止ムテ得サル事情トハ難認ニ付今後ハ既設墓地埋葬ノ餘地ナク或ハ地質埋葬ニ適セサル等眞ニ止ムテ得サルモノノ外許可不相成候條右様御了知相成度候右及通牒候也

### ●墓地新設等ニ關スル件

明治四十三年七月三十日  
衛第五九八七號警務長指示

各署長(水上ヲ除ク)

墓地新設等ニ關シ別紙寫ノ通各郡市長へ及通牒候條明治三十六年一月衛發第二號ニ依リ報告ノ際ハ別紙ニ關スル事項ヲモ報告セラルヘシ

別紙 (同日付同號ヲ以テ警察部長ヨリ各郡市長へ通牒)

墓地及埋火葬取締細則第四條ニ墓地ヲ新設スルトキハ國道縣道大川ニ沿ハスト有之從來單ニ其ノ土地力接近セザル意義ニ解釋シ來候處今後ハ假令其ノ距離遠シト雖國縣道大川等ヨリ展望シ得サル場所タルヲ要シ又同條中土地高燥飲料水ニ障ナキ地トアルハ眺望ノ佳ナルヲ要スル意義ニアラスシテ高燥ノ文字ハ飲料水ニ障害ナキ場所タルコトヲ形容シタルモノニ有之要スルニ今後墓地ノ新設又ハ取擴ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ山間又ハ山林中等ヲ選ヒ專ラ他ノ展望ヲ避ケ土地ノ風致ヲ損セサルヲ旨トスヘキコトニ廳議決定候條依命此段及通牒候也

追テ今後ノ出願ニ對シテハ本文ニ關シ實地調査副申相成度又從前設置ノ墓地ニシテ本文ニ概觸ノモノハ漸次機會ヲ得テ位置ヲ變更セシムルヤウ措置セシメラレ度候

### ●墓地埋火葬場ニ關スル件

昭和三年六月二十二日  
衛第五〇一八號警察部長指示

〔山口警〕

墓地埋火葬場ニ關スル書類ハ從來市町村長等ヨリ直接當廳へ提出シ居タルモノニシテ其ノ都度必要ナル調査事項ヲ指示シ來リタルカ今同市町村長ニ對シ別紙寫ノ通及通牒置候條爾今右書類ヲ受理シタルトキハ左記各項ヲ調査ノ上副申セラルヘシ

左記

- 一 新設又ハ取擴メノ要否並ニ既設墓地ノ廣狹及新設又ハ取擴メテ行ハムトスル事由詳細
- 二 出願地附近ニ國、縣、市、町村道並人家ノ有無若シアラハ其ノ實測距離
- 三 現在及將來ニ於テ衛生上障害ノ有無
- 四 出願地ハ附近國、縣、市、町村道及人家ヨリ容易ニ展望セラレ現在及將來ニ於テ土地ノ風致ヲ損スル虞ナキヤ
- 五 出願地ノ外適當ノ位置ナカリシヤ
- 六 火葬場ハ其ノ許可後ニ於テ臭烟其ノ他ノ爲關係部落民ヨリ紛擾ヲ醸ス虞ナキヤ
- 七 出願ノ事項ハ事實相違ナキヤ
- 八 其ノ他參考トナルヘキ事項

(別紙寫)

昭和三年六月二十二日  
衛第五〇一八號警察部長通牒

各市町村長

墓地及火葬場ヲ取擴メ又ハ新設セムトスル場合ニ於ケル標準等ハ明治十八年五月山口縣達甲第五十一號墓地及埋火葬取締細則ニ詳細規定シアルモ尙其ノ願書不備ノ點多ク同一書類ヲ屢々照復セサルヘカラサル實情ニ有之候ニ就而ハ爾今墓地火葬場ノ新設又ハ取擴メニ關スル書類ハ取締細則ニ據ル

ルノ外左記各項ヲ具シ所轄警察署ヲ經由提出相成度此段及通牒候也

左記

- 1 墓地新設ノ場合
  - 一 新設ヲ必要トスル事由
  - 二 共葬區域ノ地名及共葬區域内ノ戶數
  - 三 新設豫定地ト從來使用ノ墓地トノ距離
  - 四 大正六年三月山口縣訓令第六號ニ依ル書類ヲ添付スルコト但シ事業施設ノ爲費金ヲ要セサルモノハ其ノ事由ヲ願書中ニ明記スルコト
  - 五 市町村會決議錄寫ヲ添付スルコト
  - 六 新設豫定地力私有地ナルトキハ市町村ニ寄附セシムルカ又ハ市町村ニ於テ買收スルコトトシ之ヲ證スヘキ書面(寄附願又ハ賣渡承諾書若ハ寄附採納又ハ買收ノ決議書)ノ寫ヲ添付スルコト
  - 七 附近二百間以内ノ地形見取圖一通並ニ豫定地及隣接地記載ノ土地分間圖二通ヲ添付スルコト
  - 八 地形見取圖ニハ其ノ地域内ニ在ル丘壑、森林、道路、河川、人家等ヲ表示シ道路ハ國道、縣道、市道、町村道、作道ノ區別ヲ明記シ豫定地ト道路河川人家トノ最短箇所ニ直線ヲ畫キ實測距離ヲ記入スルコト
  - 九 分間圖ニハ字地番、地目、段別ヲ記入スルコト
- 2 墓地取擴ノ場合
  - 一 前項各號ノ外取擴メテ要スル事由詳細
  - 二 圖面中特ニ從來墓地トノ關係ヲ詳記スルコト
- 3 火葬場新設ノ場合
  - 一 火葬場建物配置平面圖(燒香場ヲ含ム)

### 第九節 公園

#### ●公園規則

明治三十三年九月  
山口縣令第七十三號

公園規則左ノ通定ム

公園規則

- 第一條 公園地内ニ於テ左ニ記載スル行爲ヲ禁止ス
  - 一 木竹花卉ヲ損害シ及果實落葉等ヲ採取スルコト
  - 二 鳥獸魚鱉等ヲ捕獲シ又ハ之ヲ傷害スルコト
  - 三 池中ニ游泳シ又ハ土礫塵芥等ヲ投棄スルコト
  - 四 火器ヲ玩ヒ又ハ危險ノ遊戯ヲナスコト
  - 五 土石ヲ發掘シ又ハ園内ノ設備ヲ損傷スルコト
  - 六 榜示張紙又ハ樂書等ヲナスコト
  - 七 風俗又ハ衛生上有害ノ虞アル行爲ヲナスコト
  - 八 總テ榜示ヲ以テ禁制セル事項ヲ犯スコト
- 第二條 縣立ニアラサル公園ニシテ前條八號ノ禁制ヲナサントスルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

### 第十節 鑛泉

#### ●鑛泉規則

大正十二年六月一日  
山口縣令第五十七號

改正 大正十二年二月縣令第九五號

鑛泉規則左ノ通之ヲ定ム

鑛泉規則

- 第一條 本則ニ於テ鑛泉ト稱スルハ溫泉及冷鑛泉ヲ謂ヒ鑛泉營業者ト稱スルハ左ノ各號ノ者ヲ謂フ但シ賣藥法又ハ清涼飲料水取締規則ニ依ルモノヲ除ク
  - 一 鑛泉ヲ飲用又ハ浴用トシテ販賣スル者
  - 二 鑛泉ヲ用ヒ浴場ヲ設クル者
  - 三 鑛泉ノ副産物ヲ採取、製造又ハ販賣スル者
- 第二條 鑛泉ヲ試掘セムトスル者ハ本籍住所氏名生年月日及左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ
  - 一 目的
  - 二 場所(他人ノ所有ニ係ルトキハ其ノ承諾書)
  - 三 掘鑿方法
  - 四 附近鑛泉トノ距離
  - 五 試掘期間
  - 六 深長、口徑、構造及地上裝置ノ仕様並其ノ圖面
  - 七 附近見取圖
- 第三條 前項第一號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 前條ノ許可ヲ受ケタル者試掘ヲ終了シタルトキハ一分時ノ湧出量、溫度、深長、口徑等ヲ記シ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

〔山口書〕

〔山口書〕

第四條 鑛泉附近三十間以内ニ於テ池井、溝渠其ノ他土地ヲ掘鑿セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ第二條及前條ノ許可ヲ取消シ又ハ原形ニ復サシメ若ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ
 

- 一 既設鑛泉ニ影響ヲ及ボシタルトキ
- 二 許可事項以外ノ工事を爲シタルトキ
- 三 許可後二箇月以内ニ工事ニ着手セザルトキ
- 四 其ノ他公益ニ害アリト認ムルトキ

第六條 鑛泉ヲ發見シタルトキハ其ノ地主又ハ借地人ヨリ知事ニ届出ツヘシ

第七條 鑛泉所有者ニ異動ヲ生シタル時ハ其ノ事由ヲ具シ雙方連署ノ上十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ但シ死亡ニ依ル相續ノ場合ハ相續人ヨリスヘシ

第八條 公益上又ハ鑛泉取締上必要ト認ムルトキハ鑛泉ノ湧出量ヲ制限シ又ハ特別ノ裝置ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 鑛泉營業者ヲ爲サムトスル者ハ本籍住所氏名生年月日及左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ
 

- 一 場所
- 二 分析成績書
- 三 一分時ノ湧出量、溫度、深長、口徑
- 四 醫治效能
- 五 (削除)
- 六 鑛泉副産物ノ採取又ハ製造ヲ業トスルモノハ其ノ方法及用途
- 七 販賣ヲ業トスルモノハ分量ニ對スル價格及發賣元

第十條 前條ニ依リ許可ヲ受ケタル者營業ヲ廢止シ又ハ第二條ノ許可ヲ受

#### ●鑛泉規則施行手續

大正十二年六月一日  
山口縣令第二十六號

警察署 (鑛泉分署)

鑛泉規則施行手續左ノ通之ヲ定ム

鑛泉規則施行手續

- 第一條 警察官署ニ於テ鑛泉規則第二條及第四條ノ願書ヲ受ケタルトキハ記載事項ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ
- 第二條 警察官署ニ於テ鑛泉規則第五條ニ該當ノ事故アリト認ムルトキハ狀況ヲ詳具シ報告スヘシ
- 第三條 警察官署ニハ別記様式ノ臺帳ヲ備ヘ之ヲ整理スヘシ

所有者
住所氏名



場所
許可年月日
營業ノ種別
鑛泉種別
醫治效能
成分分析
備考

### 鑛泉規則取扱ニ關スル件

大正十二年七月二十日  
衛第五七二四號警察部長指示

各署長宛

鑛泉規則發布相成候處第一條第一號ノ販賣者ニ在リテハ第九條第一號乃至第五號及第七號ヲ具シ出願スヘキハ勿論ナルモ往々之等ニシテ許可後直ニ其ノ用法、用量、效能等治病ノ事項ヲ公示シ一般ニ販賣スルコトヲ得ヘキ様誤解セル向アリ右ハ單ニ賣藥又ハ浴用ノ原料トシテ特定人ニ販賣スルカ如キコトヲ得ルモノヲ指シ治病ノ效能ヲ表示シ一般公衆ニ販賣セムトスルモノハ賣藥法第六條又ハ第二十四條前段ニ依リ免許ヲ受クヘキ義ナルヲ以テ該規則取扱ヒ及之方取締上ニ關シテハ特ニ誤解ナキ様留意セラルヘシ

〔山口書〕

### 鑛泉取締ニ關スル件

昭和二年三月十二日  
衛第二二八六號警察部長指示

各署長宛

其署下山口町湯田温泉地帯ニ於テ近時井戸掘鑿ノ名ノ元ニ鑛泉ヲ試掘スルモノアルヤノ據有之候條自今取締ヲ嚴行シ鑛泉規則第四條ノ願書ニハ左記事項ヲ記載セシムルト同時ニ其ノ實否、既設鑛泉ニ影響ノ有無並ニ許否ニ關スル意見ヲ副申セラルヘシ

追テ井戸ノ深サ十尺以内ニシテ家屋ノ新築改築其他止ムテ得サル事情アルモノノ外許可セラレサル方針ニ付爲念

記

- 一 目的
- 二 場所(他人ノ所有ニ係ルトキハ其承諾書)
- 三 方法
- 四 掘鑿期間
- 五 井戸ノ深サ
- 六 附近鑛泉トノ距離
- 七 掘鑿ヲ要スル事由

### 鑛泉ノ溫度及湧出量調査ニ關スル件

昭和五年十一月十一日  
衛第一〇六一九號警察部長指示

各署長宛

鑛泉ノ利用開發ニ關スル施設ノ進ムニ伴レ既存鑛泉ニ對スル影響ヲ論據トスル對抗運動漸ク滋キテ加ヘントスルノ傾向ヲ呈シ來リタル處世間周知ノ如ク鑛泉ハ溫度湧出量共常ニ一定不變ニ在ラスシテ季節ニ依リ又降雨時ト

〔山口書〕

早敷時トニ依リ(湖ノ干満ノ影響ヲ受クル地方モアリ)變化ヲ受クルモノニテ既存鑛泉ニ對スル影響ノ有無ハ少クトモ既往數年間ニ渉ル如上ノ變化關係ヲ審ニシタル上ニアラザレバ決定シ難キ處從來此ノ種資料ノ調査シタルモノナク爲ニ紛議ノ裁斷ニ支障ヲ來セル事例モ有之一面鑛泉ノ溫度及湧出量ノ調査ハ尙ニ上述ノ紛議裁定資料トナルニ止マラス該地ノ一般ノ鑛泉保第一號様式

鑛泉臺帳

(用紙美濃型)

年次	種別	月別	泉温及一分時ノ湧出量調 (溫度ハ攝氏(朱書) 湧出量ハリットル單位(黑書))	鑛泉ノ名稱				泉質
				所在地	所有者	住所氏名	井戸、穿孔、横洞、鐵管打込、池沼、龜裂噴出等ノ別	
二		五						
		八						
		十						
		一						
		月						



### 第十一節 理髮

#### ●理髮規則

大正十二年六月七日  
山口縣令第六十號

改正 大正十三年一月縣令第五號、一四年二月第九六號、昭和五年五月第二七號  
理髮規則左ノ通之ヲ定ム

#### 理髮規則

- 第一條 本則ニ於テ理髮業ト稱スルハ頭髮、鬚鬚ヲ剪剃シ又ハ結髮ヲ業トスルモノヲ謂フ
- 第二條 理髮業ヲ爲サムトスル者ハ左記各號ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ第三號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ
- 一 本籍住所身分氏名年齢
- 二 業務ノ種別
- 三 業務所ノ位置及構造
- 四 工事落成期日
- 五 理髮ニ關スル資格ヲ證明スヘキ證書ノ寫
- 六 第八條第一號乃至第三號ノ疾患ナキコトヲ證明スル醫師ノ診斷書
- 前項ノ出願者ニシテ民法上ノ無能力者ナルトキハ法定代理人、保佐人又ハ夫ノ連署ヲ要ス但シ民法第十七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 滿十八年以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有スル者ニアラザレバ理髮業ヲ許可セス
- 一 本廳ニ於テ施行スル理髮試驗ニ合格シタル者
- 二 知事ノ指定シタル學校若ハ講習所ヲ卒業シタル者
- 三 他ノ府縣ニ於テ施行スル理髮試驗ニ合格シタル者又ハ他ノ府縣ニ於

〔山口警〕

テ指定シタル學校若ハ講習所ヲ卒業シタル者

- 第三條ノ二 理髮業者死亡ニ因リ滿十八年以上ニシテ二年以上理髮ノ業務ニ従事シタル履歷ヲ有スル遺族其ノ業務ヲ承繼セムトスルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ期間ヲ限リテ特ニ理髮業ヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ被承繼者死亡ノ時ヨリ二年ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 前項ニ該ル願出ニハ第二條第一項第四號ヲ省キ第五號ノ書面ニ代フルニ同業者二名ノ證明アル修業履歷書ヲ以テシ尙被承繼者死亡ノ年月日、被承繼者ト出願者トノ續柄及期間ヲ具スヘシ
- 第四條 出願者自ラ從業セス又ハ二箇所以上ノ業務所ヲ設ケムトスルトキハ第三條ノ資格ヲ有スル管理人ヲ置クヘシ
- 第五條 理髮試驗ハ毎年二回以上之ヲ行フ其ノ期日及場所ハ其ノ都度告示ス
- 第六條 理髮試驗ノ科目左ノ如シ但シ結髮ノミヲ業トスル者又ハ第一條第二項ノ業務ニ付テハ其ノ一部ヲ省略スルコトアルヘシ
- 一 解剖生理ノ大要
- 二 衛生及傳染病ノ大要
- 三 消毒
- 四 理髮ニ關スル法令ノ大要
- 第七條 理髮試驗ヲ受ケムトスル者ハ本籍住所族稱氏名生年月日ヲ具シ左記各號ノ書類並手数料金壹圓ヲ添ヘ知事ニ願出ツヘシ
- 一 履歷書
- 二 二箇年以上修業シタルコトヲ證明スル醫師ノ證明書
- 三 身分證明書但シ本籍族稱身分氏名生年月日及禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトノ有無ニ關シ原籍地市町村長ノ證明セルモノ

〔山口警〕

- 四 出願前六ヶ月以内ニ撮影シタル寫眞(裏面ニ撮影年月日及住所氏名ヲ記載スルコト)
- 既納ノ手数料ハ之ヲ還付セス
- 第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ就業スルコトヲ得ス
- 一 精神病者
- 二 癩病
- 三 結核病、癩、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

- 第九條 家族、徒弟又ハ雇人ヲシテ業務ニ従事セシメムトスルトキハ其ノ本籍住所氏名年齢ヲ具シ第二條第一項第六號ノ書類ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出ツヘシ之ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ
- 第十條 業務所ノ構造ハ左ノ規定ニ據ルヘシ
- 一 地盤及洗場ハ不透透質ノ材料ヲ以テ築造シ汚水排除ノ設備ヲ爲スコト
- 二 周壁ハ地盤ヨリ一尺以上板張又ハ不透透材料ヲ以テ構造スルコト
- 三 採光換氣ノ裝置ヲ爲スコト
- 前項ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クルニ非サレバ使用スルコトヲ得ス

- 第十一條 理髮ニ使用スル器具ハ一人ヲ終ル毎ニ左記藥液ノ一ニ浸漬シタル上同藥液ニ浸シタル新ラシキ布片又ハ脫脂綿ノ類ヲ以テ之ヲ拭淨スヘシ
- 一 稀酒精(日本藥局方所定ノモノ)
- 二 防疫用石炭酸水(五十倍)
- 三 フォルマリン水(日本藥局方所定ノモノ)
- 四 クレゾール水(五十倍)
- 第十二條 傳染性疾患又ハ其ノ疑アル者ニ使用シタル理髮用器具並被布、

- 手拭、頭卷、椅子覆、枕當及作業衣ハ理髮ヲ終リタル毎ニ左記方法ノ一ニヨリ消毒スヘシ
- 一 藥物消毒  
前條第二號乃至第四號ノ藥品ノ一ニ三十分以上浸漬シ更ニ淨水ヲ以テ洗滌スルコト
- 二 蒸汽消毒  
流通蒸汽ヲ用ヒ可成消毒器内ノ空氣ヲ排除シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムルコト
- 三 煮沸消毒  
消毒スヘキ物件ヲ全部水ニ浸漬シ沸騰後三十分以上煮沸スルコト
- 前項以外ノ方法ニ依リ消毒ヲ行ハムトスルトキハ其方法ヲ具シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十三條 理髮業者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
- 一 業務所ハ常ニ清潔ニ掃除シ毛髮ハ一定ノ容器ニ收容スルコト
- 二 就業中ハ身體衣服ヲ常ニ清潔ニシ白地ノ作用服ヲ著用スルコト
- 三 椅子枕ハ白布ヲ以テ覆ヒ客一人毎ニ清潔ナル紙片ヲ以テ被包スルコト
- 四 手拭頭卷等ハ一人毎ニ清潔ナルモノト交換スルコト
- 五 作業前毎回石鹼ヲ以テ手指ヲ洗滌スルコト
- 六 傳染性皮膚病患者ニ接觸シタルトキハ其ノ都度第十一條ノ藥液ノ一ヲ以テ手指ヲ消毒スルコト
- 七 頭部顔面等ハ流出裝置ノ湯水ヲ以テ洗滌シ清潔ナル手拭ヲ以テ拭淨スルコト
- 八 顔面ノ作業ニ従事中心呼吸保護器ヲ使用スルコト
- 九 客ノ求アルニ非サレハ耳鼻ノ孔腔ヲ剃ラサルコト

十 含嗽水ノ設備ヲ爲スコト

第十四條 業務所ニハ見易キ場所ニ理髮料金及定休日並就業時間其ノ他必要ナル事項ヲ揭示スヘシ

第十五條 警察官吏、衛生官吏ハ營業時間内業務所ニ臨檢スルコトアルヘシ

第十六條 理髮業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ第三號ノ場合ハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ爲スヘシ

一 廢業シタルトキ

二 第二條第一項第一號第二號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ

三 死亡又ハ行衛不明トナリタルトキ

住所移轉ノ爲所轄警察官署ヲ異ニスルトキハ前後ノ警察官署ニ届出ツヘシ

第十七條 理髮業者ハ所轄警察官署ノ區域ニ依ル組合ヲ設クヘシ組合區域内ノ從業者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ

結業ノミナラズトシ又ハ第一條第二項ノ從業者ハ獨立シテ別ニ組合ヲ設クルコトヲ得

前二項ニ依リ組合ヲ設ケタルトキハ規約ヲ作り所轄警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ

第十八條 前條ノ組合ニシテ郡若ハ縣ノ聯合組合ヲ設ケムトスルトキハ規約ヲ作り知事ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十九條 組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 組合ノ名稱、組織並事務所所在地

二 組合ノ事業ニ關スルコト

三 會議ニ關スルコト

〔山口警〕

四 理髮料金ニ關スルコト

五 定休日及就業時間

六 組合經費ノ收支ニ關スルコト

七 其ノ他組合ニ必要ナル事項

第二十條 組合ニ於テ役員ヲ選舉シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ警察官署ハ役員ヲ不適任ナリト認ムルトキハ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 本則又ハ本則ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ其ノ他公安ヲ害シ風俗ヲ紊ル虞アリト認ムルトキハ警察官署ニ於テ期間ヲ定メ從業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十二條 本則第二條、第四條、第八條、第九條、第十條第二項、第十一條、第十二條、第十三條、第十四條、第十六條、第十七條第三項、第十八條、第十九條、第二十條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第二十三條 本則ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 (削除)

第二十五條 結業ノミナラズル者又ハ第一條第二項ノ業務ニ付テハ當分ノ間第三條及第十條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二十六條 現ニ理髮業ヲ營ム者ハ本令施行ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ規定ノ手續ヲ爲スニ非レハ理髮業ヲ爲スコトヲ得ス但シ第十條ノ構造ニ牴觸スルモノハ大正十二年十二月三十一日迄ニ之ヲ改修スヘシ

第二十七條 明治三十三年九月山口縣令第七十二號ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和五年山口縣令第二十七號)

本令ハ昭和五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔山口警〕

第三條ノ二第一項ノ規定ハ昭和四年六月一日以後ニ死亡セル理髮業者ノ遺族ニ亦之ヲ適用ス

●理髮規則施行手續

大正十二年六月七日  
山口縣訓令第二十八號

警察署 (區分署)

理髮規則施行手續左ノ通之ヲ定ム

理髮規則施行手續

第一條 警察官署ニ於テ理髮規則第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ同則第三條ニ規定セル資格及同則第八條各號ノ事項ニ付調査ヲ爲スヘシ

第二條 警察官署ニ於テ理髮規則第十二條第二項ノ認可ヲ爲サムトスルトキ又ハ同則第二十一條ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ知事ニ稟議スヘシ

第三條 警察官署ニハ別記様式ノ臺帳ヲ備ヘ之ヲ整理スヘシ

住身生	年分所	月氏族	日名稱	業務種別	資格	業務所	許可年月日	備考
理髮臺帳								
從業者名簿								
開始年月日	業開	廢止年月日	廢	住所	氏	生年月日	名	備考



發生ヲ防キ又其ノ除去ニ努メサルヘカラス現今校地ノ選定校舍ノ建築等ニ關シテハ漸次改善ヲ見ツ、アリト雖モ校地、校舍ノ清潔方法ニ至リテハ動モスレハ從來ノ慣行タル洒掃ニノミ重キテ置キ塵埃ノ發生、校舍ノ汚染ヲ防止スル施設等未ダ十分ナラサルモノアリ又掃除ノ方法宜シキヲ得スシテ甚シク塵埃ヲ飛散セシメ爲ニ生徒兒童ノ健康ヲ害フカ如キコトナシトモス凡ソ斯ノ如キ弊、速ニ改善ヲ圖ラサルヘカラス地方長官ハ地方ノ實情ニ鑑ミ學校當局者ヲシテ左記方法ニ準據シテ夫々實施セシメ以テ學校清潔ノ實績ヲ擧グルニ力メラルヘシ

大正十五年十二月七日

文部大臣 岡田良平

學校清潔方法

學校ニ於ケル清潔方法ヲ分チテ日常清潔方法、定期清潔方法及臨時清潔方法ノ三種トス

甲、日常清潔方法

- 一 學校ノ建築ニ際シテハ其ノ構造ニ注意シ就中教室、廊下、昇降口等ノ廣サヲ適當ニシ且光線ノ射入空氣ノ流通ニ便ナラシムヘシ
- 二 校舍、寄宿舎等ハ毎日人ナキ時ニ於テ窓戶ヲ開放シ適當ノ方法ニ依リ掃除ヲ行フヘシ塵埃ノ飛散ヲ防ク爲メ豫メ如露ヲ用キテ少シク床ヲ潤シ靜ニ掃出シタル後濕布ヲ以テ清拭シ又ハ濕リタル鋸屑、茶殻、糞殼等ヲ床ニ撒布シテ之ヲ掃出シ或ハ狀況ニ依リテハ單ニ濕布ヲ以テ清拭スヘシ
- 除塵油ヲ塗布シタル床ニアリテハ單ニ掃出スルカ又ハ除塵油ニテ濕シタル布片ヲ以テ拭フヘシ
- アスファルト、タイル、コンクリート、石、煉瓦等ノ廊下、昇降口、運動場等ハ時々水ヲ以テ洗滌スヘシ

〔山口善〕

- 三 疊敷又ハ塵埃ノ飛散スル處ナキ場所ニ於テハ乾燥ノ儘掃出スルモ支障ナシ
- 四 寢具、校具等ハ濕布ヲ以テ清拭スヘシ
- 五 木床、リノリウム敷等ハ成ルヘク除塵油ヲ塗布スヘシ
- 六 木床ニ塗油スルニハ先ツ曹達水ヲ以テ床面ヲ清拭シ其乾燥シタル後之ヲ爲スヘシ
- 七 塗油ハ春季、夏季、冬季ノ休業等ノ時間ニ於テ行フ可トス其回数ハ兒童、生徒ノ員數及校舍ノ構造等ニ依リ適當斟酌スヘシ
- 八 教室、廊下、寄宿舎等ニ於テハ適當ナル箇數ノ屑箱及液體ヲ容レタル唾壺ヲ配置シ紙片其ノ他ノ廢棄物ノ散亂ヲ防キ且唾壺ヲ唾壺以外ニ略出スルヲ禁スヘシ
- 九 唾壺内ノ略痰ハ消毒シタル後之ヲ便池ニ投棄スヘシ
- 一〇 黑板、黑板拭ハ常ニ清潔ヲ保タシメ黑板ヲ拭ヒ又ハ其掃除ヲ爲ス際ニハチヨリ粉ノ飛散セサルヤウ注意シ又ハ黑板拭ハ成ルヘク室外ニ於テ清掃スヘシ
- 一一 靴ノ儘昇降スル校舍、寄宿舎等ノ昇降口ニハ塵掃、靴拭、靴洗器等ヲ備ヘ室内ニ砂塵ノ侵入スルヲ防クヘシ
- 一二 尙狀況ニ依リテハ上靴、カバ等ヲ使用セシムヘシ
- 一三 便所ノ尿溝、注壁、便池及其ノ周圍ハ不滲透性ノ物質ヲ以テ固メ尿溝、注壁ハ時々水ヲ以テ洗滌シ便池内ノ汚物ハ期ニ後レス汲取り常ニ清潔ヲ保チ惡臭ノ鬱滯ヲ防クヘシ
- 一四 便所ノ手洗水ハ流出裝置ト爲スヘシ又共同手拭ヲ使用セシムヘカラス
- 一五 宿直室、寢室等ハ特ニ採光、換氣ニ留意シ寢具ハ適宜日光ニ曝シ被布寢衣等ハ時々洗濯シ清潔ヲ保タシムヘシ
- 一六 食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ採光、換氣ニ注意シ且常ニ

〔山口善〕

- 一 清潔ヲ保タシメ殊ニ食堂、炊事場等ニ於テハ惡臭ノ鬱滯ナキヤウ注意スヘシ
- 二 塵芥ノ類ハ芥箱又ハ一定ノ場所ニ集メ置キ期ヲ誤ラス燒却又ハ搬送セシムヘシ
- 三 常ニ校地ノ排水ニ注意シ下水溝ハ適當ノ勾配ヲ保タシメ其ノ溝壁ニハ不滲透性物質ヲ用ヒ又時々浚渫ヲ行ヒ汚泥ハ適當ノ方法ヲ以テ他ニ搬送シ或ハ狀況ニ依リ一定ノ場所ニ集積シ散亂ヲ防クヘシ
- 四 下水溝ハ成ルヘク暗渠トナスヘシ
- 五 運動場ハ其ノ廣サヲ適當ナラシメ其ノ手入並清潔保持ニ注意シ塵埃ノ飛散ヲ防ク爲時々撒水ヲ爲シ狀況ニ依リ樹木ヲ植エ又ハ芝生ヲ造ルヘシ
- 六 廊下、運動場其他適當ナル場所ニ手洗場ヲ設ケ狀況ニ依リ運動場、昇降口等ニ洗足場ヲ設ケヘシ
- 七 器械室、標本室、戸棚、押入、下駄箱、物置、庭園等ニ關シテハ前記各項ニ準據シ適宜其ノ清潔保持ニ力ムヘシ
- 八 定期清潔方法
  - 一 定期清潔方法ハ毎年少クトモ一回之ヲ行フヘシ
  - 二 教室、寄宿舎内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚等ハ之ヲ室外ニ出シ戸、障子、窓掛等ハ之ヲ外シテ掃除シ尙天井、壁面、床等ヲ掃ヒ其ノ他日常清潔方法ニ準據シテ十分清潔ナラシムヘシ
  - 三 室外ニ持出シタル器具、寢具等ハ之ヲ清潔ニシ十分空氣ヲ通シ日光ニ曝シ室内ノ乾燥シタル後持込ムヘシ
  - 四 校地、建物、校具、井戸、下水其ノ他ノ設備ヲ査閲シ其ノ改善修理ヲ要スルモノハ適當ニ處理スヘシ
- 九 臨時清潔方法

- 一 浸水ノ害ヲ被リタル學校ニ在リテハ速ニ左ノ清潔方法ヲ行フヘシ
    - (イ) 水ニ浸サレタル校舍、寄宿舎ハ成ルヘク其ノ建具、床板等ヲ取り外シ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ圖リ床下ノ汚物、泥土ヲ除去シ乾燥セシムヘシ
    - (ロ) 建具、床板、校具、腰羽目等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ清拭シタル後成ルヘク之ヲ日光ニ曝シ十分乾燥セシムヘシ
    - (ハ) 浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ之ヲ浚渫シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ學校傳染病預防規程第十八條ニ準ジ消毒方法ヲ行フヘシ
    - 炊事場、食堂、洗面所、其ノ他必要ト認メラル、モノニツキテモ適宜消毒方法ヲ行フヘシ
  - 二 (ニ) 右ノ外日常又ハ定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜ニ準用スヘシ
  - 三 前項以外ノ災害其ノ他公衆ノ集合等ニ依リ不潔トナリタル校舍等ニツキテハ夫々適當ナル清潔方法ヲ行フヘシ
- 附則
- 明治三十年文部省訓令第一號ハ之ヲ廢止ス

肺結核、花柳病、トラホーム、癩其ノ他傳染性皮膚疾患アル者ヲシテ藝妓、酌婦、宿屋料理屋飲食店貸座敷雇人(料理人ヲ含ム)理髮等多數ノ客ニ觸接スル業ニ從事セシムルハ甚危険ナリ而シテ命令ヲ以テ之ヲ嚴禁セムヨリモ寧ロ彼等ノ自衛的感念ヲ養成シ其風習ニ馴致セシメ豫防ノ目的ヲ達スルコト有效ナリト認ムルヲ以テ藝妓置屋宿屋料理屋飲食店貸座敷理髮業者ニ懇篤説示シ別紙標準ニ依リ組合ヲ組織セシメ若ハ既設ノ營業組合規約中ニ別紙標準ノ事項ヲ規定セシメ之レカ實行ヲ促シ豫防ノ目的ヲ達スルコトニ努メラルヘシ

前項施行ニ就テハ左記各項ヲ知セラルヘシ

- 一 組合ヲ設クルニ當テハ其地域ノ廣狹、營業者ノ多少、其業體及人情風俗等ノ關係ニ依リ縣下一様ナル能ハサルヲ以テ各地方ノ狀況ニ依リ適宜一個又ハ數個ヲ設ケシムルコト
- 一 土地ノ繁閑、營業者ノ多少等ニ依リ組合ヲ設ケシムルノ必要ナキ個所アルヘシ此場合ニ於テハ營業者ニ對シ別紙標準事項施行ノ方法ヲ設ケシムルコト
- 一 花柳病ノ豫防ハ本組合事業トシテ最モ重スヘキモノ、一ナルヲ以テ本病ノ有無ニ就キ局部ノ検査ヲ行フハ最モ必要トスル所ナレトモ組合設立ノ當初絕對ニ之ヲ行フコト、モ土地ノ狀況或ハ其業體等ニ依リ種々ノ物議ヲ醸シ延テ事業ノ發達ヲ阻害スルノ虞ナシトセス故ニ當初姑ク之カ強行ヲ避ケ組合自ラ其必要ヲ感スヘク常ニ誘掖指導ヲ漸時效果ヲ舉グルコトヲ期スルコト
- 一 警察官署ハ常ニ組合幹部ト氣脈ヲ通シ必要ノ場合ニ於テハ組合特約ノ醫師ヲ協定シ或ハ診療費ヲ低廉ナラシムヘク醫師ニ協議シ又健康診斷票ハ戸口調査取締業監査等ノ場合ニ於テ提示セシムル等常ニ事業ノ發達ヲ助ケルニ努ムルコト

〔山口誓〕

各市長

### 第十三節 保健組合

#### 保健組合ニ關スル件

大正二年三月十日  
衛第一六五一號警察部長指示

昭和六年衛第二一七三號

〔山口誓〕

一 週クモ本年五月末日迄ニ組合ヲ組織セシメ若ハ既設組合規約中ニ規定セシムルコト

成立ノ上ハ規約寫ヲ添ヘ五日以内ニ當部ニ報告スルコト  
既ニ設置セル向ハ四月三十日迄ニ規約寫ヲ添ヘ報告スルコト

何保健組合規約(標準)

第一條 本組合ハ藝妓置屋宿屋料理屋飲食店貸座敷「理髮營業者」ヲ以テ組織シ藝妓、酌婦、雇人「理髮營業者及其雇人」健康ヲ保護スルヲ目的トス

第二條 本組合ハ「理髮營業者」ヲ正員トシ藝妓、酌婦、雇人ヲ準員トス

第三條 本組合ハ何保健組合ト稱シ事務所ヲ……ニ置ク

- 一 組合長 一名
- 一 副組合長 一名
- 一 評議員 若干名

役員ハ組合正員互選トシ任期ヲ何年トス役員ハ無報酬トス  
第四條 正員ハ毎月何日限リ金何錢(例ヘハ拾錢)宛ヲ準員ハ毎月金何錢(例ヘハ五錢)宛ヲ組合長ニ差出シ積立置クモノトス

第五條 本組合ハ左ノ事項ヲ實行スルモノトス

- 一 藝妓酌婦雇人「理髮業者及其雇人」ハ毎月一回以上醫師ニ就キ健康診斷ヲ受ケ疾病アルトキハ治療ヲ受ケシムルコト
- 二 健康診斷ヲ受ケタルトキハ其都度別紙様式ノ票紙ニ醫師ノ認印ヲ受ケ警察官吏又ハ組合役員ノ求メアルトキハ之ヲ示スコト
- 三 健康診斷ヲ受クルコトヲ肯シセサルモノハ之ヲ解雇シ又ハ寄寓セシメス若ハ雇入レサルコト

四 第一號ノ治療期間ハ業務ニ就カシメ又ハ業務用器具(例ヘハ理髮用具)容用器具、飲食物、飲食物用器具等ノ取扱ヲ爲サシメサルコト

五 未成年者ヲ雇入又ハ寄寓セシムルトキハ種痘ノ濟否ヲ調査シ未成者ニ對シテハ接種セシムルコト

第六條 診察費ハ組合ノ負擔トシ治療費ハ本人ノ自辨トス但シ無資力等ノ爲メ評議員會ニ於テ必要ト認メタル者ノ治療費ハ組合ノ負擔トス

第七條 此規約ニ違背シタル者ハ評議員會ノ決議ヲ經テ壹圓以上拾圓以下ノ過怠金ニ處ス

前項ノ決定ハ組合長之ヲ通告ス違約者ハ此通告ニ對シ異議ヲ唱フルコトヲ得ス

過怠金ハ通告後十日以内ニ組合長ニ差出スヘキモノトス

過怠金ハ組合ノ費用ニ充ツル爲メ積立テ置クモノトス

第八條 積立金ハ組合長ニ於テ郵便貯金トシ必要ニ應シ支出スルモノトス

第九條 組合員廢業其他ノ事由ニ依リ組合ヲ脱スルモ積立金ハ拂戻ヲ爲ササルモノトス

第十條 積立金ノ收支ハ毎年一回(何月)組合員ニ報告スルモノトス





第四編 衛生 第二章 防疫

第四條

傳染病死者ノ土葬ハ左ノ方法ニ據ルニ非サレハ許可セス

- 一 屍體及被服等ニハ規定ノ消毒ヲ行フコト
- 二 棺ハ一寸以上ノ板ヲ以テ作り又ハ粘藥ヲ施シタル甕ヲ用ヒ厚板ヲ以テ密閉スルコト
- 三 墳穴ノ深サハ地平ヨリ棺ノ上端迄四尺以上ト爲スコト
- 四 棺ノ四側上下ニ一尺以上假製石灰末ヲ填充スルコト

第二章 病原體保有者

第五條

市町村長ハ「コレラ」赤痢、腸「チフス」、「バラチフス」、「チフテリ」流行性腦脊髄膜炎ノ患者ニ對シ其ノ主要症狀消退後病原體ノ有無ニ關スル検査材料ヲ採收シ之ヲ最寄細菌検査所ヘ送付シ検査ヲ受ケシムヘシ

第六條

傳染病ノ病原體保有者又ハ其ノ保護者ニシテ病原體ノ有無ニ關スル検査ヲ請求セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ其ノ材料ヲ居住地市町村長ニ提出スヘシ

- 一 病原體保有者ノ住所身分職業氏名年齢
- 二 病原體ノ名稱

第七條

傳染病豫防法施行規則第十二條ノ届出又ハ通知ニハ左ノ事項ヲ具スヘシ

- 一 病原體保有者ノ新舊居住場所身分職業氏名年齢
- 二 移轉ノ月日時
- 三 病原體ノ名稱

第三章 交通遮斷及健康診斷死體檢案

第八條

傳染病豫防法第八條及第十九條第二號ニ依リ交通ヲ遮斷シタルト

〔山口警〕

キハ當該官吏員之ヲ表示スヘシ

第九條 警察官署長又ハ検査委員ハ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ市街村落ノ全部若ハ一部ニ於テ健康診斷又ハ死體檢案其ノ他必要ナル検査ヲ行フコトヲ得

市町村長ハ前項ノ場合ニ於テハ市町村醫ヲシテ之ニ從事セシムヘシ

第四章 傳染病院、隔離病舎

第十條

市町村ハ傳染病院ヲ設置スヘシ

市町村ノ狀況ニ依リ傳染病院ヲ設置シ能ハサル場合ニ於テハ隔離病舎ヲ設置スヘシ

必要ト認ムルトキハ隔離所又ハ消毒所ノ設置ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條

傳染病院又ハ隔離病舎ヲ建設セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 建設地及地名番字地目段別等ヲ記入セル圖面及近傍ノ見取圖
- 二 敷地、建物及溝渠等ノ配置平面圖
- 三 建物ノ平面圖及斷面圖
- 四 建物及溝渠等ノ構造方法書
- 五 使用水ノ水質試驗成績書
- 六 建設費豫算任課書

改築、増築、移築又ハ模様替其ノ他ノ修繕ニシテ一廉ノ工費貳百圓以上ヲ要スルトキ亦前項ニ準ス

第十三條

傳染病院ノ建物ハ平屋建ニシテ左ノ設備ヲ爲スヘシ

- 一 重症患者室
- 二 輕症患者室
- 三 快復期患者室

〔山口警〕

七 汚水及汚水溝ハ不透透材料ヲ以テ築造シ覆蓋ヲ設クルコト

八 前各條ノ外病院規則第四條ノ規定ニ準據スルコト

第十五條 隔離病舎ヲ設置セムトスルトキハ前二條ヲ參酌シ適宜設計ヲ爲スヘシ

第十六條 工事落成シタルトキハ届出テ検査ヲ受クヘシ

第十七條 傳染病院又ハ隔離病舎ヲ開キタルトキハ市町村長ハ左ノ人員ヲ置クヘシ

- 一 醫 員
- 二 調劑員
- 三 事務員
- 四 看護婦
- 五 小 使
- 六 炊事人
- 七 消毒人夫

隔離病舎ニアリテハ前項第二號及第六號ヲ斟酌スルコトヲ得

第十八條 傳染病院又ハ隔離病舎ヲ開キタルトキハ本則第三條各號ノ外左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 豫防救治上必要ナル器具藥品ヲ備ヘ置クコト
- 二 患者ヲ快復期患者室ニ移ストキハ豫メ相當ノ消毒ヲ爲スコト
- 三 日誌ヲ備ヘ必要ナル事項ヲ記載スルコト

第五章 衛生組合

第十九條 市町村長ハ便宜ノ區畫ニ依リ衛生組合ヲ設置スヘシ

前項ニ依リ設置シタル組合區域内ニ居住スル者ハ組合員タルノ權利及義務ヲ有ス

第十九條ノ二 前條ノ衛生組合ハ其ノ市町村ヲ區域トスル聯合組合ヲ設置スルコトヲ得

- 四 疑似症患者室
  - 五 附添人用炊事場及食堂
  - 六 醫員事務員ノ詰所、調劑所、使夫詰所、炊事場及其ノ附屬浴場並便所
  - 七 消毒場(未消毒品置場既消毒品置場ニ區別スルコト)
  - 八 食器消毒場
  - 九 洗濯場
  - 十 浴場(患者用及看護人用ニ區別スルコト)
  - 十一 屍室
  - 十二 汚物置場及燒却所
  - 十三 物置
  - 十四 人夫詰所
  - 十五 井戸(炊事用病室用ニ區別スルコト)
- 前項第一號乃至第四號ノ建物ハ可成別棟トシ各別ニ便所ヲ設ケ適當ノ位置ニ看護人詰所ヲ設クヘシ
- 第十四條 傳染病院ノ位置及構造ハ左ノ事項ニ遵フヘシ
- 一 土地高燥ニシテ患者ヲ運搬スルニ便利ナル場所ヲ擇フコト
  - 二 周圍ニハ高サ六尺以上ノ構又ハ塙壁ヲ設ケ門戸ニ相當ノ締リヲ施スコト
  - 三 病室ノ床下及屍室ハ(コンクリート)、「セメント」塗又ハ漆喰叩トシ適度ノ勾配ヲ附シ消毒及汚水ノ流出ヲ便ナラシムルコト
  - 四 炊事場ハ病室ヨリ隔絶スルコト
  - 五 病室ニハ適當ノ場所ニ手洗場及洗面場ヲ設クルコト
  - 六 病室内ノ側壁ハ板張「セメント」塗其ノ他適當ナル構造ト爲シ消毒洗滌ニ便ナラシムルコト

第四編 衛生 第二章 防疫

第四編 衛生 第二章 防疫

第二十條 衛生組合ハ市町村長ノ監督ヲ受ケ傳染病豫防及一般衛生ニ關スル事務ノ周到ヲ期スヘシ

第二十一條 衛生組合ハ規約ヲ定メ役員ノ氏名ト共ニ市町村長ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 衛生組合ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

- 一 組合長 一名
二 幹事 若干名

前項ノ役員ハ組合員ヨリ選出シ適當ノ任期ヲ定ムヘシ

第二十三條 前條ノ役員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由アルニ非ラサレハ辭任スルコトヲ得ス

第二十四條 組合長ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 組合員ヲ指導啓蒙シ衛生ノ進歩發達ヲ圖リ且規約ノ實行ヲ期スルコト
二 清潔方法及消毒方法ノ施行ニ關スルコト
三 組合員ニ對シ衛生ニ關スル法規ノ周知徹底ヲ期スルコト
四 衛生思想ノ普及ヲ圖ルコト
五 毎年一回組合費收支決算ノ報告ヲ爲スコト
六 其ノ他組合ニ關スル一切ノ事務

第二十五條 幹事ハ組合長ヲ補助シ組合ニ關スル諸般ノ事務ニ從事スヘシ

第二十六條 衛生組合ハ豫防上必要ナル器具並消毒藥ヲ備フヘシ

第二十七條 衛生組合ノ經費ハ左ノ各號ニ依リ支辨スヘシ

- 一 組合員ノ積立金
二 寄附金
三 市町村ノ補助金

〔山口誓〕

四 其ノ他ノ收入
第二十七條ノ二 聯合組合ヲ設置シタルトキハ本則第二十條乃至第二十七條ヲ準用ス但シ第二十一條ノ場合ニ在リテハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 定期清潔方法

第二十八條 各邸宅ノ居住者ハ七月一日ヨリ八月末日ニ至ル間ニ於テ當該吏員ノ指定スル日時ニ毎年一回傳染病豫防法施行規則第十八條ニ定ムル清潔方法ヲ行フヘシ但シ居住者ナキ邸宅空地若ハ共同便所等ハ其ノ所有者又ハ管理者、共同下水溝渠ハ其ノ町村ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第七章 検査委員部

第二十九條 本廳ニ検査委員部ヲ設ケ警察部長ヲ以テ検査委員長ニ充ツ

第三十條 検査委員長ハ知事ノ命ヲ受ケ検査委員ヲ指揮シ傳染病豫防事務ノ監督及船舶汽車電車ノ検査其ノ他傳染病豫防救治ニ關スル事務ヲ管理ス

第三十一條 検査委員ハ検査委員長ノ命ヲ受ケ前條ノ事務ニ從事スヘシ

第八章 縣費補助

第三十二條 市町村ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲ニ支出シタル經費ニ對スル縣費補助ハ其ノ精算額ニ對シ左ノ區別ニ依リ交付ス但シ一會計年度ノ支出額五十圓未満ナルトキハ補助セズ

一 傳染病院隔離病舎隔離所消毒所ノ建築、改築、移築、増築、若ハ修繕又ハ「コレラ」、「ペスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル額ニ對シテハ三分ノ一
二 其ノ他ノ諸費ニ對シテハ五分ノ一

前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入縣費以外ノ補助金又ハ寄附金收入ヲ控除シタルモノヲ謂フ

第三十三條 前條ノ支出ハ之ヲ査定シ其ノ額ニ對シテ補助ス

〔山口誓〕

第三十四條 特別ノ狀況ニ依リ市町村ニ於テ支出シタル額其ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキハ第三十二條ノ歩合以上全部マテヲ補助スルコトアルヘシ

第三十五條 市町村傳染病豫防費ヲ以テ購入シタル土地若ハ建物ニシテ補助ヲ得タル後之カ使用ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ部分ニ屬スル補助金額ノ全部又ハ一部ヲ返納セシムルコトアルヘシ

附則

第三十六條 (削除)

第三十七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

縣費補助ニ關スル規定ハ大正十一年法律第三十二號施行ノ日ヨリ施行ス但シ既成ノ效果ヲ妨ケス

本令公布前認可ヲ受ケ工事中ノモノ又ハ工事竣工セルモノ補助未拂ノモノニ對シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ大正十三年三月三十一日迄ニ工事竣工ノ検査ヲ請求シタルモノニ限ル

第三十八條 左ノ縣令ハ之ヲ廢止ス

- 明治三十年七月 山口縣令第五十六號傳染病豫防法施行細則
明治三十年七月 山口縣令第五十七號衛生組合設置準則
明治三十年十二月 山口縣令第八十八號市町村傳染病豫防費補助規程
明治三十七年四月 山口縣令第四十五號傳染病豫防法ニ依ル命令事項
明治四十三年五月 山口縣令第四十三號傳染病豫防法ニ依ル命令事項
大正三年二月 山口縣令第八號清潔法消毒方法及鼠族ノ驅除ニ關スル件

第四編 衛生 第二章 防疫

第三十九條 赤痢ノ疑似症ニ對シ當分ノ間傳染病豫防法第三條第五條第七條第九條第十條第十二條第三十條第三十一條ノ規定ヲ適用ス

傳染病豫防法施行手續

大正十二年三月二十三日
山口縣訓令第十五號

改正 大正一五年山口縣訓令第一五號

知事官房 內務部 警察部 郡市役所
警察(分)署 町村役場

傳染病豫防法施行手續

第一條 傳染病豫防法施行規則第五條第二項ニ依ル警察官署長ノ報告ニハ傳染病豫防法施行規則第一條各號ノ外届出月日時及主治醫ノ住所氏名並診察ノ場所ヲ具スヘシ

警察官署長ハ第一號様式ノ臺帳ヲ備ヘ同時ニ之ヲ整理スヘシ
第二條 警察官署長ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ狀況ヲ具シ知事ニ即報スヘシ

一 「コレラ」、「ペスト」及其ノ疑似症患者發生シタルトキ
二 一時ニ多數ノ傳染病患者發生シ蔓延ノ兆アルトキ
三 傳染病豫防法施行規則第二條ノ措置ヲ必要ト認ムルトキ

第三條 傳染病豫防法施行規則第五條ニ依リ町村長病原體ノ検査材料ヲ送付スルトキハ第二號様式ノ送付書ヲ添付スヘシ同則第六條ノ請求ヲ受理シタルトキ亦同シ
第四條 警察官署長傳染病豫防法施行規則第三十一條第二項ニ依リ許可ヲ

第四編 衛生 第二章 防疫

要スト認ムル者アルトキハ事情ヲ具シ報告スヘシ  
 第五條 削除  
 第六條 市町村長又ハ豫防委員傳染病豫防法施行規則第三十二條ノ認可ヲ爲サムトスルトキハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ協議スヘシ  
 第七條 警察官署長傳染病豫防法第十九條第二號ノ事項ヲ施行スルノ必要アリト認ムルトキハ左ノ各號ヲ具シ報告スヘシ  
 一 遮斷ヲ要スル事由  
 二 區域及地名  
 三 區域内ノ戶數人口  
 四 遮斷又ハ隔離ノ爲メ自活シ能ハサル者アラハ其ノ人員及職業  
 第八條 市町村ニ於テ傳染病豫防法第十五條ニ依リ豫防委員ヲ置クノ必要アリト認ムルトキハ知事ニ具申シ指示ヲ受クヘシ  
 第九條 傳染病豫防法施行細則第十二條ノ豫算任譯書ハ第三號様式ニ據ルヘシ  
 第十條 市町村長傳染病豫防法施行細則第二十一條ノ認可ヲ爲シタルトキハ規約寫ヲ添ヘ知事ニ報告シ同時ニ之ヲ所轄警察官署長ニ通知スヘシ  
 第十一條 市町村長ハ傳染病豫防法施行細則第二十八條ノ施行ニ關シテハ所轄警察官署長ト協議シ日割ヲ定メ之ヲ告示シ同時ニ知事ニ報告スヘシ  
 前項施行ノ場合ハ當該吏員ハ臨檢監督シ市町村長ハ終了後第四號様式ノ成績表ヲ作り十日以内ニ知事ニ報告スヘシ  
 第十二條 警察官吏傳染病豫防法施行規則第三十八條ニ依リ同則第十四條ノ事務ニ從事シタルトキハ第五號様式ノ調書ヲ作ルヘシ  
 警察官署長ハ「コレラ」「ベスト」並其ノ疑似症發生ノ場合ハ前項ノ調書ヲ知事ニ進達スヘシ

〔山口警〕

病名	番	住	所	身分	氏	名	發病	月	日	診	定	届	出	轉	歸	病	原	體	主	治	醫

第十三條 市町村長傳染病豫防費ノ補助ヲ申請セムトスルトキハ第六號様式ニ依リ之ヲ知事ニ提出スヘシ  
 第十四條 知事ハ市町村ニ於ケル傳染病豫防費ノ出納及其ノ他ニ關シ實地檢査ヲ爲サシメ又ハ關係ノ書類帳簿等ヲ提出セシムルコトアルヘシ  
 第十五條 市町村長ハ傳染病豫防法第二十一條第五號ニ依リ定メタル手當療治料、遺族扶助料弔祭料ノ額ヲ知事ニ報告スヘシ之ニ變更シタルトキ亦同シ  
 附則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 左ノ訓令ハ之ヲ廢止ス  
 明治二十八年五月訓令第二三號市町村立避病院管理規程  
 明治三十年七月訓令第二九號傳染病豫防法施行手續  
 明治三十五年三月山口縣訓令第二二號市町村傳染病豫防費補助規程施行手續  
 明治三十四年四月山口縣訓令第七號傳染病患者臺帳様式ノ件  
 大正三年二月山口縣訓令第九號清潔方法消毒方法施行ニ關スル手續  
 附則 (大正十五年六月縣訓令第十五號)  
 本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 第一號様式甲

第一號様式乙

病名	番	住	所	身分	氏	名	發病	月	日	診	定	届	出	轉	歸	病	原	體	主	治	醫

〔山口警〕

第三號様式甲

種	目	棟	數	坪	數	單	價	金	額
土地	買	收	費						
同	地	均	費						
病	舍	建	費						
消	毒	場	建	費					
井	戸	堀	鑿	費					
板	塀	建	設	費					
何									

此課  
 一金何程  
 何町傳染病院(隔離病舎)建築費豫算任譯書

第二號様式

病名	番	住	所	身分	氏	名	發病	月	日	診	定	届	出	轉	歸	病	原	體	主	治	醫

検査材料送付書

市町村名

病名	種	別	材	探	取	時	日	月	日	注	意	患	者	別	住	所	氏	名	年	齡	回	數

第四編 衛生 第二章 防疫

第三號様式乙



傳染病豫防法第十條ノ二依リ交付セル手當金	手當金何程
衛生組合費補助金	補助金何程
以上ノ外市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費	看護婦講習手當金何程○傳染病豫防談話會場借上料金何程○何々金何程
合計	

右ノ通相違無之候也

年 月 日

郡(市)町(村)長 氏

名印

知事 宛

備考

- 一 本書ハ一例ヲ示シタルモノニ付總テ之ニ準シ記載スヘシ
- 一 支出ニ伴フ收入明細書ハ本書ノ例ニ準シ記載スヘシ

第六號様式丙

年度傳染病豫防費寄附金(補助金)明細書

費目	金額	事由
建築修繕費		
豫防費		
合計		

第六號様式丁

〔山口警〕

入院(舍)患者調

病名	患者數	入院(舍)患者延日數	
		自宅治療數	入院(舍)數
計			

傳染病豫防委員職務規程

明治四十年九月三日 山口縣訓令第四十九號

町村役場 警察官署 檢疫委員部 (郡)市役所 檢疫委員事務所

傳染病豫防委員職務規程左ノ通定ム

傳染病豫防委員職務規程

- 一 市町村ニ於ケル傳染病院隔離病舍隔離所等ハ常ニ開始スルニ差支ナキ様準備シ置クコト
- 二 消毒人夫患者死者運搬器具消毒藥品ノ供給ニ注意シ常ニ應急ノ準備ヲナシ置クコト
- 三 醫師看護婦ハ何時ニテモ雇傭シ得ラルル様準備シ置クコト
- 四 傳染病院又ハ隔離病舍ヲ開始シタル時ハ患者及死者ノ處置其ノ他ニ從事ス

〔山口警〕

- 切ノ監督ニ從事スルコト
- 五 市町村ノ清潔法及消毒法ノ施行ニ立會且之ヲ持續セシムルコト
- 六 傳染病流行時ニ於テ施行スル清潔方法及消毒方法ノ適否ヲ監督スルコト
- 七 貧民患者ノ救治ニ注意スルコト
- 八 隱蔽患者發見ノ方法ヲ講シ兼テ檢病の視察ヲ行フコト
- 九 隔離ヲ嚴守セシムル爲メ之ヲ監督ヲ勵行スルコト
- 十 傳染病流行地方ヨリ來レルモノニ對シ速ニ健康診斷ヲ爲サシムルコト
- 十一 衛生組合員ヲシテ組合規約ヲ實行セシムルコト
- 十二 衛生組合ヲシテ便宜ノ區域ニ依リ衛生講話又ハ講習ヲ開催セシメ一般衛生思想ヲ喚起セシムルコト
- 十三 前各號ノ外法令ノ規定事項

痘瘡患者發生狀況ニ關スル件

大正八年五月一日 衛第一一四號警察部長指示

爾今痘瘡患者發生ノ際ハ傳染病豫防法令施行手續ニ依ル報告ト同時ニ發病系統、種痘済否等發生概況ヲ報告シ更ニ別紙様式ニ依リ發生後三日以内ニ報告セラルヘシ

痘瘡患者發生狀況表	大正 年 月 日	署 名
本 籍	縣 府 郡 市 町 村 大字	番 屋 敷

第四編 衛生 第二章 防疫

痘瘡患者發生報告方

大正十二年二月十九日 衛第一〇七二號警察部長指示

標記ノ件ニ關シテハ大正八年五月衛第二一四號ヲ以テ指示ノ次第モ有之候處往々之カ報告ノ際患者ノ種痘済否調査洩有之爾今右發生ノ場合ハ必ス患者發病以前ノ種痘年月善不善感ノ別並痘痕ノ明否及其數(右何類左何類)等併テ調査報告セラルヘシ

傳染病豫防救治ニ因ル患死者調査ノ件

大正十三年二月十四日 衛第一四七〇號警察部長指示

其署下大正十二年ニ於ケル標記ノ件ニ關シ左ノ様式ニ因リ至急調査ノ上折返シ報告セラルヘシ 追テ本表ハ毎年一月末日迄ニ報告スヘシ

傳染病豫防救治ニ因ル患者調査表

病名	死				亡				負				傷			
	警部	警部補	技手及 警察醫	巡査	雇	消防員 消防員	人民	合計	警部	警部補	技手及 警察醫	巡査	雇	消防員 消防員	人民	計

豫防接種施行成績報告方

昭和二年十一月二十二日  
衛第一〇六二六號警察部長指示

一、職務上傳染病豫防救治ニ從事セシニ因リ感染シ其死ニ至ラサル者ハ負傷ノ欄ニ記入スヘシ  
 二、本表記載外ノ町村吏員及委員、市町村衛生組合職員、看護婦等其他職務上傳染病豫防救治ニ從事シ感染シタル者アルトキハ其官職名毎ニ目ヲ設ケ記入スヘシ  
 三、警視又ハ技師ニシテ死傷セシ者アルトキハ警視ハ警部ノ欄ニ技師ハ技手及警察醫ノ欄ニ×印ヲ付シテ記入スヘシ

其ノ署管内市町村其ノ他ノ團體ニ於テ法定傳染病(コレラ「赤痢」チフス)「チフテリア」種痘等)豫防接種ヲ施行シタルトキハ自今左記様式ニ依リ毎年自一月 自七月 自十一月ノ三期ニ分チ翌月二十日限リ報告セラルベシ  
 至六月 至十月 至十二月

何々病豫防注射成績表

何々警察署

市町村名	現住人口	豫防接種ノミ	第一回	第二回	反應有無	摘要
何市	至自 月 月	日 日	種人員	種人員	第一回	第二回
何町	至自 月 月	日 日	種人員	種人員	第一回	第二回

【山口書】

流行性腦炎患者報告方

昭和五年四月二日  
衛第二二一一號警察部長指示

標記ノ件内務省へ報告上必要有之ニ付四月五日(土曜日)ニ終ル一週間分ヨリ左記様式ニ依リ週報ヲ以テ翌週水曜迄ニ失期ナク報告セラルベシ

流行性腦炎患者週報

署名

市町村名	患者	死者	本年初發以來累計
計			

備考

- 一、流行ノ状況
- 二、特ニ流行ノ著シキ地方
- 三、豫防措置ノ概要

傳染病々原體保有者發見並菌消失決定報告ノ件

昭和六年一月二十四日  
衛第六一五號警察部長指示

傳染病々原體保有者ノ發見並ニ保有者ニシテ菌消失又ハ發病シタル場合ハ各署長宛

【山口書】

其ノ都度報告可相成再三指示セシ次第モ有之候處從來往々ニシテ之ガ報告遅延シ其ノ筋ハ報告上ノ差支候條爾今發見、發病又ハ消失ノ筋ハ別表様式ニ依リ遅滞ナク報告セラルベシ

第一號様式

病原體名	病原體保有者決定報告				昭和 年 月 日		署名
	住所	身分	職業	氏名	決定月日	決定所名	
進行番號	健康ノ別	決定月日	決定所名	氏名	決定月日	決定所名	備考
第 號	備 考						

備考

(一) 進行番號ハ各病類別ニ更ムルコト  
 (二) 健康病後ノ別欄ハ「健康者又ハ病後者」ト簡單ニ明記ノコト

第二號様式

病原體保有者消失又ハ發病報告		昭和 年 月 日		署名	
病原體名	住所	氏名	年齢	消失又ハ發病月日	決定所名
進行番號	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
備考	検査回数	月日成績	月日成績	月日成績	月日成績

備考 (一) 本表中發病ト稱スルハ健康又ハ病後病原體保有者ニシテ其ノ病症ヲ呈スルニ至リタルモノヲ謂フ  
(二) 検査回数欄中成績ハ陰性、陽性ノ別ヲ記載スルコト

● 傳染病患者發生報告ニ關スル件

昭和六年二月二日 衛第六〇二號警察部長指示

傳染病患者發生報告ニ際シ患者ノ住所職業ハ爾今左記要項ニ據リ記載セテ

〔山口警〕

ルベシ

記

- 住所ハ大字、小字名ヲ記入シ當該市町村内ニ於ケル大體ノ位置ヲ分明シ得ル程度ナルコト
- 職業(職務ヲ含ム)ハ商、工、等ノ總稱會社員職工等ノ略稱ヲ用ヒズ其ノ種類性質、職業上ノ身分、勤務ヲ明ニスベキ細目ノ稱呼ヲ記入スルコト職業ノ種類、性質ヲ明ニスル爲必要ナル場合ニハ加工、原料品、取扱品又ハ生産品ヲモ併セ記入スルコト例ヘバ牧場番人、養蠶教師、樵夫、汲油夫、鑄鐵夫、鑄物工場支配人、金屬旋盤工、木旋盤工、鉸絲工、秤目盛職、車輛木工、造船木工、線絲工、賣藥包裝工、精紡工、機械工、解版工、鞣皮工、指物師、清酒釀造杜氏、煙草葉組工、土木建築請負師、煉瓦積工、瓦斯會社取締役、菓子小賣商、新聞賣子、生絲仲買人、人力車夫、沖仲仕、新聞記者、齒科醫師、活動俳優、理髮師
- 猶官公署以外ノ場所ニ勤務スル者ハ其ノ勤務先ヲ併記スルコト
- 一官公署ニ勤務スル者ハ其ノ官職名ヲ記入スルコト但シ現業ニ從事スル者ハ雇、傭人、工員等ノ名稱ニ止メズ勤務ノ種類性質ヲ明ニスベキ細目ノ稱呼例ヘバ火藥工、植字工、煙草裁割工、道路工夫、電車々掌、機關手、集配手、電話交換手、製圖工、タイピスト、撒水夫等ノ如ク記入スルコト
- 家事ノ爲ニ雇ハレタル者ハ女中、小間使、子守、乳母、書生、抱運轉手、抱車夫等ノ如ク用務ノ種類ヲ記入スルコト
- 製造ト販賣トヲ兼スル者ハ主ナルモノヲ記入スルコト自家ノ製品若クハ加工品ノ全部ヲ小賣スル場合ハ販賣ヲ主トスルモノニシテ米屋、菓子屋、下駄屋、靴屋等ニ其ノ例多シ
- 雇主ノ職業ト其ノ使用人又ハ之ヲ補助スル者ノ職業トハ必シモ一致セ

〔山口警〕

〔山口警〕

- ザル場合アリ例ヘバ菓子販賣店ノ雇人ニシテ菓子ノ製造ニノミ從事スル者ノ職業ハ菓子ノ製造職人ニシテ雇主ノ職業ハ菓子販賣業ナリ
- 従事スル職業ガ二種以上ナルトキハ其ノ主ナルモノヲ記入スルコト
  - 職業ナク收入ニ依リ生計ヲ立ツル者ハ恩給、年金、地代、小作料、公債利子、預金利子、配當金等ノ如ク收入ノ種類ヲ記入スルコト
  - 職業ナク學校ニ通學スル者ハ學校名ヲ記入スルコト
  - 職業ナク收入ナク通學者ニモ非ザル者ハ「無シ」ト記入スルコト

● 傳染病豫防上使用する備品ハ臺帳設備ノ件

明治三十三年九月二十八日 訓甲第二十號

市町村ニ於テ縣稅ノ補助ヲ受ケテ傳染病豫防上ニ使用する備品ヲ購入シタルモノハ左記様式ノ臺帳ニ記載シ増減ノ都度加除スベシ

器具類	子	テ	一	ブ	ル
年月日	摘要受數拂數	現在高	年月日	摘要受數拂數	現在高
何月何日	新調何個	何個	何年月日	新調何個	何個

● 汽車檢疫ノ件

明治三十年七月 衛發第二四七號衛生局長通牒

汽車檢疫ノ件ニ付別紙寫ノ通鐵道局並各私設鐵道會社へ通達候旨通省ヨリ通知有之候此段及御通牒候也

年月日	摘要受數拂數	現在高	年月日	摘要受數拂數	現在高
-----	--------	-----	-----	--------	-----

本臺帳ハ圖書類器械類文具類被服類臥具類雜具等ニ區別座分ケテ爲シ前年ニ廻リ記載スルモノトス

達第七號 七月二十一日 (逕信大臣ヨリ鐵道局へ)

汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルカ爲メ一時乗客ヲ下車セシメ又ハ該車室ノ出入ヲ止メ他ノ停車場マテ乗越サシメタルトキハ其乗客及手荷物ハ檢疫掛員ノ證明ニ依リ無償ニテ乗車切符面ノ停車場ニ送達スベシ

鐵甲第一六五七號 七月二十二日 (逕信省鐵道局長心得ヨリ各鐵道株式會社宛)

汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルカ爲メ一時乗客ヲ下車セシメ又ハ該車室ノ出入ヲ止メ他ノ停車場マテ乗越サシメタルトキハ其乗客及手荷物ハ檢疫掛員ノ證明ニ依リ無償ニテ乗車切符面ノ停車場ニ送達相成度此段及通牒候也

● 旅行中ノ外國公使又ハ其ノ家族

### 雇人傳染病ニ罹リタルトキノ取扱方

明治三十四年五月三十一日  
衛第一三〇五號衛生課長通牒

外國公使又ハ其家族雇人ニ對シ傳染病記防上隔離又ハ交通遮斷ヲ要スル場合ノ處置方ニ關シ別紙寫ノ通り各郡市長へ訓令相成候條御心得置相成度依命此段及通牒候也

明治三十四年五月三十一日  
山口縣訓令衛第八號

外國公使ハ國際公法上衛生及公安警察ノ爲メ設ケタル法令ヲ遵守スヘキ管ナルモ其ノ身體上及執務上ノ完全ナル自由ハ又最モ尊重ヲ要シ候條公使又ハ其家族雇人ニシテ行旅中傳染病ニ罹リ隔離ヲ要シ若ハ其旅館内ニ傳染病患者發生シ交通遮斷ヲ要スル場合ニ於テ豫防方法ノ施行上協議調ヒ難キ時ハ直ニ稟請スヘシ

### 交通遮斷中充員召集令狀ヲ受ケタル場合處置方

明治三十四年十一月七日  
衛發第五八二號衛生課長通牒

傳染病豫防法ニ依リ交通遮斷中ノ軍人又ハ兵役義務者ニシテ充員召集令狀ヲ受ケタル場合ニ於ケル處置方ニ付今般鹿兒島縣ノ照會ニ對シ左記ノ通回答ノ旨其筋ヨリ通知有之候條此段及通牒候也  
鹿兒島縣知事宛衛生局長回答(明治三十四年十一月一日)  
衛甲第六五號

〔山口警〕

容月五日付號外ヲ以テ警部長ヨリ交通遮斷中ニ在ル軍人又ハ兵役義務者ニシテ充員召集令狀ヲ受ケタル場合ニ對スル處置方ニ付御照會ノ趣了承右ハ御見解ノ通り傳染病豫防法ニ依リ一旦交通遮斷ヲ命シタル以上ハ其日時間ハ縱ヒ充員召集令アルモ外出セシムベキモノニアラズト存候條何ノ上此段及回答候也

### 傳染病院隔離病舎收容患者ノ附添人賄料ニ關スル件

大津郡長照會(明治三十五年三月十四日)  
衛第二一九號

傳染病院隔離病舎收容患者ノ附添人賄料ハ傳染病豫防法第二十一條第四號傳染病院隔離病舎隔離所及消毒所ニ關スル諸費ノ範圍内ニ於テ市町村費ヨリ支出可然義ト相考ヘ候ヘ共聊力疑義ニ涉リ候條至急何分御回示相成度此段及照會候也  
山口縣警部長回答(明治三十五年三月)  
本月十日付衛第二一九號ヲ以テ傳染病院隔離病舎收容患者ノ附添人賄料ニ關スル件御照會ノ處右ハ市町村費ヨリ支出スヘキモノト存候此段及回答候也

### 傳染病舎閉鎖中他ノ目的ニ利用ノ件

明治三十七年二月二十六日  
山口縣訓令第十號

土地ノ狀況ニ依リ町村立傳染病院隔離病舎ヲ閉鎖中他ノ目的ニ利用スルハ町村ノ經濟上及建物ノ保存上適當ノ處置ニ付相當利用ノ途ヲ講スヘシ  
前項ノ場合ニ於テハ病毒ノ散逸ヲ豫防スル爲メ消毒方法ヲ嚴行スヘキハ勿論

〔山口警〕

傳染病患者發生ノ際直ニ其ノ利用ヲ中止シ得ヘク患者收容上支障ナキヲ期スヘシ  
第一項ニ依リ他ノ目的ニ利用セムトスルトキハ左ノ各號ヲ具シ豫メ町村長ヨリ郡役所ヲ經當廳ニ報告スヘシ但町村會衛生談話會等短日時間ニ止マルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一、利用ノ目的
- 一、利用ノ期間
- 一、使用料徴收ノ有無及其ノ金額

### 煮沸水使用勵行ニ關スル件

明治四十八年八月六日  
山口縣訓令第四十六號

赤痢腸窒扶私ノ傳播ハ主トシテ飲食物ニ因ルヲ以テ豫防上飲用水及使用水煮沸スルハ最モ緊要ナルニ依リ自今患者發生シタルトキハ之カ收容及消毒ヲ嚴行スルト同時ニ其ノ部落ノ衛生組合又ハ個人ヲ獎勵シ煮沸水使用ヲ勵行セシメテ豫防撲滅ノ實ヲ舉ケムトニ努ムヘシ

### 傳染病豫防ニ關スル件

明治四十年九月三日  
衛第八一七四號警務長通牒

明治四十二年衛第八一九一號、大正三年第一〇四一八號  
各〔郡〕市長 各署長宛  
傳染病豫防方法並煮沸水供給等左ノ方法ニ依リ施行相成タシ

- 一 發病地ヲ豫防區域注意區域ノ二種ニ分ツコト
- 二 前項ノ區域ハ發病時ヨリ少クトモ虎列拉赤痢ニアリテハ五日間腸窒扶

- 九 豫防區域ニハ必ス煮沸水ヲ飲用並ニ使用セシメ注意區域ニハ飲用ノ外可成使用方ヲ獎勵スルコト
- 八 豫防區域注意區域ハ豫メ戶數人口等ヲ調査シ豫防上特ニ注意ヲ嚴密ニスルコト
- 七 病舎ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル井戸ハ必ス消毒方法ヲ行フコト
- 六 豫防區域ノ便所ニハ石灰粉ヲ備ヘ上圖ノ都度投入セシメ且手洗水ハ三十倍ノ石灰水若ハ石灰水ヲ使用セシムルコト
- 五 豫防區域ニハ消毒方法(患家ヲ除ク外便所庖厨下水其他必要ナル箇所ノ局部消毒)ヲ注意區域ニハ清潔方法ヲ施行セシメ其持續ニ努ムシムルコト
- 四 左ニ該當スルモノヲ注意區域トス
  - (イ) 患家ト交通シタル疑ニアルモノ
  - (ロ) 患家附近ノ井戸ヲ使用シタルモノ
  - (ハ) 患家ノ廢水注流スル下水又ハ河川ヲ使用シタルモノ
  - (ニ) 飲食其他發病ノ原因ト認ムヘキ事項ヲ共ニシタルモノ
- 三 左ニ該當スルモノヲ豫防區域トス
  - (イ) 患家及患家ト交通シ病舎傳播ノ虞レアルモノ
  - (ロ) 患家ト井戸又ハ便所ヲ共用シタルモノ
  - (ハ) 患家ノ廢水ノ注流スル下水又ハ河川ヲ使用シタルモノ
  - (ニ) 飲食其他發病ノ原因ト認ムヘキ事項ヲ共ニシタルモノ
- 二 私ニアリテハ二週日前ニ週リ原因系統其他豫防上必要ナル事項ヲ調査シ之ヲ定ムルコト
- 一 左ニ該當スルモノヲ豫防區域トス
  - (イ) 患家ト交通シタル疑ニアルモノ
  - (ロ) 患家附近ノ井戸ヲ使用シタルモノ
  - (ハ) 患家ノ廢水注流スル下水又ハ河川ヲ使用シタルモノ
  - (ニ) 水質不良下水排除不完全ナル部落
  - (ホ) 多人數集散ノ場所
  - (ヘ) 前年流行ノ部落
  - (ト) 物品ノ贈答其他必要ト認ムルモノ



- 十 患者ノ家族ハ虎列拉赤痢ニアリテハ消毒後少クモ五日間腸室扶私ニアツテハ消毒後少クモ三週間毎日一回健康診断ヲ行ヒ患者ノ發見ヲ速クナラシムルコト
- 十一 豫防區域注意區域ハ前項ノ期間毎日一回檢病的戸口調査ヲ行ヒ疑ハシキ患者ハ健康診断ヲ行フコト
- 十二 檢病的戸口調査ハ概ネ左ノ事項ヲ調査スルコト
  - (イ) 罹病者ノ有無(熱性盲者、特ニ便秘若シクハ下痢アルモノ)マラリヤ、弛張熱急性肺炎、急性肋膜炎、急性傷寒質斯、多發性關節炎、腸膜炎、胃腸加答兒、腸加答兒、盲腸炎、直腸炎、直腸加答兒、腸胃炎、腸出血等)
  - (ロ) 輕症下痢ノ發熱等ニ罹リ強テ業務ニ從事スルモノ、有無
  - (ハ) 病死者ノ病症(急性腸膜炎、痙攣、抽搐、心臓麻痺、老衰病、卒中、腸溢血、急性胃腸加答兒、急性腹膜炎、急性肺炎及急性死者等)
  - (ニ) 便所ノ視察
  - (ホ) 勞働者ニシテ故ナク休業スルモノ
  - (ヘ) 小學兒童ノ休學者
  - (ト) 家族及雇人ノ出入
  - (チ) 賣藥及鍼灸術按摩等ノ出入
  - (リ) 禁厭祈禱
  - (ヌ) 病者ニ用ユル飴、片栗、其他滋養品類購入者
  - (ル) 密ニ衣類等ノ洗濯ヲ爲スモノ
  - (ヲ) 有病地ト往復スルモノ
- 十三 患者發生セハ其附近ノ地圖(交通水流井戸等ノ關係ヲ明ニスルヲ要ス)ヲ調製シ當廳ヘノ狀況報告ニ添付スルコト

- 一 患者發生地ハ左ノ方法ニ依リ主トシテ市並ニ町村長ヲシテ煮沸水ノ使用ヲ實行セシムルコト
- 二 煮沸水ノ使用督勵ニ就テハ豫防委員衛生組合長及其役員ヲシテ補助セシムルコト
- 三 煮沸水使用ノ日數ハ患者發生シ煮沸水使用ヲ實行シタル日ヨリ起算シ三週間ヲ以テ一期トス
- 四 期間内新ニ患者ヲ發生シタルトキハ更ニ一期ヲ持續スルコト
- 五 煮沸水供給ノ費途ハ左ノ區別ニ依ラシムルコト
  - (イ) 確實ニ實行シ得ヘキ場合ニ於テハ個人ノ自衛ニ一任シ之ヲ監督スルコト
  - (ロ) 前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ衛生組合ノ負擔トスルコト但シ此ノ場合ニ於テハ可成町村ヨリ適宜補助ヲ爲サシムルコト
  - (ハ) 衛生組合ニシテ充分ナル實行ヲ期シ難シト認ムルトキハ町村ノ負擔トスルコト
- 六 煮沸水使用ヲ實行スルニ先チ其區域内ノ人民ニ對シ懇切ニ左ノ事項ヲ説示スルコト
  - (イ) 虎列拉赤痢腸チフス豫防上最モ確實ナル效果ヲ得ントシテ飲用水使用水ヲ煮沸セシムル理由
  - (ロ) 煮沸水使用ニ對スル諸般ノ注意
  - (ハ) 供給區域内ハ一致共同シテ實行ヲ期スルコト
- 七 煮沸水ノ容器ハ凡テ覆蓋ヲ設ケ柄杓ノ柄ハ水中ニ没入セサル様注意シ容器ハ使用ニ先チ煮沸水ヲ以テ叩き洗滌セシムルコト
- 八 柄杓ハ昆虫類塵芥等ノ附著セサル様注意セシムルコト

〔山口警〕

〔山口警〕

- 八 容器柄杓等ハ凡テ煮沸水用ト生水用トヲ區別セシムルコト
- 九 衛生組合又ハ町村ニ於テ煮沸水ヲ供給スルトキハ左ノ各號ニ依ラシムルコト
  - (イ) 供給區域内ノ井戸ハ封鎖等ノ方法ヲ以テ使用シ得サル様處置スルコト但風呂水牛馬飼料等ニ要スルトキハ監督者立會ノ上一時解放シ直ニ復舊スルコト
  - (ロ) 水質釜場ノ位置釜數容量配付戸數人口等ヲ調査スルコト
  - (ハ) 釜場ニハ監督者ヲ置クコト
  - (ニ) 人夫ニハ清潔ナル被服ヲ著セシムルコト
  - (ホ) 人夫ノ身體殊ニ手ハ時々洗滌シ常ニ清潔ヲ保タシムルコト
  - (ト) 煮沸ハ十分間以上沸騰セシムルコト
  - (チ) 煮沸水供給量ノ最低標準ハ一日一人ニ付凡ソ六升トス
  - (イ) 患者ニハ人夫ヲ入ラシムヘカラス
- 十 煮沸水使用ノ監督ハ村吏員豫防委員又ハ衛生組合員ヲシテ毎日一回以上其ノ區域内ノ各戸ニ就キ左ノ事項ニ注意セシムルコト
  - (イ) 煮沸水供給ノ過不足
  - (ロ) 煮沸水使用ノ適否
  - (ハ) 生水使用有無

●傳染病院隔離病舎ノ管理ニ關スル件

大正元年九月二十二日 衛第二七三九號 檢疫委員長指示

各署長宛

別紙ノ通り各郡市長ニ及通牒置候條其ノ署ニ於テモ監督ノ際注意セラルヘシ

●傳染病患者ノ附添人ニ關スル件

大正元年九月二十八日 衛第二七三九號 檢疫委員長指示

各署長宛

別紙ノ通り各郡市長ニ及通牒置候條其ノ署ニ於テモ該方針ニ依リ措置セラルヘシ

各郡市長宛 (大正元年九月二十八日) 衛第二七三九號

檢疫委員長通牒

傳染病患者ノ附添人ニ關スル件

傳染病院隔離病舎看護婦附添人ノ取締ニ關シ本月二十三日衛第二、七三九號ヲ以テ及通牒置候條爾來尙附添人ノ感染スル者頗ル多ク甚寒心ニ堪ヘサル次第ニ候條今後虎列刺及其ノ疑似患者ニ對シテハ重症ノ幼兒其ノ他特ニ其ノ家人ノ附添ヲ必要トスル場合ノ外ハ患者家族ニ對シ傳染ノ危險アルコトヲ懸念シテ成ヘク附添ハサラシメ其ノ附添ヲ必要トスル場合ニ於テモ一名ヲ超過セサラシメ一面病院病舎ノ看護婦ヲ充實スル様御取計相成度依命此段及通牒候也

●學校幼稚園ニ傳染病患者發生ノ場合ニ於ケル措置方

大正二年九月五日  
衛第三九六七號內務警察兩部長通牒

別紙寫ノ通各縣立學校長及郡市長へ及通牒置候條了知セラレヘシ  
寫

學校幼稚園ニ傳染病患者發生ノ場合ニ於ケル措置方ノ件  
公私立ノ學校幼稚園ニ於テ傳染病患者發生ノ場合ハ明治三十一年九月文部  
省令第二十號(大正十三年九月文部省令第一八號全改)學校傳染病豫防及消  
毒方法ノ規定アルカ爲メ傳染病豫防法ヲ適用セラレサルモノトシ單ニ學校  
ニ於テ豫防消毒方法ヲ施行スルニ止ムル向有之哉ニ候處右ハ當然傳染病豫  
防法ヲ適用セラレヘキモノニ候條此ノ場合ニ於テハ其ノ首長ハ傳染病豫防  
法ニ依リ當該吏員ノ指示ヲ受ケ右文部省令ニ據リ豫防措置ヲ施行スヘキ義  
ニ有之候爲念依命此段及通牒候也

「コレラ」發生ノ場合取扱方

大正五年八月十九日  
衛第六九九七號警察部長指示

各署長宛

虎列拉患者(疑似症ヲ含ム以下同シ)發生ノ場合ハ鏡檢材料トシテ患者若ク  
ハ死者ノ糞便ヲ採取シ迅速送付スヘキ旨ナルニ多數警察官中ニハ今尙ホ其  
取扱方ヲ心得居ラサル向アリ甚シキハ巡查部長ニシテ醫師ト共ニ現場ニ臨  
檢セルニ係ラス全然糞便ノ採取ヲナサザル儘死體ヲ燒却シ爲メニ細菌檢査  
ヲナス能ハサリシ最近ノ實例アリ如此ハ平素部下ノ指導監督ノ不充分ナル  
結果ニシテ虎列拉豫防上看過スヘカラサルコトナルヲ以テ此際特ニ左記取  
扱方ニ付各巡查ニ徹底スヘク訓授ヲナシ防疫上遺策ナキヲ期セラレヘシ  
左記

〔山口警〕

一、虎列拉患者發生若クハ死者アリタル場合ハ必ス糞便ヲ採取スルコト

- 一、糞便ヲ採取スルニハ可成脱脂綿ヲ用ヒルコト
- 一、糞便ノ容器ハ「シヤール」若クハ硝子瓶、貝殼、等ヲ用ヒ採取前熱湯ヲ以テ消毒スルコト
- 一、右容器ヲ消毒スルニ方リ藥品ヲ用ヒサルコト若シ藥品ヲ用ユルトキハ菌ノ死滅スル虞アリ注意ヲ要ス
- 一、迅速送付スルコト若シ徒ニ時間ヲ經過スルトキハ細菌死滅シ陰性ニ終ルコトナシトセス注意ヲ要ス
- 一、糞便容器ヲ多數同時ニ送付スルトキハ被採取者ノ氏名ヲ間違ヘサル様特ニ注意スルコト
- 一、容器ニハ被採取者ノ住所氏名及患者死者若クハ家族同居者等ノ區別ヲ表記スルコト
- 一、糞便ノ採取ハ可成醫師ヲシテ爲サシムルコト但シ警察官立會ノコト
- 一、患者死者ハ勿論病毒感染ノ疑アルモノハ悉ク糞便採取ヲナスコト

大正六年九月七日  
衛第六七六〇號警察部長指示

各署長宛

首標ノ件ニ關シテハ客年八月衛第六九九七號ヲ以テ及指揮置候處尙同指揮ニ依ルノ左記事項了知セラレヘシ

左記

- 一、鏡檢材料送付書ニ一欄ヲ設ケ材料ノ種類トシ例ヘハ疑似虎列拉糞便又ハ吐物腸管扶斯糞便等ノ類ヲ記入スルコト
- 二、疑似虎列拉患者糞便ハ迅速採取送付スヘキ旨ナルニ往々遲延送付シ來ル向アリ從テ檢査材料ニ適セサルモノアリ又患者ノ糞便ハ採取スルモ他ノ交通者等ノ糞便ヲ得ンカ爲メ時間ヲ經過シ送付スル向アリ將來注意ヲ要ス

三、糞便容器包紙ニ是迄氏名記入セル向アリシモ今直接容器ニ氏名ヲ記入貼付スルコト

虎列刺疑似症ニ對シ傳染病豫防法ヲ適用セル場合ニ於ケル取扱方

北海道廳長官照會(大正五年十月七日)

疑似症ニ豫防法ヲ適用シアルヲ以テ臨床上疑似症ト届出アルモノハ檢鏡上陰性ナルモ其レニ依リ虎列刺ニ非ストナシカタク依テ疑似症トシテ存セルナリ

衛生局長回答(大正五年十月九日)

本件ニ關シ本月七日電報御回答相成候處虎列刺疑似症ニ對シ傳染病豫防法ヲ適用スルコトヲ得ル所以ノモノハ豫防上虎列刺ナルヤ否ヤカ決定スル迄ノ間臨機必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得セシムルノ趣旨ナルハ勿論ニ有之從テ本件ノ場合ニ於テハ臨床上疑似症トシテ届出アリタルトキハ之ニ對シ豫防法上ノ處分ヲ爲スハ固ヨリ當然ナルモ鏡檢上陰性ト決定シタル場合ニハ最早豫防法ハ適用スヘカラサル儀ニ有之候條將來御注意相成度

「コレラ」ノ疑アル患者取扱方

大正十一年七月十三日  
衛第四四六六號警察部長指示

各署長宛

首標ノ件ニ付本日別紙ノ通各郡市醫師會長ニ對シ及通牒置候處右ハ從來ノ實例ニ徴スルニ醫師ノ届出ニ係ル疑似症患者ニ對シ探便檢査ノ結果多クハ無菌者ニシテ陰性ト決定セル場合不尠然ニ此ノ間患者ヲ病會ニ收容シ健康

〔山口警〕

者ヲ隔離スル等徒ラニ患者ニ對シ迷惑ヲ蒙ラシムルノミナラス町村ニ於テハ多大ノ經費ヲ消費シ且又地方民心ニ種々疑惑ヲ起サシムル等其ノ弊害ノ及ホス處甚大ナルニ鑑ミ之カ取扱ヒテ改善セントスルノ趣旨ニ外ナラサルヲ以テ今後醫師ヨリ協議アリタル場合ハ患者ニ對シテハ爲念消毒其ノ他豫防上嚴重注意警戒ニ努ムルハ勿論速ニ最寄細菌檢査所ニ糞便送附ノ手續キヲ爲シ右檢便ノ結果ヲ見タル上措置セラレヘシ

(各郡市醫師會長宛警察部長通牒)

從來醫師ヨリ「コレラ」疑似症患者發生ノ届出アリタル場合ニ於テハ直ニ患者ヲ病會ニ收容スルト共ニ一面糞便檢査ヲ行フコトニ取扱ヒ來リ居候處檢査ノ結果未タ判明セサルニ先チ新聞紙上ニ誇大ノ記事ヲ掲載シ或ハ種々ノ風説ヲ流布シ爲ニ萬一陰性ト決定セシ際ノ如キ患者ノ迷惑ハ勿論延テハ地方産業上經濟上ニモ影響スル處尠ナラサル義ニ付傳染系統明ニシテ臨床上「コレラ」ト確認セラレ、モノニ對シテハ從來通ニ取扱フヘキハ勿論ナルモ然ラサル場合ハ自今當分ノ内「コレラ」ノ疑アル患者ニ對シテハ注意患者トシテ一時病會ニ收容ヲ見合セ置キ檢便ノ結果ヲ待テ措置スルコトニ致度就テハ此ノ際右趣旨ヲ貴會員一般ニ徹底候條御通達ノ上今後右等事實アリタル場合ハ所轄警察官署ト協議ノ上先ツ患者ノ糞便ヲ採取シ速ニ最寄細菌檢査所ニ送附ノ上其ノ結果ヲ參酌シ診定相成候條實行ヲ期シ度右御依頼旁及通牒候也

虎列刺豫防撲滅ニ關スル連絡方

大正六年四月五日  
衛第五八號衛生局長通牒

各地方長官宛

虎列刺ノ豫防撲滅ニ關スル施設ヲ爲スニ當リテハ交通其ノ他密接ナル關係ヲ有スル府縣相互連絡ヲ保ツハ最モ緊要ノ事ニ有之候ニ就テハ之ニ關シ主

要ト認ムル事項別紙之通取調候ニ付將來ハ右ニ準シ關係府縣ノ聯絡上遺算ナキヲ期セラレ候様致度  
追テ左記事項取調御回報相成度尙ホ爾後著シキ異動ヲ生シタル場合ハ其ノ都度通報相成度

左記

- 一、漁業及魚類ニ關スル調査
  - イ、各府縣ヨリ漁船ノ集合スル漁業地
  - ロ、漁撈ノ區別、漁期
  - ハ、漁獲物集散ノ系路、殊ニ之カ運搬ノ方法(水路又ハ陸路ノ區別)
  - ニ、漁船ノ主要ナル避難港及集合地ノ狀況
  - ホ、「トロール」船數、主要ナル根據地、漁場、漁期、漁獲物ノ仕向先及

其ノ方法

- 二、各種船舶ノ主要ナル集散地ニ於ケル之カ集散ノ狀況
- 三、内航汽船ノ航路及船舶ノ名稱及乗組員數
- 通報ニ關スル件
  - 一、新ニ市町村ニ患者(疑似菌ヲ認メタルモノヲ含ム)又ハ保育者ヲ發見シタル時ハ直チニ交通其他密接ナル關係ヲ有スル府縣ニ電報又ハ電話ヲ以テ左記事項ヲ通報シ同市町村内ニ於テ續發ノ場合ハ日報ヲ送付スルコト尙ホ續發ノ場合ト雖モ必要ト認ムルトキハ前段ニ依ルコト
  - イ、發見ノ場所(水上又ハ陸上ノ區別ヲ明ニスルコト)
  - ロ、患者保育者數及今後流行ノ見込
  - ハ、系統及豫防上參考トナルヘキ事項
- 二、豫防ニ關スル府縣令、訓令(重要ナル通牒ヲ含ム)ハ制定又ハ改廢ノ都度關係府縣ニ其ノ寫ヲ送付スルコト
- 協定ニ關スル件

山口署

一、他ノ府縣ニ密接ノ關係アル陸上又ハ水上ニ於ケル豫防措置ニ關シテハ其ノ府縣ト協定スルコト

魚市場及魚類ニ關スル件

- 一、魚介類ノ搬入停止ハ其ノ關係府縣ト豫メ協議ノ上發令スルコト
- 二、魚市場及魚類取扱場等ニ於テハ豫防上ノ施設ヲ完全ナラシメ其ノ從業者ニ對シテハ成ルヘク糞便検査及豫防注射ヲ勵行スルコト

船舶及乗組員ニ關スル件

- 一、必要ト認ムル各種船舶ニ便器ノ設備ヲ命シ港内、船溜、河川其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ糞便吐物ノ排泄投棄ヲ禁止スルコト
- 二、必要ト認ムル漁撈從業者及各種船舶乗組員ニ對シテハ成ルヘク糞便検査及豫防注射ヲ勵行スルコト
- 三、各種船舶ノ集合スル場所ニハ良水ノ供給所及相當ノ便所ヲ設置スルコト

- 四、各種船舶ノ集合スル場所ニ患者發生スル等病毒散蔓ノ虞アル場合ハ必要ト認ムル船舶ノ乗組員等ニ對シテハ豫防注射ヲ以前ニ於テ成ルヘク糞便検査ヲ行フコト

他ノ府縣ニ於テ糞便検査ヲ施行シタル者ニ對シテハ特別ノ事情ナキ限り同一人ニ對シ五日以内ニ再ヒ之ヲ行ハサルコト

糞便検査又ハ豫防注射ヲ行ヒタル者ニハ別記様式ノ證書ヲ交付シ必要ニ認シ之ヲ呈示セシムルコト  
(様式省略)

### ●列虎刺豫防上鹽酸水使用ノ可否

ニ關スル件

新潟縣知事照會(大正九年六月十九日)  
衛發第二六二號

山口署

虎列刺豫防消毒ノ爲局方鹽酸ノ一千倍水ヲ使用致度候處右ハ内務省令消毒法中ニ制定シアラサルモ使用差支無之候哉至急何分ノ御指示相成度此段及照會候也

衛生局長回答(大正九年六月二十九日)  
衛新第一六六號

本件ニ關シ本月十九日衛發第二六二號ヲ以テ御照會相成候處右ハ明治三十年内務省令第十三號ニ規定セラレサルモノナルヲ以テ同省令ノ規定ニ依リ藥物消毒ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ之ヲ使用スヘカラサルハ勿論ニ有之候得共其ノ他ノ場合ニ於テハ虎列刺豫防上必要ト認メタルトキハ之ヲ使用スルモ妨ケサル儀ト御承知相成度

### ●町村ニ於ケル傳染病患者ノ取扱

ニ關スル件

和歌山縣知事照會(大正十一年五月十一日)  
衛第二四九二號

管内海草郡内海町内海紡績株式會社ハ過般同會社工場増築ニ際シ敷地狹隘ノ爲メ同會社構内ナルモ寄宿舍ノミヲ隣接ノ日方町領地ニ移轉セルヲ以テ同寄宿舍ニ於テ發生セル傳染病患者ハ傳染病豫防法令ニ依リ當然日方町ニ於テ取扱ヲ爲スヘキモノナルモ内海町ニ主タル工場ヲ有シ而モ同一構内ナルヲ以テ内海町ニ於テ取扱ヲ爲サシムル方便宜ナラント思料スルモ聊カ疑義有之候條何分ノ御回答相煩度此段及照會候也

衛生局長回答(大正十一年五月二十三日)  
衛防第八二〇號

標記ノ件ニ關シ五月十一日衛發第二四九二號ヲ以テ御照會相成候處御同合ノ如キ場合ニ於テハ日方町ニ於テ豫防上必要ナル處置ヲ爲シ又患家ヨリ届出等ハ日方町ノ當該吏員ニ對シテ爲スヘキモノト存候

### ●町村ニ於ケル傳染病患者費用負

第四編 衛生 第二章 防疫

### 擔ニ關スル件

岐阜縣知事照會(大正十五年十二月二十三日)  
衛發第五七六號

町村ニ於ケル傳染病患者費用負擔ニ關シ疑義ノ件

管内惠那郡坂本村居住石工市岡兼吉ナル者本年九月十一日居宅ニ於テ發病シ同月十六日中津町中津川病院ニ來リ診察ヲ需メタル處同院ニ於テハ翌十七日日本人ヲ屬「チフス」患者ト決定シ直ニ中津町役場ニ届出タルヲ以テ同町ハ直ニ現居住地タル坂本村ニ取引方通報シタル處坂本村ハ自己ノ住民ト難認トテ之ニ應セザリシ爲メ一時中津町ノ隔離病舎ニ收容シ其ノ後中津町ハ坂本村ニ對シ其ノ費用ノ負擔ヲ求メタルモ之ニ應セス其ノ後患者ハ治療轉歸ナシタルモ費用負擔ニ付今尙未解決ニ有之候本件ノ如キハ既ニ居住地タル坂本村ニ於テ發病シ居ルモノニシテ中津町ヘハ單ニ診察ヲ需ムル爲ニ來リタルモノニ過キザルヲ以テ患者費用負擔ハ當然坂本村ニ屬スヘキモノト思料候得共聊疑義相生シ候條貴局ノ御意見御回報相煩度關係書類(省略)寫添付此段及照會候也

衛生局長回答(昭和二年一月七日)  
衛防第三一六〇號

町村ニ於ケル傳染病患者ノ費用負擔ニ關スル件回答

大正十五年十二月二十三日衛發第五七六號ヲ以テ標記ノ件ニ付御照會相成候處右ハ傳染病ト決定シタルトキ現實ニ患者ノ在リタル地ノ町村ニ於テ負擔スヘキモノニ付御了知相成度

### 「アメーバ」赤痢ニ傳染病豫防法

ヲ適用シ得ルヤ否ノ件

島根縣知事照會(大正十一年九月八日)  
電報

アメーバ赤痢患者發生ノ場合ハ傳染病豫防法令ヲ適用スヘキモノナリヤ

衛生局長回答(大正十一年九月八日)
アメリバ赤痢ニハ豫防法ヲ適用スヘキモノトス

傳染病豫防法施行規則第十條ノ疑義ノ件

各地方官宛

岡山縣知事照會(大正十一年十一月十八日)
規則第十條ヲ閱讀スルニ同條ハ傳染病豫防法第七條第八條第九條第十條...

一、規則第十條ヲ一讀スルニ傳染病ノ主要症狀消退ノ時ヨリ起算シ赤痢ニ在リテハ十四日腸チフス、バラチフスニ在リテハ二十一日チフテリア、流行性腦脊髄膜炎ニ在リテハ七日ヲ經過セルモノヲ除クノ外法第七條...

山口書

ヲ爲スヘキモノトモ被察候

衛生局長回答(大正十一年十二月二十七日)
標記ノ件ニ關シ客月十八日第一二四四七號ヲ以テ御照會相成候處傳染病...

豫防法施行規則第十條ハ病原體保有者ニ關スル規定ニシテ即チ傳染病ノ治療後ノ病原體保有者ニシテ主要症狀消退ノ時ヨリ起算シ同條所定ノ期間ヲ經過セサル者ニ對シ傳染病患者ト同様ニ取扱ヒ之ニ反シテ右ノ期間ヲ經過シタル病原體保有者及所謂健康保菌者ニ對シテハ傳染病豫防法第七條乃至第九條及第十八條ヲ適用セサルノ趣旨ニ有之候條御了知相成度

傳染病豫防法中格魯布ノ取扱方ニ關スル疑義ノ件

岐阜縣知事照會(大正十二年一月二十日)

傳染病豫防法中左記ノ件疑義相生シ候ニ付テハ貴局ノ御意見拜承致度此段及照會候也
一、今回御改正ニ係ル傳染病豫防法ニ於テハ「チフテリア」病中格魯布ヲ除外サレタルニ付テハ將來格魯布ハ當然同法ノ適用範圍外ナリト思料セラ...

衛生局長回答(大正十二年一月二十六日)

本件ニ關シ本月二十日第二〇〇號ヲ以テ御照會相成候處左記ノ通御了知相成度候

山口書

第一項 改正ノ傳染病豫防法ニ於テ舊法第一條中實布垣里亞ノ下(格魯布)トアルヲ削除セラレタルハ格魯布ハ「チフテリア」ナルニ由ル從テ格魯布ハ「チフテリア」トシテ當然豫防法ヲ適用スヘキモノニ有之候

傳染病豫防法第二十一條ノ疑義ニ關スル件

關所宛

千葉縣知事照會(大正十四年九月三十日)
傳染病豫防法第二十一條第六號ノ解釋ニ關シ左ノ通聊カ疑義相生シ候條御意見承知致度此段及照會候也

一、前記第六號ニ依ル交通遮斷隔離中ノ者ニシテ自活シ能ハサル者ノ生計費ハ市町村傳染病豫防費ヲ以テ支出シ得ヘキハ際ナリト雖其ノ解除後ニ於テモ當分ノ間糞ニ交通遮斷隔離ヲ受ケタルノ故ヲ以テ他人ニ嫌疑セラレ爲ニ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ニ對シテハ前記規定ニ依リ同様市町村ニ於テ負擔シ得ヘク從テ縣ニ於テ之ニ基キ傳染病豫防費補助ヲ支出シ得ヘキヤ

衛生局長回答(大正十四年十月二十七日)

傳染病豫防法中疑義ニ關スル件
九月三十日第七一三號ヲ以テ標記ノ件ニ付御照會相成候處右傳染病豫防法第二十一條第六號ノ「又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサルモノノ生活費」トハ漁撈其他河海水ノ使用停止、物件ノ搬出入停止、又ハ興業禁止等ノ如キ現ニ法律ニ因ル禁止處分アル場合ニ限り之ニ因リ一時營業ヲ失ヒ

第四編 衛生 第二章 防疫

自活シ能ハサル者ノ生活費ノ謂ニシテ自然御例示ノ如キ場合ノ生活費ハ本項ニ該當セサル儀ト存候條御了知相成度

傳染病豫防法第十一條埋葬ノ疑義ニ關スル件

福井縣知事照會(昭和四年一月十日)

傳染病豫防法第十一條ノ所謂埋葬トハ土葬及火葬ヲ含ム義ト存候得共墓地及埋葬規則第三條ニハ埋葬ト火葬トヲ明ニ區別セルヲ以テ聊カ疑義相生シ候ニ付貴局ノ御意見拜承致度此段及照會候也

衛生局長回答(昭和四年一月十七日)

傳染病豫防法第十一條埋葬ノ疑義ニ關スル件
標記ノ件ニ付一月十日第六六號ヲ以テ照會相成候處傳染病豫防法第十一條ニ所謂埋葬トハ火葬ヲモ含ム義ト存候條御了知相成度

病原菌等郵送方

大正五年十二月五日

病原菌等ノ郵送ニ關シテハ從來郵便物包裝規則第十一條ニヨリ硝子壺等ヲ用フルヲ要シ候處客月十一日逓信省令第五十九號ヲ以テ竹筒ヲ用フルコトヲ得ルコトニ改正相成候條了知セラレシ
追テ郵送ノ際ニ細菌検査材料タルコトヲ表示スル爲メ表裏見易キ筒所ニ「檢」ノ字ヲ朱書スヘシ

傳染病患者診定ニ付病原體検査

ノ件

大正十二年八月十四日  
衛第六五三號警察部長通牒

各(郡)市長宛

傳染病豫防法施行細則第九條ニ依リ警察官署長又ハ檢疫委員ニ於テ腸「チフス」患者ノ早期診斷上必要ト認ムル時ハ左記採取心得ニ依リ檢査材料ヲ採取シ別紙様式ノ送付書ヲ添ヘ最寄細菌檢査所ヘ送付相成度

採取心得

- 一、發病後一週間以内ノモノハ血液ニ五以上ヲ採取シ豫テ配付セル早期診斷用サボニン培養基管内ニ容レ檢査所ヘ送致スルコト(發病後十日位迄ハ糞便中ヨリ病原菌ヲ檢出スル場合稀ナレハナリ)
- 二、發病後一週日以上二週日迄ノ者ニ對シテハ發泡液ヲ採取シ清潔ナル壺又ハ試験管ニ容レ送致スルコト
- 三、發病後第三週日以上經過ノモノハ發泡液又ハ糞便若ハ尿ヲ採取シ前號同様ニ取扱フコト

診斷用檢査材料送付書

何署長(又ハ檢疫委員某)

病原體名	發病月日	材料種別	採取月日	住	所患者氏名	年齢	備考
備考	備考ニハ既發患者トノ關係又ハ職業等ヲ記載スルコト						

●細菌檢査結果通知ノ件

昭和三年一月十八日  
衛第三三八號警察部長指示

下開、柳井、宇部、葦園檢査所宛

傳染病豫防法施行細則第五條ニ依リ細菌檢査ノ結果通知ハ從來市町村長ノ

〔山口警〕

ミニ通知シ居リタルモ自今所轄警察署長ヘモ同様警察電話ヲ以テ通知ヲ爲スコトニ取扱ハルヘシ

追テ柳井細菌檢査所ニ在リテハ本郷警察署ニ通知スル際ハ便宜書面ヲ以テ通知セラレハシ

●細菌檢査成績通知方

昭和三年一月二十日  
衛第四〇九號警察部長指示

各署長宛

傳染病豫防法施行細則第五條ニ依リ檢査成績ハ從來當該市町村長ニノミ通知シ居タルガ今後ハ市町村長ニ通知ト同時ニ所轄警察署ヘモ便宜ノ方法ニ據リ通知スルコトニ相成候條可然御了知相成度

追テ該通知ニ依リ直ニ轉歸(治癒)シタルモノト看做スコトナク患者臺帳ハ從來通り市町村長ヨリ届出テタル轉歸月日ニ因リ整理相成度爲念申添候

●檢査材料送付書様式ノ件

昭和三年三月十三日  
衛第一三五五號警察部長指示

各署長宛

首題ノ件ニ付別紙ノ通り市町村長宛通牒セルニ付了知相成度  
衛第一三五五號  
昭和三年三月九日

警察部長

各市町村長宛

檢査材料送付書様式ノ件通牒

昨年十二月六日衛第一〇九〇一號ヲ以テ通牒ノ赤痢「チフス」豫防計劃ニ

〔山口警〕

基ク病原體保有者檢査並ニ菌型調査其他ノ爲メ送付スル同送付書ハ別紙様式ニ依リ報告相成度及通牒候也

〔病後保菌者〕檢査材料送付書

(市町村名)

病名	治癒月日	材料名	採取月日時	住	所	職業	戸主ト續柄	氏名	年齢	回数
健康保菌者										

〔健康保菌者〕檢査材料送付書

(請求者名)

病名	檢査ト必要トスル理由	材料名	採取月日時	住	所	職業	戸主ト續柄	氏名	年齢	回数
健康保菌者										

備考

〔檢査ト必要トスル理由若ハ關係欄ニハ患者ノ家族、同居者、共同井戸使用者、便所共用者、其ノ他密接ナル交通關係者等ヲ記入スベシ  
〔注意患者〕檢査材料送付書  
(檢査請求者名)

病名	發病月日	材料名	採取月日時	住	所	職業	戸主ト續柄	氏名	年齢	回数
健康保菌者										

備考

備考トシテ既發患者トノ關係(交通、同居者、家族共同井戸使用者、便

所共用者、河流ノ關係)並ニ現在ノ症狀等ヲ記載スベシ

〔菌型調査〕檢査材料送付書

(市町村名)

發病月日	材料名	採取月日時	住	所	職業	戸主ト續柄	氏名	年齢	回数

●細菌學の檢査狀況月報ノ件

昭和三年十二月一日  
衛第九六六三號警察部長指示

各細菌檢査所宛

標記ノ件ニ關シテハ從來大正十一年一月十七日衛第二三七號ニ基キ報告有之候處之ヲ廢シ爾今別紙様式ニ依リ當月分ヲ翌月十日迄ニ遲滞ナク報告セラレハシ

月分細菌學の檢査其ノ他成績報告

年月日

其ノ一 法定傳染病檢査數

種別	コレラ	赤痢	腸チフス	バラチフ	チフテリ	流腦	計
檢査數							
陽性							
陰性							

一、本表ハ檢査數ヲ以テ計上シ人員數ヲ以テ計上スベカラズ  
二、本表中陽性ノモノニアリテハ決定月日、檢査セン病名住所氏名並ニ材料種別、發見ノ原因(即チ主要病狀消退後ノ檢査ノ病後保菌者ノ檢査、健康保菌者ノ檢査、又ハ診斷學的檢査等ノ別)ヲ摘要欄ニ明記スベシ

其ノ二 赤痢(チフス)材料別検査數

種別	尿		血清又ハ血液		發泡液		サポニン又ハ膽汁		總計
	検査數	陽性	検査數	陽性	検査數	陽性	検査數	陽性	
赤痢									
陽チフス									
バラチフス									
計									

要摘 一本表合計數ハ其ノ一表本病數ト符合スルコト

其ノ三 赤痢(チフス)回数別検査數

赤痢	検査數	主要症狀消退後検査						病後保菌者検査						健康保菌者検査						診斷學的検査					
		一回	二回	三回	四回	五回	六回	一回	二回	三回	四回	五回	六回	一回	二回	三回	四回	五回	六回	一回	二回	三回	四回	五回	六回
陰性																									
陽性																									
計																									

要摘 一本表合計數ハ其ノ一表本病數ト符合スルコト

〔山口警〕

〔山口警〕

計	検査數		パラチ		陰性
	陰性	陽性	陰性	陽性	
陰性					
陽性					
検査數					

摘要 一、本表合計數ハ其ノ一表本病數ト符合スルコト  
 二、本表中主要症狀消退後ノ検査トハ傳染病豫防法施行規則第十條ニ依リ經過ヲ要スル期間内ニ於テ同則第八條第九條ニ依リ検査ヲ申請セシモノヲ、病後保菌者検査トハ患者ニシテ治療退院(舎)後ニ於ケル保菌検査ヲ、健康保菌者検査トハ健康者ニシテ保菌検査ヲ、診斷學的検査トハ注意患者其ノ他診斷的検査ヲ行ヒタルモノトス  
 其ノ四 法定傳染病以外ノ細菌學的其ノ他検査數

種別	検査數	陰性		陽性	
		陰性	陽性	陰性	陽性
十二指腸蟲					
蛔蟲卵					
結核菌					
淋菌					
菌					
ワツセルマ					
ン氏反應					
炭疽					
狂犬病					
何々					
計					

井戸ノ消毒方法ニ關スル件

明治四十年十月四日  
衛第一二〇八二號檢疫委員長指示

各(郡)市長 警察署長宛

井戸ノ消毒ハ左ノ方法ニ依リ施行相成タシ  
一 水量五十分ノ一ノ生石灰ヲ乳狀トシテ投入シ能ク攪拌ノ後十二時間以上  
放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リテ熱蒸汽ヲ通シ三十分以上沸騰スヘシ(十三  
年五月内務省令第十三號)

石灰量一覽

深サ	直徑	二尺	二尺五寸	三尺	三尺五寸	四尺
二尺	二尺	二、九二	四、五七	六、五七	八、九五	一一、六九
三尺	三尺	三、六五	五、七一	八、二二	一一、一八	一四、六一
四尺	四尺	四、三八	六、八五	九、八六	一二、四二	一七、五三
五尺	五尺	五、一一	七、九二	一一、五〇	一五、六六	二〇、四五
六尺	六尺	六、四四	九、一三	一三、一五	一七、九〇	二三、三七
七尺	七尺	七、三〇	一〇、二七	一四、七九	二〇、一三	二六、三〇
八尺	八尺	八、〇三	一一、四一	一六、四三	二二、三七	二九、二二
九尺	九尺	八、七七	一二、五五	一八、〇八	二四、六一	三一、一四
一丈	一丈	九、五〇	一三、七〇	一九、七二	二六、八四	三三、〇六
一丈一尺	一丈一尺	一〇、二六	一四、八四	二一、三六	二九、〇八	三七、九八
一丈二尺	一丈二尺	一〇、九六	一五、九八	二二、〇一	三〇、三二	三九、〇〇
一丈三尺	一丈三尺	一一、六九	一七、一二	二三、〇一	三一、三二	四〇、九〇
一丈四尺	一丈四尺	一二、四二	一八、二六	二四、六五	三三、五五	四三、八三
一丈五尺	一丈五尺	一三、一五	一九、四〇	二六、三〇	三五、七九	四六、七五
一丈六尺	一丈六尺	一三、八八	二〇、五四	二七、九四	三八、〇三	四九、六七
一丈七尺	一丈七尺	一四、六一	二一、六八	二九、五八	四〇、二六	五二、五九
一丈八尺	一丈八尺	一五、一七	二二、八三	三一、二三	四二、五〇	五五、五一
一丈九尺	一丈九尺	一五、七四	二三、九八	三二、八七	四四、七四	五八、四三
二丈	二丈	一六、三〇	二五、一三	三四、五二	四六、九八	六一、三九
二丈一尺	二丈一尺	一六、八七	二六、二八	三六、二〇	四八、二六	六四、三五
二丈二尺	二丈二尺	一七、四四	二七、四三	三七、八五	四九、五二	六七、二五
二丈三尺	二丈三尺	一八、〇一	二八、六二	三九、四七	五一、一八	七〇、一五
二丈四尺	二丈四尺	一八、五八	二九、八一	四一、一三	五二、八四	七三、〇九
二丈五尺	二丈五尺	一九、一五	三一、〇〇	四二、八〇	五四、五〇	七五、九八
二丈六尺	二丈六尺	一九、七二	三二、一七	四四、四七	五六、二一	七八、八七
二丈七尺	二丈七尺	二〇、二九	三三、三四	四六、一四	五七、九二	八一、七七
二丈八尺	二丈八尺	二〇、八六	三四、五一	四七、八一	五九、六二	八四、六八
二丈九尺	二丈九尺	二一、四三	三五、六八	四九、五二	六一、三三	八七、五九
三丈	三丈	二二、〇〇	三六、五五	五一、二四	五三、〇四	九〇、五〇
三丈一尺	三丈一尺	二二、五七	三七、四二	五二、九五	五四、七五	九三、四一
三丈二尺	三丈二尺	二三、一四	三八、二九	五四、八六	五六、五六	九六、三二
三丈三尺	三丈三尺	二三、七一	三九、一六	五六、七七	五八、三七	九九、二三
三丈四尺	三丈四尺	二四、三三	四〇、〇三	五八、八八	六〇、四二	一〇二、一四
三丈五尺	三丈五尺	二四、九〇	四〇、九〇	六〇、三九	六二、五三	一〇五、〇五
三丈六尺	三丈六尺	二五、四七	四一、七七	六二、三〇	六四、六四	一〇七、九六
三丈七尺	三丈七尺	二六、〇四	四二、六四	六四、二一	六六、七五	一一〇、八七
三丈八尺	三丈八尺	二六、六一	四三、五一	六六、一二	六八、八六	一一三、七八
三丈九尺	三丈九尺	二六、一八	四四、〇二	六八、〇三	七〇、九七	一一六、六九
四丈	四丈	二七、二五	四四、九三	七〇、一四	七二、〇八	一二〇、五〇
四丈一尺	四丈一尺	二七、八二	四五、八四	七二、二五	七四、一九	一二三、四一
四丈二尺	四丈二尺	二八、三九	四六、七五	七四、三六	七六、一四	一二六、三二
四丈三尺	四丈三尺	二八、九六	四七、六六	七六、四三	七八、二五	一二九、二三
四丈四尺	四丈四尺	二九、五三	四八、五七	七八、五〇	八〇、三六	一三二、一四
四丈五尺	四丈五尺	三〇、一〇	四九、四八	八〇、五七	八二、四七	一三五、〇五
四丈六尺	四丈六尺	三〇、六七	五〇、三九	八二、六八	八四、五八	一三八、九六
四丈七尺	四丈七尺	三一、二四	五一、三〇	八四、七九	八六、六九	一四一、八七
四丈八尺	四丈八尺	三一、八一	五二、二一	八六、九〇	八八、八〇	一四四、七八
四丈九尺	四丈九尺	三二、三八	五三、一二	八九、〇一	九〇、九一	一四七、六九
五丈	五丈	三二、九五	五四、〇三	九一、一二	九三、〇二	一五〇、六〇
五丈一尺	五丈一尺	三三、五二	五四、九四	九三、二三	九五、一三	一五三、五一
五丈二尺	五丈二尺	三四、〇九	五五、八五	九五、三四	九七、二四	一五六、四二
五丈三尺	五丈三尺	三四、六六	五六、七六	九七、四五	九九、三五	一五九、三三
五丈四尺	五丈四尺	三五、二三	五七、六七	九九、五六	一〇一、四六	一六二、二四
五丈五尺	五丈五尺	三六、八〇	五八、五八	一〇一、六七	一〇三、五七	一六五、一五
五丈六尺	五丈六尺	三七、三七	五九、四九	一〇三、七八	一〇五、六八	一六八、〇六
五丈七尺	五丈七尺	三八、九四	六〇、四〇	一〇五、八九	一〇七、七九	一七〇、九七
五丈八尺	五丈八尺	三九、五一	六一、三一	一〇七、九〇	一〇九、九〇	一七三、八八
五丈九尺	五丈九尺	四〇、〇八	六一、二二	一〇九、〇一	一一一、〇一	一七六、七九
六丈	六丈	四〇、六五	六二、一三	一一一、一二	一一三、一二	一七九、七〇
六丈一尺	六丈一尺	四一、二二	六三、〇四	一一三、二三	一一五、二三	一八二、六一
六丈二尺	六丈二尺	四一、七九	六三、九五	一一五、三四	一一七、三四	一八五、五二
六丈三尺	六丈三尺	四二、三六	六四、〇六	一一七、四五	一二〇、四五	一八八、四三
六丈四尺	六丈四尺	四二、九三	六四、九七	一二〇、五六	一二二、五六	一九一、三四
六丈五尺	六丈五尺	四三、五〇	六五、八八	一二二、六七	一二四、六七	一九四、二五
六丈六尺	六丈六尺	四四、〇七	六六、七九	一二四、七八	一二六、七八	一九七、一六
六丈七尺	六丈七尺	四四、六四	六七、七〇	一二六、八九	一二八、八九	二〇〇、〇七
六丈八尺	六丈八尺	四五、二一	六八、六一	一二八、〇〇	一三〇、〇〇	二〇二、九八
六丈九尺	六丈九尺	四五、七八	六八、五二	一二九、一一	一三二、一一	二〇五、八九
七丈	七丈	四六、三五	六九、四三	一三〇、二二	一三四、二二	二〇八、八〇
七丈一尺	七丈一尺	四七、九二	七〇、三四	一三二、三三	一三六、三三	二一一、七一
七丈二尺	七丈二尺	四八、四九	七一、二五	一三四、四四	一三八、四四	二一四、六二
七丈三尺	七丈三尺	四九、〇六	七二、一六	一三六、五五	一四〇、五五	二一七、五三
七丈四尺	七丈四尺	四九、六三	七三、〇七	一三八、六六	一四二、六六	二二〇、四四
七丈五尺	七丈五尺	五〇、二〇	七三、九八	一四〇、七七	一四四、七七	二二三、三五
七丈六尺	七丈六尺	五〇、七七	七四、八九	一四二、八八	一四六、八八	二二六、二六
七丈七尺	七丈七尺	五一、三四	七五、八〇	一四四、九九	一四九、九九	二二九、一七
七丈八尺	七丈八尺	五一、九一	七六、七一	一四六、一〇	一五二、一〇	二三二、〇八
七丈九尺	七丈九尺	五二、四八	七七、六二	一四八、二一	一五四、二一	二三四、九九
八丈	八丈	五三、〇五	七八、五三	一五〇、三二	一五六、三二	二三七、九〇
八丈一尺	八丈一尺	五三、六二	七八、四四	一五二、四三	一五八、四三	二四〇、八〇
八丈二尺	八丈二尺	五四、一九	七九、三五	一五四、五四	一六〇、五四	二四三、七一
八丈三尺	八丈三尺	五五、二六	八〇、二六	一五六、六五	一六二、六五	二四六、六二
八丈四尺	八丈四尺	五五、八三	八〇、一七	一五八、七六	一六四、七六	二四九、五三
八丈五尺	八丈五尺	五六、四〇	八一、〇八	一六〇、八七	一六六、八七	二五二、四四
八丈六尺	八丈六尺	五六、九七	八一、九九	一六二、九八	一六九、九八	二五五、三五
八丈七尺	八丈七尺	五七、五四	八二、九〇	一六五、〇九	一七二、〇九	二五八、二六
八丈八尺	八丈八尺	五八、一一	八三、八一	一六七、二〇	一七四、二〇	二六一、一七
八丈九尺	八丈九尺	五八、六八	八四、七二	一六九、三一	一七六、三一	二六四、〇八
九丈	九丈	五九、二五	八五、六三	一七一、四二	一七八、四二	二六六、九九
九丈一尺	九丈一尺	五九、八二	八六、五四	一七三、五三	一八〇、五三	二六九、九〇
九丈二尺	九丈二尺	六〇、三九	八七、四五	一七五、六四	一八二、六四	二七二、八〇
九丈三尺	九丈三尺	六〇、九六	八八、四六	一七七、七五	一八四、七五	二七五、七一
九丈四尺	九丈四尺	六一、五三	八九、三七	一七九、八六	一八六、八六	二七八、六二
九丈五尺	九丈五尺	六二、一〇	九〇、二八	一八一、九七	一八八、九七	二八一、五三
九丈六尺	九丈六尺	六二、六七	九一、一九	一八四、〇八	一九一、〇八	二八四、四四
九丈七尺	九丈七尺	六三、二四	九二、一〇	一八六、一九	一九三、一九	二八七、三五
九丈八尺	九丈八尺	六三、八一	九三、〇一	一八八、三〇	一九五、三〇	二九〇、二六
九丈九尺	九丈九尺	六四、三八	九三、九二	一九〇、四一	一九七、四一	二九三、一七
十丈	十丈	六五、四五	九四、八三	一九二、五二	一九九、五二	二九六、〇八
十丈一尺	十丈一尺	六六、〇二	九五、七四	一九四、六三	二〇一、六三	二九八、九九
十丈二尺	十丈二尺	六六、五九	九六、六五	一九六、七四	二〇三、七四	三〇一、九〇
十丈三尺	十丈三尺	六七、一六	九七、五六	一九八、八五	二〇五、八五	三〇四、八〇
十丈四尺	十丈四尺	六七、七三	九八、四六	二〇〇、九六	二〇七、九六	三〇七、七一
十丈五尺	十丈五尺	六八、三〇	九九、三七	二〇二、〇七	二一〇、〇七	三一一、〇二
十丈六尺	十丈六尺	六八、八七	一〇〇、二八	二〇四、一八	二一二、一八	三一三、九三
十丈七尺	十丈七尺	六九、四四	一〇一、一九	二〇六、二九	二一三、二九	三一六、八四
十丈八尺	十丈八尺	六九、〇一	一〇二、一〇	二〇八、四〇	二一五、四〇	三一九、七五
十丈九尺	十丈九尺	七〇、五八	一〇三、〇一	二一〇、五一	二一七、五一	三二二、六六
十一丈	十一丈	七一、一五	一〇四、一二	二一二、六二	二一九、六二	三二五、五七
十一丈一尺	十一丈一尺	七一、七二	一〇五、〇三	二一三、七三	二二一、七三	三二八、四八
十一丈二尺	十一丈二尺	七二、二九	一〇六、一四	二一五、八四	二二三、八四	三三一、三九
十一丈三尺	十一丈三尺	七二、八六	一〇七、二五	二一七、九五	二二五、九五	三三四、三〇
十一丈四尺	十一丈四尺	七三、四三	一〇八、三六	二一九、〇六	二二七、〇六	三三六、二一
十一丈五尺	十一丈五尺	七四、〇〇	一〇九、四七	二二一、一七	二二九、一七	三三九、一二
十一丈六尺	十一丈六尺	七四、五七	一〇一、〇八	二二三、二八	二三一、二八	三四二、〇三
十一丈七尺	十一丈七尺	七五、一四	一〇二、一九	二二五、三九	二三三、三九	三四四、九四
十一丈八尺	十一丈八尺	七五、七一	一〇三、三〇	二二七、五〇	二三五、五〇	三四七、八五
十一丈九尺	十一丈九尺	七六、二八	一〇四、四一	二二九、六一	二三七、六一	三五〇、七六
十二丈	十二丈	七六、八五	一〇五、五二	二三一、七二	二三九、七二	三五三、六七
十二丈一尺	十二丈一尺	七七、四二	一〇六、六三	二三三、八三	二四一、八三	三五六、五八
十二丈二尺	十二丈二尺	七七、九九	一〇七、七四	二三五、九四	二四三、九四	三五九、四九
十二丈三尺	十二丈三尺	七八、五六	一〇八、八五	二三八、〇五	二四六、〇五	三六二、四〇
十二丈四尺	十二丈四尺	七八、一三	一〇九、九六	二四〇、一六	二四八、一六	三六五、三一
十二丈五尺	十二丈五尺	七八、七〇	一一一、〇七	二四二、二七	二五〇、二七	三六八、二二
十二丈六尺	十二丈六尺	七九、二七	一一二、一八	二四四、三八	二五二、三八	三七一、一三
十二丈七尺	十二丈七尺	七九、八四	一一三、二九	二四六、四九	二五四、四九	三七〇、〇四
十二丈八尺	十二丈八尺	八〇、四一	一一四、四〇	二四八、六〇	二五六、六〇	三七二、九五
十二丈九尺	十二丈九尺	八〇、九八	一一五、五一	二五〇、七一	二五八、七一	三七五、八六
十三丈	十三丈	八一、五五	一一六、五二	二五二、八二	二六〇、八二	三七八、七七
十三丈一尺	十三丈一尺	八二、一二	一一七、六三	二五四、九三	二六二、九三	三八一、六八
十三丈二尺	十三丈二尺	八二、六九	一一八、七四	二五六、〇四	二六五、〇四	三八四、五九
十三丈三尺	十三丈三尺	八三、二六	一一九、八五	二五八、一五	二六七、一五	三八七、五〇
十三丈四尺	十三丈四尺	八三、八三	一二〇、九六	二六〇、二六	二六九、二六	三九〇、四一
十三丈五尺	十三丈五尺	八四、四〇	一二二、〇七	二六二、三七	二七一、三七	三九三、三二
十三丈六尺	十三丈六尺	八四、九七	一二三、一八	二六四、三八	二七三、三八	三九六、二三
十三丈七尺	十三丈七尺	八五、五四	一二四、二九	二六六、四九	二七五、四九	三九九、一四
十三丈八尺	十三丈八尺	八五、一一	一二五、四〇	二六八、六〇	二七七、六〇	四〇二、〇五
十三丈九尺	十三丈九尺	八六、六八	一二六、五一	二七〇、七一	二七九、七一	四〇四、九六
十四丈	十四丈	八七、二五	一二七、五二	二七二、八二	二八一、八二	四〇七、八七
十四丈一尺	十四丈一尺	八七、八二	一二八、六三	二七四、九三	二八三、九三	四一〇、七八
十四丈二尺	十四丈二尺	八八、三九	一二九、七四	二七六、〇四	二八六、〇四	四一三、六九
十四丈三尺	十四丈三尺	八八、九六	一三〇、八五	二七八、一五	二八八、一五	四一六、六〇
十四丈四尺	十四丈四尺	八九、五三	一三一、九六	二八〇、二六		

井水消毒方

大正十二年十一月六日 衛第八七九四號警察部長指示

各郡市長 警察署長宛

本縣ニ於ケル腸「チフス」、赤痢患者ハ年々増加ノ傾向ヲ示シ殊ニ本年ニ至リテハ頓ニ著シク其ノ現象ヲ見ルハ洵ニ遺憾トスル所ニシテ之カ誘因系統等ニ關シテハ種々アリト雖モ之等消化器傳染病ノ感染経路ハ飲料水ニ基クモノ尠カラサルニ付患者發生ノ場合ハ勿論平素ニ於テモ豫メ井水ノ消毒ヲ勵行シ以テ豫防撲滅ノ目的ヲ達スルコトニ努メ度候條此際町村役場、衛生組合等ヲシテ別表ヲ可成各戸ニ配付セシメ徹底的ニ之カ實行ヲ期スヘク様相當御取計ヒ相成度(相當取計ハルヘシ)

井戸の水量と漂白(クローロカルキ)の使用分量一覽表

Table with 6 columns: 口径 (井戸口径), 水量 (水量), 漂白粉 (漂白粉), 漂白粉 (漂白粉), 漂白粉 (漂白粉), 漂白粉 (漂白粉). Rows include 2R, 3R, 4R, 5R, 6R, 7R, 8R.

〔山口警〕

Table with 2 columns: 口径 (口径), 漂白粉 (漂白粉). Rows include 9R, 10R, 12R, 14R.

備考

一、消毒劑ノ拵ヘ方

漂白粉(クローロ)石灰又ハ「クローロカルキ」トモ云フ(十匁ヲ先ツ「ビール」瓶ニ溶カシ能ク振り混セテ堅ク栓ヲ爲シ置クコト一度一ガ「セ」ニテ濾セバ尙良シ

二、分量

井戸水十石ニ對シ漂白粉(晒粉)約三匁(前記ビール瓶ニ溶シタルモノナレバ之ノ約三分ノ一)ヲ投入シ釣瓶ヲ動カシテ能ク水ニ混ジ置クコト

三、效果

消毒劑ヲ入レテ三十分間以上經テハ消毒ノ效果アルヲ以テ其ノ儘飲ムモ差支ナシ暫クノ間ハ少シク臭氣アルモ決シテ害ナシ時間ガ經テバ漸次消失ス

四、消毒回数

一日ニ二回(午前六時午後九時ノ二回)ニ入ルレバ確實ナリ梅雨期ハ雨水杯ノ浸入スル井戸デハ毎日消毒スルヲ可トス

五、注意

漂白粉ノ消毒力ハ有效鹽素ノ百萬分ノ一ニテ充分ナレバ一度二分量ヲ餘分ニ入ル、必要ナシ

〔山口警〕

六、傳染病豫防法施行規則第二十六條第十二號ニ依ル消毒ノ場合ハ所要消毒量ノ匁數ニ「十六」ヲ乘ジタル量ヲ用ユベシ

山口縣衛生課

内務省實驗所考案改良便所ノ普及ニ關スル件

昭和四年五月一日 衛第三五六七號警察部長指示

各署長宛

從來本縣ニ於ケル傳染病ノ大半ハ消化器系傳染病ナリシカ其ノ内近年著シク減少シタルハ腸「チフス」ナルモ尙多數ノ消化器系傳染病ヲ出セル狀況ニ在ルヲ以テ本縣ノ傳染病豫防撲滅ハ主トシテ消化器傳染病ナラサルヘカラサル所以ニシテ固ヨリ從來トモ豫防注射其ノ他ノ方法ニ依リ銳意盡瘁シ來リタルモ其ノ根本的施設タル上下水道ノ完備糞尿ノ理想的處分等ニ至リテハ未タ其ノ域ニ達セサル遠キモノ有之候然共最近醫學ニ豫防醫學ノ異常ナル進展ハ遂ニ之等ノ根本的施設ノ急務ナルヲ要求シテ止マザルモノアリ本縣亦夙ニ意ヲ注シ飲料水並ニ便所ノ改善ヲ圖リ就中糞尿處分ニ付テハ所謂内務省實驗所考案改良便所ノ普及ニ努メタルモ未タ所期ノ目的ヲ達スルニ至ラサルハ洵ニ遺憾ノ極ミニ有之候就テハ之カ實現ヲ期スル爲爾今左記方法ニ依リ普及徹底ニ努メ其ノ狀況ハ別表ニ依リ改良便所築造ノ都度報告セラルヘシ

追テ本年四月三十日現在ニ於ケル改良便所設置數調査ノ上別表ニ準シ折返シ報告相成度申添候

左記

一、町村役場、信用組合其ノ他團體事務所ノ新築、改築等ニ際シテハ可成改良便所ニ改メ地方ノ模範トセシムルコト

二、明治四十一年十月山口縣令第六十一號建造物制限規則ニ依リ建物ノ新築ニシテ人ノ住居ニ使用スルモノニ對スル認可ヲ與フル際ハ出願者ノ資産等ヲ斟酌シ可成改良便所ヲ築造セシムルコト
三、建造物制限規則適用地以外ノ地ト雖宿屋、料理屋飲食店等客ノ來集ヲ目的トスル取締營業者ニ對シテハ特ニ懇示ノ上改良便所ニ新築策セシムルコト
四、農村部落ニ於テハ衛生組合其ノ他一定ノ區劃ヲ設ケ基金ヲ造成シ其ノ内ヨリ費金ヲ支出セシメ順次改良便所ニ改メシムルコト
五、其ノ他地方ニ適スル方法ヲ以テ普及ニ努ムルコト

警察署名

内務省實驗所考案改良便所設置報告

Table with 5 columns: 築造者 (築造者), 住所氏名 (住所氏名), 築造個數 (築造個數), 築造年月日 (築造年月日), 築造ニ要シタル費用 (築造ニ要シタル費用), 備考 (備考), 摘要 (摘要).

恐水病患者診斷ノ場合届出ノ件

明治三十四年二月二日 山口縣令第十三號

醫師恐水病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢索シタルトキハ直ニ所轄警察官署又ハ巡查派出所巡查駐在所ニ届出ツヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ 本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年二月二日 調警甲第一一號警察部長訓令



恐水病患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ノ檢案ヲ爲シタルトキハ醫師ヨリ届出ツヘキ旨本日縣令第一三號ヲ以テ發布相成候處其ノ届出ニ接シタルトキハ狀況ヲ調査シ左記様式ニ依リ直ニ申報セラルヘシ

明治年月日	恐水病患者(死者)狀況報告	何署長印
住所族稱職業氏名年齢	咬傷セラレタル月日場所	
登病月日時及場所	轉歸月日時	
届出月日時	主治醫氏名	
被咬傷ノ部位、局部ノ症候及當時ノ處置		
備考		

### ● 狂犬病豫防注射ニ關スル件

大正十二年二月十二日  
衛第八五九號警察部長指示

各署長宛

近時狂犬病豫防注射ニ關シ往々開業醫師又ハ個人ヨリ直接之カ注射液ノ請求ヲ爲シ來ル者有之候處其ノ狀況更ニ不明ニシテ處理上支候條爾今斯カ場合ハ必ス警察官吏又ハ町村長等ニ於テ被咬傷者ノ住所、氏名、年齢、咬傷月日、咬傷部位並其ノ當時ノ狀況獸畜ノ始末等取調ヘ請求相成度當部ニ於テハ出來得ル限リ無料交付スヘキニ付豫メ町村長(部下)ニ對シ右様徹底方取計相成度

### ● 狂犬病豫防治療ニ關スル件

〔山口警〕

- 其ノ筋ノ通牒ニ依リ報告ノ必要有之候條爾今狂犬病患者ノ發生及轉歸アリタルトキハ左記事項ヲ報告セラルヘシ  
追テ本年分ハ八月一日以後ノ事實ニ付報告スヘキ儀ト了知相成候
- 記
- I 患者發生ノ場合ノ報告事項
- 一、患者ノ本籍住所、職業氏名年齢
  - 二、發病ノ年月日及其原因
  - 三、咬ミタル動物名
  - 四、咬ミタル動物ノ狂犬病診斷ノ狀況  
(甲種ニ實驗的ニ狂犬病ト診斷セラレタルモノ、  
乙種ニ臨床的ニ狂犬病ト診斷セラレタルモノ、  
丙種ニ狂犬病ノ疑アルモノ、丁種ニ健康ナルモノ、區別ニ依リ記載スルコト)
  - 五、咬傷ノ深サ  
(深シ、上層、外見上傷ヲ認メス等ノ別)
  - 六、著衣ノ有無  
(皮膚直接、衣類ノ上ヨリ等ノ別)
  - 七、咬傷ノ位置  
(頭、腕、軀幹、脚等ノ別若シ咬傷ノ位置多數ナルトキハ危害大ナル部位ヨリ順次記載スルコト)
  - 八、咬傷ヨリ治療ヲ開始スル迄ノ經過日數
  - 九、其ノ他以上ニ關聯セル情報及事實
- II 患者轉歸ノ場合ノ報告事項

〔山口警〕

#### (1) 治療ノ場合

- 一、患者ノ氏名
  - 二、治療所又ハ主治醫
  - 三、治療方法  
(治療方法一種類以上ニ互ルトキハ其全部ヲ詳記スルコト)
  - 四、若シ麻痺症狀ヲ觀ルコトアラバ出來得ルダケ詳細
  - 五、治療期間
  - 六、治療年月日
  - 七、其ノ他以上ニ關聯セル情報及事實
- (ロ) 死亡ノ場合
- 一、治療ノ場合ノ一乃至五ノ事項
  - 二、死亡ノ年月日
  - 三、解剖所見
  - 四、動物試驗ノ結果  
(第三號第四號ハ當處ニ於テ直接實施シタル場合ハ報告ニ及ハス)
  - 五、其ノ他以上ニ關聯セル情報及事實

### ● 人ノ脾脫疽發生報告方

昭和四年十月四日  
衛第八八五一號警察部長指示

各署長宛

本日衛第八八五一號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ別紙ノ通各郡市醫師會ヘ其ノ發生都度届方ヲ會員ヘ通知方依頼致置候條若シ醫師ヨリ届出アリタル場合ハ實地調査ノ上左記ニヨリ遅滞ナク報告方措置セラルベシ  
追テ大正十五年以降昨年迄ノ分ニ付テハ町村別並月別ニ本年一月以降九月末迄ノ分ニ付テハ本文ニ準シ各醫師ニ付キ調査ノ上本月十五日迄ニ報

昭和三年八月二日  
衛第六〇五六號警察部長指示

各署長宛

告セラルベシ

- 記
- 1 患者ノ住所職業氏名年齢
  - 2 發生並發見月日
  - 3 經過及轉歸月日
  - 4 豫防消毒措置
  - 5 傳染系統及發生狀況  
別紙
- 昭和四年十月四日  
衛第八八五一號警察部長指示
- 必要有之候ニ付爾今脾脫疽患者發生ノ場合ハ左記事項ニヨリ其ノ都度所轄警察署長ヘ届出方相煩度就テハ此旨貴會員ヘ周知方御取計相成度及御依頼候也
- 記
- 脾脫疽發生届出様式
- (イ) 患者ノ住所職業氏名年齢  
(戸主ニアラザルモノハ戸主トノ續柄ヲ記載スルコト)
  - (ロ) 發生並發見月日  
經過及轉歸月日

第二節 檢疫

船舶除鼠成績報告ニ關スル件

大正十五年三月三日  
衛第一九八二號警察部長指示

水上、徳山、萩各署長宛

標記ノ件ニ關シ別紙寫ノ通明治三十八年三月衛甲第十二號及明治三十九年九月通甲第一一三號ヲ以テ船舶除鼠の清潔方法施行ニ關シ内務省衛生局長ヨリ通牒アリタルニ付右該當事項調査ヲ遂ケ本年一月以降ヲ月表トシテ左記様式ニヨリ直ニ報告シ尙ホ爾今前月分ヲ翌月五日迄ニ失期ナク進達セラ

ルヘシ

何月中船舶除鼠清潔法施行報告

月日	船名	噸數	事由	由	除鼠方法	捕鼠數	備考
一月十日	長崎丸	、、	除鼠方法施行海港		瓦斯注入	二八	
、	、	、	除鼠方法施行規則第十四條三項適用		瓦斯注入	、	
、	、	、	定期検査		硫黄燻蒸	、	
、	、	、	除鼠方法施行大正六年内務省告示第六十四號該當		瓦斯注入	一	
、	、	、	、		、	、	

船舶検査準備トシテ除鼠の清潔方法施行ニ關シ當該官吏臨檢及

山口警

其施行成績報告方

明治三十八年三月二十九日  
衛甲第一二二號衛生局長通牒

改正 大正四年三月衛甲第二〇七號

各地方長官宛(埼玉、群馬、栃木、奈良、山梨、滋賀、岐阜、長野、長野、八縣ヲ除ク)

今般選信省令第十七號ヲ以テ明治三十三年十二月選信省令第八十八號船舶検査規程中改正相成リ主トシテ日本ト外國トノ間又ハ内地ト臺灣トノ間ヲ航行スル汽船ニ對シテハ定期検査ノ準備トシテ特ニ除鼠の清潔方法施行ノ件追加セラレ検査ノ場所期日等ハ其都度當該海事局又ハ海務署ヨリ其地ノ港務部(神奈川、兵庫、長崎)又ハ警察官署ニ通報相成ル等ニ付右施行ノ際當該官吏ヲシテ臨檢セシメ候様致度尙船名船鼠除鼠數等ハ便宜取纏メ御報告相成度依命此段及御通牒候也

追テ船舶内除鼠の清潔方法施行手續ノ要領ハ別紙ノ通ニ候條爲參考申添候

(別紙)

- 一 料食品置場、物置、船等ニ豫メ捕鼠器ヲ配置シ又ハ硫黄ノ燻蒸其他適當ノ方法ニ依リ船鼠ノ驅除ヲ行フコト
- 二 外板中張間ノ空隙、パイプ被箱及食料品置場、物置ノ床板下等ハ必要ト認ムル部分ヲ剝離シ鼠巢及糞鼠ノ搜索ヲ行フコト
- 三 飲水函ノ消毒ハ明治三十三年五月内務省令第十三號清潔方法消毒方法第十一條第七ノ二ノ規定ニ準シ施行スルコト
- 四 浚水道ハ汚水ヲ排除シタル後海水ヲ以テ洗滌スルコト
- 五 便所其ノ他不潔ナル場所ハ明治三十年五月内務省令第十三號清潔方法消毒方法第十條各號ニ規定セル藥劑中適當ト認ムルモノヲ以テ消毒スルコト

六 船内一般ニ掃除ヲ行ヒ蒐集シタル汚物、塵芥ハ之ヲ焼却スルコト

山口警

船舶検査規程(抄録)

明治三十三年十二月二十八日  
選信省令第八十八號

第二十四條

三 主トシテ日本ト外國トノ間又ハ内地ト臺灣トノ間ヲ航行スル汽船ニ於テハ食品其ノ他雜品置場、庖厨、船艙等鼠族ノ棲息スル場所ハ硫黄燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠族ノ驅除ヲ行ヒ又火浚水道ハ海水ヲ以テ洗滌シ便所其ノ他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ又飲水函ハ石灰乳ヲ以テ洗滌シ若ハ熱蒸氣ヲ通シテ掃除ヲ行フコト

内地航行船舶検査ノ際除鼠の清潔方法施行ニ關スル件

明治三十九年九月二十六日  
選甲第一一三號衛生局長通牒

各地方長官宛(埼玉、群馬、栃木、奈良、山梨、滋賀、岐阜、長野、長野、八縣ヲ除ク)

今般選信省ニ於テ別紙ノ通船舶検査内規ヲ改正シ内地沿岸航行ノ船舶ニシテ「ベスト」發生地ト交通シタルモノニ對シテハ外國又ハ臺灣トノ間ヲ航行スル船舶ニ準シ検査ノ準備トシテ除鼠の清潔方法ヲ施行セシメラル、コトニ相成リ該検査ノ場所及日時等ハ其ノ都度當該海事局又ハ海務署ヨリ其地ノ「港務部」又ハ「(神奈川、兵庫、福岡、長崎)諸縣ニ限ル」警察官署ニ通報相成ル等ニ付右施行ノ際當該官吏ヲシテ臨檢セシメラレ候様致度尙船名、船鼠除鼠數等ハ便宜取纏メ御報告相成度依命此段及通牒候也

(別紙) 船舶検査内規(摘録) 第三條 検査規程第二十四條第三號ニ該當スル準備ヲ爲スヘキ定期検査ヲ執行セントスルトキハ港務部所在地ニアリテハ同部ニ其ノ他ノ地ニアリテハ警察官署ニ對シ豫メ検査執行ノ場所及日時ヲ通知シ當該衛生吏員ノ臨檢シ得ル様處理スヘシ

- 一 食料品置場、物置船等ニ豫メ捕鼠器ヲ配置シ又ハ硫黄ノ燻蒸其ノ他適當ノ方法ニヨリ船鼠ノ驅除ヲ行フコト
  - 二 外板内張板ノ空隙パイプ被箱及食料品置場物置ノ床板下等ハ必要ト認ムル部分ヲ剝離シ鼠巢及糞鼠ノ搜索ヲ行フコト
  - 三 飲水函ノ内部ハ石灰乳(生石灰一分、水九分)ヲ以テ消毒シタル後清水ニテ洗滌スルコト
  - 四 浚水道ハ汚水ヲ排除シタル後海水ヲ以テ洗滌スルコト
  - 五 便所其ノ他不潔ナル場所ハ石灰乳又ハ石炭酸水(結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分)ヲ以テ消毒スルコト
  - 六 船内一般ニ掃除ヲ行ヒ蒐集シタル汚物塵芥ハ之ヲ焼却スルコト
- 第四條 検査規程第二十四條第三號ニ掲ケサル船舶ノ定期検査ニ著手セムトスルトキハ検査官吏ハ航海日誌ノ檢閱其ノ他ノ方法ニ依リ當該船舶ハ前航行期間内ニ「ベスト」發生地ト交通シタルヤ否ヤヲ調査スヘシ
- 第五條 前條調査ノ上當該船舶カ前航行期間内ニ「ベスト」發生地ト交通シタルコトヲ認メタルトキハ其ノ船舶ニ對シ検査規程第二十四條第三號ニ掲ケタル除鼠の清潔方法ヲ施行スヘキコトヲ報告シ同時ニ本章第三條ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ

第六條 「ベスト」發生地ノ増減變更ハ隨時管船局ヨリ之ヲ通知ス

### 船舶鼠族驅除ニ關スル證明書様式ノ件

昭和五年六月六日 衛第三七四九號警察部長指示

下開水上、徳山、萩各署長宛

海港檢疫法第六條ニ依リ船舶ニ對シ鼠族ノ驅除ヲ施行シ又ハ免除シタル場合同法施行規則第十四條ニ依リ船長又ハ其ノ代理人ヨリ該證明書ヲ請求アリタルトキハ爾今別紙様式ニ依リ作製交付スヘシ  
追テ様式中主任検査官ハ國際的關係ニ於ケル便宜モ有之ニ付醫師タル技術官ヲシテ署名セシメラレ度  
(別紙様式省略)

### 健全證書交付方

大正八年五月二十二日 衛第二四七七號警察部長指示

下開水上警察署長宛

明治三十五年三月内務省令第九號健全證書交付手續第一條ニ依リ申請書ヲ提出シタルトキハ爾今左記各號ニ依リ處理セラルヘシ

左記

- 一、健全證書交付ニ際シテハ下開港ニ於ケル傳染病流行ノ有無ヲ精査スルハ勿論船員ニ對シテハ警察醫ヲシテ健康診斷ヲ行ハシメ不都合ナシト認ムル者ニ對シテハ之ヲ交付スヘシ
- 二、健全證書ハ豫メ當廳ヨリ送付スヘキニ付署長ニ於テ之ヲ保管シ別紙様式ノ臺帳ヲ備ヘ其ノ受拂ヲ明記スヘシ
- 三、申請書ハ副申請書ヲ添付シ且ツ收入印紙ハ無消印ノ儘進達スヘシ別紙様式

〔山口警〕

健全證書受拂簿

署長印	者取	印取	年	月	日	摘	要	受	拂	殘

大正十二年五月二十六日 衛第三七八九號警察部長指示

徳山署長宛

明治三十五年三月内務省令第九號健全證書交付手續第一條ニ依リ申請書ヲ受理シタルトキハ爾今左記各號ニ依リ處理セラルヘシ

左記

- 一、健全證書交付ニ際シテハ徳山港ニ於ケル傳染病流行ノ有無ヲ精査スルハ勿論船員ニ對シテハ警察醫免許證ヲ有スル衛生技師、技手ヲシテ健康診斷ヲ行ハシメ異狀ナシト認メタル者ニ對シテ之ヲ交付スルコト
- 二、健全證書ハ豫メ當廳ヨリ送付スヘキニ付署長ニ於テ之ヲ保管シ別紙様式ノ臺帳ヲ備ヘ其ノ受拂ヲ整理スルコト
- 三、申請書ハ副申請書ヲ添付シ且ツ收入印紙ハ無消印ノ儘進達ノコト

様式

署長印	者取	印取	年	月	日	摘	要	受	拂	殘

〔山口警〕

昭和三年十一月二十七日 衛第九六〇五號警察部長指示

萩署長宛

明治三十五年三月内務省令第九號健全證書交付手續第一條ニ依リ申請書ヲ受理シタルトキハ爾今左記各號ニ依リ處理セラルヘシ

左記

- 一、健全證書交付ニ際シテハ萩港ニ於ケル傳染病流行ノ有無ヲ精査スルハ勿論船員ニ對シテハ警察醫免許證ヲ有スル衛生技師衛生技手ヲシテ健康診斷ヲ行ハシメ異狀ナシト認メタル者ニ對シテ之ヲ交付スルコト
- 二、健全證書ハ豫メ當廳ヨリ送付スヘキニ付署長ニ於テ之ヲ保管シ別紙様式ノ臺帳ヲ備ヘ其ノ出納ヲ整理スルコト
- 三、申請書ニ對シテハ事實ヲ調査シ副申請書ヲ添付シ且ツ收入印紙ハ其消印ノ儘進達スルコト

様式

署長印	者取	印取	年	月	日	摘	要	受	拂	殘

### 第三節 種痘

#### 種痘法實施ニ關スル件

明治四十三年二月二十四日 衛第一一四九號警察部長指示

各署長宛

本年一月ヨリ種痘法實施ニ付テハ之カ事務整理順序別紙寫ノ通各郡市長へ通牒候處素ヨリ種痘事務ノ周到ヲ期スルハ市町村長ノ職責ニシテ種痘ノ施行ニ付テハ豫メ種痘ヲ行フ必要アル者ヲ調査遺漏ナキヲ期セサルヘカラサルモ人口多數ナル市街地等ニ於テハ寄留等ノ届出ヲ怠レルモノ尠ナカラサル間ヘアリ之等ハ各戸ニ就キ調査スルノ外途無之ニ付テハ直接戸口調査施行ニ當レル警察官吏ニ於テハ此ノ點ニ深ク注意シ種痘定期ニアル右等無届者ヲ發見シタルトキハ其ノ都度市町村長ニ通知シ又市町村長ニ於テ種痘期日ヲ指定シタル場合ハ戸口調査ニ際シテ種痘法第十四條ノ調査ヲ履行スル等市町村長ト氣脈ヲ通シ相待テ之カ實效ヲ舉クルコトニ努メラルベシ

#### 市町村種痘事務整理ニ關スル件

明治四十三年二月二十四日 衛第一一四九號警察部長指示

〔部長宛〕

縣下最近十年間ノ定期種痘成績ヲ觀ルニ毎年ノ種痘數ハ人口千人ニ對シ平均八十人餘ニ該リ能ク普及シ居ルカ如ク相見ユルモ其ノ内容ヲ精査スルニ疾病事故ニ托シ種痘ヲ怠ル者毎年初種者ニシテ五千餘人ヲ算シ種痘ヲ受クル者ハ同一人ニシテ頻繁ニ之ヲ受ケ又之レヲ受ケサル者ハ遂ニ其ノ儘ニ經過シテ漸次累積セル多數ノ種痘懈怠者ニ對シテハ從來痘瘡流行シ若ハ流行ノ兆アル際急遽臨時種痘ヲ施行シ辛フシテ其ノ種痘ヲ強制シ來タル

實況ニテ一朝病毒ノ侵襲ヲ蒙ルニ當リテハ其ノ土地ノ狀況ニ依リ往々流行ノ慘害ヲ免レザリシ次第ニ有之是レ畢竟舊種痘規則ニ於テハ種痘ノ時期各人區々ニシテ從テ平時義務者ニ對シ之ヲ強制スルコト難ク又懈怠者ニ關スル規定ヲ缺ク等不備ノ點アルニ基因スルモノト認ラレルモ新法ニ於テハ是等ノ缺點ヲ補ヒ平時定期種痘ヲ普及セシメ結局臨時種痘ノ必要ヲ見サルニ至ラシメシコトヲ期セリ即チ新種痘法ニ於テハ第一期種痘ハ數ハ歲二歲ノ一時定期迄ニ完了ヲ期シ漏レタル者ハ戶籍簿ニ就テ調査シ遅クモ翌年ノ種痘期ニハ種痘ヲ受ケシメ尙萬一漏レタル者アラハ幼稚園小學校ニ入學ノ際調査シ以テ少クモ第一期種痘ノ遺漏ナキヲ期シ又第二期種痘ハ小學校等ニテ勵行シ其ノ他雇主等ヲシテ其ノ義務ヲ負擔セシメ又種痘證書等ノ檢閱ニ依リ未種痘者ノ調査ヲ精確ナラシムルコトヲ以テ定期種痘ノ普及ヲ期シタリ然レトモ之カ實施ノ手續ハ必スシモ各市町村劃一ヲ期スルノ必要無之ノミナラス人口多數ニシテ常ニ其ノ移動多キ市街地ト其ノ然ラサル村落トハ自ラ其ノ手續ヲ異ニスル方却テ妥當ナルヘク存候別紙整理順序ハ此趣旨ニヨリ市町村ニ於ケル種痘事務整理上ノ參考ニ資セントスルモノニ有之右御合ノ上各實情ニ照シ適當ナル順序方法ヲ定メ毎年度種痘者ノ調査ヲ嚴密ニシ定期種痘ノ遺漏ナキヲ期セシメ度依命此段及通牒候也

市町村種痘事務整理順序

第一 種痘期日ノ指定及公種痘施行ノ期間

第一條 市町村長ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ前年中出生ノ者、數ハ歲十歲ノ者及前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者其ノ他種痘ヲ行フ必要アル者(第十條第三號乃至第十條第五號及第十二條參照)ノ種痘期日ヲ指定スルコト  
前項ノ種痘期日ハ公種痘(市町村ニ於テ施行)ノ施行期間ノ最終日トスルコト但シ市町村内ノ字等ニ依リ種痘期日ヲ異ニスルモ妨ナシ  
第二條 市町村長ハ受種痘者ノ豫定員數ニ應ジ(醫師一人一日ノ種痘人)公

〔山口警〕

種痘施行ノ期間及其ノ場所ヲ定メ種痘期日ノ指定ト共ニ豫メ之ヲ公告スルコト  
市町村長ハ前項公告ノ外種痘簿、種痘票、學齡簿等ニ依リ種痘定期ニ在ル者其ノ他種痘ヲ行フ必要アル者ヲ調査シ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ種痘期日ノ指定公種痘施行ノ期間及其ノ場所ヲ漏ラナク通知スルコト

第三條 種痘施行規則第四條ノ患者(痘瘡、猩紅熱、廣布痘、格魯)アル家ノ受種者ニ付テハ公種痘施行ノ日時又ハ場所ヲ別ニ定メ之ヲ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ通知スルコト

第二 公種痘施行ノ準備

第四條 種痘ハ市町村醫ヲシテ之ヲ施行セシメ又ハ相當技能アル醫師ニ之ヲ囑托スルコト但シ便宜數町村協議シテ巡回種痘ヲ囑托スルモ妨ナシ  
第五條 市町村ハ痘苗ノ外種痘ニ要スル器械藥品ヲ準備スルコト其ノ品目概ネ左ノ如シ

- 一 一切種痘針參拾錢
- 二 藥盤七錢
- 三 滅菌「ガーゼ」一反八錢貳厘及脫脂綿、同上容器參拾錢
- 四 「アルコール」一磅壹圓參拾錢又ハ「クレゾール」水一磅六拾五錢若ハ其ノ他ノ消毒藥液
- 五 「ベトリール」水參拾錢小皿貳拾錢及硝子製圓筒參拾錢「コップ」八錢ノ類

第六條 市町村ハ種痘ヲ行フヘキ人員ニ應ジ痘苗具數ヲ豫算シ發送期日ヲ指定シテ一箇月以前ニ傳染病研究所ニ請求スルコト  
第七條 種痘施行ノ場所ハ受種者ノ集合ニ便利ナル地區ニ於テ相當廣潤ニシテ可成清潔ナル個所ヲ選定スルコト授業其ノ他妨ナキ限ハ小學校、

〔山口警〕

傳染病院、隔離病舎等ヲ種痘所ニ充ツルヲ便宜トス  
前項ノ種痘所ハ地域廣潤ナル市町村ニ於テハ可成之ヲ數箇所ニ設置スルコト

第八條 種痘所ニハ少クモ受種者控室及施術室ヲ區別シ各室トモ豫メ濕拭掃除ヲ行ヒ又換氣、採光ニ注意シ寒冷ナルニ在リテハ相當暖室ノ設備ヲ爲スコト

第三 種痘簿ノ編製

第九條 種痘簿ハ其ノ年施行スル公種痘ノ用ニ供シ併テ其ノ年ニ於ケル公私種痘ノ成績ヲ明ニスル目的ヲ以テ編製スルモノトス

第十條 市町村長ハ毎年二月末日迄ニ左記各號ニ依リ別紙雛形ニ準シ第一期及第二期種痘簿ヲ編製スルコト

一 戶籍簿、身分登記簿及寄留簿等ニ就キ前年中出生ノ現住人ヲ調査シ前年中既ニ種痘ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了シタルモノヲ除キ之ヲ第一期種痘簿ニ登載スルコト但シ寄留等ノ届出ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ登載スルコト

二 學齡簿等ニ就テ數ハ歲十歲ノ現住人ヲ調査シ前年迄ニ種痘ヲ經過シ又ハ第二期種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ之ヲ第二期種痘簿ニ登載スルコト但シ學齡簿ニ登載ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ登載スルコト

三 戶籍吏又ハ他區市町村長ヨリ第一期種痘未了ノ通知ヲ受ケタルトキハ他市區町村ニ轉居シタル者ヲ除キ之ヲ第一期種痘簿ニ登載スルコト

四 前年種痘ヲ猶豫シタル者及前年第一回ノ種痘不善感ナル者其ノ他前年ノ種痘簿ニ登載ノ者ニシテ前年中ニ種痘ヲ經過セシ又ハ種痘ヲ完了セサルトキハ之ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

第四編 衛生 第二章 防疫

ノ通報、種痘法第四條第二項ノ届出其ノ他種痘法第十四條ニ依レル調査等ニ依リ種痘ヲ怠リタル者(種痘ヲ受ケタル證據不明)ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

第十一條 市町村長ハ種痘簿編製後種痘ノ指定期日マテニ前條ニ該當スル者其ノ市町村内ニ來往シタルトキハ遲滞ナク種痘簿ニ登載スルコト

第十二條 市町村長ハ前二條ノ外常ニ種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ之ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

第十三條 市町村長ハ種痘簿ニ登載ノ者種痘ノ指定期日マテニ死亡シ又ハ他市區町村ニ轉住シ若ハ一年以上居所不明ナルトキ又ハ痘瘡ヲ經過シタル爲種痘ヲ要セサルトキハ其ノ事由ヲ當該欄内ニ記シ氏名ノ欄ヲ朱線ニテ抹消スルコト

第十四條 市町村長ハ公種痘ヲ施行シタルトキ及種痘簿法第十二條第二項私種痘ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ都度遲滞ナク種痘ノ月日成績等ヲ種痘簿當該欄内ニ記入シ種痘ヲ猶豫シタル者ニ付テハ備考欄内ニ其ノ事由ヲ記載スルコト

第十五條 其ノ年出生ノ者第一期種痘ヲ完了シ又ハ數ハ歲八歲九歲ノ者第二期種痘ヲ完了シタルトキハ其ノ他種痘簿ニ未登載ノ者種痘ヲ完了シタルトキハ之ヲ登載記入スルコト

第十六條 依リ種痘施行ノ場合ニ於テ其ノ年内出生者種痘ノ月日成績等ハ可成別ニ種痘簿ヲ調製シ之ニ登載記入スルコト

第十七條 種痘簿編製前(一月一日ヨリ種痘)私種痘ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ届

書(口頭届出ナレ)ヲ保存シ種痘簿編製ノ際之ヲ登載記入スルコト

第十五條 種痘簿ノ記入順序ハ受痘者ノ多數ナル市町村ニ於テハ町名、字

名若ハ番地ニ依リ適當ニ區別シ又ハ氏名ノ「イロハ」順ニ記入スル等搜索

ニ便ナラシムルコト

種痘定期ニ在ル者及種痘ヲ怠リタル者ニ付テハ可成各別ニ簿ヲ調製スル

コト

種痘簿ハ十年間之ヲ保存スルコト

第四 種痘票ノ調製

第十六條 市町村長ハ便宜第九條乃至第十五條ノ種痘簿ヲ編製セス本條以

下ニ依リ種痘票ヲ調製スルモ妨ナシ

種痘票ハ専ラ公種痘ノ用ニ供スルノ目的ヲ以テ調製スルモノトス但シ第

二十四條ニ依リ併テ私種痘ノ成績ヲ明ニスルノ用ニ供スルモ妨ナシ

第十七條 市町村長ハ毎年二月末日迄ニ左記各號ニ依リ別紙雛形ニ準シ第

一期及第二期種痘票ヲ調製スルコト

一 戶籍簿、身分登記及寄留簿等ニ就キ前年中出生ノ現住人ヲ調査シ既

ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了シタルモノヲ除キ第一期種痘票ヲ調

製スルコト但シ寄留等ノ届出ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ

之ヲ調査シ種痘票ヲ調製スルコト

二 學齡簿等ニ就キ數ヘ歳十歳ノ現住人ヲ調査シ前年迄ニ痘瘡ヲ經過シ

又ハ第二期種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ第三期種痘票ヲ調製スルコト

但シ學齡簿ニ登載ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ

種痘票ヲ調製スルコト

三 戶籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタルト

キハ他市區町村ニ轉居シタル者ヲ除キ第一期種痘票ヲ調製スルコ

ト

前項書類ノ保存期間ハ私種痘届書ハ十年間其ノ他ハ種痘完了又ハ種痘票

調製済マテトス

第二十四條 市町村長ハ事務ノ繁簡ニ依リ前條ノ届書、申請書、通報書、覺

書等ニ代ヘ其ノ種痘票ヲ調製シテ保存スルコト

此ノ場合ニ於テ私種痘ノ種痘票ニハ其ノ備考欄内ニ私種痘ト朱書スルコト

第五 種痘及檢診ノ施行

第二十五條 市町村吏員ハ檢診所ニ臨ミ種痘事務ニ從事スルコト

種痘所ニハ種痘簿又ハ種痘票ヲ配備シ種痘ノ月日成績等ヲ記入スルコト

第二十六條 相當ノ事由ニ依リ種痘所ニ出頭スルコト能ハサル受痘者ニ對

シテハ其ノ住所ニ就キ種痘ヲ施行スル等適宜ノ方法ヲ講スルコト

第二十七條 種痘所ニハ檢診期日及種痘後注意スヘキ事項ヲ揭示シ且之ヲ

口頭及覺書ヲ以テ保護者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ指示スルコト其ノ注意ス

【山口書】

四 前年ノ種痘票中種痘ヲ猶豫シタル者前年第一回ノ種痘不善感ナル者

其ノ他未タ種痘完了セサル者ノ票ヲ取出シ本條各號ノ種痘票ト共ニ

整理スルコト

五 前各號ノ外學校、育兒院、製造所等ノ首長、警察官吏又ハ衛生組合

長ノ通報種痘法第四號第二項ノ届出種痘法第十四條ニ依レル調査等

ニ依リ種痘怠リタル者ノ覺書等及猶豫期限ノ經過シタル猶豫願書並

私ノ第一回不善感アル届書ヲ取出シ種痘票ヲ調製スルコト

第十八條 市町村長ハ種痘票調製後種痘ノ指定期日マテニ前條ニ該當スル

者其ノ市町村内ニ來住シタルトキハ遲滞ナク其ノ種痘票ヲ調製スルコ

ト

第十九條 種痘票調製後種痘ノ指定期日迄ニ死亡シ痘瘡ヲ經過シ若ハ私種

痘ノ届出ヲ爲シタル者ニ付テハ第二十四條ノ場合ヲ除ク外其ノ種痘票ヲ

廢棄スルコト又ハ他市區町村ニ轉住ヲ爲シタル者ニ付テハ其ノ種痘票ヲ廢

棄シ若ハ便宜之ヲ轉居地ノ市區町村長ニ送致シ轉居通報ノ用ニ供スルコ

ト種痘票調製後種痘指定期日マテニ種痘ヲ猶豫シタル者ニ付テハ其ノ

種痘票備考欄内ニ其事由ヲ記入シ他日ノ用ニ供スルコト

第二十條 市町村長ハ常ニ種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ若直ニ種痘ヲ完了セ

シメ難キトキハ其ノ覺書ヲ調製シ他日ノ用ニ供スルコト

第二十一條 第三十五條又ハ第三十六條ニ依リ種痘ヲ施行スルトキ種痘票

未調製ノ者ニ付テハ其ノ際之ヲ調製シ記入スルコト

第二十二條 種痘票ハ使用後善感、不善感、猶豫不參等ニ依リ區分シ十年

間之ヲ保存スルコト

第二十三條 種痘法第十二條第二項私種痘ノ届書(口頭届出ナレ)猶豫申請

書種痘法第四條第二項ノ届書警察官吏、衛生組合長ノ通報書、未種痘者

覺書等ハ一括保存スルコト

テハ其住所ニ就キ檢診ヲ行ヒ又ハ最寄醫師ノ檢診ヲ受ケシメ其ノ種痘證

ヲ提示シ又ハ其ノ寫ヲ添ヘ口頭若ハ書面ニテ届出ヲ爲サシムルコト

第三十條 種痘濟證ハ檢診ノ當日之ヲ交付スルコト

第三十一條 市町村長ハ學校、育兒院、製造所其ノ他多數ノ兒童ヲ集合セ

シムル場所ノ首長ニ協議シ各自ニ醫師ヲシテ種痘及檢診ヲ行ハシメ又ハ

兒童ノ來集スヘキ種痘所及日時等ヲ打合ハセ種痘及檢診ヲ行フコト

第三十二條 市町村長ハ衛生組合長ヲシテ組合内ノ種痘未了者ヲ調査セシ

メ其ノ保護者ニ對シ指定期日マテニ種痘ヲ受ケヘキコトヲ戒告セシメ其

ノ種痘所ニ來集スヘキ者ハ可成之ヲ引卒出頭セシムルコト但シ兒童ノ保

護者等ニシテ兒童ノ種痘所ニ出頭セシメ難キ事情アルモノアルトキハ其

ノ氏名住所等ヲ通報セシメ第二十六條ニ依リ種痘ヲ施行スルコト

【山口書】

第三十三條 衛生組合ニ於テ種痘ヲ施行シタルトキハ便宜組合長ヲシテ保

護者等ニ代リ施術醫師ノ證明ヲ得種痘法第十二條第二項私種痘ノ届出ヲ

爲サシムルコト

第三十四條 市町村長ハ種痘簿、種痘票等ニ依リ指定期日マテニ種痘ヲ行

ハサル者種痘猶豫期間ヲ經過シタル者其ノ他種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ

其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ適當ト認ムル期日ヲ限リ種

痘ヲ催告スルコト

前項期日マテニ種痘ヲ完了セサルトキハ種痘法施行規則第六條ニ依リ遅

クモ次回ノ公種痘施行期ニ於テ更ニ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ

對シ種痘期日ヲ指定スルコト

前項期日マテニ尙故ナク種痘ヲ行ハサルモノアルトキハ市町村長ハ警察

官吏ト協議シ其ノ居所等ニ於テ種痘ヲ強制施行スルコト

第三十五條 受痘者多數ナル町村ニ於テハ第二條ニ依ルノ外十月ヨリ十二

月ニ至ル間ニ於テ再ヒ公種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ前條第一項ニ該

當スルコト

第四編 衛生 第二章 防疫

第一七三

當スル者及種痘定期ニ在リテ種痘ヲ受ケントスル者ニ種痘ヲ施行スルコト

第三十六條 下關市ニ於テハ前各條ニ依ルノ外毎月(八月九月)一回以上公

種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ豫メ之ヲ公告シ出生後九十日ヲ經タル者

其ノ他種痘定期ニ在リテ種痘ヲ受ケントスル者ニ種痘ヲ施行スルコト

第三十七條 市町村長種痘期日ヲ指定シタルトキハ日備寮人等勞働者ノ居

住地域ニハ可成醫師及吏員ヲ派遣シ其ノ住所ニ就キ種痘及檢診ヲ施行ス

ル等適宜ノ方法ヲ講スルコト

第六 種痘ニ關スル通知記入

第三十八條 市町村長ハ戶籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ

通知ヲ受ケタル場合ニ於テ他市區町村ニ轉居シタル者アルトキハ速ニ之

ヲ轉居先ノ市區町村長ニ轉報スルコト

第三十九條 市町村長ハ公種痘ヲ施行シ又ハ種痘法第十二條第二項私種痘

ノ届出ヲ受ケタルトキハ第一期種痘ヲ完了シタル者(善感シタル者及不

善感ナル者)ヲ速ニ本籍地ノ戶籍吏ニ通知スルコト第一期種痘前療瘡ヲ經

過シタル者アルトキ亦同シ

第四十條 市町村長ハ學齡簿編製ノ際ニ種痘ニ關スル事項(第何期種痘

期不善感、療瘡經過)ヲ記入スルコト

各其第一回ノ年月(學齡兒童ナルトキハ其ノ第一期種痘ナルト第二期種痘

ナルトニ拘ラス之ヲ學齡簿ニ記入スルコト第二期種痘前療瘡ヲ經過シタ

ル者アルトキ亦同シ

第四十一條 市町村長ハ小學校及之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證

書、修業證書又ハ保育證書ニ可成種痘ニ關スル事項(定期種痘完了)ヲ記

入セシムルコト

第七 種痘濟證及種痘證等ノ調製

山口警

備考

用紙ハ縱四寸五分横五寸五分位トシ可成厚キ西洋紙ヲ可トス又第一期

ハ單線第二期ハ複線ノ輪廓ヲ施ス等搜索ニ便ナル様調製スルコト

氏名	生年月日	住所及保護者等氏名	種痘月日	痘發日	痘發數	善感私種痘	不善感私種痘	種痘行ハサ	理由	備考

種痘法施行ニ關スル件

明治四十三年三月三十日 衛第二三九號警務長指示

各署長宛

種痘法施行ニ關シ別紙寫ノ通り各郡市長へ及通牒候條警察官署ニ於テハ戶

口調査等ノ方法ヲ以テ要種痘者ヲ嚴密調査シ市町村長ニ通牒スル等未種痘

者ナカラシムル様取計ハルヘシ

別紙寫(明治四十三年三月三十日各市長宛警務長通牒)

種痘法施行ニ關シ左記事項御注意相成度依命此段及通牒候也

一 左記要種痘者ノ調査ヲ嚴密ニシ種痘ヲ受ケシムルコト

第一期該當者

(一) 昨年中出生ノ者(既ニ種痘ヲ受ケタル者ヲ除ク)

(二) 數ハ歳九歳以下ノ者ニシテ生來種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ

受ケタル證據不明ノモノ

第二期該當者

第四編 衛生 第二章 防疫

一七五

第四十二條 種痘濟證ハ保存ニ便ナラシムル爲可成厚キ西洋紙ニテ調製シ

其ノ大サハ縱五寸五分横四寸五分位ト爲スコト

第四十三條 市町村ニ於テハ可成醫師ノ交付スヘキ種痘證用紙ヲ種痘濟證

用紙ニ準シテ調製シ醫師ノ請求アルトキハ無償ニテ之ヲ交付スルコト、

私種痘用紙モ亦之ニ準シ醫師ニ交付シ置キ保護者又ハ種痘法第三條ノ

義務者ニ代リ届出ヲ爲サシムルコト

氏名	善感	不善感
生年	月	日
住	所	(町名字名)
		(必要アルトキハ番地トモ)
保護者等	氏名	
種痘月日	發痘日	痘發數
備考		

山口警

(一) 數ハ歳十歳ノ者(數ハ歳八歳以後ニ種痘ヲ受ケタルモノヲ

除ク)

(二) 數ハ歳十一歳以上ノ未成年者ニシテ生來種痘ヲ受ケヌ又ハ

第二期ノ種痘ヲ受ケヌ若ハ之ヲ受ケタル證據不明ノ者

二 前項ノ調査ハ市町村種痘事務整理順序第三十一條第三十二條ニ據

リ又ハ各戸ニ就キ調査スル等最モ周到ニシ新法實施ノ初年ニ於テ

苟モ脱漏ナカラシムルヲ期スルコト

三 種痘濟證又ハ種痘證ハ法第一條ノ定期種痘ハ勿論法第十條ノ定期

種痘ト看做スヘキ者ニモ交付スヘキモノトス之ヲ交付スヘキ者ヲ

掲ケレハ

(一) 法第一條ノ定期種痘者

(二) 數ハ歳七歳マテニシテ未種痘又ハ種痘ノ證據不明ナル者ノ種

痘ハ善感不善感ニ拘ハラヌ第一期ト見做ス

(三) 數ハ歳八歳九歳ニシテ未種痘又ハ種痘ノ證據不明ナル者ノ種

痘ハ不善感ナレハ第一期ノ第一回ト看做ス從テ次年ノ一定ノ

期日マテニ第二回ヲ行フヘシ

(四) 數ハ歳八歳九歳ノ者ノ種痘善感ナレハ第一期ノ了否ニ拘ハラ

ヌ第二期完了ト看做ス

(五) 數ハ歳十一歳乃至滿二十歳(第一期ノ了否ニ拘ハラヌ)ニシテ

第二期種痘未了者若ハ其ノ證據不明ナル者ノ種痘ハ善感不善感

ニ拘ハラヌ第二期ト看做ス

四 新法施行後即チ明治四十三年一月一日以前ニ於テ數ハ歳八歳後ニ

確ニ種痘ヲ受ケタル證據(善感不善感ニ拘ハラヌ)アル者ハ第二期

完了ト看做スヘキヲ以テ本年十歳ナリトモ種痘ヲ行フヲ要セス從

テ若シ任意種痘ヲ受クルモ法律上定期ニアラサルヲ以テ種痘濟證

一七五

五 又ハ種痘證ヲ交付スルモノニアラス  
新法實施前種痘ヲ受ケ附則第三項ノ定期種痘ト看做サルル者ハ戶籍吏ニ通知ヲ要セス法第八條ニ依リ通知スヘキモノハ新法施行後ニ於テ種痘ヲ受ケタル者ニ限ルモノトス

明治四十三年七月九日  
衛第五二二六號警察部長指示

各署長宛

別紙寫ノ通り各郡市長ニ及通牒置候處警察官署ニ於テ本年三月三十日衛第二三九號ニ依リ戶口調査等ノ方法ヲ以テ嚴密要種痘者ヲ調査シ市町村長ニ通牒スヘキノ處之カ周到ヲ缺キ爲メニ町村ニ於テ無籍者寄留ノ届出ヲ爲ササルモノ及船舶乗組員ニ對スル種痘普及上遺憾ヲ感スル向有之趣ニ候條別紙通牒ニ依リ更ニ接種スル場合ニ於テハ遺漏ナカラシムル様措置セラルヘシ

別紙  
衛第五二二六號

明治四十三年七月九日

山口縣警察部長

各郡市長宛

種痘法施行ニ關スル件

種痘法施行ノ狀況ヲ一部ノ郡役所及町村役場ニ就キ調査セシメタルニ間々完全ニ施行セシモノアルモ多少ノ缺點有之右ハ當該町村ノ誤解等ニ依ルコト、信シ候得共新法實施ノ當初之等總テノ缺點ヲ矯正スルハ將來種痘普及上最モ緊要ノ義ト存候條缺點アルモノハ種痘法第九條ニ依リ施行スル等遺漏ナキヲ期セラレ度爲參考最モ多キ事例五六項ヲ摘ミ依命此段及通牒候也

一、數ヘ歲九歲以下(即チ第一期ト見做スモノ尤モ本年八歲九歲ニシテ善

〔山口警〕

感シタルモノハ法第一條第二項ニ依リ第二期完了ト見做ス)ハ昨年出生ノ者ノ外調査セサルモノアリ又甚シキハ第一期第二期ヲ通シ單ニ客年中出生セシ者ノミヲ調査シ其ノ他ノ未成年者ハ全ク放任セル者アリ

一、本年數ヘ歲十一歲以上ニシテ數ヘ年八歲以後種痘ヲ受ケタルコトナキ者本年接種シタルトキハ第二期第一回ニ相當シ從テ不善感ノ場合ハ更ニ種痘ヲ受クヘキ者ナルニ第一回ニテ完了ノ證ヲ交付セルモノアリ又第一期第二期共本年六月迄ニ接種シタルハ第一回ノ種痘ナルニ第二回ノ證ヲ交付セルモノアリ從テ不善感ノ場合ハ更ニ種痘ヲ受クヘキ者ナルニ直ニ完了ノ姿トナル

一、一具五人用ノ痘苗ヲ以テ六人以上ニ接種セルモノアリ

一、接種ハ切種式ニ依ルヘキニ從來ノ如ク刺種式ニ依ルモノアリ

一、疾病ノ爲メ猶豫ヲ乞ヒ正當ト認メタルモノハ治療ニ至ル迄ノ猶豫證ヲ交付スヘキモノナルニ期日ヲ指定シ甚シキハ翌年四月十五日迄猶豫セルモノアリ

一、公種痘ノ場合ハ町村長ヨリ種痘濟證ヲ、私種痘ノ場合ハ醫師ヨリ種痘證ヲ交付スヘキモノナルニ公種痘ノ場合種痘證ヲモ交付セルモノアリ

一、種痘猶豫者ニシテ施行規則第五條及法第十二條第二項ノ期日經過セルニ何等督責セサルモノアリ

一、施行規則第九條第二號ニ「第二期」トアルハ第一期ノ誤植ニシテ官報ニ正誤アルニ之ヲ氣付カサルモノアリ

明治四十五年一月十二日  
衛第二四五號警察部長指示

各署長宛

別紙寫ノ通り各郡市長ニ及通牒置候處警察官署ニ於テ市町村長ト氣脈ヲ通シ戶口調査其ノ他ノ機會ニ於テ義務者ニ對シ注意ヲ與ヘ或ハ要種痘者ヲ

〔山口警〕

檢出シテ通知スル等種痘ノ普及ニ努メラルヘシ

(明治四十五年一月十二日衛第二四五號)  
各郡市長宛警察部長通牒

種痘法施行ニ關スル件

市町村ニ於テハ種痘法施行規則第一條ニ依リ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ種痘期日ヲ指定スヘキノ處新法實施後歲々閱スル僅カ二年ニ過キス從テ法ノ執行上ニ於ケル經驗ニ乏シキ爲メ既往二ケ年ニ於ケル成績ヲ見ルニ動モスレハ周到ヲ缺クノ嫌ナシトセス殊ニ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ種痘ヲ猶豫セラレタル者ノ接種監督粗漫ニ流ル、ヤノ傾有之候條此際期ニ先チテ種痘簿ノ整理其ノ他各般ノ準備ヲ整頓シ施行上遺憾ナキヲ期セラレ度此段及通牒候也

●種痘法疑義ノ件

明治四十三年二月一日  
衛第七四四號警察部長指示

各署長宛

種痘法第三條第四條ノ規定ニ關シ別紙ノ通り内務省衛生局長ヨリ通牒有之候條了知セラルヘシ

種痘法第四條ハ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ對シ同法施行後ニ於テ新ニ其ノ保護者トナリ又ハ新ニ同法第三條ノ關係ヲ生シタル場合ノ責任ヲ規定シタルニ止リ同法施行ノ際現ニ未成年者ノ保護者タリ又ハ現ニ同法第三條ノ關係ヲ有スル者ニ付テハ適用無之從テ同法附則第四項ニ關シテモ同様ト存候條御承知相成度往々疑義有之候趣ニ付爲念此段及通牒候也

●種痘法ニ關スル件

第四編 衛生 第二章 防疫

明治四十三年五月十一日  
衛第三五一七號警察部長指示

沿線各郡市長 警察部長宛

船舶乗組員タル未成年者ニシテ住所地ナキ者ノ種痘期日ハ其當時ノ繫船地ニ於ケル市町村長ノ指定ニ依ルヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候條此段依命及通牒候也

### 第四節 癩豫防

#### ●癩豫防ニ關スル件

明治四十二年三月二十五日  
山口縣訓令第十四號

〔郡市役所 警察署 (警察分署) 町村役場

癩ハ古來本邦各地ニ蔓延シク其ノ病性ヲ誤認セラレタルモ癩菌ノ發見ニ依リテ其ノ傳染性ナルコトヲ確認セラレタルモノニシテ主トシテ觸接ニ依リ又ハ患者ノ鼻汁、唾液、潰瘍部ノ膿汁等ニ汚染シタル物件ヲ介シテ病毒ヲ他ニ傳播スルノ危險アルモノトス是ヲ以テ明治四十年三月法律第十一號ヲ以テ本病ノ豫防ニ關シ規定サレ癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノハ之ヲ府縣ノ療養所ニ隔離シ其ノ他ハ各自ニ於テ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行ハシメ以テ本病ノ蔓延ヲ防止シ漸次其ノ根絶ヲ企圖スルニ至レリ然ルニ本病ハ從來久シク非傳染性ト思惟シ來レト其ノ經過緩漫ニシテ長年月ニ渉ルヲ以テ常ニ一般人民ヲシテ自衛ノ途ヲ講セシメ一面患者並ニ其ノ家人ニ於テ公德ヲ重シ本病ノ蔓延防止ニ注意セシムルニアラサレハ病毒ハ隱微ノ間ニ於テ散蔓ヲ來シ豫防撲滅ノ目的ヲ達スルコト蓋シ容易ノ業ニアラス依テ一般人民ニ對シ衛生談話會其ノ他ノ機會ヲ利用シテ常ニ本病ノ性質豫防ノ方法等ヲ訓諭シ之レカ誘導ヲ怠ラサルハ勿論現ニ患者アル家ニ對シテハ左ノ事項ヲ遵守セシメ學校、病院、製造所、旅店、船舶等ニ於テ患者ヲ發見シ若ハ患者ヲ入ラシメタルトキ亦之ニ準シ處置セシムル等本病豫防ノ效果ヲ收ムルニ努ムヘシ

- 一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 二 患者ノ衣類、寢具、其ノ他日用器具等ハ特ニ專用ノモノヲ備ヘ他ト混同セサル様注意スルコト
- 三 患者ノ常用衣類、敷布、寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルコト

〔山口警〕

#### ●癩豫防ニ關スル件

明治四十二年三月二十九日  
衛第二四六一號警務長指示

- 四 患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト
- 五 患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルコト
- 六 病毒ニ汚染シタル繻帶、手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患者ノ紙屑糞類ハ燒却スルコト
- 七 患者ノ外出ハ可成避ケシメ止ムヲ得ス外出セムトスルトキハ清潔ナル衣服ヲ着用シ又潰瘍アルモノハ其ノ繻帶ヲ更ムルコト
- 八 患者ハ可成他トノ交通ヲ避ケシメ又理髮店、公衆浴場、料理屋、飲食店、劇場、寄席、乗合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラサルコト
- 九 患者ハ牛乳ノ搾取、飲食物、飲食物具(金屬陶器具ヲ除ク)、玩具ノ調製又ハ其ノ販賣其ノ他病毒傳播ノ虞アル業ニ從事セサルコト
- 十 患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用、貸與又ハ授與セサルコト
- 十一 患者ノ使用シタル衣類、寢具、器具ハ勿論家人ノ常用衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用、授與、移轉又ハ遺棄セサルコト
- 十二 患者ノ一時滞留シタル場合ニ於ケルモ其ノ占居シタル室竝ニ其ノ使用シタル衣類、寢具、器具等ニ對シテ亦前二號ヲ適用スルコト
- 十三 看護等ノ爲メ常ニ患者ニ近接シ又ハ病毒汚染物件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又可成上被ヲ着用シ時々之ヲ消毒スルコト
- 十四 癩患者ノ死體ハ消毒ヲ行ヒタル後可成之ヲ火葬スルコト
- 十五 消毒方法ハ明治三十年內務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スルコト

〔山口警〕

#### ●癩豫防ニ關スル法令施行手續

明治四十二年三月三十日  
山口縣訓令第十五號

〔郡市役所 警察署 (警察分署) 町村役場

追テ癩患者報告ハ本年三月二十三日衛第二四六二號ニ依リ明治三十年七月乙第二十九號傳染病豫防法令施行手續第四條ニ準シ報告セラルヘキ管ノ處往々之ヲ缺略スル向アリテ整理上差支不尠ニ付斯ノ如キコトナキ様注意ヲ要ス

#### 癩豫防ニ關スル法令施行手續

- 第一條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノアルトキハ警察官署ハ明治四十年七月內務省令第十九號第二條規定事項ノ外左ノ各號ヲ報告スヘシ
  - 一 所持物件ノ種類數量
  - 二 一時救護ヲ要スヘキ同伴者又ハ同居者ノ有無及其ノ人員年齡男女別
- 第二條 一時救護ヲ要スル癩患者又ハ其ノ同伴者若ハ同居者ハ警察官署ニ於テ之ヲ救護シ止ムヲ得サル場合ハ被救護者ヲ市町村長ニ引渡スヘシ被救護者ヲ市町村長ニ引渡シタルトキハ其ノ年月日時ヲ知事ニ報告スヘシ
- 第三條 警察官署ニ於テ明治四十年三月法律第十一號第九條第一項ニ依リ檢診ヲ行ハシメ又ハ同條第二項ニ依リ醫師ヲ指定セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ指揮ヲ受クヘシ

#### ●癩患者取扱ニ關スル件

明治四十二年五月十二日  
衛第三七四五號警務長指示

〔各署長宛

癩患者取扱ヒ方ニ關シテハ一時救護ヲ要スル者ヲ除クノ外本年三月本縣訓令第十四號及同月二十五日衛第二四六一號ヲ以テ及指示候次第有之當該吏員ハ故ナク癩患者ニ關スル事實ヲ漏泄スルコトヲ得サル旨訓令相成候處惟フニ癩ハ從來遺傳性疾患ト誤認セラレ世人ヨリ擯斥ヲ受クル事甚シク呼フニ天刑病ノ名ヲ以テシ患者ハ外聞ヲ恥テ極力其ノ事實ヲ秘密ニ附スル慣習アルハ人情ノ弱點ニ有之醫師又ハ當該吏員ニ於テ豫防上此弱點ニ斟酌ヲ加フルハ一面ニ於テ患者ノ告白ヲ促カシ其ノ隱蔽ヲ豫防スル所以ニ外ナラス從テ患者届出ノ際等ニ於テ正服ノ警察官出入シテ徒ラニ隣保ノ視聽ヲ惹起スルカ如キハ努メテ之ヲ避ケ隨時平服ニテ派遣シ平穩ノ間ニ其ノ視察ヲ了シ消毒其ノ他豫防方法ニ關シテモ苟モ苛酷ニ涉ルノ處置ニ出テス寧ろ病性等ニ就キテハ一般ノ思想ヲ養成スルコトニ努メラルヘシ

癩患者取扱ヒ方ニ關シテハ一時救護ヲ要スル者ヲ除クノ外本年三月本縣訓令第十四號及同月二十五日衛第二四六一號ヲ以テ及指示候次第有之當該吏員ハ故ナク癩患者ニ關スル事實ヲ漏泄スルコトヲ得サル旨訓令相成候處惟フニ癩ハ從來遺傳性疾患ト誤認セラレ世人ヨリ擯斥ヲ受クル事甚シク呼フニ天刑病ノ名ヲ以テシ患者ハ外聞ヲ恥テ極力其ノ事實ヲ秘密ニ附スル慣習アルハ人情ノ弱點ニ有之醫師又ハ當該吏員ニ於テ豫防上此弱點ニ斟酌ヲ加フルハ一面ニ於テ患者ノ告白ヲ促カシ其ノ隱蔽ヲ豫防スル所以ニ外ナラス從テ患者届出ノ際等ニ於テ正服ノ警察官出入シテ徒ラニ隣保ノ視聽ヲ惹起スルカ如キハ努メテ之ヲ避ケ隨時平服ニテ派遣シ平穩ノ間ニ其ノ視察ヲ了シ消毒其ノ他豫防方法ニ關シテモ苟モ苛酷ニ涉ルノ處置ニ出テス寧ろ病性等ニ就キテハ一般ノ思想ヲ養成スルコトニ努メラルヘシ



第四條 警察官署又ハ市町村長ニ於テ一時救護スル場合ニ於ケル費用ハ左ノ限度ヲ超ニルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ認可ヲ受クヘシ其ノ急迫ノ場合ニ於テハ直ニ決行シ其ノ旨報告スヘシ

- 醫師診斷料(産婆共) 一回金五拾錢
- 同診斷書料 一通金貳拾錢
- 手術料 實費
- 産後汚物片付 金五拾錢
- 藥價 一方ニ付一日金拾錢
- 食費 下關市ニ限リ金拾五錢
- 看護人(一人) 一晝夜一人金五拾錢
- 被服料 下關市ニ限リ金七拾錢
- 寝具料 夏金七拾錢、冬金壹圓五拾錢
- 薪炭油費 一日金七錢
- 借家料 實費
- 小屋掛料材料大工夫共金五圓 一日金五錢
- 但シ借家ナキトキニ限ル
- 死亡取扱費 行旅死亡者ノ取扱ヲ受クルモノヲ除ク)
  - 死體番人費 二人以内 一晝夜一人金五拾錢
  - 死體檢案料及檢案書料 下關市ニ限リ七拾錢
  - 埋葬又ハ火葬費ノ他人夫賃共金四圓 下關市ニ限リ金五圓
- 第五條 一時救護中ノ癩患者及同伴者又ハ同居者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當該警察官署長又ハ市町村長ハ直ニ報告スヘシ
  - 一 扶養義務者ニ於テ引取リタルトキ
  - 二 療養所ニ發送シタルトキ
  - 三 死亡シタルトキ

【山口警】

四 費用辨償ヲ得タルトキ

- 第六條 市町村長ニ於テ明治四十年七月勅令第二百六十二號第二條第三項ニ依リ一時救護ニ要シタル費用ヲ當廳ニ請求スルトキハ第一號様式ノ請求書ニ正當領收證及辨償ヲ得サル事由書ニ往復書類ヲ添付スヘシ
- 前項ノ費用ヲ被救護者又ハ扶養義務者ニ辨償ヲ求ムル場合ニ於テハ前項ヲ準用ス
- 警察官署ニ於テ救護ノ爲要シタル費用アルトキハ第一項ニ準シ當廳ニ請求スヘシ
- 第七條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クルモノヲ除クノ外一時救護中ノ癩患者死亡シタルトキハ其ノ遺留物件中有價證券及見積價格拾圓未満ノ物件ハ隨意契約ニ依リ賣却スルコトヲ得
- 救護ノ爲設ケタル小屋掛其ノ他ノ物件ハ前項ニ準シ賣却シ其ノ費用ニ充ツヘシ但シ買受者ナキカ又ハ必要ト認ムルトキハ棄却スルコトヲ得
- 前二項ノ物件ハ消毒方法ヲ施シタル後ニアラサレハ授與移轉遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス
- 第八條 癩患者乗用車駕其ノ他病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒方法ヲ施行スヘシ
- 第九條 當該官吏員ハ故ナク癩患者ニ關スル事實ヲ漏泄スルコトヲ得ス
- 第十條 警察官署ニ於テハ患者名簿ヲ調製シ異動ヲ生シタル毎ニ加除スヘシ
- 前項ノ名簿ハ他見ヲ避クル爲常ニ鎖鑰ノ設ケアル場所ニ格納スヘシ
- 癩患者等一時救護費請求書 一金何程
- 是ハ癩患者(同伴者又ハ同居者)何某一時救護費
- 内 譯

【山口警】

警察官署ニ於テ明治四十年三月法律第十一號第一條ノ届出ヲ受ケタルトキハ明治三十年七月訓乙第二十九號傳染病豫防法令施行手續第四條ニ準シ報告スヘシ

明治四十二年六月三十日 衛第六二七〇號警務長指示

癩患者ニ關スル諸報告ハ電話及普通文書トセス總テ祕號文書トシテ取扱ハルヘシ

癩患者救護月報ニ關スル件

大正十五年八月三日 衛第七六〇〇號警察部長指示

標記ノ件大正十五年七月以降毎月左記様式ニ依リ翌月五日迄ニ報告セラルベシ

癩患者救護月報

區	分	月計		累計	備考
		月	計		
道府縣立癩療養所ニ送致シタルモノ					
扶養義務者ニ引渡シタルモノ					
一時救護中ノモノ					
合 計					

(何年何月) 何々警察署

癩豫防ニ關スル件

明治四十二年三月三十日 衛第二五二八號警務長指示

癩豫防ニ關スル法令施行手續本日發布相成候處一時救護ヲ要スル癩患者又ハ其ノ同伴者若ハ同居者ハ主トシテ警察官署ニ於テ之ヲ救護シ市町村長ト協議シテ傳染病院隔離病舎ノ一室ヲ以テ救護所ニ充ツル等便宜ノ方法ヲ講セラルヘシ

癩患者報告ニ關スル件

明治四十二年三月二十九日 衛第二四六二號警務長指示

●癩豫防ニ關スル件

大正八年九月二十三日  
衛第五六〇二號警察部長指示

各署長宛

癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナク又ハ適當ト認ムル扶養義務者  
ナク療養所ヘ送致シ救護ノ必要アリト認ムル者ハ別表各項ヲ調査シ醫師診  
斷書ヲ添ヘ報告セラルヘシ  
尙ホ症狀ノ大要、自用ヲ辨シ得ルヤ他人ノ介護ヲ要スルヤ否ハ備考トシ  
テ附記スヘシ

本籍	現住所	年發病日	系本統病	程教育ノ	性癖	信教	扶養義務者ノ 扶養力生計 状態	金携品
氏職族 生年月日 氏名業稱	住發病 所時	住發病 所時	技特有 能ノ	關兵役 保役能ノ	素行	前科	親族ノ 及住所氏 名	其他参考 ナルベキ事

●癩患者送致手續改正ノ件

〔山口署〕

大正八年九月十六日  
發第三〇五號大島療養所長通牒

山口縣警察部長宛

今般管理縣知事ノ認可ヲ經テ癩患者送致手續別紙ノ通改正致候條御承相  
成度候

癩患者送致手續

- 一 明治四十年内務省令第十九號第二條ニ據リ療養所ニ送致ヲ要スル患者  
アルトキハ左記事項ヲ調査シ豫メ療養所ニ照會ヲナスモノトス
- 一 患者ノ本籍住所氏名性別年齢
- 二 症狀ノ大要
- 三 自用ヲ辨シ得ルヤ他人ノ介護ヲ要スルヤ否
- 二 患者送致ノ際ハ送致書ニ醫師ノ診斷書、戸籍簿本並附表第一ノ身上名  
票ヲ添付スルモノトス
- 三 患者ノ送致ハ汽車、船便ニ依ルノ外徒歩旅行ヲナサシムルモノトス但  
シ歩行困難等ノ爲メ特ニ車馬ヲ以テ送致シタル場合ニハ其事由ヲ記シタ  
ル護送命令者ノ證明ヲ要ス
- 四 患者送致ニ要スル費用ハ救護地ヲ起點トシ左ノ制限ニ依リ療養所費ヲ  
以テ支辨スルモノトス
  - 一、食費 一食拾五錢以内
  - 一、宿泊料 一夜五拾錢以内(夕食朝食料ヲ含ム)
  - 一、汽車船賃 各三等ノ實費
  - 一、車馬賃 實費
- 一、送致ノ途中診療消毒等ノ爲メニ要シタル費用ハ其ノ實費
- 五 前項ノ費用ハ護送者ニ於テ便宜雜費支辨シ精算ノ上正當領收證(汽車  
賃ヲ除ク)ヲ徴シ附表第二、第三ノ請求書ヲ添付シ護送命令者ヲ經テ療  
養所ヘ請求スルモノトス

六 護送者ノ旅費ハ其ノ身分所屬官廳ノ經費ヨリ支出スルモノトス

〔附表第一〕

本籍	現住所	年發病日	系本統病	程教育ノ	性癖	信教	扶養義務者ノ 扶養力生計 状態	金携品
氏職族 生年月日 氏名業稱	住發病 所時	住發病 所時	技特有 能ノ	關兵役 保役能ノ	素行	前科	親族ノ 及住所氏 名	其他参考 ナルベキ事

〔山口署〕

汽船賃	人力車賃	宿泊料	食費
壹圓	參圓	貳圓	六拾錢
何港ヨリ何港迄三等實費	何地ヨリ何地マテ貳人分	何地及何地ニ於テ宿泊二	何月何日晝及何日晝食二
二人分一人五十錢宛	一人壹圓五拾錢宛	一人分一人五拾錢宛	一人分一人拾五錢宛
何哩	十里	二泊	四食
	一人一里	一人一泊	拾五錢

右請求候也  
年月日

何縣何警察署  
官 氏 名

大島療養所長殿

〔附表第三〕

仕譯書  
一金何圓也  
(記載ノ文意ハ請求書ト同様)  
右之通ニ候也  
年月日

何縣何警察署  
官 氏 名

大島療養所長殿

●癩患者汽車輸送賃金ニ關スル件

大正十年八月十五日  
衛第五八九九號警察部長通牒

各署長宛

首標ノ件ニ付別紙之通衛生局長ヨリ通牒アリタル趣香川縣ヨリ通報有之候

〔附表第二〕  
請求書

一金何圓也  
但年月 日何地出發同月 日香川縣木田郡庵治村大島到着癩患者何  
某外何名ヲ大島療養所ヘ送致費雜替金

區別	金額	摘要	里程及 數量	單價
汽車賃	壹圓	何縣ヨリ何縣迄三等實費	何哩	
		二人分一人五十錢宛		

條了知セラルヘシ  
衛生局長通牒(大正十年七月二十九日)  
癩患者汽車輸送賃金ニ關シテハ從來後拂ノ取扱ヲナシツ、有之候處今同鐵道省ニ於テ現拂ニ改正相成候爲之カ取扱上支障有之旨申出ノ向モ有之候處右ハ原則トシテ現拂ニ改メタルモ警察官署ニ於テ現金支出上差支アリ其旨當該縣長ヘ申出タル時ハ縣長ヨリ所屬長ヘ經何ノ上隨時後拂取扱ヲ爲シ得ル趣ニ付右ニ御了知相成度及通牒候也。

### ●外國人タル癩患者取扱ニ關スル件

明治四十一年五月四日  
衛第三五六八號警務長訓示

- 一 本件ニ關シ別紙寫ノ通下關水上警察署長ヘ訓示シタルニ付第五項ノ通知ヲ受ケタルトキハ本人ノ動靜ヲ監視スヘシ
- 二 別紙第三項第二號ニ依リ外出ヲ許可シタルトキハ警察官吏之ヲ監督スヘシ
- 三 所轄外ニ滞在在地ヲ移轉スルコトヲ許可シタルトキハ別紙第五項ニ準シ所轄警察官署ニ通知スヘシ
- 四 本人ノ動靜ハ本官ニ報告スヘシ

明治四十一年五月四日  
衛第三五六八號警務長訓示

明治四十年九勅令第二九四號外國人タル癩患者取扱ニ關スル件左ノ通心得

〔山口警〕

- 一 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶入港シタルトキハ門司海港檢疫所ニ於テ該患者ノ有無ヲ檢診ス
- 二 前項ニ依リ外國人タル癩患者ヲ發見シタルトキハ患者及船長又ハ其ノ代理人ニ消毒其ノ他豫防方法ヲ指示ス
- 三 前項ノ患者便船ノ都合又ハ在本邦ノ親戚知人取引商店等ニ重要ナル用務アル等已ムヲ得サル事由アル爲メ一時下關港ニ上陸ヲ願出シタルトキハ左ノ條件ヲ附シテ之ヲ許可スヘシ
- (一) 上陸中ハ成ルヘク病院其他適當ト認ムル場所ニ於テ療養シ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其他豫防方法ヲ行フコト
- (二) 已ムヲ得サル事由アリテ外出セムトスルトキハ豫メ警察官署ノ許可ヲ受ケルコト
- (三) 最近ノ便船ニテ本邦ヲ退去スルコト
- (四) 必要ト認ムルトキハ何時ニテモ退去ヲ命スルコト
- 四 前項各號ノ事項ハ本人ニ示シ其ノ請書ヲ徵スベシ但シ第三號ニ關シテハ其乘船セムトスル船舶ノ船主又ハ代理人ノ承諾書ヲ添付セシムヘシ
- 五 第三項ニ依リ上陸ヲ許可シタルトキハ前項ノ請書ヲ添へ滞在地所轄警察官署ニ通知シ同時ニ本官ニ報告スヘシ

### ●内地ニ在ル朝鮮人癩患者取扱方

大正六年六月十四日  
衛第一八號警察部長指示

内地ニ在ル朝鮮人癩患者モ現存ニ於テハ等シク癩預防法ニ依リ取扱可然旨内務省衛生局長ヨリ通牒有之候條右了知セラルヘシ

〔山口警〕

### ●癩患者監獄拘禁ニ關スル件

明治四十二年三月十三日  
衛第一八三九號警務長指示

明治四十年法律第十一號癩預防ニ關スル件本年四月一日ヨリ施行ニ付テハ監獄ニ拘禁スル該患者出監ノ際ニ於ケル右法律施行後ノ取扱方ニ關シテハ此際司法大臣ヨリ各監獄ニ訓令セラル、趣ニ有之則チ癩患者ニシテ出監後療養ノ途ナク且救護者ナキトキハ典獄ハ監獄所在地ノ警察官署ニ對シ前以テ出監ノ日時ヲ通報シタル後監獄醫ノ診斷書ヲ添へ之ヲ同官署ニ引渡シ其他ノ癩患者ニ關シテハ特ニ消毒其ノ他豫防方法ヲ患者ニ指示シ監獄醫ノ診斷書ヲ添へ監獄所在地ノ警察官署ニ其ノ釋放ノ日時ヲ通報セラル、趣ニ有之候條右様承知シ置カルヘシ

〔山口警〕

### ●癩患者救護ニ關スル件

大正十四年八月十一日  
衛第七二四五號警察部長指示

標記ノ件ニ關シ明治四十年三月法律第十一號癩預防ニ關スル件第三條ニ於ケル「療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノ」ノ解釋並同法第五條ニ對シ別紙ノ通牒衛生局長ヨリ通牒有之候條將來右趣旨ニ依リ取扱ハルヘシ  
衛生局長通牒(大正十四年八月四日)  
標記ノ件ニ關シテハ過般警察部長及地方衛生技術官事務打合せニ於テ夫々指示相成候次第モ有之候處從來癩預防ニ關スル法律第三條ノ規定ニ依リ患者ノ療養所入所ニ關シテハ頗ル狹義ニ解シ概シテ浪浪患者タルモノ以外ハ入所セシメラレサルカ如キ狀況ニ有之様存セラレ候ヘ共同條ニ於ケル「療養ノ途ヲ有セス」ナル字句ニ就テハ療養ノ資力ヲ有セザルモノノ之ニ該當スヘキハ勿論療養ノ設備ヲ有セザルモノヲモ含ム義ニシテ今日ニ於テハ猶未ダ何レノ患者ト雖モ始ト療養ノ設備ヲ有セザルモノト考フルノ外ナキ狀況ニ有之尙「救護者」ナル字句ニ就テハ扶養義務者ナルト否ヲ問ハス當ニ患者ヲ扶養スルニ止マラス療養病の所遇ヲ與フルモノナルコトノ謂ト解スヘク勞々患者ノ入所資格ハ相當廣キモノト被存又全法第五條ニ於ケル患者救護費ノ求償ハ大體其ノ辨償困難ナリト認メラルル場合ニ於テハ成ルヘク輕減又ハ免除シ其ノ辨償ヲ求ムル場合ニ在リテハ患者ノ從來自宅ニ於ケル生活費ヲ標準トシ其ノ限度ヲ越ヘサル様御取計ヒ相成度殊ニ扶養義務者ヨリ其ノ辨償ヲ求ムル場合ニ於テハ扶養義務者ノ民法上ノ扶養義務ノ程度ヲ超ヘサル様御取計ヒ相成度依命及通牒候也

### ●癩患者及腸窒扶私菌保有者除役ニ關スル件

明治四十二年六月十九日  
衛第四七九四號警務長指示

第五師團軍醫部長ヨリ當分ノ間癩患者及腸窒扶私菌保有者ヲ除役歸郷セシムル場合ニハ該隊付高級醫官若ハ病院長ヨリ直接所在地及本人居住地ノ警察署ヘ其ノ除役(退院)年月日及參考事項ヲ通報セシムヘキ旨通知アリタルニ付右通知ヲ受ケタルトキハ癩患者ニ關シテハ一時救護ヲ要スル者ノ外本年六月七日付衛第四四六三號ニ依リ取扱ヒ腸窒扶私菌保有者ニ對シテハ客年十月三十日警察會議ノ際ニ於ケル衛生ニ關スル注意事項第十一項ノ二ニ準シ相當措置シ其ノ旨報告セラルヘシ

各署長宛(但シ第十二師團管下)  
各警察官署ヲ除ク

第五節 結核豫防

●結核豫防法施行細則

大正十年一月二十五日  
山口縣令第九號

結核豫防法施行細則左ノ通定ム

結核豫防法施行細則

- 第一條 醫師ハ別紙様式ニ依リ結核患者名簿ヲ備ヘ結核豫防法第二條ニ依リ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示シタルトキハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
  - 一 患者死者ノ住所氏名男女別年齢及職業
  - 二 病名
  - 三 診斷又ハ檢案月日
  - 四 消毒其ノ他豫防方法ノ指示ヲ受ケタル者ノ住所氏名前項ノ名簿ハ警察官吏又ハ警察醫ノ求メアリタルトキハ之ヲ提示スヘシ
- 第二條 結核豫防法上必要ト認ムルトキハ左記各號ノ者ニ對シ健康診斷ヲ行フ
  - 一 產婆看護婦
  - 二 鍼灸術按摩術理髮古著古蒲團古本屑物ノ營業者及其從業者
  - 三 藝妓娼妓仲居酌婦及劇場寄席活動寫眞館内ニ於テ雜業ニ從事スル者
  - 四 旅人宿木賃宿下宿屋湯屋料理屋飲食店待合茶屋貸座敷業者及其ノ從業者
  - 五 寄宿舍合宿所ニ於テ雜務ニ從事スル者
  - 六 電車、營業用ノ乗合自動車馬車ノ乘務員及人力車轆子
  - 七 業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ從事スル者又ハ病毒蔓延ノ虞アル場所ニ居住シ若ハ其ノ場所ニ於テ職業ニ從事スル者

〔山口警〕

第三條 講習所養成所圖書館博物館公會堂(青年會場ヲ含ム)教誨教所銀行會社勸工場醫師齒科醫師ノ診察所患者控所病室合宿所遊技場市場飲食店貸座敷人力車駐車場ニ於テハ結核豫防法施行規則第二條ノ設備ヲ爲スヘシ

第四條 古著古蒲團古紙屑襪履古本等ノ營業者ハ其ノ商品ヲ消毒スルニアラサレハ賣渡讓渡貸渡ヲ爲スコトヲ得ス但シ警察官吏ノ承認ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 結核豫防法施行規則第四條第一項ノ規定ヲ遵守スヘキ地域ハ別ニ之ヲ告示ス

第六條 結核豫防ノ爲消毒藥並消毒器ヲ備ヘ患者其ノ他ノ求メニ應シ家屋物件ノ消毒ヲ爲シ若ハ消毒器具ヲ貸與シ料金を得ムトスル者ハ消毒器具藥品ノ種類物件ノ種別消毒方法並料金額ヲ定メ所轄警察官署ヲ經テ知事ノ許可ヲ受ケヘシ

第七條 結核療養所ヲ設置セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ知事ニ申請シ認可ヲ受ケヘシ
 

- 一 名稱位置及附近ノ見取圖
- 二 敷地及建物ノ平面圖斷面圖建物ノ設計仕様書
- 三 病室ノ數並ニ等級別收容人員
- 四 職員ノ擔任事務(履歷書ヲ添付スルヲ要ス)
- 五 建設費及收支概算書
- 六 建設落成及事業開始ノ見込年月日

第八條 結核豫防法施行規則第四條第一項ノ規定ハ本則第五條ノ地域ニ拘ラス一般旅人宿下宿屋貸座敷業ニ之ヲ準用ス

第九條 結核豫防法第四條第一項第二號ニ依リ從業ヲ禁止セラレ又ハ同法第七條第一項ニ依リ療養所ニ入所ヲ命セラレタル爲生活スルコト能ハサ

〔山口警〕

- ル者ニシテ結核豫防法施行令第十三條ニ該當スル者生活費ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ醫師ノ診斷書及戶籍謄本ヲ添ヘ本人又ハ代理人ヨリ知事ニ申請スヘシ
  - 一 從業禁止者又ハ入所者ノ住所氏名生年月日
  - 二 補助ヲ受ケヘキ者ノ氏名生年月日
  - 三 從業禁止又ハ入所ノ年月日
  - 四 禁止又ハ入所前ニ於ケル各家族同居者ノ收入並補助ヲ要スル事由
- 第十條 生活費ノ補助ハ一人一日ニ對シ一等地ハ金參拾錢以內二等地ハ金貳拾七錢以內三等地ハ金貳拾四錢以內トシ一家ニ於テ補助ヲ受ケヘキモノ數人アルトキハ一家總額一日ニ付一等地金壹圓二等地金九拾錢三等地金八拾錢ヲ超ヘサル範圍内ニ於テ之ヲ支給ス
- 土地ノ等級ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十一條 生活費ノ補助ハ從業禁止又ハ入所ノ事實アリタル日ヨリ起算シ補助停止又ハ停止ノ當日迄日割計算ヲ以テ之ヲ支給ス
- 補助ノ停止ヲ解除シ若ハ停止期間満了シタルトキ亦前項ニ準ス
- 第十二條 生活費補助ノ許可ヲ受ケタル者ハ毎月末日其ノ月分ヲ請求スヘシ但許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ補助停止若ハ停止セラレタルトキハ期日ニ拘ラス請求スルコトヲ得
- 第十三條 生活費補助ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フモノトス
  - 一 從業ヲ禁止セラレ又ハ入所ヲ命セラレタル者退所又ハ死亡シタルトキ
  - 二 從業禁止ヲ解除セラレタルトキ
  - 三 從業ヲ禁止セラレタル者ニシテ縣外ニ轉居シタルトキ
- 第十四條 生活費ノ補助ヲ受ル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ補助ヲ廢止又ハ減額スルコトアルヘシ
  - 一 該當スルトキハ補

- 一 結核豫防法施行令第十三條第二號又ハ第三號ニ該當スル者死亡シ若ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキ
- 二 他ニ救恤ノ途アルニ至リタルトキ
- 三 補助ヲ廢止又ハ減額スルモ生活シ得ルト認メタルトキ
- 四 本人ノ申請アリタルトキ
- 第十五條 生活費ノ補助ヲ受クル者拘留又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若ハ行衛不明トナリタルトキハ其刑期又ハ行衛不明ノ間補助ノ全部若ハ一部ヲ停止ス
- 第十六條 未決拘留中ニ係ル者其ノ拘留期間内亦同シ
- 第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ本人戶主又ハ法定相續人ヨリ三日以內ニ知事ニ届出ツヘシ
  - 一 第十三條第一號第三號ニ該當シタルトキ
  - 二 第十四條第一號若ハ第二號ニ該當シタルトキ
- 第十八條 生活費補助許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ廢止若ハ減額ノ事由生シタルモノニシテ前條ニ依リ届出ヲ怠リ補助金ノ支拂ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ補助金ノ全部若ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ
- 第十九條 生活費ノ補助ヲ停止シタル場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル補助金アルトキ亦前項ニ同シ
- 第二十條 結核豫防法第五條第一項ノ規定ニ依リ建物ノ使用制限又ハ禁止セラレタル者補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ圖面ヲ添ヘ知事ニ申請スヘシ
  - 一 建物ノ位置構造坪數
  - 二 所有者及使用者ノ住所氏名
  - 三 補助金ノ要求額
- 第二十一條 本則ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ總テ所轄警察官署ヲ經由ス

附則

本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十七年三月山口縣令第二十三號同年三月山口縣令第二十四號ハ本則  
施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

結核患者名簿

備考	住所	病名		職業	氏名
		診斷年月日	轉歸年月日		
				男	年 齡
				女	

消毒其ノ他豫防方法ノ指示ヲ受ケタルモノノ住所氏名ハ備考欄ニ掲クヘシ

結核豫防法施行規則第四條ニ依リ地域指定ノ件

大正十一年一月二十五日  
山口縣告示第四十一號

結核豫防法施行規則第四條第一項各號ノ規定ヲ遵守スヘキ場所ヲ左ノ通指

〔山口署〕

定ス

記

熊毛郡	淺江村	虹ヶ濱海水浴場
都濃郡	湯野村	湯野溫泉場
佐波郡	富海村	富海海水浴場
吉敷郡	山口町	湯田溫泉場
厚狹郡	厚東村	杉野溫泉場
厚狹郡	厚狹町	原田溫泉場
豐浦郡	王司村	福正寺溫泉場
同郡	栗野村	員光溫泉場
同郡	殿居村	栗野溫泉場
同郡	同村	荒木溫泉場
同郡	同村	一ノ俣溫泉場
同郡	川棚村	川棚溫泉場
同郡	依山村	依山溫泉場
大津郡	深川村	深川溫泉場
阿武郡	紫福村	湯ノ口溫泉場
同郡	荻町	弘法寺冷泉場
熊毛郡	室積町	室積海水浴場
厚狹郡	萬倉村	北米溫泉
都濃郡	富田町	竹島海水浴場

結核豫防法施行手續

大正十一年七月二十五日  
山口縣訓令第二十四號

改正 大正一二年訓令第三二號

警察署(警察分署)

結核豫防法施行手續左ノ通り定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

結核豫防法施行手續

- 第一條 警察官署ハ第一號乃至第二號様式ノ結核患者名簿ヲ備フヘシ但シ之ヲ合冊シ座別ヲ設クルモ妨ナシ
- 第二條 警察官署ハ結核豫防法施行細則(以下單ニ細則ト稱ス)第一條ニ依リ醫師ノ設備スル患者名簿ヲ毎月一回以上査閱シ左ノ各號ニ依リ處理スヘシ
  - 一 患者所轄内在住者ナルトキハ之ヲ第一號様式ノ名簿ニ記入整理スルコト
  - 二 患者他所轄ニ係ルトキ及未治ノ儘他所轄ニ移轉シタルトキハ名簿整理ノ材料ヲ具シ之ヲ當該所轄警察官署ニ通報スルコト轉歸其ノ他異動ノ場合亦同シ但シ本號ノ他所轄ハ縣内ニ止ムルコト
  - 三 前號ノ通報ヲ受ケタル警察官署ハ之ヲ第一號様式ノ名簿ニ登錄整理スルコト
- 第三條 患者異動ノ狀況ハ第三號様式ニ依リ毎年一月七月各末日迄ニ前六箇月分ヲ知事ニ報告スヘシ
- 第四條 警察官署ハ細則第二條該當者ニ對シ健康診斷ヲ行フ必要アリト認メタルトキハ診斷ヲ受クヘキモノノ種別人員日時場所等ヲ具シ知事ニ報告スヘシ
- 第五條 警察官署ハ細則第二條ノ健康診斷ニ依リ發見シタル患者ニ對シテハ消毒其ノ他豫防方法ヲ指示スルト共ニ速ニ醫療ヲ受クヘキコトヲ懇諭シ之ヲ第二號様式ノ名簿ニ登錄シ異動ノ都度之ヲ整理スヘシ但シ其ノ患者ニシテ既ニ醫師ノ治療中ニ屬シ第一號様式ノ名簿ニ登錄済ノモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 第二號様式ノ名簿ニ登錄セラレタル患者醫師ノ治療ヲ受クルニ至リタルトキハ第一號様式ノ名簿ニ移記スヘシ

〔山口署〕

第五條 警察官署ハ細則第四條ノ營業者其ノ商品ヲ消毒シ證明ヲ請フトキハ之ニ對シ別記一號様式ノ消毒済證ヲ貼付シ之ニ二號様式ノ消印ヲ爲スヘシ

同條但シ書ノ承認ハ其ノ物件結核病毒ニ汚染ノ疑ナシト認ムルモノ又ハ買受人讓受人等ノ用途ヲ調査シ病毒傳播ノ虞ナシト認ムルモノニ限り之ヲ與フヘシ

第六條 警察官署ハ細則第六條ノ許可願ヲ受理シタルトキハ其ノ事實並設備ノ適否等ヲ調査シ意見ヲ付シ知事ニ進達スヘシ

第七條 警察官署ハ細則第七條ノ認可願ヲ受理シタルトキハ其ノ位置及設計ノ適否及支障ノ有無ヲ調査シ郡市長ノ意見ヲモ徵シ進達スヘシ

第八條 警察官署ハ細則第九條ニ依リ生活費補助ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ事實及扶養義務者ノ有無並生活狀態ヲ調査シ速ニ知事ニ進達スヘシ

第九條 前項ノ申請ニ依リ生活費ノ補助ヲ受クル者ニシテ細則第十三條第二號ノ處分ヲ要スルニ至リタリト認ムルトキ又ハ同第十四條第三號ニ該當スルモノアルトキ若ハ同第十五條ノ處分原因生シタルトキハ警察官署ハ其ノ事由ヲ具シ速ニ知事ニ報告スヘシ

第十條 細則第十四條第四號ノ申請アリタルトキハ警察官署ハ其ノ事由ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ

第十一條 警察官署ハ細則第十六條ニ該當ノモノニハ速ニ届出ヲ爲サシムヘシ

第十二條 警察官署ハ細則第十八條ニ依リ補償金交付ノ申請書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ七日以内ニ知事ニ進達スヘシ

第十三條 警察官署ハ結核豫防法第四條第一項第二號及同第七條第一項ノ處分ヲ要スト認ムル者アルトキハ左ノ事項ヲ具シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ知





一號鐘形

二號鐘形



### 「トラホーム」豫防法及結核豫防 法中疑義ニ關スル件

岡山縣知事照會(大正九年二月二十日)  
衛第一二五四號

トラホーム豫防法及結核豫防法中左記ノ廉疑義相生シ決シ兼テ候條至急何分ノ御回示相煩度候也

左記

一、トラホーム豫防法第五條ニ依リ地方長官ハ豫防及治療ノ爲メ市町村醫ノ設置ヲ命シ猶市町村長ニ命シテ該醫師ヲシテ市町村住民ノ檢診ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其ノ檢診ヲ要スル費用ハ市町村ノ負擔ナル乎  
一、地方長官ハトラホーム豫防法第四條第一項第三號ニ依リ公立學校及製造所ニ醫師ノ設立ヲ命シ且其生徒職工等ノ患者ニ對シ治療ヲ管理者若クハ代理者ニ命スル事ヲ得ルヤ否

衛生局長回答(大正九年九月二十四日)  
內務省岡衛第一四一號

客月二十日衛第一二五四號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件左記ノ通御了相成度

左記

一、トラホーム豫防法第四條第二項ノ規定ニ依リ縣ノ負擔トス  
二、地方長官ハ「トラホーム」豫防法第四條第一項第三號ニ依リ私立ノ學校及製造所等ニ對シ醫師ノ設置ヲ命スルコトヲ得ヘク又其ノ場所ノ管理ヲ爲ス者若クハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ生徒、職工タル「トラホーム」患者ノ治療ヲ命スルコトヲ得ヘシ而シテ公立ノ學校、製造所等ニ對シテハ同法第八條ノ規定アルカ故ニ第四條第一項第三號ノ規定ニ依リテハ之カ設置

### 結核豫防法施行細則第十條生活費補給ニ對スル土地ノ等級ニ關スル件

大正十一年七月二十五日  
山口縣訓令第二十五號

警察署(警察分署)

大正十一年一月山口縣令第九號結核豫防法施行細則第十條生活費補給ニ對スル土地ノ等級左ノ通定ム

記

- 一等地 下關市 宇部市 徳山町 下松町 小野田町 長府町 彦島町
- 二等地 久賀町 岩國町 柳井町 防府町 山口町 小郡町 萩町
- 三等地 前記以外ノ町村

(山口警)

(山口警)

ヲ命スルコトヲ得サルモ其ノ公立ノ學校等カ地方長官ノ監督ノ下ニ在ルモノナルニ於テハ監督權ノ作用トシテ第八條ノ規定ニ依リ之ヲ命スルコトヲ得ヘク其ノ場所ノ管理ヲ爲ス者若クハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ當該患者ノ治療ヲ命スルニ付テモ亦此ノ方法ニ依リ行フヲ得ヘキモノト存ス  
三、結核豫防法第三條前段ノ場合ニ於ケル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔、後段ノ場合ニ於ケル費用ハ施行ヲ命セラレタル者ノ負擔ト存ス

大正十年六月二十一日  
發衛第一六八號衛生局長通牒

各地方長官宛

本件ニ關スル疑義ニ就キ左ノ通決定候條御了知相成度

- 一、トラホーム豫防法第四條第一項第一號及結核豫防法第四條第一項第一號第二號ノ事項ニ付テハ行政官廳ハ現ニ官公立ノ學校製造所等ノ管理權ニ服シツ、アル者ニ對シ其ノ權限ヲ及ホシ得サルモノトス
- 二、トラホーム豫防法上必要アル場合ニ於テハトラホーム疑似症ハトラホーム豫防法第四條第一項第三號第五條第六條第七條第八條ノ規定ニ依リ取扱フコトヲ得ルモノトス

長崎市長照會(大正十年七月十一日)  
結核豫防法第七條及同法施行令第六條ハ左記ノ通り解釋致シ候モ爲念相候也

追テ本件ハ急ヲ要スル爲縣ヲ經スシテ何候義縣當局ト協議濟ニ有之尙電報通牒ノ程願上候

記

一、結核豫防法第七條ハ同法第六條ニ依リ設置シタル結核療養所へ入所許否權ノ一部ヲ知事ニ與ヘンカ爲ニ設ケタルモノニシテ原則トシテハ其許否權ハ當然營造物ノ管理者タル市長ニアルモ結核ノ如キ公衆衛生上最モ

第四編 衛生 第二章 防疫

重要ナル種類ノ病氣ニアリテハ其害毒ヲ流ス範圍廣大ナルヲ以テ或ハ警察官ナル國家直接ノ機關ヲ以テ行ハル、場合アルヘキヲ豫想シ原則ノ例外トシテ知事ニ一部ノ入所權限ヲ與ヘンカ爲ニ規定セラレタルモノナリ  
二、結核豫防法施行令第五條ニ依リハ入所費用ハ結核療養所ヲ設置スル公共團體ノ負擔タルヘキモ同令第六條ニ於テ第五條ノ規定ニ係ラス入所費用ノ全部又ハ一部ヲ本人又ハ扶養義務者ヨリ徵收スル事ヲ得ルト規定セラレタルヲ以テ療養ノ途ナキモノト雖豫防法第七條ニ依リ地方長官ニ於テ入所セシメタル者ナル限リ若シ本人又ハ扶養義務者ニ於テ負擔能力アリト認ムル場合ハ之ヲ徵收スルコトヲ得

備考

普通療養ノ途ナキ程度ノ者モ療養所ノ入所料僅少ナルカ故ニ之ヲ負擔シ得ルモノナキヲ保シ難キニ依リ市長カ入所セシムル者ト同様知事カ入所セシムル者ヨリモ費用ヲ徵收スルヲ適當ナリト認ム

衛生局長回答(大正十年十月五日內務省發)  
衛第二五六號長崎縣(回答)

記

一、地方長官ハ結核豫防法第七條ニ依リ結核療養所ニ療養ノ途ナキモノ及豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ入所セシムルコトヲ得ルハ勿論結核療養所ノ設置ヲ命セラレタル市ノ市長ハ營造物管理者トシテ結核患者ニシテ療養ノ途ナキ者ノ任意ノ出願者ニ對シテハ入所セシムルコトヲ得

二、御見込ノ通

高知縣知事照會(大正十一年六月三十日)  
衛發第四八號

大正八年法律第二十六號結核豫防法第四條第一項第一號中ニハ左記各號ノ



者ヲ包含スル義ト解釋差支無之様被存候得共爲念一應貴局ノ御意見承知致  
度候條何分ノ御回示相成度此段及照會候也

記

一、一般工場ノ職工徒弟(工場法ノ適用ヲ受ケル)  
二、表面上直接其業ニ從事セサルモ事實上時々其業ヲ補助スト認メラルル  
菓子屋宿屋等ノ家族雇人等  
衛生局長回答(大正十一年九月十五日)  
(衛檢第二九六號)

大正十一年六月三十日衛發第四十八號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會相成候  
處右ハ御見込ノ通ト御承知相成度

### ●結核豫防法違反事件判決ニ關スル件

大正十一年八月二日  
衛第五〇六六號警察部長指示

各署長宛

標記ノ件ニ關スル大審院判決書寫別紙參考ノ爲及送附候也

判決書

香川縣仲多度郡善通寺町  
大字上吉田千四拾八番地第一  
平民古物商 田中アサ

明治十八年三月二十一日生

右ノ者ニ對スル結核豫防法違反被告事件ニ付大正十一年二月二日高松地方  
裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ高松地方裁判所檢事正福井廣道ハ上告  
ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

原判決ヲ破毀ス  
被告ヲ科料五圓ニ處ス  
領置物件ハ差出人ニ還付ス

〔山口警〕

理由

高松地方裁判所檢事正代理檢事原田善治上告趣意書第一點原判決ニ於テハ  
被告ハ古物營業者ナル處大正十年十一月申井上利一外一名ヨリ古被服類ヲ  
買受ケ其消毒前ニ之ヲ他ニ賣却シタル事實ヲ確認シナカラ之ニ法規ヲ擬ス  
ルニ當リ右所爲ハ大正八年法律第二十六號結核豫防法第四條第一項同第十  
五條及大正九年香川縣令第三十號結核豫防法施行細則第六條ニ該當セサル  
ヲ以テ罪トナラスト判定シタルハ法規ノ解釋ヲ誤リタル失當ノ裁判ナリト  
ス(中略)ト云フニ在リ仍テ案スルニ大正八年法律第二十六號結核豫防法第  
四條第一項ニハ行政官廳ハ結核豫防上必要ト認ムル時ハ左ノ事項ヲ行フコ  
トヲ得ルトアリテ同條項各號ノ事項ニ付テハ防疫上必要ノ命令又ハ處分ヲ  
爲スコトヲ行政官廳ニ委任シタルコト明白ナリ而シテ其第四號ニハ古著蒲  
團古本紙屑襪飲食物其他ノ物件ニシテ病者ニ汚染シ又ハ其疑アルモノノ  
賣買若ハ授受ヲ制限シ若ハ禁止シ其物件ノ消毒若ハ廢棄ヲ爲サシメ又ハ其  
物件ノ廢棄ヲ爲スコトヲ得トアルヲ以テ病者ニ汚染シ又ハ其疑アル物件ノ  
如何ナルモノナルヤニ付テハ行政官廳ノ認定ニ委ネタルコト是論ヲ俟タ  
サル所ナリトス從而行行政官廳力防疫取締上必要ナリト認ムルトキハ古被服  
類古著具類古本古毛皮類等ニシテ荷モ營業者ノ取扱ニ係ル場合ニハ特ニ反  
證ナキ限り總テ病者汚染ノ疑アルモノト認メ其讓渡前ノ消毒ヲ命ジ以テ  
其處分ヲ制限スルコトヲ得ルモノニシテ其命令ハ前示法律ノ委任範圍ニ屬  
スルモノナリト云ハサルヘカラス病者ニ汚染シ又ハ其疑アルモノト其否ラ  
サルモノト區別シ後者ニ對シテハ無消毒ノ儘其讓渡ヲ許スカ如キハ到底  
其類ニ堪ヘス却テ取引ヲ杜絶スルニ至ルカ若クハ病者ニ汚染シ又ハ其疑ア  
ルモノ無消毒ノ儘世間ニ流布スルノ機會ヲ多カラシメ爲ニ病者ヲ傳播シ遠  
之カ取締ヲ不能ニラシムヘキ虞アルコト多言ヲ要セサル所ナリ大正九年  
香川縣令第三十號結核豫防法施行細則第六條ハ當院ノ見解ト同様ノ趣旨ニ

〔山口警〕

シテ古被服類其他特種ノ古物類ニシテ營業者ノ取扱ニ係ル商品ハ汎ク病者  
汚染ノ疑アルモノト認メ其消毒前ニ在リテハ之カ讓渡ヲ爲スコトヲ許サス  
但警察官署ノ證明ヲ得タル場合ニ限リ自由ニ處分スルコトヲ得セシメタル  
モノニシテ頗ル適當ノ法規ト云フヘク之ヲ以テ法律ノ委任範圍ヲ超越シタ  
ルモノト論スルヲ得ス故ニ古著類等ニシテ營業者ノ取扱ニ係ルトキハ例  
外ノ場合ヲ除キ必ス消毒スルニアラサレハ讓渡スルコトヲ得サルモノニシ  
テ之レニ違反スルハ即チ前示縣令ニ違反スル者ナルヲ以テ結核豫防法第十  
五條ニ依ル制裁ヲ免ル可カラサルモノト然ルニ原告ガ古物商タル被告ニ  
於テ判示古著類等ヲ無消毒ノ儘賣却シタル事實ニ付キ病者ニ汚染シ又ハ其  
疑アルモノト認ムヘキ證據十分ナラサルモノトシテ無罪ノ判決ヲ爲シタリ  
(中略)仍テ原告ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告ノ所爲ハ大正九年香  
川縣令第三十號結核豫防法施行細則第六條ニ違反スルヲ以テ結核豫防法第  
十五條ニ依リ被告ヲ科料五圓ニ處スヘキ領置物件ハ刑事訴訟法第二百二條  
ニ依リ差出人ニ還付スヘキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

大正十一年四月十三日  
大審院第二刑事部

裁判長判事  
柳川 馬三二  
堀田 用徳  
中西 一男  
中尾 芳徳  
北川 銓  
裁判所書記  
池内 龜之助

右認承應本ニ依リ作ル  
大正十一年六月十二日

於高松地方裁判所檢事局  
裁判所書記

### ●結核患者取扱ニ關スル件

第四編 衛生 第三章 防疫

「トヲホーム」檢診並結核健康診  
斷ニ關スル件  
昭和二年四月十九日  
發衛第一七號衛生局長通牒  
各地方官宛

採取日時	住	所	職業	氏名	年齢	採取者	回数	備考

大正十三年九月十六日  
衛第一〇一七四號警察部長指示  
各署長宛

自衛的健康診斷其ノ他ニ依リ警察官署ニ於テ結核患者ノ發見ニ當リ取扱區  
々ニ涉ルヲ以テ自今業態上病者傳播ノ虞アル職業ニ從事スル者ニ對シテハ  
左記各項ニ依リ取扱ハルヘシ

一、結核豫防法施行手續第十三條ノ事項ヲ報告スルハ勿論略痰ヲ採取進達  
スルコト

二、略痰ハ必ス係員立會隔日ニ採取(朝採取)三回進達スルコト

三、略痰進達ノ際ハ左記様式ノ送付書ヲ添付スルコト

結核患者略痰送付書

ハ大正十五年七月一日ヨリ施行セラレ從テ同法第十四條ノ規定ニ基キ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳播ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ニ對シテハ檢診ヲ施行シ得ルコト、相成候得共右ハ「トラホーム」豫防法第四條第一項第一號ノ規定ニ依ル檢診並結核豫防法第四條第一項第一號ノ規定ニ依ル健康診斷ノ施行ヲ妨クルモノニ非サル旨決定候條依命及通牒候也

追テ上記「トラホーム」豫防法、結核豫防法及工場法ノ規定ニ依ル檢診或ハ健康診斷ノ施行並其後ノ處置ニ付テハ工場監督官吏トノ間ニ聯絡協力ヲ圖ル様被致度

### 健康保險法ニ依ル保險給付ト結核患者ノ療養所入所ニ關スル件

昭和四年二月十四日  
三衛豫第九四六號衛生局長通牒

各地方官宛

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通照復候條爲念及通牒候

別紙 社會局保險部長照會(昭和三年十一月二十四日保理第二八九三號)

結核療養所ノ入所ニ關スル件

結核療養所ニ入所セシムベキ結核患者ハ療養ノ途ナキモノ又ハ豫防上特ニ必要ト認ムルモノニ限ル儀ト被存候處健康保險ノ被保險者ハ健康保險法ノ規定ニ依リ一定ノ日數迄ハ療養ノ給付(又ハ療養費)ヲ受ケルコトヲ得ヘキモノニ有之候「健康保險法」第四十三條、第四十四條、第四十七條參照ニ付テハ是等被保險者ニシテ結核患者タル者ニ在リテハ健康保險法ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケ得ル限リハ療養ノ途アルモノト謂フヘク故ニ是等ノ者ハ結核豫防上特ニ必要ト認メラレタル場合ノ外ハ結核療養所ニ入所セシメラレザルモノト思料セラレ候モ爲念見承知致度

衛生局長回答(昭和四年二月十四日三衛豫第九四六號)  
結核療養所ノ入所ニ關スル件  
標記ノ件ニ關シ昭和三年十一月二十四日付保理第二八九三號ヲ以テ御照會

〔山口馨〕

有之候處結核患者ニシテ健康保險法ニ依ル醫療ハ醫療費ノ給付ヲ受ケ又ツツアルモノハ大體療養ノ途アルモノト認メラルルモ結核ニ對スル醫療設備ノ有無適否等ニ依リ場合ニ依リテハ療養ノ途ナシト認メラルルモノモ可有之ト存候

### 消毒所設置ニ關スル件

昭和四年三月二十二日  
衛第一〇二七一號警察部長指示

各署長宛

結核豫防ノタメ消毒藥品或ハ消毒器ヲ備ヘ料金ヲ得テ患家其ノ他ノ消毒ヲ爲ス場合ハ結核豫防法施行細則第六條ニ依リ許可ヲ受ケヘキ規定アルモ其ノ他ノ場合ニ於テハ現行法規ニ何等ノ規定ナク取扱區々ニ涉ルノミナラズ其ノ設備構造ノ適否ハ消毒ノ效果如何ニ重要ナル關係ヲ有スルヲ以テ爾今消毒所ヲ設置シタルトキハ實地調査ヲナシ適否ニ關スル意見及左記各項報告セラレヘシ

#### 記

- 一 消毒所ノ位置
- 二 設置者ノ住所職業氏名年齢但シ組合又ハ共同設置等ニ係ルモノハ代表者氏名
- 三 構造設備及容積ヲ明示セル(内法寸法)圖面
- 四 消毒藥ノ種類、消毒ノ方法
- 五 設置年月日
- 六 使用加入者氏名共同或ハ組合設置ニ係ルモノハ加入、使用者ノ住所氏名

#### 參考(細則第六條)

結核豫防ノ爲消毒藥品或ハ消毒器ヲ備ヘ患家其ノ他ノ求メニ應シ家屋物件ノ消毒ヲ爲シ消毒器具ヲ貸與シ料金ヲ得ムトスル者ハ消毒器具藥品ノ種類物件ノ種別消毒方法及料金額ヲ定メ所轄警察官署ヲ經テ知事ノ許可ヲ受ケヘシ

## 第六節 「トラホーム」豫防

### 「トラホーム」豫防法施行細則

大正九年九月二十一日  
山口縣令第七十一號

〔山口馨〕

改正 大正一三年縣令第五五號

「トラホーム」豫防法施行細則左ノ通定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

「トラホーム」豫防法施行細則

- 第一條 醫師ハ別紙様式ニ依リ「トラホーム」患者名簿ヲ備付ケ該患者ヲ診斷シ消毒其他ノ豫防方法ヲ指示シタルトキハ左ノ事項ヲ之ニ記載スヘシ
  - 一 病狀(重症輕症疑似症ノ別)
  - 二 住所氏名男女別年齢及職業
  - 三 保護者ニ對シ消毒其他ノ豫防方法ヲ指示シタルトキハ其ノ住所氏名前項ノ名稱ハ衛生ニ關スル官公吏ノ求メアリタルトキハ之ヲ提示スヘシ
- 第二條 「トラホーム」ヲ診斷ハ左ノ標準ニ據ルヘシ
  - 一 重症
    - 結膜ニ汎ク顆粒發生スルモノ顆粒ノ發生ト共ニ乳嘴ノ増殖ヲシキモノ又ハ炎症高度ニシテ分泌旺盛ナルモノ
    - 一 輕症
      - 顆粒ノ發生乳嘴ノ増殖等「トラホーム」性病變力險結膜ノ内外背部半月狀皺襞又ハ穹窿部ニ限局スルモノ
      - 一 疑似症
        - 「トラホーム」ニ類似スル症狀アルモ直ニ「トラホーム」ト診定シ難キモノ

「トラホーム」ニ類似スル症狀アルモ直ニ「トラホーム」ト診定シ難キモノ

- 第三條 市町村長ハ毎年一回以上其ノ住民ヲシテ「トラホーム」ノ檢診ヲ受ケシムヘシ
- 第四條 「トラホーム」患者ト診定セラレタル者ハ市町村長ヨリ治療票ノ交付ヲ受ケ治療シタルトキハ醫師ノ證明ヲ得テ之ヲ返納スヘシ
- 第五條 「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受ケルノ途ナキ者ハ警察官吏ノ指示ニ從ヒ治療ヲ受ケヘシ
- 第六條 旅人宿、木賃宿、下宿屋、料理屋、飲食店、待合茶屋、遊技場、貸座敷、理髮店、湯屋其ノ他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ニ於ケル從業者ニシテ直接客ニ接スル者、看護婦、按摩、鍼灸術業者、其ノ他客ニ接スル業務ニ從事スル者「トラホーム」ニ罹リタルトキハ其ノ從業ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第七條 神社、寺院、祠宇、佛堂、教會、說教所、公會堂ノ管理者ハ公衆ノ使用シ得ヘキ場所ニ手拭其ノ他ノ布片ヲ備ヘ又ハ備ヘシムヘカラス
- 第八條 病院、醫院、合宿所、遊技場、競馬場、飲食店、貸座敷ニ於テハ「トラホーム」豫防法施行規則第二條第一項第一號第二號ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 第九條 市町村ニ於テ「トラホーム」豫防並治療ノ爲支出シタル經費ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ經費豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス
  - 一 治療ニ關スル費用ニ對シテハ支出額ノ三分ノ一以內
  - 二 豫防ニ關スル費用ニ對シテハ支出額ノ五分ノ一以內
 前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又寄附金アリタルトキハ之ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ
- 第十條 市町村ノ一部衛生組合、青年團、其ノ他ノ團體ニ於テ共同檢診治療所ヲ開始シ檢診治療ヲ爲シタル場合ニ於テ之カ補助ノ爲メ支出シタル

市町村ノ經費ニ對シテハ前條ノ歩合ニ依リ補助金ヲ交付ス  
「トラホーム」患者名簿 様式

備考	住 所	症 狀		職 業	氏 名	年 齡
		診 斷 年 月 日	轉 歸 年 月 日			
					男	
					(女)	

保護者ニ對シ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示シタルトキハ其氏名ヲ備考欄ニ掲クヘシ

●「トラホーム」豫防ニ關スル件

大正九年九月二十一日  
山口縣訓令第三十二號

改正 大正一〇年四月訓令第一六號、一三年二月第八號

郡市役所 警察署 警察分署 町村役場

「トラホーム」豫防治療ニ關スル件左ノ通定ム

「トラホーム」豫防ニ關スル件

第一條 市町村長ハ「トラホーム」患者ヲ様式第一號ノ名簿ニ記載スヘシ

〔山口警〕

第二條 市町村長ハ「トラホーム」患者ト診定セラレタル者ニ對シ様式第二號ノ治療票ヲ交付スヘシ

第三條 警察官署長ハ「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受ケルノ途ナキ者アルトキハ市町村長ト協議シ適當ノ方法ヲ定メ治療ヲ受ケシムヘシ

第四條 警察官署長市町村長ハ第二條ニ依リ治療票ヲ受ケタル者ニ對シ治療ノ成績ヲ監視スヘシ

第五條 警察官署長ハ「トラホーム」豫防法施行細則第六條ノ業態ニ在ル者ニシテ重症患者ト診斷セラレ「トラホーム」豫防法第四條第一項第二號ノ處分ヲ要スト認ムル者アルトキハ左ノ事項ヲ具シ報告スヘシ

一 住所氏名年齢現時ノ業態

二 症狀

第六條 市町村長ハ其ノ年ノ徵兵適齡者ニ對シ毎年二月中檢診ヲ行ヒ患者ニ對シテハ治療ヲ受ケシメ様式第三號ノ一ニ依リ三月十日迄ニ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ

郡長ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ様式第三號ノ二ニ依リ三月二十日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第七條 市町村長ハ「トラホーム」豫防法施行細則第三條ニ依リ檢診ヲ受ケシメタルトキハ(徵兵適齡者ヲ除ク)様式第四號ニ依リ前年分ヲ翌年一月十日迄ニ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ

郡長ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ様式第四號ニ依リ一月二十日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第八條 市町村長ハ「トラホーム」患者ノ治療成績ノ様式第五號ニ依リ前年分ヲ翌年一月十五日迄ニ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ

郡長ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ様式第五號ニ依リ一月二十五日迄ニ知事ニ報告スヘシ

〔山口警〕

〔山口警〕

第九條 市町村ニ於テ「トラホーム」豫防費ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ様式第六號ニ依リ前年分ヲ翌年二月末日迄ニ知事ニ申請スヘシ

第十條 郡長ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ意見ヲ附シ二十

様式第一號

日以内ニ知事ニ進達スヘシ  
第十一條 本令ニ依リ町村ヨリ知事ニ提出スヘキ書類ハ郡役所ヲ經由スヘシ

様式第二號

症		症		市町村		大字		字	
診 斷	治 療	診 斷	治 療	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
開始	開始	開始	開始	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
職業	職業	職業	職業	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日



郡市町村長 氏

名

年月日

氏名

精算書	治療費(豫防費)				
知事宛					
内課					
費目	数量	單價	價	計	摘要
醫師給			四	四	
看護婦給					
脱脂綿					
何藥					
計					

右之通相違無之候也

年月日

氏名

収入金明細書

費目	金額	摘要
寄附金	四	
何々		
計		

右之通相違無之候也

〔山口書〕

「トラホーム」豫防法中疑義ニ關スル件

岡山縣知事照會(大正十二年七月十三日) 衛第百七十九號

「トラホーム」豫防法中疑義ニ關シテハ何等ノ規定無之從テ疑似症患者ニ對シテ同法第二條ヲ適用シ治療ヲ督勵シ得サル儀ニ候哉差掛リタル儀モ有之候條至急何分ノ御意見承知致度候也

衛生局長回答(大正十二年七月二十六日) 衛豫第五〇五號

大正十二年七月十三日付衛第七五九三號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件了承トラホーム疑似症ニ對シトラホーム豫防法第二條ヲ適用スルハ穩當ナラサル義ト御了知相成度

追テ疑似症者ニ對スル取扱ニ關シテハ大正十年六月二十一日内務省發衛第一六八號御參照相成度爲念申添候

「トラホーム」檢診費負擔方

石川縣知事照會(大正十五年三月十九日) 收庶第四二四號

本縣ハ大正八年十月縣令第八十二號ヲ以テ「トラホーム」豫防法施行細則ヲ公布シ其ノ第一條ニ於テ「トラホーム」豫防ノ爲市町村長ニ檢診施行ヲ命シ居レル處右「トラホーム」豫防法第五條ノ規定ニ基キ「トラホーム」豫防ニ關スル施設ノ一トシテ市町村長ニ指示シタル規定ニ有之從テ之ニ要スル費用ハ市町村ノ負擔トシ同時ニ縣ハ大正八年以來年々市町村ニ對シ之カ經費ノ三分ノ一以內ヲ補助シ來レリ然ルニ最近本件ニ關シ假令地方長官ノ指示

〔山口書〕

ニ基クモノト雖市町村ノ施行スル檢診ノ費用ハ法第四條第二項ニ依リ縣ニ於テ負擔スヘキモノナリトノ說ヲ爲スモノ有之其當リ處理上疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

(註)石川縣令「トラホーム」豫防法施行細則抄萃

- 第一條 市町村長ハ「トラホーム」豫防上左記各號ニ該當スル者ニ關シ毎年一回以上檢診ヲ行フヘシ但シ第二號以下ニ關シ他ニ檢診機關アル場合ハ所轄警察官署ト協議ノ上之ヲ省略スルコトヲ得
- 一、其年徴兵適齡者
- 二、料理屋飲食店宿屋鑛泉浴湯屋理髮店貸座敷貸席寄席芝居茶屋待合茶屋ノ居住者
- 三、工場法ヲ適用セサル五人以上ヲ雇使スル諸工場ノ職工徒弟及其工場ノ同居者
- 四、前各號ノ外市町村長ニ於テ必要アリト認ムル者
- 第二條 知事ハ前條ノ規定ニ拘ハラズ豫防上必要アリト認ムルトキハ檢診ヲ行フコトアルヘシ
- 衛生局長回答(大正十五年四月二日) 衛豫第三一一號
- 大正十五年三月十九日付收庶第四二四號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件了承「トラホーム」豫防法第五條ノ規定ニ基キ市町村長ニ對シ「トラホーム」豫防ニ關スル施設ノ一トシテ指示セラレタル檢診ニ要スル費用ハ當該市町村ニ於テ負擔スヘキモノト存候

●學校ニ於ケル「トラホーム」豫防

規程

大正十二年一月二十三日 山口縣訓令第四號

改正 大正十五年七月訓令第四五號、昭和二年二月第五五號

市役所 町村役場 公私立學校

- 學校ニ於ケル「トラホーム」豫防規程左ノ通定ム
- 學校ニ於ケル「トラホーム」豫防規程
- 第一條 學校ニ於テハ「トラホーム」豫防ノ爲メ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 一 學校長並ニ學校醫ハ生徒兒童ニ對シ「トラホーム」豫防上ニ關スル知識ノ啓蒙ニ努ムルコト
- 二 各自ニ清潔ナル手拭類ヲ携帯セシメ自他之ヲ混用セシメサルコト
- 三 衣服若ハ手ヲ以テ眼部ヲ摩擦セサル様ナサシムルコト
- 四 指爪ハ短剪シ頭部、顔面、手指、衣服等ノ清潔ニ注意セシムルコト
- 五 共用手拭ヲ備ヘサルコト
- 六 手洗水ハ流出裝置トナスコト
- 七 洗面用具及寢具等ハ患者用ト健康者用トヲ區別スルコト
- 八 患者ト健康者トハ學用品ノ共用貸借ヲ禁スルコト
- 九 教員ノ引手其他病汚染ノ虞多キモノハ常ニ消毒ヲ行フコト
- 十 消毒方法ハ大正八年八月文部省令第二十九號學校傳染病豫防規程ニ據ルコト
- 十一 「トラホーム」患者ニ對シテハ其ノ病況ニ依リ可成病毒傳播ノ虞アル諸役ヲ免除スルコト
- 十二 患者ト健康者トハ可成連手運動ヲ行ハシメサルコト
- 十三 浴室ノ設ケアル學校ニアリテハ入浴ヲ行フ際ニハ可成健康者ヲ先ニスルコト
- 十四 机、腰掛、教授用具、運動用具、所持品置場所、寄宿舎、居室等ハ可成患者用ト健康者用トヲ區別スルコト
- 第二條 學校ニ於テハ毎年四月及十月ニ生徒兒童ノ「トラホーム」檢診ヲ施行スヘシ
- 第三條 新ニ入校シ又ハ定期檢診ヲ受ケスシテ昇校スル者アル時ハ直チニ





第七節 花柳病豫防

●花柳病豫防法施行ニ關スル件

昭和三年六月二十三日  
内務省二發衛第五〇號内務次官通牒

花柳病豫防法ノ主旨トスル所ハ賣淫者ニ因ル花柳病ノ傳播ヲ防止セムトスルニアリ之ガ爲ニハ診療所ヲ設置シテ業態上花柳病傳播ノ虞アル者ノ診療ヲ容易ナラシムルト共ニ傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レルコトヲ知リツツ賣淫ヲ爲シタルトキハ本人ハ勿論其ノ媒合又ハ容止ヲ爲シタル者ヲモ處罰スルモ適當ナル病毒傳染防止方法ヲ講ジタル場合ニアリテハ其ノ刑ヲ輕減シ以テ豫防方法ヲ慣用スルノ風ヲ馴致セントスルモノニ有之差當リ其ノ一部ヲ施行スルコト、相成候ニ就テハ左記事項ニ留意シ本法實施上遺憾ナキヲ期セラレ度

記

- 一、業態者ノ診療ハ本法二大眼目ノ一ニシテ其ノ普及スルト否トハ本法所期ノ效果ヲ舉グルニ就キ至大ノ關係アルヲ以テ代用診療所ニ於テハ業態者ヲシテ容易ニ診療ヲ受ケシメムガタメニ勉メテ患者ノ便宜ヲ圖リ診療ヲ完全ニシ且代用診療所ニ出入スルガ爲却テ不利ヲ招クガ如キ危懼ノ念ヲ抱カシムルコトナキ様充分注意スルト共ニ其ノ利用ノ督勵ニ努ムルコト
- 二、業態者ヲシテ傳染病防止方法ヲ講ゼシムルハ診療ト共ニ本法二大眼目ノ一ヲ爲スヲ以テ其ノ督勵ニ就キ遺憾ナキヲ期スルト共ニ兼合容止ヲ爲ス虞アル者ニ對シテハ同方法ヲ實行ヲ容易ナラシムル方法ヲ講ゼシムルコト

山口警

- (一) スルト否トニ拘ラズ常ニ之ヲ行ハシムルコト  
業態者ヲシテ必ズ相當數ノ「サツク」ヲ携帶シ之ヲ相手方ニ提供シテ其ノ使用ヲ必ズ勸說セシムルコト  
右ハ法第五條第三項ニ於ケル傳染防止方法中ノ主要ナルモノト認メラル、ヲ以テ十分ノ之ヲ勵行スルコト
- (二) 尙性交後成ルベク左記事項ヲ行フコトヲ相手方ニ勸說セシムルコト  
殊ニ前號一ノ勸說ニ拘ラズ相手方ニ於テ「サツク」ノ使用ヲ肯ゼザル場合ニ於テハ左記イ號豫防劑ヲ提供シテ其ノ使用ヲ必ズ勸說セシムルコト
- イ、豫防劑ノ使用  
相當有效ト認メラル、豫防劑ヲ舉グレバ左ノ如シ  
一、青酸々化汞製劑(海軍式處方別紙ノ通)  
二、青酸々化汞及青酸銀製劑(陸軍式處方別紙ノ通)  
三、甘汞膏(メチニコフ氏式處方別紙ノ通)  
四、昇汞膏(ナイセル氏式處方別紙ノ通)  
以上ハ局部ノ外面及尿道口内ニ塗布ス  
五、プロタルゴール水溶液(一〇%)  
本劑ハ尿道口内ニ滴入スルモノニシテ淋病ノ豫防ニノミ有效ナリ  
直後ノ放尿ト洗滌  
洗滌ニハ約五千倍ノ過マンガン酸カリウム液又ハ石鹼ヲ用フ
- 三、代用診療所ニ關シテハ左記事項ニ留意スルコト  
(イ) 代用診療所ハ成ルベク保健組合ノ診療機關ヲ充當スルヲ便宜トスルヲ以テ之ガ助成發達ヲ圖ルコト  
(ロ) 代用診療所ノ規模ハ成ルベク之ヲ利用スル業態者總數ノ約一割ガ毎日診療ヲ受ケタルニ適當ナル設備ヲ有スルコト

山口警

- (ハ) 代用診療所ノ具申ニ當リテハ成ルベク專門醫ヲ有スルモノヲ選ビ且左記事項ヲ記載スルコト  
第一 名稱及所在地  
第二 經營者名(法人又ハ組合ノ場合ニ在リテハ其ノ名稱及代表者氏名)  
第三 當該診療所ヲ利用スベキ業態者數  
第四 代用ノ範圍ニ於ケル入院及外來患者ニ對スル診療能力  
第五 醫員ノ數及其ノ履歷
- (ニ) 必要ト認ムルトキハ同一市町村内ニ數個ノ代用診療所ヲ設クルコト
- 四、診療ノ費用ヲ負擔スル公共團體ガ當該診療所ニ要スル經費中被診療者ノ雇主抱主等ヨリ徵收スル部分ハ成ルベク其ノ三分ノ二ヲ超エザルコト
- 五、醫師ノ指示ハ左ノ各號ニ準ジ口頭及文書ヲ以テスルコト  
文書トシテハ可成別ニ編纂セル注意書ヲ交付スルコト但シ注意書ノ印刷頒布等ニ付テハ醫師會日本性病豫防協會等ト協調シ指示ノ徹底ヲ圖ルコト
- (イ) 花柳病ハ廣ク社會ニ蔓延セル傳染病ニシテ健康上重大ナル危害ヲ及ボスコト
- (ロ) 花柳病ハ主トシテ性交ニ依リ傳染シ又ハ接吻、授乳、病毒ニ汚染セル手指又ハ物件等ニ依リ傳染スルコト
- (ハ) 患者ハ性交ヲ爲サザルコト已ムヲ得ザルトキハ豫防藥品豫防用具ノ使用洗滌其ノ他ノ適當ナル傳染防止ノ方法ヲ講ズルコト
- (ニ) 微毒患者ハ接吻、授乳等ヲ爲サザルコト
- (ホ) 病毒ニ汚染セル手指ハ直ニ清洗スルコト
- (ヘ) 病毒ニ汚染セル布片、紙片等ハ之ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト
- (ニ) 患者ノ手拭、食器、洗面器、洗滌器具、衣服、寢具等ハ專用トシ他人ニ交付シ又ハ使用セシメムトスルトキハ之ヲ消毒スルコト

- 消毒方法トシテハ熱湯消毒、日光消毒等ヲ行フコト
- (別紙)
- 青酸々化汞製劑處方(海軍式)  
濃 粉 五〇・〇  
グリセリン 八〇・〇  
石鹼末 二〇  
青 汞 〇・四六  
水 三三〇・〇  
若干
- 香料(ローズ油)  
青酸々化汞及青酸銀製劑處方(陸軍式)  
トラガントゴム 一四〇・〇  
水 二、八三六・〇  
酸化チアン汞 六・〇  
鹽酸アコイン 一五・〇  
青 酸 銀 三・〇  
(右ヲ三五入千個ニ分別ス)
- 甘汞膏處方(メチニコフ氏式)  
甘 汞  
ラノリン  
豚 脂 各等分  
昇汞膏處方(ナイセル氏式)  
昇 汞 〇・三  
クローリナトリウム 一・〇  
トラガント 二・〇  
澱 粉 四・〇



- ゲラチン 〇・七
- アルコール 一五・〇
- グリセリン 二七・〇
- 水ヲ加ヘテ一〇〇トス

### 娼妓ノ花柳病傳染防止方法實行ニ關スル件

昭和三年六月二十三日  
内務省二發衛第五〇號ノ内衛生局長通牒  
各地方官宛

娼妓ニ因ル花柳病ノ傳播防止ニ關シテハ檢診治療ノ施行及洗滌其ノ他ノ自衛方法ノ獎勵等充分御留意ノコトト存候ヘ共更ニ進メテ病毒傳染防止ニ關スル方法ノ實行ハ本病ノ豫防上極メテ肝要ノコトト存候ニ就テハ花柳病豫防法ニ依ル右ニ關スル施設ト相並ニ娼妓ニ對シテモ左記各號ニ準據シ之ガ實行方充分指導獎勵相成度依命此段及通牒候也

追テ貸座敷業者ニ對シテハ本文傳染防止方法ノ實行ヲ容易ナラシムル方  
法ヲ講ズル様督勵相成度

- 一、娼妓ニシテ客ニ「サツク」ヲ提供シ其ノ使用ヲ勸說セシムルコト
  - 二、尙性交後成ルベク左記事項ヲ行フコトヲ客ニ勸說セシムルコト殊ニ前號一ノ勸說ニ拘ラズ客ニ於テ「サツク」ヲ使用セザル場合ニ於テハ左記イ、豫防劑ヲ提供シテ其ノ使用ヲ勸說セシムルコト
- 相當有效ト認メラルル豫防劑ヲ舉グレバ左ノ如シ
- 一、青酸々化汞製劑(海軍式)

〔山口警〕

- 二、青酸々化汞及青酸銀製劑(陸軍式)
  - 三、甘汞膏(メチニコフ氏式)
  - 四、昇汞膏(ナイセル氏式)
- 以上ハ局部ノ外面及尿道口内ニ塗布ス
- 一回ノ用量ハ二乃至三「グラム」トス
  - 五、プロタルゴール水溶液(一〇%)
- 本劑ハ尿道口内ヘ二、三滴滴入スルモノニシテ淋病ノ豫防ニノミ有  
效ナリ

ロ、直後ノ放尿ト洗滌

洗滌ニハ約五千倍ノ過マンガン酸カリウム液又ハ石鹼ヲ用フ

- 三、前二號共娼妓ガ花柳病ニ罹レルコトヲ自覺スルト否トニ拘ラズ常ニ之ヲ行ハシムルコト

### 代用花柳病診療所ニ關スル件

大阪市保健部長照會(昭和三年八月二十八日)

拜啓時下殘暑却テ酷シク候處益御清穆之段慶賀ノ至奉存候借テ其突然ノ次  
第ニ御座候得共御承知ノ花柳病豫防法ノ施行期モ目下切迫シ候テ本  
市ニ於テモ之ガ代用診療所ノ設置ニ關シ目下各般ノ資料ニ依リ調査中ニ有  
之候處調査ノ進行ニ伴ヒ該法令ノ解釋及取扱手續ニ付聊カ疑問ヲ生シ準備  
ノ上ニ於テ困難ヲ感シ居候就テハ御繁務中甚恐縮ノ儀ニ候得共別紙摘録ノ  
事項ニ付折返シ垂示相煩度御依願申上候先ハ取急キ要用御願迄如斯御座候  
敬具

花柳病豫防法令並其ノ運用上ノ疑義

- 一、花柳病豫防法第四條ノ代用診療所ハ主務大臣ニ於テ設置セラルルモノナ  
リヤ又市其ノ他ノ公共團體カ主務大臣ノ命ヲ受ケテ之ヲ設置スルモノナリ  
ヤ

〔山口警〕

法第四條ニハ「主務大臣ハ期日ヲ指定シ……診療所ニ代用スルコト  
ヲ得」トアルカ故ニ文理解上ハ主務大臣ニ於テ設置セラルルモノト解セ  
ラルルモ法第一條ト對照シ當該公共團體カ主務大臣ノ命ニ依リ之ヲ設  
置スルモノナリトモ思惟セラレ

二、代用診療所ハ其ノ費用ヲ負擔スル公共團體ノ營造物ナリヤ又國ノ營造物  
ナリヤ

代用診療所カ當該公共團體ノ營造物ナリトセハ其ノ自主權ニ依リ條  
例、規則等ヲ以テ之カ組織、機能、管理等ニ關スル規定ヲ設定シ得ヘ  
キモノ國ノ營造物タルモノトセハ公共團體ハ之ニ何等ノ自主的作用ヲ及  
ホスコトヲ得ス

三、代用診療所カ市ノ營造物ニ非ラストスルモ其ノ費用ヲ負擔スル公共團體  
カ勸令第二條ニ依リ診療ノ費用ヲ徵收スル場合之カ徵收金額徵收方法等  
ニ付テハ市ノ營造物ニ準シ規定ヲ設定シ得ルモノト思惟ス

四、代用診療所ハ主務大臣カ設置スルモノトセハ之カ設置前ニ於テ將來當該  
診療所ノ診療ノ費用ヲ負擔スヘキ公共團體ノ意見ヲ徵セラルルノ要アリ  
ト認ム之ヲ徵スル御見込ナリヤ

主務大臣ト公私診療所主トハ契約ノ當事者ナルモ其ノ費用ヲ負擔シ徵  
收スル公共團體ハ契約ノ當事者ニアラサルカ故ニ公共團體ト公私立ノ  
診療所主トハ直接何等ノ權義ノ關係ヲ有セス然ルニ當該公共團體ハ費  
用ノ負擔徵收等代用診療所ノ運用上密接ノ關係アルヲ以テ主務大臣ハ  
豫メ當該公共團體ノ意見ヲ徵シ當該契約中ニ之ヲ參酌セララルルヲ必要  
ト信ス

豫防課長回答(昭和三年九月五日)  
拜啓益御清榮奉賀候陳ハ今般御問合有之候花柳病豫防法ニ關スル件左記ニ  
依リ御了知相成度御回答旁々得貴意候敬具

### 花柳病豫防法業態上ノ範圍ニ關スル件

秋田縣知事照會(昭和三年八月二十三日)

花柳病豫防法施行細則制定ニ付花柳病豫防法第二條ノ業態ノ範圍ニ「娼妓  
及藝妓酌婦飲食店ノ女給等ニシテ密賣淫ヲ爲スノ虞アル者」ヲ指定可然モ  
ノト思料セラレ候ヘ共聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度此段及照  
會候也

衛生局長回答(昭和三年九月六日)

標記ノ件ニ關シ八月二十三日附秋衛發第三四〇一號ヲ以テ御照會相成候處  
花柳病豫防法第二條ノ業態上花柳病傳播ノ虞アル者ノ内ニハ娼妓ヲ含マス

大體從來貴管下ニ於テ所謂接客業婦トシテ取扱ヒ來リタル者ヲ指稱スル義ニ有之候條御了知相成度尙同法施行ニ關シテハ當省通牒ヲ基礎トシ警察署長其ノ他關係自治體ニ調達スルト共ニ醫師會トノ協議及保健組合ニ對スル通達等ニ依リ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ベクト存候

### ●代用花柳病診療所ノ費用ニ關スル件

静岡縣知事照會(昭和四年三月八日) 衛第一三四三號

昭和三年六月勅令第二百一十一號花柳病豫防法施行令第六條ノ規定ニ依リ代用花柳病診療所ニ於テ支出シタル費用ニ對シ補助ノ範圍ニ付キ疑義相生シ候殊ニ本件ハ各公共團體ノ豫算編成上ノ都合モ有之左記ニ依リ御意見承知致度候條何分ノ御指示相成度此段及稟候

一 代用花柳病診療所ノ診療費ハ指定範圍ノ費用ヲ總括シタル精算額ニ對シ補助スヘキ御意見ナリヤ又診療料、手術料、藥價、入院料、食費、看護料、事務費等ノ區別ヲ要スル場合ハ如何ナル費目ノ必要ヲ御認メナリヤ  
二 入院ヲ要スル患者アル場合ノ入院料ニ就テハ食費看護婦ヲ附スル必要アル場合ノ看護料等支給シ差支ヘナキ御見込ナリヤ  
三 代用花柳病診療所ニ於ケル代用ノ範圍ノ借家料醫師手當又ハ事務費等ヲ支給シ差支ヘナキ御見込ナリヤ

(本件ハ管下静岡市ニ於テ支給セムトシ居ル次第ナリ)  
四 施行令第二條ニ依リ徵收スルコトヲ得ル場合ノ負擔義務者タル雇主抱主ハ其ノ雇傭中ノ患者ハ患者診療開始當時ノ雇主抱主カ其ノ患者ノ治療ニ至ル迄ノ費用ヲ負擔スルモノナリヤ又雇主抱主ニ於テ自己ノ雇傭中ノ患者ヲ診療開始ト同時ニ解雇シタル場合ハ後ノ雇主抱主若クハ本人ノ負擔ト解スヘキモノナリヤ

〔山口警〕

### 月分花柳病豫防施設状況報告

署名

〔山口警〕

組合名 別業態	豫防具			豫防藥		
	組合員數	共同營業主 購入同	其他計	共同營業主 購入同	其他計	其他計
何々組合						
何々寮番						
何々業						
計						
前月ヨリ 持越數						
其月中 使用數						
月末 現在數						

備考  
一、本表ハ本月分ヨリ調査スルコト  
二、本表ハ何レモ個數ヲ記入スコト

(本件ハ診療開始ト同時ニ解雇シタル場合其ノ費用負擔者ヲ後ノ雇主抱主又ハ本人トシ前ノ抱主雇主ノ義務ヲ免スルニ於テハ何レモ同様ノ手段ニ出ツヘク從テ公共團體ノ徵收スル費用ハ不確實ト相成ヘクト存候尤モ費用ヲ負擔スル資力ナキ者ニ對シテハ公共團體負擔ノ義ト存居候)  
衛生局長回答(昭和四年五月九日) 衛第一三四三號  
三月八日附衛第一三四三號ヲ以テ御照會有之候標記ノ件左記ノ通り了知相成度

第一 代用花柳病診療所ニ於ケル診療費ニ對スル補助ハ豫算額ニ基キ概算補助ヲ爲スモ之カ支出請求ノ場合ノ内譯ハ當該豫算ノ内容ニ基キ可成詳細ニ記載相成度  
第二 御意見ノ通  
第三 御意見ノ通  
第四 雇主抱主ハ其ノ雇傭中ノ患者ニ對シ其ノ診療ノ開始カ前雇主抱主ノ時タルト否トニ拘ラス施行令第二條ノ適用ニ關シテハ其ノ診療ノ費用ヲ負擔スヘキモノトス從テ後段ニ就テハ御意見ノ通り存候

### ●花柳病豫防ニ關スル件

昭和四年四月十九日 衛第一三四三號 警察部長通牒

花柳病豫防ニ關シテハ數次指示セシ處ナルヲ以テ常ニ指導取締ニ努力セラレツ、アリト雖モ之カ督勵ノ如何ハ直ニ成績ノ良否ニ大ナル影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ不絶業態者ニ注意ヲ與ヘ洗滌施設ノ完全ヲ期スルノ外豫防具豫防藥ノ使用ヲ獎勵シ之カ實行ノ状況等ヲ常ニ監督セラレ度尙其ノ狀況左表ニ依リ翌月五日迄ニ報告セラルヘシ

### 第八節 人體寄生蟲病豫防

#### ●人體寄生蟲驅除費補助規則

大正十年三月十五日 山口縣令第十九號

改正 大正一四年縣令第一二號  
人體寄生蟲驅除費補助規則左ノ通定メ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 保健衛生上市町村ニ於テ徵兵適齡者及小學校兒童ニ對シ人體寄生蟲ノ調査並驅除ヲ施行スル場合ハ本則ニ依リ補助金ヲ交付ス  
第二條 前條ノ補助金ハ其ノ支出精算額ニ對シ六分ノ一以內トス但シ支出額過當ナリト認ムルトキハ之ヲ査定シ補助金ヲ定ム  
前項ノ精算額トハ支出ニ伴フ收入又ハ本事業ニ對スル寄附金等ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ  
第三條 補助ヲ受ケムトスルモノハ事業著手前其ノ豫算ヲ定メ第一號様式ニ依リ知事ニ届出ツヘシ  
町村ヨリ提出スル前項ノ届書ハ郡役所ヲ經由スヘシ  
第四條 補助金下付ノ申請ハ第二號乃至第四號様式ニ依リ其ノ事業終了後三十日以内ニ市ハ當廳ニ町村ハ郡役所ニ之ヲ差出スヘシ  
第五條 郡長本則第三條ノ届書ヲ受理シタルトキハ速ニ副申進達シ第四條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ調査ノ上意見ヲ付シ二十日以内ニ之ヲ進達スヘシ

第一號様式  
人體寄生蟲驅除施行届  
一金何 程 經費豫算額

種別	豫算額	摘要
調査費		小學兒童何人分此金何程○徵兵適齡者何人分此金何程(又ハ醫師報酬何日分此金何程)等ノ類
驅除費		何々
計		

右豫算額ニ依リ本市、町、村「何々小學校兒童」及「徵兵適齡者」ニ對シ何月何日ヨリ著手シ人體寄生蟲驅除施行候間此段及御届候也

知事宛  
郡(市)町村長 氏  
名 園

第二號様式  
人體寄生蟲驅除補助金下付申請書  
一金何 程 補助申請額  
是ハ何年 月 日届濟本市町村ニ於テ施行シタル人體寄生蟲驅除費ニ對スル分  
内 譯

種別	支出總額	支出ニ伴フ收入	補助金	支算額	補助額
調査費					
驅除費					
計					

右御補助相成度及申請候也

〔山口馨〕

第三號様式  
人體寄生蟲驅除費豫算精算差引表

種別	豫算額	支出總額	差引	支出總額ノ内	備考
調査費			増 減	既拂 未拂	
驅除費					
計					

右之通相違無之候也  
郡(市)町村長 氏  
名 園

第四號様式  
人體寄生蟲驅除費ニ對スル收入金明細書

一金何 程 内 譯  
金何程 支出ニ伴フ收入金  
是ハ何々ニ依ル收入 補助金  
金何程 是ハ何々 寄附金  
金何程 是ハ何々  
是ハ何々ニ對シ何某ヨリノ寄附

右之通相違無之候也

〔山口馨〕

人體寄生蟲驅除費補助規則施行手續

大正十年七月五日  
山口縣訓令第二十一號

〔郡〕市役所 町村役場

徵兵適齡者寄生蟲調査成績報告

徵兵適齡者數	檢便數	有卵者數	無卵者數

有卵者延數

腸十二指蟲	蛔蟲	鞭蟲	蟯蟲	肺チマス	東洋毛線蟲	横川蟲	肝チマス	糞蟲	日本住血吸蟲	何々	計
-------	----	----	----	------	-------	-----	------	----	--------	----	---

一種有卵者數

腸十二指蟲	蛔蟲	鞭蟲	蟯蟲	肺チマス	東洋毛線蟲	横川蟲	肝チマス	糞蟲	日本住血吸蟲	何々	計
-------	----	----	----	------	-------	-----	------	----	--------	----	---

二種以上有卵者數





他ニ比シテ完備セリ此地ハ元來埋立地ニシテ地層ハ細砂ヨリ成リ之レニ炭粉ヲ混スル爲メ灰黑色ヲ呈シ一見甚ダ不潔ニシテ天氣清朗ナレハ地盤乾固スルモ一朝降雨ニ際セハ一面泥濘ト化ス

坑夫ハ少数ノ附近村落ニ在住スルモノヲ除ク外ハ炭坑構内ニ建設シアル納屋ニ居住セリ  
此納屋ハ瓦葺棟割長屋ニシテ一戸三坪七合餘ノ面積ヲ有シ前後ニ窓又ハ入口アリテ空氣ノ流通ハ佳良ナルモ採光ハ屋根低キ爲メ充分ナラサルカ如シ

納屋ノ全數六十棟アリ一棟七八戸ヨリ成リ全戸數五百六十六戸アリ各納屋一棟ニ便所一棟ヲ付シ二個ノ尿壺一個ノ尿壺ヲ具フルモ六十個ノ便所中一ノ手洗鉢ヲ具フルモノナシ

坑夫ノ日用ノ食料其他ノ生活資料ハ魚獸肉ヲ除ク外ハ構内三個所ノ販賣所ヲ設ケテ供給セシム

彼等副食物ノ主ナル蔬菜類ハ大部分其所在地ナル宇部村ヨリ供給ヲ受ケ尙藤山厚南厚東ノ諸村ヨリモ移入スト云フ

飲料水ハ宇部地方一觀ニ不良ニシテ殊ニ炭坑ハ埋立地ナルヲ以テ水質不良構内三個ノ井戸アルモ専ラ雜用水ニ供シ飲料水ハ町部ノ共用井戸ヲ使用ス

坑夫ノ救療方法トシテ極メテ少額ノ衛生費ヲ徴收シ疾病ニ罹リタル時ハ坑夫任意ノ醫師ニ治ヲ受ケシメ藥價並ニ手術料ハ坑主ヨリ支出スルモ十二指腸蟲病ニ對シテハ其經過長キヲ以テ支出セスト  
二、糞便検査人員及其成績

本炭坑ニ於テ検査セシ人員千四百十三人ニシテ十二指腸蟲卵ヲ有スルモノ四百三十七人ナリ其比例三十八%強ニ達ス  
1、年齢ニ對スル關係

年齢	検査人員	有卵者數	百分比
一年未満	一五	三	二〇・〇%
五年以下	一〇一	一五	一四・八五%
十年以下	一一四	三三	二八・九五%
十五年以下	六八	二一	三〇・八八%
二十年以下	七五	二八	三七・三三%
三十年以下	二八二	一五二	五三・九〇%
四十年以下	二九一	一二三	四二・二七%
五十年以下	一三五	四八	三五・五五%
五十年以上	六二	一四	二二・五八%
計	一、一四三	四三七	三八・二三%

2、就業別ニ對スル關係

炭坑内ニ於テ就業スルニモ採炭ニ從事スルモノアリ又運搬ニ從事スルモノアリ或ハ發電其他ノ機械作業等ニ從事スルモノアリ今其就業ノ種別ニヨリ有卵者ヲ區別スレハ左ノ如シ

役別	検査人員	有卵者數	百分比
坑夫	八七一	三四二	三八・二六%

〔山口管〕

〔山口管〕

職業	検査人員	有卵者數	百分比
雜役	五八	二五	四三・七一%
仲仕	一五五	五三	三四・一九%
機械師	四一	一〇	二四・三九%
火夫	八	四	五〇・〇%
販賣店員	一〇	三	三三・三三%

3、兩性ニ對スル關係

本病ノ兩性ニ對スル關係ハ男性ニ多キヲ常トスルモ炭坑ニ於テハ兩性ニ對スル關係著シカラス是坑夫等ハ男女共ニ勞働ニ從事スル爲メナルナラン

性別	検査人員	有卵者數	百分比
男	六三三	二三七	三七・四一%
女	五一〇	二〇〇	三九・四一%

4、各納屋ニ於ケル分布ノ狀況

各納屋ニ於ケル罹患者ハ普ク全納屋ニ互リテ散在シ其濃度亦平等ナリ5、有卵者ト皮膚疾患ノ關係

十二指腸蟲病ハ經口ノ感染ノ外皮膚ヨリ感染スルコトハ千八百八十三年ロースノ報告セシ以來今日ニ於テハ一般ニ認メラレ其皮膚ヨリ十二指腸蟲ノ仔蟲ノ侵入スルヤ其局部ニ灼クカ如キ癢痒ヲ感シ同患者ノ多數ハ皮膚ニ俗ニ水「カブレ」ト稱スル濕疹様ノ疾患ヲ來スコトアリト云フ今本坑ニ於ケル有卵者中皮膚疾患ヲ有スルモノヲ調査セシニ四百三十七人ノ有卵者中二十八人(六・四三%)ノ皮膚疾患ヲ有スルモノアリタリ

6、感染経路

本病ノ感染スル経路ニ關シテハ皮膚ヨリ感染スルコトアルハ前項ニ述フル所ナルモ其ノ外古來ヨリ傳唱スル處ノ經口ノ感染モ又否定スルコトヲ得ス若シ皮膚系感染ノミナレハ此ノ感染ニ尤モ好機會ヲ有スル坑内ニ作業スル探炭者ニ最モ多クシテ其ノ機會少キ火夫機械師ニ少ナカルヘキニ上述ノ如ク其就業別ニ關係少キノミナラス比較的皮膚感染ニ機會少キ火夫機械師又ハ販賣所員ノ罹患者高クシテ殊ニ其構内諸願巡査ノ如キ皮膚感染ノ機會殆ント無キニモ拘ラス夫妻共ニ多數ノ蟲卵ヲ有スルヲ以テ見レハ經口ノ感染アルコトヲ證シテ餘リアリ

7、炭坑ニ於ケル皮膚感染ノ機會

探炭ニ從事シ又其ノ探炭ヲ坑外ニ運出スル坑夫等ハ晝夜交代ニ作業スルヲ以テ其ノ坑内ニ止マルコト十二時間以上ニ及フ爲メ自然尿ノ排出ハ坑内ニ於テ辨セサルヲ得サル故ニ坑道内暗キ所ハ其ノ尿糞累積シ足ヲ入ルノ餘地ナク其ノ不潔警フルニ物ナシ而シテ坑内ニ於ケル温度及湿度ハ此蟲卵ノ發育孵化ニ好適ナルヲ以テ其糞塊中ニ混在スル蟲卵ハ直ニ孵化發育シテ仔蟲トナリ坑内ノ土砂中ニ混シ適當ノ機會ヲ得テ坑夫等ノ手足ノ皮膚ヨリ侵入スルモノナリ

8、炭坑ニ於ケル經口ノ感染ノ機會

炭坑ニ於ケル經口ノ感染ノ機會ハ甚ダ多クシテ(1)探炭ニ從事スル坑夫等ハ前述ノ如ク糞便ノ爲メ汚染セラレタル坑道内ニ作業スルヲ以テ彼等ノ手指ハ必ス其ノ汚染ヲ蒙リ從テ其ノ仔蟲ハ彼等ノ手指ニ付著シ飲食ノ際共ニ嚥下セラレ(2)又彼等ノ日常使用スル飲料水又ハ使用水ニ仔蟲混入シテ彼等ノ腸内ニ送入セラレタルトキ(3)又本病患者ノ糞便ヲ肥料トシテ栽培シタル蔬菜ヲ生ノ儘又ハ漬物トシテ使用シタル時等ニ感染セラルルナルヘシ

三、豫防處置

本病ハ本邦至ル所存在シ殊ニ炭坑所在地ニ於テハ最モ多クシテ俗ニ炭坑病トモ稱セラルルニ至レリ爲メニ炭坑ニ於ケル本病ハ到底豫防撲滅ノ策ナシト云フモノアリ其ノ原因未ダ開知スルヲ得サルモ要スルニ炭坑々夫等ノ愚昧無智ニシテ衛生ノ何物タルヲ解セズ指導開發ノ望ナキト又坑内ノ一般不衛生的ニシテ殊ニ其ノ坑道内ニ累積セル糞便ハ本病ノ感染ニ恰好ノ機會ヲ與フルニヨル爲メナランカ若シ上述ノ事由ニヨリ本病ノ豫防策ヲ放棄スルトセハ果シテ其ノ當ヲ得タルモノナルヤ疑ナキ能ハサルナリ加之炭坑内ノ本病ニシテ只炭坑内ニノミ限局シ他ニ害ヲ及ボササルモノナレハ或ハ尙忍ビ得ヘシト雖本病ノ感染蔓延ニ對シテ最危險ナル糞便ハ日夜彼等數百ノ患者ヨリ排泄セラレ更ニ之ヲ他ノ農村ニ搬出シ本病ヲシテ廣ク地方農村ニ蔓延セシムルノ危險ヲ與フルヲ思ハ、決シテ放任スヘキモノニアラサルヘシ

然リト雖凡テ傳染病豫防撲滅ノ難キコト彼ノ法定傳染病ノ一定法規ノ下ニ年々巨大ノ經費ヲ投シ豫防撲滅ヲ講スルモ尙腸室扶斯赤痢ノ如キ累年其ノ跡ヲ絶タルニ況ンヤ本病ノ如キ其ノ豫防撲滅ニ對シ何等ノ法規ナキ疾患ノ豫防撲滅ヲ計ルハ決シテ容易ノ業ニアラサルナリ

故ニ炭坑内ノ本病ノ豫防ハ單ニ坑夫等ニ對シテノミ必要ナルニアラスシテ間接ニ地方農村ニ蔓延スルヲ豫防スルニ付至大ノ效果アルモノナルヘシ

其ノ一 坑内一般衛生的設備改善

1、飲料水並使用水ノ改良  
此ノ水質ノ改良ハ單ニ十二指腸蟲病ニ對シテ而已ナラス一般消化器系傳染病ニ對シテ必要ナルコト論ヲ俟タルモ字部地方ノ如ク水質不良ノ地ハ一層其ノ必要ヲ切實ニ感ス然レトモ字部地方ハ地質上水

〔山口馨〕

質不良ナルヲ以テ十全ナル改良ハ水道ノ布設ニ待タサルヘカラス而カモ此問題ハ急速ノ用ニ立タズ殊ニ此地方ノ如キ適當ノ水源ナキ地ニ於テハ將來充分ナル考究ニ待タサルヘカラス故ニ飲料水ハ各自衛生思想ノ發達ヲ企圖シ生水ノ飲用ヲ可及的制止シ煮沸水又ハ濾過水ノ供用ヲ獎勵スルノ外ナシ使用水ハ目下構内ニ供給スル井戸三個アリ其ノ構造不完全ニシテ且汚水ハ流レヲナシテ浸入セリ且井戸周圍ノ漆喰ノ剝離シ居ル等ハ一層汚水滲入ノ助勢ヲナス故ニ井戸周圍他周圍ノ敷石漆喰又溝渠ノ改修ヲナササルヘカラス

2、便所ヲ増設スルコト  
現今便所ハ納屋一棟ニ付キ二個ノ糞池ヲ有スルモ納屋一棟七戸乃至八戸ノ家族アリ故ニ糞壺ノ數人員ニ比シテ不足ナリ其不足ノ結果ハ路傍並ニ便所ノ外圍ニ排泄ヲ爲ス者多ク又坑内就業ニ先チ上圍スルヲ得サルヲ以テ從テ坑道内排泄ヲ多クセシムルノ虞アリ爲メニ一棟ノ納屋ニ對シ少クとも尿壺四個ノ割合ニ増設シ手洗鉢ヲ備付ケ上圍毎ニ必ス手ヲ洗ハシムルコト

3、坑道内便所ノ新設  
坑道内ノ脫糞ハ本病感染ニ對シ危險ナルヲ以テ本病ノ豫防ヲ講スルニハ先ツ之ヲ整理ヲ計ラサルヘカラス此ノ目的ノ爲メニ坑道内適當ノ處ニ便所ヲ設置スルヲ要ス

4、坑道内ニ淨水ノ送入ヲナスコト  
坑道内ニ於テ作業ニ從事スル坑夫ハ前述ノ如ク長時間内ニ止マルヲ以テ不潔ナル場所ニ於テ不潔ナル手指ヲ洗フコトナク飲食ヲナシ坑道内ノ不潔ナル水ヲ使用スルノ虞アルヲ以テ水管ヲ坑道内ニ引入シ淨水ヲ送り飲料又ハ手指ノ清洗ニ供スルヲ要ス

5、排水溝ヲ改修スルコト

〔山口馨〕

納屋周圍ノ污水管破損シ汚水地下ニ浸潤スル所多シ宜シク其ノ破損ヲ改修シ汚水ノ滲潤ヲ防カサルヘカラス

其ノ二 本病ノ驅除並豫防

十二指腸蟲ノ驅除ハ容易ナリ然レトモ注意スヘキハ勞働者ニ對シ驅除ヲ行フニ當リ彼等並坑主等ハ其ノ爲メ休業就床ヲナスコトヲ恐ルルニ付可及的就業シツツ驅除スルノ方法ヲ取ラサルヘカラス驅除ニ要スル實費ハ四百三十七人ノ患者ニ驅除藥八磅下劑三十四磅ニシテ一人平均六錢弱ニ當ル

1、衛生思想ノ發達ヲ計ルコト

他働的ニ驅除及豫防ヲ勵行スルモ彼等自身ニ其感念ヲ有セサレハ到底完全ナル撲滅ハ期スヘカラス故ニ本病ニ關スル知識ヲ増進スル爲メニ衛生講話或ハ注意書ノ配布等ヲナスコト必要ナリ

2、野菜購入ノ選擇

經口ノ感染ノ主因ト見做サルル蔬菜ヲ可及的有病地ヨリ移入スルヲ避クルヲ要ス然レトモ本縣ノ狀態ニ依レハ全ク無病ナル地ナキヲ以テ比較的少キ地方ヲ撰ヒ少クトモ現時ノ移入地タル宇部藤山ノ如キ病毒濃厚ナル地方ハ避クルヲ可トス

3、糞便ヲ消毒スルコト

糞便ノ消毒ハ本病ノ豫防上緊要ニシテ此ノ方法ニシテ完全ニ施行スルヲ得ハ其ノ撲滅ハ難キモノニアラサルナリ然レトモ其ノ消毒ハ甚ダ難事ニシテ單ニ消毒ヲノミ目的トスレハ實行ヲ期シ得ヘキモ此ノ糞便ハ我國古來ヨリ農家ノ肥料ノ大部分ヲ占ムルモノナルカ故ニ(1)消毒藥ハ劇毒物ヲ避ケサルヘカラス(2)消毒藥ノ爲メニ肥料ノ價ヲ低減セサルモノナラサルヘカラス(3)其ノ取扱容易ニシテ何人ニモ使用シ得ルモノナラサルヘカラス(4)其ノ價低廉ナルモノナラサルヘカラス

ス(5)植物ニ對シテ危害ナキモノナラサルヘカラス(6)十二指腸蟲ニ對シ有效ナルモノナラサルヘカラス等ノ條件ヲ具備セル消毒藥ナラサルヘカラスナルニ此ノ如キ消毒藥ハ殆ント求ムルコトヲ得ス今糞便消毒ニ使用シ得ヘキ消毒藥ヲ舉クレハ次ノ如シ  
硫酸 鹽酸 石炭酸 クレゾール リゾール 加里滴汁 石灰乳  
右ノ内前者ハ消毒力稍強キモ取扱者並植物ニ對シ危險ナルモノアルヲ以テ消毒力ハ弱キモ石灰乳ヲ使用スルハ最モ安全ナリ即チ掃除夫ヲ設ケ便所及其ノ周圍ノ掃除ニ石灰乳ノ撒布ヲナサシム其ノ石灰乳ハ濃厚ナルモノヲ一週二回以上撒布セシム又坑道内ノ便所並脫糞アル個所ハ同様撒布ヲナサシムルコト





昭和三年五月十六日  
衛第三九八五號 警務部長通牒

各市町村長宛

首題ノ件ニ關シテハ本年一月三十日衛第五四〇號ヲ以テ及通牒置候次第モ有之候處從來福岡貯藏所ニ於テハ傳染病研究所ノ製品ノ貯藏シ居候得共北里研究所ノ製品ヲ希望サル向有ルニ鑑ミ特ニ北研ト交渉ノ結果本年四月ヨリハ兩所ノ製品ヲ併セ貯藏スルコトニ相成料金モ左記ノ通取極メ候條御含ミノ上爾今製品ニ付特ニ御希望アル向ハ痘苗請求ノ際製造所ヲ御指定相成度(尤モ在庫品ノ都合ニ依リテハ指定通ノモノヲ送り兼ヌル場合ナキヲ保セズ此ノ點豫メ御了知置願度)右重ネテ及通牒候也  
追テ右痘苗ノ請求ニ就テハ縣衛生課ヲ經由スヘク其ノ利用範圍ハ臨時種痘ノ場合ニ限ルハ前回通牒ノ通ニ有之爲念申添候

傳染病研究所製品  
北里研究所製品

壹人分 實費 七 厘  
壹人分 實費 七厘五毛

〔山口警〕

### 第三章 醫事

#### 第一節 病院

##### ●病院規則

大正十二年二月十三日  
山口縣令第十一號

病院規則左ノ通定ム

病院規則

第一條 本則ニ於テ病院ト稱スルハ傳染病預防法ニ依リ設置スル病院以外ノ公私立病院ニシテ名稱ノ如何ニ拘ラス患者十人以上ヲ收容スヘキ病床ヲ有シ診察治療ヲ爲ス設備アルモノヲ謂フ

第二條 病院ニハ左ノ職員ヲ置クヘシ

- 一 醫師
- 一 藥劑師
- 一 看護婦

第三條 病院ヲ設置セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ  
一 分院ヲ設ケ又ハ第三號第六號ノ事項ヲ變更セムトスルキ亦同シ  
一 設立者ノ本籍住所氏名生年月日及法人ニ在リテハ定款又ハ寄附行爲ノ寫

- 二 病院ノ名稱及診療科名
- 三 敷地ノ位置、面積、及建物ノ坪數、設計仕様書、圖面(配置圖、平面圖、斷面圖)並比隣百間以内ノ見取圖
- 四 使用水ノ水質試驗成績書
- 五 醫師藥劑師看護婦其ノ他職員數及收容スヘキ患者ノ定員

第四編 衛生 第三章 醫事

〔山口警〕

六 工事著手及落成期日

第四條 病院ノ構造設備ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ建物ノ種類又ハ土地ノ狀況ニ依リ第二號ハ斟酌スルコトアルヘシ

- 一 屋根ハ耐火構造ニ非サルトキハ不燃材料ヲ以テ覆葺スルコト
- 二 病棟ノ周圍ハ九尺以上ノ空地ヲ存シ併立ノ場合ハ高キ建物ノ高サ一倍以上ノ距離ヲ有スルコト
- 三 病棟ノ片廊下ハ幅内法四尺以上中廊下ハ六尺以上ト爲スコト
- 四 病棟又ハ外牆ニハ適當ナル非常口ヲ設ケ扉ハ外開キ又ハ引戸ト爲スコト
- 五 病室ノ床高ハ二尺以上天井高ハ八尺以上タルコト
- 六 二階病室ノ階段及踊場ノ幅ハ内法四尺以上蹴上七寸以下踏面八寸以上トシ病室十五坪以上ナルトキハ二箇所以上ヲ設ケ堅牢ナル手摺ヲ附スルコト
- 七 床板ハ汚物汚水塵芥等ノ漏レサル様接合スルコト
- 八 病室ハ患者一人ニ付一坪半以上トシ採光換氣ニ十分ナル裝置ヲ爲スコト
- 九 炊事場浴場及洗濯場ヲ設ケ地盤ハ「セメント」塗又ハ漆喰叩トシ火焚場ハ不燃材料ヲ以テ築造スルコト
- 十 汲取便所ノ地盤ハ「セメント」塗又ハ漆喰叩トシ尿尿壺、汚水溜、汚水溝等ハ不滲透材料ヲ以テ築造シ蓋ヲ設ケルコト
- 十一 井戸ハ唧筒裝置ト爲シ汲取便所及汚水溜ヲ距ルコト三間以上ニシテ其ノ周圍ハ「セメント」塗又ハ漆喰叩ト爲スコト
- 十二 煙突ノ高サハ棟上三尺以上トシ之ニ接觸スル部分ハ不燃材料ヲ以テ防火ノ設備ヲ爲スコト

十三 建物ノ内外ニハ適當ナル箇所ニ消火器及避難器ヲ備フルコト  
 十四 火災其ノ他事變ニ際シ豫メ他ニ適當ノ患者避難所ヲ定メ置クコトアルヘシ

第五條 傳染病患者ヲ入院セシムル病院ニ於テハ前條ノ構造設備ノ外左ノ制限ニ依ルヘシ

一 傳染病室ハ別棟トシ周圍ハ高サ六尺以上ノ柵ヲ以テ區劃シ且適當ナル箇所ニ消毒装置ヲ爲スコト  
 二 傳染病室内ノ側壁ハ板張又ハ「セメント」塗其ノ他適當ナル構造トナシ消毒洗滌ニ便ナラシムルコト

三 炊事場、井戸、浴場、洗濯場、消毒場、汚物焼却場、便所、汚物置場等ハ專用ノモノヲ設クルコト但シ消毒場ハ未消毒物既消毒物ノ置場ヲ區劃シ浴場及便所ハ患者用附添人用ニ區別スヘシ

四 病室ノ床下及消毒場ノ地盤ハ「コンクリート」「モルタル」又ハ漆喰ト爲シ適當ノ勾配ヲ付シ消毒及汚物ノ流出ニ便ナラシムルコト

五 汚水ハ一定ノ汚水溜ヲ設ケ之ニ貯留セシムルコト

第六條 工事落成シタルトキハ届出ヲ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第七條 設立者業務ヲ開始シタルトキハ其ノ年月日及左記事項ヲ具シ十日以内ニ届出ツヘシ異動變更ノ場合亦同シ

一 職員ノ本籍住所氏名並免許證ノ寫  
 二 院則

〔山口醫〕

第九條 傳染病患者ハ傳染病室ノ外之ヲ收容スルコトヲ得ス  
 「コレラ」、痘瘡、發疹、チフス、「ペスト」患者ハ傳染病室ノ設アリト雖之ヲ收容スルコトヲ得ス  
 第十條 傳染病患者ノ使用シタル什器、寢具、排泄物、飲食物ノ殘餘其ノ他病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物品ハ消毒スルニ非サレハ之ヲ他ニ使用シ又ハ搬出スルコトヲ得ス  
 傳染病室ノ塵芥ハ之ヲ焼却スヘシ  
 第十一條 傳染病患者ヲ收容シタルトキハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ  
 一 病室ニハ職員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ濫リニ出入シ若ハ出入セシメサルコト  
 二 病室ニ入ル者ハ豫防衣ヲ着用シ出ツルトキハ必要ナル消毒ヲ行フコト  
 三 病室ニハ專屬ノ看護婦ヲ置クコト  
 四 病院日誌ヲ備ヘ必要ナル事故ヲ記載スルコト  
 五 病室ニハ防蠅蠅ノ設備ヲ爲スコト  
 第十二條 本則ニ依リ行フヘキ消毒方法ハ大正十一年九月内務省令第二十號ノ規程ニ據ルヘシ  
 第十三條 本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノニ非サレハ病院又ハ分院ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ス  
 第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ  
 一 故ナク許可ノ日ヨリ三箇月以内ニ工事ニ著手セサルトキ  
 二 故ナク休業六箇月以上ニ互リタルトキ  
 三 前各號ノ外公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ル虞アリト認ムルトキ  
 第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ届出ツヘシ  
 一 第三條第一號第二號第四號第五號ニ異動ヲ生シタルトキ

〔山口醫〕

二 廢院シ又ハ三十日以上休院セムトスルトキ  
 第十六條 病院ヲ讓受ケ又ハ相續ニ依リ繼承シタル者ハ第三條第一號ヲ具シ双方連署ノ上十日以内ニ届出ツヘシ

第十七條 設立者ハ毎年別記様式ニ依リ其ノ成績ヲ翌年一月末日迄ニ届出ツヘシ

第十八條 本則ニ依リ差出スヘキ諸願届ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十九條 本則ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス  
 第二十條 設立者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス設立者カ法人ナルトキハ之ヲ法人ニ適用ス法人ヲ罰スヘキ場合ハ其ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第二十一條 設立者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居人、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附則

第二十二條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 明治二十年四月山口縣令第六十八號ハ之ヲ廢止ス

院ハ大正十二年三月三十一日迄ニ第三條第一號乃至第五號及第七條ノ事項ヲ届出テタルトキハ本則ニ依リ許可シタルモノト看做ス

第二十四條 前條ノ病院又ハ本則施行ノ際現ニ第一條ニ該當スルモノニシテ第四條ニ適合セサルモノト雖將來改築ニ至ル迄之ヲ猶豫ス

第五條ニ依ル病院ニシテ同條ニ適合セサルモノハ大正十二年七月三十一日迄ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

大正 年分病院表  
 市 郡 村 町 病院

第四編 衛生 第三章 醫事

科名	診療科目	病名	入院患者		外来患者	
			本年	前年	本年	前年
内科	肺結核病、喉頭結核病、其ノ他ノ結核病	何々	何々	何々	何々	何々
			何々	何々	何々	何々
外科	花柳病	何々	何々	何々	何々	何々
			何々	何々	何々	何々
眼科	トヲホー	何々	何々	何々	何々	何々
			何々	何々	何々	何々
計	何々	何々	何々	何々	何々	何々
			何々	何々	何々	何々
考備						

●病院規則施行手續

昭和二年二月二十五日  
山口縣訓令第十二號

警察署長

病院規則施行手續左ノ通定ム

病院規則施行手續

- 第一條 病院規則(以下單ニ規則ト稱ス)第三條ニ依ル願書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ
- 第二條 規則第六條ノ落成届ヲ受理シタルトキハ落成ノ事實ヲ調査シ進達スヘシ
- 第三條 規則第十六條ノ届出アリタルトキハ本則第一條ニ準シ其ノ事實ヲ調査シ副申スヘシ
- 第四條 警察署ハ毎月一回以上病院ヲ視察スヘシ
- 第五條 警察署ニ於テハ別記様式ノ病院臺帳ヲ調製シ異動ノ都度之ヲ整理スヘシ
- 第六條 規則第十四條ニ該當ノ事實アリト認メタルトキハ其ノ事情ヲ詳具シ速ニ報告スヘシ

別記様式

病院ノ名稱	位置		坪數	本籍
	敷地	建物		

〔山口警〕

●病院醫院其他診察所治療所ノ

設立者	住所	氏名	生年月日	年月日	病院臺帳		
					醫師	藥劑師	看護婦

廣告ニ關スル件

〔山口警〕

愛知縣知事照會(大正十五年五月二十九日)

衛生局長回答(衛醫第一三三號)  
 病院又ハ醫院ノ設立者ニシテ左記ノ如キ廣告ヲ爲スモノハ明治四十二年七月内務省令第十九號病院醫院其他診察所治療所ノ廣告ニ關スル件第一條ニ違反スルモノト認メラレ候ヘ共一應貴局ノ御意見御回示相成度及照會候也

- (一) 電氣マツサージ科 電氣オゾン吸入科 電氣浴科
- (二) 東京酸素療法研究所附屬名古屋療院
- (三) 呼吸器病科

但特種結核治療並注射日ハ水曜日人工氣胸療法及光線療法ハ火木

衛生局長回答(大正十五年六月十四日)

五月二十九日衛發第一三三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件「呼吸器病科」ヲ除ク外第一條ニ違反スルモノト存候右及回答候  
 北海道廳長官照會(大正十五年六月二十三日)  
 明治四十二年七月内務省令第十九號病院醫院其他診察所治療所ノ廣告ニ關スル件第一條「公衆ノ需ニ應シ診察治療ヲナス場所ノ設立者」ノ内ニハ左記ノ者モ包含スルモノニ候哉差迫リタル事情有之候條何分ノ御垂示相成度

一 醫師ニ非ラス又醫師ヲ雇入レシテ電氣治療、紅酸治療、心靈術治療ヲナス場所ノ設立者  
 二 鍼灸灸術按摩術(マツサージ術ヲ含ム)免許鑑札ヲ受ケタル者ニ於テ鍼

衛生局長回答(大正十五年七月七日)

六月二十三日警衛第一三六五號御照會省令第一條中「公衆ノ需ニ應シ診察治療ヲナス場所」トハ醫藥又ハ齒科醫藥ヲナス場所ト解スヘク從ツテ醫藥又ハ齒科醫藥ニ非ラサル行爲ヲ爲ス場所ノ設立者ハ包含セサルモノト存候間右御了知相成度

愛知縣知事照會(大正十五年七月二十日)

本月十三日附衛醫第九七〇號ヲ以テ御移牒相成候名古屋市中區西川端町安部部長太郎何出ニ係ル診察所治療所ノ廣告ニ關シテハ名古屋酸素療法研究所附屬名古屋療院理學療法科、ラジウム療法科ハ支障無キモ化學療法科及理化學療法科ハ療法ニ關スル廣告ニシテ明治四十二年七月内務省令第十九號病院醫院其他診察所治療所ノ廣告ニ關スル件第一條違反ト認メラレ、旨指示致度心算ニ候ヘ共一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長回答(大正十五年九月六日)

七月二十日衛發第一二二六〇號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件省令第一條ニ違反スルモノト存候右及回答候  
 三重縣知事照會(昭和三年八月六日)  
 病院設立者ニシテ左記ノ如ク療法ト認ムヘキ事項ノ新聞廣告ヲナスモノ有之右ハ病院醫院其他診察治療所ノ廣告ニ關スル件第一條第二項違反行爲ト認メ取縮ルヘキモノト思料候ヘ共聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

海濱氣候療養所  
日光浴空氣浴完備

衛生局長回答(昭和四年十月一日)

八月六日衛發第七、四八三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件右ハ第一條ニ違

反セサルモノトシテ御取扱相成可然ト存候

三重縣知事照會(昭和四年十月十六日)

左記廣告ハ明治四十二年內務省令第一九號、病院、醫院其ノ他診療所、治

療所ノ廣告ニ關スル件第一條ニ違反スヘキヤ否ヤ聊カ疑義相生シ候條貴局

ノ御意見承知致度此段及照會候也

外科 ○○病院

一般外科

外傷ケガ、ウチミ、貧血症、化膿症(デキモノ)

レキ、チ 腫瘍コブ、シコリ、ルイ

内臓外科 ハライダ

盲腸炎、脱腸、胃癌、胃潰瘍、尿管外科

整形外科

醜形、畸形、カタワ、アザ

醫學博士 氏 名

衛生局長回答(昭和四年十一月二十八日)

十月十六日衛發第九、七七八號ノ一ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件右ハ明治

四十二年內務省令第一九號病院、醫院其ノ他診療所、治療所ノ廣告ニ關ス

ル件第一條ニ違反セサルモノト存候此段及回答候

山形縣知事(昭和五年七月七日)

別紙添附ノ如キ新聞廣告ヲ爲スモノ有之候處右ハ明治四十二年七月內務省

令第一九號病院醫院其ノ他診療所治療所ノ廣告ニ關スル件第一條ニ違反ス

ルモノナルヤ否聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度此ノ段及照會候

也

別紙

産科、婦人科醫長者任披露

今般東京○○大學醫學部産科婦人科教室主任○○教授ノ推薦ニ依リ

醫學博士○○氏

ヲ迎ヘ産科婦人科ノ診療ニ從事致候

衛生局長回答(昭和五年七月十七日)

七月七日衛發第一〇五號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處右ハ明治四十二年

七月內務省令第十九號病院醫院其ノ他診療所ノ廣告ニ關スル件第一條ニ違

反スルモノトハ難認此ノ段及回答候也

三重縣知事照會(昭和五年七月二十二日)

病院經營者ニシテ左記廣告ヲ爲スモノ有之右ハ病院醫院其ノ他診療所治療

所ノ廣告ニ關スル件第一條ニ違反スルモノト認メラレ候モ聊カ疑義相生シ

候條一應貴局ノ御意見承知致度此ノ段及照會候也

海濱氣候療養所

人工氣胸療法(應需毎奇數日)

日光浴空氣浴完備

○○病院

衛生局長回答(昭和五年七月三十一日)

七月二十二日衛發第八七三、一號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件人工氣胸

療法ハ病院醫院其ノ他診療所ノ廣告ニ關スル件第一條ニ違反スルモノ

ト存候此段及回答候

第二節 醫師

醫師法施行細則

大正十五年六月二十五日 山口縣令第六十二號

醫師法施行細則左ノ通定ム

第一條 醫師法施行規則

ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

第二條 醫師法施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)第一條第一項及同則第三條

ニ關スル本籍地市町村長ノ證明書ヲ要ス

第三條 新ニ醫師ノ免許證ヲ受ケタル者ニシテ本縣内ニ居住スル者ハ左ノ

各號ヲ具シ十日以内ニ届出ツヘシ

一 本籍、住所、氏名、生年月日

二 男女ノ別

三 醫師免許證ノ寫

第四條 規則第七條ニ依ル住所變更ノ届出ハ左記各號ヲ具スヘシ但シ同一

警察署ノ管轄内ニ於ケル異動ニ付テハ第二號及第四號ヲ除ク

一 本籍、住所、氏名、生年月日

二 男女ノ別

三 前住所並新住所

四 免許證ノ寫

五 移動ノ年月日

第五條 規則第八條ニ依ル醫業開始ノ届出ハ前條第一號第二號第四號及開

第四編 衛生 第三章 醫事

〔山口警〕

〔山口警〕

醫師法施行手續

大正十五年六月二十五日 山口縣訓令第十一號

醫師法施行手續左ノ通定ム

第一條 警察署ニ於テ醫師法施行規則第一條第一項及同則第三條第二項ニ

依ル申請書ヲ受理シタルトキハ醫師法第一條第一項又ハ同法施行規則第

三條第二項ノ變更ニ依ル新證書ハ規定ノ資格ニ事實相違ナキヤ否ヲ證ス

ヘキ本證書ト對照シ其ノ正當ナルコトヲ認メタル上申請書ノ餘白ニ資格

證書檢閱年月日及檢閱済ノ旨ヲ記入シ署名捺印スヘシ

施行規則第三條、第四條、第五條ノ届出ニ添付スヘキ免許證寫ノ取扱ヒ

ニ付テハ前項ニ準ス

第二條 申請者カ醫師法第二條、第三條ニ該當スルモノナルトキハ狀況ヲ

調査シ副申スヘシ

第三條 警察署長ハ醫師法第十條第一項乃至第三項又ハ同法第十一條ニ該

當ノ事實アリト認ムルトキハ事情ヲ詳具シ速ニ報告スヘシ

第四條 警察署ニハ別記様式ノ臺帳ヲ調製シ異動ノ都度之ヲ整理スヘシ

第一號様式(美濃紙形トス)

所張出	設置年月日	位	摘	要	住所		本籍		年 齡		氏 名		族 稱		
					年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	免 許 資 格	免 許 資 格	免 許 資 格	免 許 資 格			
					登 録 年 月 日	第	年	月	日	年	月	日	年	月	日

### 醫師死體檢案届出ノ件

明治三十八年十二月二十二日  
山口縣令第六十六號  
下關市及豊浦郡彦島村、生野村ニ於テ死體ヲ檢案シタル醫師ハ直チニ書面又ハ口頭ヲ以テ死者ノ住所、職業、氏名、死亡日時死體所在地ヲ所轄警察官署、巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ届出ヘシ  
本令ニ違背シタル者ハ拘留科料ニ處ス  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

### 專科開業醫施術ノ件

明治三十七年五月十日  
衛第二八七號衛生課長通牒  
內科外科産科眼科等專科開業免狀所持ノ者ハ一般ノ醫術ヲ施スモ別段取締

〔山口書〕

ヲ要セサル旨去ル明治十九年三月衛生局長ヨリ通知ノ趣モ有之候處今般又內務大臣ヨリ照會ニ依リ司法大臣ヨリ左ノ通檢事局へ訓令相成旨衛生局長ヨリ通知有之候條爲念此段及通牒候也  
司法省民刑甲第七〇號

檢事局

開業醫ニシテ専門ノ免狀ヲ有スル者(齒科整骨科ヲ除ク)免狀ニ記載シタル科目外ノ治療ヲ施スモ刑法第二百五十六條ニ照シテ處斷スヘキモノニアラサル儀ニ付テハ明治十八年當省第二、七三四號ヲ以テ相違置候次第モ有之候處近來免狀ニ記載シタル科目外ノ治療ヲ施シタル者ヲ有罪ト認メ處分スル者有之趣ニ付右違ノ趣ニ背カサル様一層注意スヘシ  
右訓令ス  
明治二十七年四月二十三日

司法大臣 芳川 顯正

### 整骨科醫師ノ治療範圍ニ關スル件

大津區裁判所檢事局照會(明治三十五年十月三日)  
日記第二三七七號  
明治十七年內務卿ヨリ整骨科醫師開業免狀ヲ授與セラレ其ノ營業ニ從事スルモノハ普通醫師ノ如ク諸病ヲ診察シ治療スルコトヲ得ルモノナルヤ又ハ入商、商拔、接骨等ノ營業者ノ如ク普通醫師ト區別スヘキモノナルヤ果タ全ク接骨營業者ト同一ニ見做シ同一ノ營業ヲナスヘキモノト見做シテ差支ナキヤ右ハ犯罪檢舉上必要ニ付御取調ノ上何分ノ御回答有之度及照會候也  
衛生局長回答(明治三十五年十月九日)  
衛第一〇五九六號

〔山口書〕

明治三十五年十月三日日記第二三七七號ヲ以テ御照會ノ趣了承整骨科免狀ヲ有スルモノハ內科又ハ外科免狀ノ醫師ト異リ其科目外ノ諸病ヲ診察治療不相成義ニ候條右ニ御了知有之度此段及回答候也

〔山口書〕

### 死亡診斷書交付ニ關スル件

明治四十一年八月十日  
內務省衛甲第五二號衛生局長通牒  
各地方官宛  
醫師其治療中ノ患者死亡シタル場合ニ於テ其死體ヲ實檢セスシテ死亡診斷書ヲ交付スルモ當省ニ於テハ醫師法第五條ニ違背セサルモノト解釋シ來リ居候條右御了知相成度爲御參考此段及通牒候也

### 醫師ニシテ齒科醫業ヲ爲ス者ニ關スル件

大正三年七月八日  
衛第五三三二號警察部長指示  
各署長宛  
標記ノ件ニ關シ別紙寫ノ通り縣、郡、市醫師會長へ通牒ヲ發シ置キ候條之ニ準據シ醫師、齒科醫師間ノ紛争ヲ起サシムルガ如キ事無之様取締セララルベシ

大正三年七月八日衛第五三三二號  
縣、郡、市醫師會長宛警察部長通牒  
醫師カ口腔齒科ノ治療ニ從事シ得ルハ差支無之ト認メ候へ共特ニ免許ヲ受ケスシテ齒科醫師ト稱スルコトヲ得サルハ勿論ノ義ニ有之又齒科ヲ特別ニ研究セルコトナキ醫師ニシテ單ニ齒科醫院又齒科治療所等齒科醫師ニ紛ハシキ標札ヲ掲クルコトハ好マシカラス尙醫師ノ口腔齒科ニ關スル治療費ハ齒科醫師會ノ規定有ル場合ハ可成之ニ準據スヘキ様諭達方其筋ヨリ通牒有之候條此等普ク會員へ徹底スル様致度此段及通牒候也

### 醫術假開業醫ノ滞在治療ニ關スル件

大正十四年七月二十九日  
衛第九〇號衛生局長通牒  
右ノ者ヨリ別紙寫ノ通滞在治療承認願提出候處醫術假開業免狀受有者免許地域外ニ診察所治療所又ハ其ノ出張所ヲ設クルコトヲ得サルハ勿論ニ候へ共滞在治療ハ之ヲ認メ御取扱相成候様致度本人へ其ノ旨御指示相成度滞在治療承認願

德島縣知事宛

本 籍 北海道石狩國雨龍郡雨龍村字滿壽村無番地  
住 所 德島縣名東郡上八萬村一宮字裝束七十二番地  
開業地 北海道石狩國雨龍郡雨龍村字白利加

醫師 內海 喜會

元治元年五月十日生

私儀今般德島縣名東郡上八萬村一宮裝束七十二番地ニ於テ滞在治療致度候間御特別ノ御詮議ヲ以テ御承認被下度別紙履歷書及免狀寫相添此段奉願上候也  
大正十四年六月二十七日

右

內海 喜會

內務大臣宛

### 醫師診療簿記載方

大阪府知事照會(大正十三年七月五日)  
衛第八〇八九號  
醫師ニシテ醫師法第六條ニ基テ診療簿ニ病名療法等ヲ外國語ニテ記載スルモノ往々有之候處右ニ對スル何等ノ制限ナキヲ以テ支障無之被相認候へ共聊カ疑義ノ廉有之候條貴局ノ御意見御回示相煩度候



一、犯情重キモノハ刑事追訴ニ付シ其ノ結果報告ト同時ニ左ノ意見ヲ上申セラルヘシ

(1) 醫師ニ在リテハ左記事項

一 犯罪行為ノ動機

(例令ハ一定ノ報酬ヲ得シカ爲メナルカ又ハ情義ノ結果ナルカ等詳細)

一 犯罪行為ノ影響

(主トシテ公衆衛生上ニ及ホシタル影響例令ハ傳染病ヲ隱蔽シタル爲メ一部落ニ傳染シタルカ如キ記事)

一 行政處分(醫師法第十條)ノ要否並其ノ事由意見

一 業行

一 附近同業者ノ有無多少等

一 前科(前科ノ行政處分ヲ受タルコトアラハ其ノ年月日及事由)

一 其ノ他参考事項

一 本犯ニ對スル判決原本添付ノコト

(2) 藥劑師ニ在リテハ藥品營業並藥品取扱規則第四十六條ノ二第一項藥種商ニ在テハ同條第二項ノ處分ニ關スル意見

二、犯情輕キモノハ本人ヲ其ノ署ニ召喚シ嚴重戒備ヲ加ヘ將來規則ヲ恪守シ荷モ違背セサル旨誓約書ヲ提出スル等改倭ノ見込アルモノハ説諭ニ止ムヘシ

三、不良藥品ニシテ藥品營業並藥品取扱規則第三十八條ノ二ニ依リ處分ヲ要スヘキモノヲ本人ハ保管セシメ又ハ其ノ署へ提出セシメタルモノアル場合ニ於テ司法處分上證據物件トナラサルモノ又ハ裁判所ヨリ還付セラレタルトキハ同條第二項ニ依リ措置シ其ノ結果及數量價格ヲ報告

〔山口警〕

セラルヘク若シ本人ニ於テ同條同項但書ニ依リ措置センコトヲ請フトキハ其ノ方法ヲ具シ指揮ヲ乞ハルヘシ

四、毒物劇物營業取扱規則第二條ノ違反事件ニ關シ違反者毒物劇物ヲ所持スル場合ニ於テハ現品ハ任意廢棄セシムルカ又ハ製劑者若ハ仕入元へ還付セシメ其ノ結果及種類數量ヲ報告シ還付セシメタルトキハ一面所轄警察官署へ通知セラルヘシ同則第四條ノ違反事件ニ關シ違反者ニ於テ同一物品ヲ所持スルトキハ同條所定ノ裝置ヲ爲シタル上販賣授與スルコトヲ許サルヘシ

●醫師ノ非行ニ關スル件

大正四年二月六日 衛第七二五號警察部長指示

醫師、齒科醫師ノ犯罪又ハ業務上ノ不正行為ヲ檢舉シタルトキハ其ノ都度事應ヲ詳具シ報告セラルヘシ

●醫業停止中擅ニ醫業ヲ爲シタル者取扱方

明治二十四年九月 衛甲第四三號內務書記官通牒

醫師免許規則第十一條ニ據リ醫業停止ノ命ヲ受ケタル者ニシテ其停止中擅ニ醫業ヲ爲シタルトキハ從來ノ例ニ依リハ司法處分ニ或ハ刑法第二百五十六條ノ制裁ヲ以テ罰セラル、モノアリ或ハ已ニ醫師タルノ免狀ヲ有スルモノナレハ假令停止中ナリト雖モ刑法ノ間フ所ニアラスト爲シテ其告發ヲ受理セサル場合モ有之候處行政上ニ於テハ司法處分ノ如何ニ拘ハラヌ該停止中醫業ヲ爲シタル者ニ對シテハ先以テ一應司法處分ノ手續ヲ經タル上ニテ行政處分ノ詮議相成ルヘキ事ト省議決定候間此段及御通牒候也

●行政處分具申書ニ關スル件

大正三年一月二十二日 衛發第二五號衛生局長通牒

各地方官宛

醫師、齒科醫師及藥劑師ノ行政處分具申書記載方ニ關シテハ過ル明治四十四年十一月內務省訓第五九六號ヲ以テ訓令相成居候處往々該方式ニ依ラス又ハ記載簡單ニ失シ其ノ要ヲ得サルモノ有之候ニ付相當御注意相成候様致度尙傳染病預防法第三條違反ノ場合ハ消毒方法ヲ指示シタルヤ否ヤハ必ス御記載相成度其ノ他處分上參考トナルヘキ事項ハ可成詳記相成度此段申進候

〔山口警〕

●醫業ニ關スル疑義ノ件

大分縣知事照會(大正十二年十一月二十七日) 衛第五一八八號

本縣ニ於テ醫師ニ非ルモノ公衆ノ需ニ應シ直接依頼者ノ身體靜脈内ヨリ血液ヲ採リ細菌検査ヲ爲スヲ業トスル者有之候處右ハ醫師業務ノ範圍内ニ屬スルモノト認メ醫師法第十一條ノ違反行為トシテ相當取締ヲ要スヘキモノト思料セラレ候ヘ共聊カ疑義相生シ候條一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長回答(大正十二年十二月二十六日) 衛第六五六號

十一月二十七日衛第五、一八八號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件單ニ細菌検査ヲ爲スモノハ醫業ト認メ難キモ靜脈ヨリ血液ヲ採取スルカ如キハ醫業ノ範圍ト被認候條相當御取締相成度

和歌山縣知事照會(大正十四年六月二十九日) 衛第四九九九號

近時非醫者ニシテ且ツ鍼灸術其ノ他何等ノ資格ヲ有セサル者カ「疥癩切」ト

●紅酸治療ニ關スル件

奈良縣知事照會(大正十三年六月三十日) 衛第五七號

別紙廣告ヲ配付シ紅草ト云フ野生ノ植物ヨリ採取シタル紅色ヲ帶ヒタル液汁ヲ刷毛ヲ以テ患部ニ塗附シ其ノ上部ヲ固木ニテ摩擦シテ皮膚ニ潤滑セシメ以テ施術ヲ爲スモノアリ右ハ假令疾病ヲ診斷シ治療スルモノニ非スト雖モ事實治療手術ヲ爲ス以上ハ當然醫師法違反ノ行為ト被認候ヘ共一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

(別紙省略)

衛生局長回答(大正十三年七月十日) 衛第九二五號

六月三十日衛第五七號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件醫業ト認メ難ク候條右御了知相成度

●温熱療法ニ關スル件

大阪府知事照會(大正十五年十一月五日) 衛第一二四六四號

別紙ノ如キ療法器ヲ使用シ温熱治療ヲ業トスル行為ハ所謂醫業ノ範圍ニ屬スルモノト思料セラレ候ヘ共聊カ疑義相生候條貴局ノ御意見承知致度此段

及照會候也  
（別紙省略）  
衛生局長回答（大正十五年十一月十三日）  
十一月五日衛第一二四六四號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ醫業トハ認メ難ク此段及回答候

● 整體術ニ關スル件

富山縣知事照會（昭和二年七月二十二日）  
射水郡小杉町戸破四三二四

老田 勝之助  
明治八年一月一日生

右者肩書地ニ於テ發見整體術ナル看板ヲ掲ケ一觀ノ需ニ應シ施術ヲ爲シ居ルモノニシテ茲ニ云フ整體術トハ健康者ノ潛伏患部ノ發見ニ依リ局部ニ温法ヲ施シ以テ之レカ患部ノ除去ニ在リト稱シ而シテ之レカ施術ノ方法ハ被施術者ヲ裸體（男子ハ裸女子ハ腰巻）ト爲サシメ頭部肩胛部胸部膝兩手指兩足上下腿部等ノ各筋肉部ヲ手指ノ先端ヲ以テ強壓シ被施術者ハ壓迫ノ爲メ「痛イ」ト云ヘハ施術者ハ「コ、ニ病カ潛伏シテ居ルノタ」ト稱シ温法ヲ施スモノナリ其ノ温法方法ハ先ツ病名ヲ聞キ（或ハ之ヲ聞カス）前記潛伏患部ニ直径一寸ノ圓形白色綿布ニ味噌汁ヲ浸セシモノヲ附ケ其ノ上ヨリ加熱「オゾンレントゲン」モヒララアヲ以テ温法ヲ施シ患部ハ「熱イ」ト言ヘハ更ニ他ノ所謂潛伏部ニ移動シ同一行爲ヲ反覆スルモノナリ其ノ效能トシテ左記ノ如ク言明シ居ルモノナリ

- 一 患部皮下ノ凄味アル痛ミヲ除去
- 二 患部皮下ノ冷却セル部分ヲ除去

〔山口馨〕

三 患部皮下ノ炎熱ヲ除去  
四 患部皮下ノ麻痺セル部分神經復活  
五 患部皮下ノ殺菌力  
右行爲ハ醫業ニ類似セル行爲ト被認醫師法第十一條ニ依リ相當取締ヲ要スヘキモノト被存候得共聊カ疑義相生シ候條何分ノ御指示相成度此段及何候也

● 電氣治療取締ニ關スル件

衛生局長回答（昭和三年二月七日）  
客年七月二十二日衛第二八五六號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件醫業ト認メ難ク候條右御了知相成度

兵庫縣知事照會（大正十一年四月十七日）  
（衛發第一一八號）  
近時管下神戸市內理髮營業者等ニ於テ大阪市東區高麗橋東田商會ノ發賣ニ係ル電療器「レイドビー」ト命名セル一種ノ電氣應用機械ヲ購入シテ店頭ニ據置キ自家用電燈ノ電流ヲ機械ニ接続シ一般公衆ノ需ニ應シ一回金拾五錢乃至貳拾錢ノ料金ヲ得テ疾病ノ治療類似行爲ヲナスモノアルモ醫師ノ如ク被治療者ヲ診斷シテ治療スルモノニアラス唯單ニ施術者ハ被治療者ノ指示スル患部ニ前記ノ機械ヲ接觸セシムルニ過キサルヲ以テ純然タル醫療行爲トモ認メラレス而シテ斯ノ種ノ機械ハ被治療者ノ體質ニ適合スル電流ヲ調節スルノ裝置アルカ故ニ其ノ使用方法ヲ誤リ又ハ機械ノ破損セサル限リハ危險ノ虞ナキモノト思ハルモ前記ノ如ク公衆ノ需ニ應シ一定ノ料金ヲ得ル治療行爲ハ種々ノ弊害ヲ醸成シツ、アル關係上之ヲ等閑ニ附スル能ハス又同種類ノ機械ニシテ浴場ニ使用スル目的ヲ以テ巷間ニ販賣スルモノアリ該機ハ前記同様電燈々用ノ電流ヲ利用シ其電流ヲ機械ノ作用ニ依リ百「ボルト」ノモノヲ初メ二十「ボルト」ニ落シ以テ一「ボルト」乃至一〇「ボルト」

〔山口馨〕

トニ變化セシムルノ裝置アリ其變化セシメタル電流ヲ金屬線ニテ適宜浴槽ニ誘導シ諸種ノ疾病治療ニ用ヒントスルモノナルカスノ如キ電氣治療ノ件ニ關シテハ明治三十六年九月十五日岐阜縣ノ實業ニ對スル貴局ノ回答ニ「電氣治療ノ如キハ未ダ醫業ノ體ヲ爲ササルヲ以テ之ヲ行フモ直チニ醫師法違反トハ難認候ヘ共之等醫業類似者ノ取締ニ關シテハ目下詮議中ニ付キ左様御承知相成度」トアルモ之ヲ取締ルヘキ何等ノ規則ナク之カ弊害ノ豫防除却ニ關シ甚敷支障ヲ感スルノミナラス現ニ前記電氣風呂ノ如キハ湯屋營業者カ之ヲ營業ニ使用セントテ認可ヲ願出ツル向アルモ之カ許否ヲ決スル標準無之候ニ付テハ以上ニ關スル取締上ノ御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長回答（大正十一年四月二十八日）  
（衛發第一一八號）

衛生局長回答（大正十一年四月二十八日）  
（衛發第一一八號）  
以テ標記ノ件御照會相成候處電氣治療ノ如キハ未ダ醫業ノ體ヲ爲ササルヲ以テ之ヲ行フモ直チニ醫師法違反トハ難認候得共此等業者ノ取締ニ關シテハ其ノ必要ヲ認メ目下詮議中ニ有之候條右御了知相成度

警視總監照會（昭和二年三月十七日）  
（衛第一〇一號）  
電氣治療法ノ如キハ醫業ノ體ヲ爲ササルヲ以テ之ヲ行フモ直チニ醫師法違反トハ認メ難キ旨大正八年四月衛第七七號ヲ以テ御回答ノ次第モ有之候處近來電氣治療機ヲ使用シテ疾患治療ヲ生業トシ其ノ規模應様ハ按摩鍼灸術業者以上ノ狀況ニアリ且施術方法ハ電熱若ハ之ニ蒸熱ヲ併用スルモノニシテ物理的療法ノ範圍ニ屬スル行爲タルコト疑ナク斯ノ如キハ醫師法違反トシテ取締ヲ行ヒ可然モノト思料候ヘ共聊カ疑義有之候條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

追テ本件ニ付テハ差シ迫リタル事件有之候間至急御回答相煩度參考トシテ左記書類添付候

- 一 野一色式放射蒸熱電氣治療業者  
北村一郎太 照取書寫
  - 二 モルホネ療法講義錄 三册
  - 三 無藥ノ醫術 六册
  - 四 治療ト健康 一册
  - 五 東京理學療法研究所卒業證書、認許證、證明書、認可證各一通  
衛生局長回答（昭和二年六月十日）  
（衛發第三二二號）  
三月十七日衛第一〇一號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處電熱若ハ之ニ蒸熱ヲ併用シ疾患治療ヲ生業トシテ行フ場合ニ於テモ必スシモ醫師法違反トハ認メ難ク候條此段及回答候
- 北海道廳長官照會（昭和二年十二月七日）  
（衛發第三〇二號）  
電氣治療法ハ未ダ醫業ノ體ヲ爲ササル旨義ニ御通牒有之候處醫師ノ免許ナクシテ左記ノ通專門科名ヲ標榜シ器械ヲ使用シテ診斷治療ヲ爲ストキハ醫師法第十一條ニ該當スルモノノ如ク思料セラレ候得共聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度及照會候也
- （一） 專門科名 内科、神經科、呼吸器科、花柳病科、腺病科、婦人科、小兒科  
（二） 名稱 電氣診斷療院  
（三） 器械ノ種類 イ）ヂアテルミー、ロ）グルワニ一感傳電機、ハ）平流、オ）ン發生用及電燈線ヨリ電流ヲ應用スル裝置等ヲ同一容器ニ裝置セル機械  
（四） 診斷 診斷ハ主トシテ神經系ニ對スル電氣ノ元奮性ヲ檢シ又聽診ヲ行フコトアリ  
診斷科ハ十四、電氣治療科ハ一回一圓乃至二圓ヲ徵收ス



(五) 治療

治療ハ病症ニ應シテ感電氣、平流電氣、デアテルミー、オゾン吸入又ハ高周波電流ヲ用フ例ハ呼吸器病ニ對シテハオゾン吸入ヲ行ヒ(此際乾燥ノ爲メノ不快感ヲ緩和スル爲普通吸入器ヲ用ヒテ水蒸氣ヲ合セ吸入セシム)花柳病ニ對シテハデアテルミー、高周波電流、神經系ノ疾患ニハ感電又ハ平流電氣ヲ用フルカ如シ尙別紙電氣診察表御參考迄ニ添付ス(別紙電氣診察表省略)

衛生局長回答(昭和二年十二月十九日)

衛醫第一四一六號

十二月七日衛醫第三〇二〇號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處電氣療法ト雖本件ノ如キ業態ニ屬スルモノノ如キハ醫業行爲トシテ御取締相成可然モノト存候此段及回答候

山口縣知事照會(昭和五年五月二十三日)

衛醫四五七九號

本籍 山口縣都濃郡戸田村  
住所 同縣同郡福川町宇西町

戸村 實雄

右者ハ醫師、齒科醫師、鍼灸術營業者等ノ資格ヲ有セサル者ナルカ鍼灸術營業者ヲ招聘シ之ト協力シ電氣治療ヲ管マムコトヲ企テ別添ノ如キ開業廣告ヲ爲シタルカ鍼灸術營業者ハ治療ニ電氣ヲ使用スルコトヲ禁セラレ居ル主旨ニ鑑ミ假令施術擔當者ハ異ナルトシテモ同一場所ニ於テ而モ兩者相呼應シ治療ニ當ルヘキ組織ノ下ニ如斯行爲ヲ爲スハ明ニ禁令ノ主旨ニ背反スルモノト認メタルヲ以テ鍼灸科併置ハ警告ニ依リ斷念セシメタルカ廣告ノ取締ニ關シ醫師法違反ヲ以テスヘキヤ將又明治四十二年七月内務省令第十九號違反ヲ以テスヘキヤ夫レトモ全然放任シ置クヘキモノナルヤニ付決定致候條何分ノ御指揮相煩度此段及照會候也

〔山口警〕

開業廣告

皆候各位の御後援によりいよいよ三月五日より開業致しませす。宜敷御引立あらん事を御願ひ申します  
院主 敬白

電氣と鍼灸  
レントゲン科 紫外光線科  
治療 午前八時より午後九時まで  
卵巣疾患子宮筋腫接設腺炎痛腫  
紫外光線科  
皮膚病 一般(インキン。タムシ。ミヅムシ。ゼニムシ。ヒゼン。シツシン。ワキガ)  
デアテルミー科  
神経病。脚氣。中風。痲病。子宮病。ロイマチス。痔疾。  
風引。胃瘕。頭痛。  
特設鍼灸科  
中風預防  
喘息脚氣  
神經痛  
蓄膿症  
外一般  
打身くじき肩のこりに特效あり  
周防福川西町椎木方  
仁誠堂 理學療院  
〔福川ワタナヘ印〕

衛生局長回答(昭和五年七月四日)

衛醫第五七六號

五月二十三日衛醫四五七九號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ醫師法第七條並ニ明治四十二年七月内務省令第十九號ニ該當セサルモノト存候尙廣告中

〔山口警〕

ニ記載シアルレントゲン治療ニ對シテハ醫業行爲トシテ御取締相成可然特設醫科ナル句ハ穩當ナラスト存候此段及回答候

湯屋營業者ニ於テ電氣治療ヲ爲ス者ノ取締方

新潟縣知事照會(大正十三年二月二十八日)  
衛醫第一二四一號  
管下新潟市内湯屋營業者ニ於テ大阪市兒玉電氣工業製作所發賣ノ電氣治療器「ハイフレクナー」ト稱スル電氣應用機械ヲ白湯浴槽ニ設置シ浴客ノ求メニ應ジ自在ニ調節加減送電シ得ルモノヲ使用方許可願出有之候處之レカ許否ヲ決スル標準無之ニ付テハ取締上ノ御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長回答(大正十三年六月三十日)  
衛醫第八九六號  
二月二十八日衛第一二四一號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ニ就テハ別段取締規定無之候條若シ放任シ弊害有之見込ニ候ヘハ貴縣ニ於テ可然御取締相成度

醫師ノ廣告ニ關スル件

警視總監照會(大正十二年七月十二日)  
衛醫第二四二號  
醫師ニシテ左記ノ如ク醫院名ニ技能又ハ療法ト認ムヘキ事項ヲ冠シタル廣告ヲ爲スモノ有之右ハ醫師法第七條違反行爲ト思料候ヘ共聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

- 一 何々酸素注射療院
- 一 何々堂注射療院
- 一 ワクチン療院
- 一 何々沃度療院
- 一 何々灸療院

衛生局長回答(大正十二年七月)

衛醫第二四二號

七月十二日衛第二四二號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件就レモ醫師法第七條ニ違反スルモノト被認候右及回答候也

新潟縣知事照會(大正十二年十月十八日)

衛醫第四九八三號

醫師ニシテ左記ノ如ク療法ト認ムヘキ事項ノ廣告ヲナスモノ有之右ハ醫師法第七條違反行爲ト認メ本年八月一日衛醫第九九九號通牒ニ基キ取締ルヘキモノト思料候ヘ共聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

左記

- 理學的治療法
- エツキス光線
- デアテルミー
- 人工太陽燈
- 一般電氣療法
- レントゲン科
- 人工太陽科
- 紫光線平流電氣科

衛生局長回答(大正十二年十一月二十二日)

衛醫第二四九號

十月十八日衛第四九八三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件從來エツキス光線科、デアテルミー科、レントゲン科、電氣科ハ專門科名ト認メ來候其ノ他ハ專門科名ト認メ難キモノト存候右及回答候以上

熊本縣知事照會(大正十三年三月七日)

衛醫第二七六五號

醫師ニシテ左記ノ通新聞廣告ヲナシタルモノ有之候處右ハ醫師法第七條ニヨリ取締ルヘキモノナルヤ否聊カ疑義ヲ生シ居候條貴局ノ御意見(理由共)至急御回報煩度此段及照會候也

記

産婦人病特流産早産早期預防 山口醫院  
(入院隨意) 熊本市東坪井立町  
衛生局長回答(大正十三年三月二十日)  
三月七日衛第二七五號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件醫師法第七條違反ト  
難認候條右了知相成度

群馬縣知事照會(大正十三年四月二十五日)  
衛生局長回答(衛醫第二九四二號)  
醫師ニシテ左記ノ如キ廣告ヲ爲スモノ有之候處右ハ醫師法第七條違反ニ  
スル違反ト被認候モ一應御意見承知致度此段及照會候也  
廣告  
今回現役ヲ辭シ左記ニ於テ一般ノ診療ニ從事ス  
海軍軍醫少將 新井慶三郎

新井内科醫院

前橋市堀川町二番地

内一 特ニ 呼吸器病  
神經系病  
科 眼科 循環器病

衛生局長回答(大正十三年五月五日)

四月二十五日衛第二九四二號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件經歷ニ關スル廣  
告ト存候右及回答候

北海道廳長官(警衛第八八四號)  
大正十三年四月二十九日

醫師ノ廣告ニ付キ客年八月一日附衛醫第九九號御通牒ノ次第モ有之候處  
左記方法ニ依リ病名ヲ掲ケ療法ト認ムヘキ廣告ヲオス者有之右ハ醫師法第  
七條ニ違反スルモノト認メラレ候ヘ共聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承  
知致度及照會候也

〔山口醫〕

道ヲ齒科醫師ノ左記廣告ニ付テモ何分ノ御指示相成度申添候

一 醫師ノ部

理學的療法科新設  
科長ドクトルメヂチーネ

技 師

技 師

一 X光線診斷 (癌腫、内腫、子宮、筋腫)  
二 X光線深達治療 (外科結核、ルイレキ等)  
三 X光線皮膚病治療 (濕疹、禿頭、其他慢性皮膚病)  
四 ラヂウム

二 齒科醫師ノ部

一般治療

口腔外科

義齒金冠

衛生局長回答(大正十三年五月二十六日)

四月二十九日警衛第八八四號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件左記ノ通及回  
答候

一 醫師ノ部

醫師法第七條ニ違反スルモノト認ム

二 齒科醫師ノ部

齒科醫師法第七條ニ違反スルモノト認ム

長野縣知事照會(大正十三年九月九日)

醫師ニシテ左記ノ如キ廣告ヲ爲スモノ有之取給ノ必要ニ付法第七條違反ニ  
アラサヤ御意見承知致度此段及照會候也  
左記

〔山口醫〕

衛生局長回答(大正十四年四月一日)

一月三十日衛第五五六號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件中(甲)人工高山太陽  
燈治療云々ヲ除クノ外差支ナキモノト存候此段御回答候

宮城縣知事照會(大正十四年二月十六日)

醫師ニシテ左記ノ如ク專門科名以外ニ技能療法ト認メラルヘキ廣告ヲナス  
モノ有之右ハ法第七條ニ違反スルモノト認メラレ候ヘ共聊カ疑義相生シ候  
條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

一 電氣科、平流感傳電氣浴治療

二 レントゲン科特設「エツキス」光線(照射寫眞)及治療

衛生局長回答(大正十四年三月四日)

二月十六日衛收發第一四〇五號ヲ以テ本件ニ付御照會ノ趣了承電氣科「エ  
ツキス」光線科等ハ從來專門科名トシテ認メラレタルモノ平流感傳電氣浴救  
療及「エツキス」光線診斷(照射寫眞)及治療ノ廣告ハ專門科名外ノ技能療法  
ニ關スルモノト被認候條此段及回答候也

熊本縣知事照會(大正十四年二月十六日)

醫師ニシテ左記第一號様式ノ看板ヲ掲ケ且ツ第二號ノ書式ノ「ピラ」ヲ配付  
シタル者有之右ハ醫師法第七條ニ違反スルモノト被認候得共聊カ疑義相生  
シ候條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也  
第一號様式

深水漢法醫院

舊沙取梅毒專門醫院

第二號様式

一 骨關節ノ諸病 接骨、打撲、捻挫  
一 血液検査  
一 患者待合室並ニ控室等ニ自己ノ卒業學校名修業科目ヲ列記掲ゲルモノ  
衛生局長回答(大正十四年二月二十日)  
九月九日收第一〇九二號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件差支無之ト存候  
大阪府知事照會(大正十四年一月六日)  
醫師ニシテ左記ノ如ク技能療法ト認ムヘキ廣告ヲナスモノ有之右ハ醫師法  
第七條ニ違反スルモノト被認候ヘ共聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見御  
回示相煩度候

記

美容科 隆鼻科 深部治療高壓X光線科  
癌腫 肉腫筋腫及結核諸患

衛生局長回答(大正十四年一月十六日)

一月六日衛第六二二號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件醫師法第七條ニ抵觸スル  
モノト存候右及御回答候

岡山縣知事照會(大正十四年一月三十日)

醫師ニシテ左記ノ通新聞廣告ヲナシタルモノ有之候處右ハ醫師法第七條ニ  
依リ取締ルヘキモノナルヤ否聊カ疑義ヲ生シ居候條貴局ノ御意見至急御回  
報相煩度此段及照會候也

記

(甲) 内科専門 人工高山太陽燈治療ハ夜間

(乙) 男女生殖器科

泌尿

皮膚科

特ニ 梅毒、慢性淋疾、神經衰弱、陰萎、包莖、遺精、夢精

設 特ニ 〇あざ△ほくろ△わきが△たむし△にきび等  
◎そばかす△入墨△いんきん△くさ△濕疹等

(醫院略)

衛生局長	深井 隆
第一部長	深井 隆
第二部長	深井 隆
第三部長	深井 隆
第四部長	深井 隆
第五部長	深井 隆
第六部長	深井 隆
第七部長	深井 隆
第八部長	深井 隆
第九部長	深井 隆
第十部長	深井 隆
第十一部長	深井 隆
第十二部長	深井 隆
第十三部長	深井 隆
第十四部長	深井 隆
第十五部長	深井 隆
第十六部長	深井 隆
第十七部長	深井 隆
第十八部長	深井 隆
第十九部長	深井 隆
第二十部長	深井 隆

衛生局長回答(大正十四年四月二十七日)  
二月十六日衛第一六六一號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件法第七條ニ違反スルモノト存候  
右及回答候

福島縣知事照會(大正十四年二月二十八日)  
左記醫師ノ廣告ハ診斷上ノ技能範圍ニ互ルモノト被認候ヘ共巳ニ電氣科「デアアルミー」科ノ專門科名トシテ認容セラル、關係上敢テ法第七條ニ牴觸セサル哉ニ思料候モ一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

氣管食道直達鏡科 ○○醫院  
膀胱鏡科 ○○醫院

衛生局長回答(大正十四年三月三十一日)  
二月二十八日付丑衛第三〇〇三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件專門科名トハ認メ難ク此段及御回答候也

福島縣知事照會(大正十四年四月二十四日)  
醫師ニシテ別紙ノ通廣告ヲ爲スモノ有之候處廣告文中左記記事ハ醫師法第七條ニ所謂專門科名ト認ムヘキヤ否ヤ取締上差掛リ疑義相生候條至急貴局ノ意見御示相成度此段及照會候也(別紙略)

三重縣知事照會(大正十四年六月九日)  
醫師ニシテ左記ノ通廣告ヲナサントスル者有之候處該廣告文中第十ハ醫師法第七條ニ所謂專門科名ト認ムヘキヤ否ヤ聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

〔山口書〕

中風豫防 老衰豫防

衛生局長回答(大正十四年五月六日)  
四月二十四日衛第六六九四號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件專門科名ト認メ難ク此段及回答候也  
京都府知事照會(大正十四年四月二十九日)  
醫師ニシテ左記事項ヲ新聞紙ニ掲載廣告シタル者アリ右ハ醫師法第七條背ニシテ相當取締ヲ要スヘキモノト認ムルモ聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度右照會候也

梅毒血液検査、分鏡、手術  
衛生局長回答(大正十四年六月十八日)  
四月二十九日衛第六八一五號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件醫師法第七條違反ト認メス此段及回答候也  
徳島縣知事照會(大正十四年六月三日)  
醫師ニシテ左記ノ通新聞廣告ヲナスモノ有之候處廣告文中假名文字ヲ附シタル記事ハ醫師法第七條ニ所謂專門科名ト認ムヘキヤ否ヤ取締上差掛リ疑義相生シ候條至急貴局ノ意見御示相成度此段及照會候也

山中耳鼻咽喉科(殊に 蓄膿 症)專門  
徳島市 寺島 劍光

入院隨意  
衛生局長回答(大正十四年七月十八日)  
六月三日衛第一八七三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件專門科名ト認メ可然ト存候

一 腦病、神經衰弱並に生殖器衰弱に悩む人  
一 難治の婦人病に困る人又は「ヒステリー」の人  
一 梅毒の既往症(潜伏梅毒)の恐れある人  
一 其他種々の慢性病に苦しむ人  
衛生局長回答(大正十四年九月七日)  
八月十四日付衛第七六二二號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件法第七條ニ牴觸セサルモノト存候

福井縣知事照會(大正十四年九月一日)  
醫師ノ爲シタル廣告中「内外科綜合的診療」下有之候處右ハ醫師法第七條ニ所謂「療法」ト認ムヘキモノナリヤ否ヤ聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見至急御示相成度此段及照會候也  
衛生局長回答(大正十四年九月八日)  
大正十四年九月一日衛丙第二二六號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件療法ニ關スル廣告ト存候  
北海道廳長官照會(大正十四年十月七日)  
醫師左記ノ通單ニ理學的療治科ト廣告スル場合モ療法ニ關スルモノト思料セラレ候得共聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度及照會候也

外科  
理學的療治科  
何町何丁目 何々醫院  
入院ノ需メニ應ス  
衛生局長回答(大正十四年十一月二十五日)  
十月七日付衛第二三三三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ專門科名ト認メ可然ト存候

志願病館  
1 婦人科 2 内科 3 外科 4 耳鼻咽喉科 5 花柳病科  
6 小兒科 7 X光線科 8 デアルミー科 9 血液検査科  
10 病原菌検査科  
衛生局長回答(大正十四年六月二十六日)  
六月九日衛第五七八五號ノ一ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件專門科名ト認メ可然ト存候  
三重縣知事照會(大正十四年八月十四日)  
醫師ニシテ別紙ノ如ク廣告ヲナシタルモノ有之候處右ハ醫師法第七條ニヨリ取締ルヘキモノナルヤ否聊カ疑義ヲ生シ候條貴局ノ御意見至急御回報相煩度此段及照會候也(別紙)

○腦神經衰弱 ○腦溢血(ちうき)  
一 肺病 一 肺膜 一 胃腸病 一 腎臓病 一 心臟病  
一 脚氣 一 神經痛 一 ロイマチス 一 硬化症 一 肩凝  
一 梅毒 一 淋病

○健康相談(左記容體の人とはとに一度おいて下さい)  
一「ちうき」の血統ある人  
一 年齢に比較して血脈の高き人、血管、硬化症の疑ひある人。  
一 常に逆上、眩暈、頭重、頭痺、耳鳴、肩凝、腰痛、不眠、麻痺倦怠等の徴候ある人

第四編 衛生 第三章 醫事

北海道廳長官照會(大正十四年十一月九日)
(醫衛第二六〇六號)
醫師ニシテ左記廣告ヲ爲ストキハ(一)其技能ニ關スル廣告ニシテ醫師法第七條ニ牴觸スルモノト思料セラレ候得共聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度及照會候也

(一) 避妊婦人科
(二) 成形婦人科

衛生局長回答(大正十四年十一月二十日)
(衛醫第一六〇〇號)
十一月九日醫衛第二六〇六號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件醫師法第七條ニ違反スルモノト存候
右及回答候

香川縣知事照會(大正十四年十一月二十七日)
(一四發衛第四六六號)
標記ノ件ニ關シ單ニ(一)陸(海)軍何等軍醫(又ハ軍醫正等)(二)正何位勳何等ノ官名並位記勳等ハ當然記載使用シ得ヘキカ如キモ廣告ニ使用スルトキハ經歷ニ關スルモノト解セラレ旁々客年五月五日付衛醫第六二一號通牒ノ次第モ有之候得共本件設例ト前通牒トハ其ノ記載方精粗ノ差異アリ、聊カ疑義有之候條御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長回答(大正十五年一月十八日)
(十四衛醫第一七〇三號)
十一月二十七日一四發衛第四六六號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ業務上陸(海)軍何等軍醫(又ハ軍醫正等)ヲ廣告スルハ醫師法第七條ニ違反スルモ位勳ハ差支無之ト存候
北海道廳長官照會(大正十四年十二月七日)
(醫衛第二六〇六號)

〔山口醫〕

醫師ニシテ左記廣告ヲ爲スモノ有之候處廣告中整骨、整形、外科、外傷、內臟外科、X光線科、肺臟外科(特ニ肺結核)等ハ支障ナキモノト思料セラレ候得共「手術的婦人科」及「腫瘍炎症外科」ハ何レモ專門科名ニアラスシテ醫師法第七條ニ牴觸スルモノト認メラレ候得共貴局ノ御意見承知致度及照會候也

整骨 整形外科
外科 內臟外科
手術的婦人科
腫瘍炎症外科
X光線科

肺臟外科(特ニ肺結核)

衛生局長回答(大正十五年一月二十二日)
(十四衛醫第一七三九號)
十二月七日醫衛第二六〇六號ヲ以テ御照會相成候醫師ノ廣告中手術的婦人科、腫瘍炎症外科、肺臟外科ハ專門科名ト認メ難ク此段及回答候也
鳥取縣知事照會(大正十四年十二月十五日)
(衛發第一六一六號)

醫師ニシテ從來血液検査ヲ標榜シ新聞紙ニ廣告ヲ爲スハ專門科名トシテ醫師法第七條ニ牴觸セサルモノト認メ取締中ニ候得共近時梅毒ニ對スル血清診斷ニ關シテハ各種ノ方法行ハル結果左記廣告ヲ爲ス醫師有之候處其廣告中ワツセルマン氏法検査ヲ行フ旨掲載セルハ之等ノ検査方法中最技術ニ設備ヲ要スル検査方法ノ一ナルヲ以テ自己ノ技能ノ優秀ナルコトヲ表示スルモノニシテ殊ニ地方ニ於テハ其ノ感ヲ深クスル次第ニ候從テ法第七條ニ依リ取締ノ必要有之モノト相認メ候モ一應御意見承知致度此段及照會候也

〔山口醫〕

ワツセルマン氏法

梅毒有無血液検査

衛生局長回答(大正十五年一月十八日)
(十四衛醫第一八〇六號)

十二月十五日發衛第六一六號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件ハ法第七條ニ違反スルモノトハ難認候條右御了知相成度

福井縣知事照會(大正十五年一月九日)
(衛丙第七號)

醫師ニシテ左記ノ如キ廣告ヲ爲サムトスル者有之候處右ハ醫師法第七條ニ所謂「專門科名」及「療法」ト認メ差支ナキモノナリヤ否ヤ聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見至急御回答相煩度此段及照會候也

左記

レントゲン
エツキス放線
紫外線
太陽燈
電氣科

院是!! 各疾病ノ調和的診療ニ從事ス

衛生局長回答(大正十五年三月十五日)
(衛醫第二四號)

一月九日衛丙第七號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件ハ光線(レントゲン)電氣科ハ專門科名ニ該當シ其他ハ第七條ニ違反スルモノト存候右及回答候

日本醫師會長照會(大正十五年二月十二日)
(日醫發第八六號)
拜啓陳者龜田外四郡醫師會長ヨリ別紙ノ通り醫師ノ廣告ニ關シ質疑有之候處質疑ノ第一ハ醫師法第七條ニ違反スルモノトハ難認モ第二項ハ醫師法第七條ニ違反スルモノト思料セラレ候モ一應御意見承知致度此段及何候也

第四編 衛生 第三章 醫事

(大正十五年二月七日日本醫師會長宛龜田外四郡醫師會長照會)

醫師ノ廣告ニ關スル件

本件ニ關シ疑義相生シ候間郡醫師會トシテハ道府縣醫師會經由御問合致ス性質ナランモ急ヲ要スルモノニ付左記御問合申上候間至急御回答煩度候也

左記二件醫師法違反ニ無之哉

新聞紙上ノ廣告

一性病科 何々病院

二婦人科中氣及脈管硬化(血壓検査)附屬中氣豫防相談所 何々病院

衛生局長回答(大正十五年三月十一日)
(衛醫第一五一號)

二月十二日醫發第八六號ヲ以テ何出ニ係ル標記ノ件ハ醫師法第七條ニ違反スルモノトハ難認此段及回答候

鳥取縣知事照會(大正十五年二月十五日)
(發衛第八三號)

醫師ニシテ左記廣告ヲ爲サムトスル者有之候處別ニ支障ナキモノト被認候(共一應御意見承知致度尙休業中歐羅巴留學ニ關スル經歷廣告ヲ爲シタル場合ノ取扱ニ付テモ併セテ御意見承知致度尙至急御回答相煩度候

歐羅巴留學ノ爲約二ヶ年間休業仕リ候

年月日 住所 醫師氏 名

衛生局長回答(大正十五年二月二十二日)
(衛醫第一六八號)

二月十五日發衛第八三號ヲ以テ御照會ニ係ル本件支障無之ト存候